焼津市立総合病院年報

第 43 号　　令和 7 年度



焼津市立総合病院

焼津市立総合病院理念

『より良い医療の提供を行うとともに、市民の健康増進に
貢献することで、市民の信頼に応えます。』

市民の信頼に応えるための基本方針

1.患者や家族の意思と権利を尊重し、安全・快適で、最善の医療を提供します。

2.患者・家族のプライバシーの保護に努めます。

3.常に最善の医療が提供できるよう、新しい医療の創造に努力するとともに、高度・先進医療を積極的に取り入れます。

4.医療の質、患者サービスの向上を目指し、職員の教育・研修に励みます。

5.職員の自主性・創造性を生かし、働きがいのある職場環境をつくります。

6.病院に対する市民の期待に末永く応えられるよう、財務面での経営の健全化に努めます。

7.市民の健康増進のため、啓発活動、予防活動に取り組み、健康なまちづくりに貢献します。

8.市民が必要な医療を受けられるよう、地域の医療機関と連携して、地域医療の向上に取り組みます。

令和７年度年報に寄せて

病院事業管理者　　関 常司

令和７年度年報の完成に寄せ、一言ご挨拶を申し上げます。

当院は長年に渡り焼津の地で地域急性期医療の中核病院として市民に信頼されてきました。これも関連医療機関、連携大学病院ならびに関係者の皆様の継続的なご尽力・ご協力のお陰です。この場を借りてご支援していただいてきた皆様へ深く感謝いたします。

令和７年度は２年前より副病院長の風間医師が病院長に就任し、関は病院事業管理者への専任となりました。

診療面のトピックスとしては､5月から病院救急車と院内救命士を活用した下り搬送を開始し、リハビリテーション技術科による土曜リハビリテーションも開始しました。11月には整形外科で変形性膝関節症に対するラジオ波治療を導入しました。泌尿器科、外科、婦人科、整形外科で施行しているロボット支援下手術と合わせ、今後も低侵襲手術を推進していく所存です。また腎移植についても令和５年度に再開後は年間複数例の施行を続けています。

経営の面では７月にベットコントロールセンターの運用を開始し、さらなる経営の効率化を図りました。ただし経常収支は赤字が続いています。当院としては新病院建築に向けてさらなる経営改善に向けた努力を続けていきますが、我が国の健全な医療体制を維持するために、診療報酬のさらなる引き上げなど抜本的な対策の実施を望みます。

最後に当院では以前から指導医や上級医の多くが若手医師に対する教育への高い意識を持って熱心な指導を続けています。一方で看護師、コメディカルを含む職種を超えた病院全体の風通しの良さは変わらず、働きやすい環境が整っています。当院は今まで通りに職員全体で医療の質を高めて地域の信頼に応えるべく地道な努力を続けていく所存ですので、今後ともご支援・ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

令和７年度年報の完成に際して

病院長　　風間 伸介

日頃より、焼津市をはじめとした志太榛原地区の健康増進のため、医療の提供に貢献いただき、誠にありがとうございます。また医師会、近隣の医療機関をはじめとした先生方におかれましては、当院への新規患者のご紹介、当院からの逆紹介の受け入れ、CT、MRI をはじめとした医療機器利用の連携など、大変お世話になり、誠にありがとうございます。

私事ではございますが、令和７年４月１日付で、病院長に就任いたしました。今後ともご指導、ご鞭撻を賜れば幸いでございます。

さてコロナ明けの昨今、病院経営は今まで以上に厳しさを増しています。

コロナ禍での受診控えの影響が残り、患者数はコロナ以前に戻らず、また昨今の人件費、材料費などの高騰で、さらなる経営改善への取り組みに迫られているという状況です。

こうした中で、令和７年度も当院はさまざまな取り組みを行ってまいりました。

まず適正な病床数への削減と、それに伴い必要な部署への人員の再配置を目的に、2026 年３月に現行の 423 床から 381 床に病床再編を行いました。

また、病床の有効活用のため、ベッドコントロールセンターを開設し運用を行っています。

さらには地域医療連携室を中心として、コロナ禍で止まっていた病院シンポジウムを再開し、医師会をはじめとした志太榛原地区の先生方と連携を深めるために、先生方への訪問活動も積極的に行っています。

また、こうした厳しい状況下ではありますが、当院が志太榛原地区で担う地域医療において目指す役割は、決して縮小しようとしているわけではなく、従前以上の役割を果たせるようさまざまな取り組みを行っております。

脳神経内科での認知症に対する抗体治療、地域の周産期医療を守る産科、小児科の医療、急性期医療を担う外科領域でのロボット支援下手術をはじめとした高難度医療に加え、今年より整形外科で膝関節症に対するラジオ波治療を開始しております。こうした新規治療にも積極的に取り組んで、地域の医療をしっかりと守って行く所存です。

今後も当院は市民の健康増進に貢献し、信頼に応える所存です。当院を温かく見守っていただきますよう、是非よろしくお願い申し上げます。

目　　次

第１章　　沿　　革

第１節　沿　　革 …… 7
１．病院の歩み …… 7
２．指定医療機関学会認定施設 …… 9
３．施設基準等の指定状況 …… 11

第２節　組織・運営 …… 15
１．組　織　図 …… 15
２．職員に関する事項 …… 16
３．病院の諸会議及び委員会 …… 17

第２章　　施　設　概　要

第１節　施　　設 …… 21
１．施　設　概　要 …… 21
２．建物配置図及び案内図 …… 24
３．設　備　概　要 …… 25

第３章　　業　務　内　容

第１節　患　者　統　計 …… 29
１．入院・外来 …… 29
２．救急患者取り扱い件数 …… 37
３．死　亡　者　数 …… 42
４．妊婦・乳児・３歳児・産婦健康診査受診人数 …… 43

第２節　クリニカル・インディケーター …… 44

第３節　業　務　状　況 …… 49
１．総合診療内科 …… 49
２．呼吸器内科 …… 52
３．消化器内科 …… 53
４．循環器内科 …… 54
５．脳神経内科 …… 57
６．血　液　内　科 …… 60
７．代謝内分泌内科 …… 61
８．腎　臓　内　科 …… 62
９．精　神　科 …… 63
10．小　児　科 …… 65
11．外　　科 …… 66
12．整　形　外　科 …… 71
13．形　成　外　科 …… 73
14．脳神経外科 …… 75
15．皮　膚　科 …… 77
16．泌　尿　器　科 …… 78

17. 産婦人科 …… 80
18. 眼科 …… 85
19. 耳鼻いんこう科 …… 87
20. 放射線科 …… 89
21. 麻酔科 …… 90
22. 病理診断科／病理室 …… 91
23. 歯科口腔外科 …… 94
24. 内視鏡室 …… 96
25. 中央手術室 …… 97
26. 血液浄化療法室 …… 99
27. 救急科 …… 101
28. 健康管理センター …… 102
29. 薬剤部 …… 106
30. 中央放射線科 …… 108
31. 中央検査科 …… 110
32. リハビリテーション技術科 …… 113
33. 栄養科 …… 115
34. 臨床工学科 …… 117
35. 看護部 …… 120
36. クリニカル・スキル・ラボ …… 123
37. 医療の質管理室 …… 125
38. 医療安全管理室 …… 127
39. 感染管理室 …… 130
40. 院内救急対応室 …… 132
41. 治験管理室 …… 133
42. 栄養サポート室 …… 136
43. 化学療法室 …… 138
44. 地域医療連携室 …… 141
45. 患者支援室 …… 144
46. 認知症ケア支援室 …… 147
47. 総合研修指導室 …… 149
48. 事務部 …… 152
49. 災害対策 …… 165

第４節　経営 …… 168
１．各科別収入状況 …… 168
２．各科別収入年次推移 …… 170
３．概況 …… 171

第４章　研究業績

第１節　学会発表及び研究会発表 …… 175

第２節　論文発表・講演会・その他 …… 183

第３節　当院主催・参加の学習会・講演会等 …… 190

第４節　掲載された主な新聞記事 …… 202

編集後記

第１章　　沿　　革

第１節　沿　　革

１．病院の歩み

昭和 22 年　6 月 1 日	協立焼津病院設立
昭和 29 年 3 月 31 日	協立焼津病院解散
4 月 1 日	市立焼津病院発足
昭和 32 年 5 月 31 日	焼津市三ヶ名に病院建設工事開始
昭和 33 年 4 月 17 日	病院開設（診療 8 科開始)。内科、小児科、外科、整形外科、眼科、産婦人科、耳鼻咽喉科、放射線科（病床数 129 床）
8 月 1 日	歯科開設
10 月 10 日	皮膚科開設
11 月 26 日	総合病院の許可を受け焼津市立総合病院になる。
昭和 34 年 12 月 1 日	2 類看護から 1 類看護に引上げ承認（結核病棟除く）
昭和 44 年 5 月 15 日	検診車による胃の巡回検診開始
7 月 17 日	消化器科開設
昭和 46 年　7 月 1 日	子宮癌検診開始
昭和 47 年　2 月 1 日	一般病棟 216 床に特 2 類看護の承認
昭和 48 年 4 月 17 日	病床数 284 床に増床
昭和 54 年　3 月 1 日	診療報酬請求業務電算化
昭和 58 年 1 月 20 日	病院開設許可
3 月 24 日	焼津市道原に移転新築。病院落成式 24 日（病床数 411 床）
3 月 31 日	新病院開院式
4 月 1 日	病院開設（診療 18 科開始)。内科（一般内科、血液科、神経内科)、呼吸器科、消化器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、理学診療科、放射線科、歯科（口腔外科）（病床数 381 床）
5 月 20 日	麻酔科開設
7 月 1 日	循環器科診療開始
	代謝内分泌科診療開始
10 月 1 日	麻酔科（ペインクリニック）診療開始
昭和 60 年　4 月 8 日	４階中央病棟オープン（病床数　一般 30 床）411 床稼動
昭和 61 年 1 月 21 日	院内託児所「たんぽぽ」開所式
昭和 62 年 5 月 18 日	放射線科外来診療開始
昭和 63 年　5 月 1 日	神経科・精神科外来診療開始
5 月 23 日	増改築工事起工式（増改築後　病床 601 床）
平成元年　9 月 1 日	4Ｃ病棟オープン（52 床）463 床稼働
9 月 4 日	新外来棟業務開始
平成 2 年　3 月 3 日	増改築工事竣工式
5 月 10 日	3Ｃ病棟オープン（42 床）505 床稼働

平成 3 年	5 月 8 日	6C 病棟オープン（50 床）555 床稼働
平成 5 年	5 月 1 日	5C 病棟オープン（51 床）4D 病棟 5 床減 601 床稼働
平成 6 年	2 月 18 日	リニアック棟竣工式
	10 月 1 日	トータルオーダリングシステムの導入
平成 7 年	4 月 1 日	訪問看護室開設
平成 10 年	4 月 1 日	病理科開設
平成 11 年	3 月 30 日	3B 病棟増改築（未熟児室 4 室→NICU6 床・乳児室 3 床→1 床）
平成 12 年	10 月 2 日	院外処方箋発行開始
平成 13 年	4 月 1 日	総合診療内科診療開始
		感染管理室設置
	5 月 16 日	腎臓内科入院診療開始
	8 月 23 日	厚生研修棟竣工
	11 月 8,9 日	リハビリ室、言語聴覚療法室、臨床工学室の移転
平成 14 年	2 月 7 日	新救急室診療開始
	4 月 1 日	地域医療連携室開設
平成 18 年	1 月 1 日	新オーダリングシステムの稼働開始
	3 月 13 日	3A 病棟増改築（周産期医療施設整備、GCU6 床）
平成 19 年	4 月 1 日	4D 病棟休止（実稼働病床数 572 床）
		新生児科開設
平成 20 年	2 月 21 日	マルチスライス CT 増設
	2 月 29 日	病床数 572 床に減少
	3 月 10 日	リハビリ室増改築完成
平成 21 年	1 月 19 日	新血液浄化療法室オープン
	4 月 1 日	点滴治療センター開設
	12 月 24 日	6 人床室を 4 人床室化　病床数 486 床に減少
平成 22 年	4 月 1 日	5B 病棟休床
平成 23 年	4 月 1 日	経営形態を地方公営企業法全部適用に変更し、病院事業管理者を設置
平成 24 年	3 月 18 日	病院機能評価病院 Ver6.0 認定
	4 月 1 日	新病院総合情報システム稼働開始、入院診療の電子カルテ化
平成 25 年	4 月 1 日	高機能病棟（5B 病棟開設　病床数 471 床）
平成 27 年	5 月 17 日	地下水利用システム完成
平成 28 年	3 月	焼津市新病院整備基本構想を策定
	6 月 1 日	外来診療の電子カルテ化
	7 月 4 日	新放射線治療（リニアック）装置稼働
平成 29 年	3 月 18 日	病院機能評価（機能種別版評価項目 3rdG:ver1.1）認定
	4 月 1 日	認知症疾患医療センター開設
	4 月 1 日	新病院建設課開設
	12 月 6 日	第 7 駐車場に外来用駐車スペース拡充
平成 30 年	1 月 4 日	第 1 駐車場にゆずりあい駐車場増設

	3月30日	焼津市新病院建設基本計画策定
平成30年	11月17日	人間ドック健診施設機能評価認定
	12月17日	3.0T（テスラ）MRI装置増設　3台体制
平成31年	4月1日	卒後臨床研修評価機構　臨床研修評価認定
令和元年	6月19日	内視鏡下手術支援ロボット導入
令和2年	1月	生化学自動分析装置・検体搬送装置の更新
	4月1日	脳神経内科、精神科に診療科名称を変更
令和4年	4月1日	院内救急対応室、化学療法室を開設
令和5年	4月1日	薬剤部、医療の質管理室、患者支援室を開設
	6月1日	病床数を471床 → 423床に変更
令和6年	3月	血液浄化療法室、点滴治療室、化学療法室を整備・拡充
令和7年	5月	自院救急車による後方支援病院への転院搬送開始
	7月	ベッドコントロールセンター運用開始
	11月	整形外科変性膝関節症のラジオ波治療開始

２．指定医療機関学会認定施設

令和8年3月31日現在

（1）各種指定

保険医療機関
国民健康保険療養取扱機関
労災保険指定医療機関
地方公務員災害補償基金静岡県支部指定医療機関
生活保護法指定医療機関
養育医療指定病院
原子爆弾被爆者一般疾病医療機関
原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律第12条第1項の規定に基づく医療機関
原子力災害医療協力機関
静岡県指定自立支援医療機関（更生医療・育成医療）
静岡県指定自立支援医療機関（精神通院医療）
結核予防法指定病院
特定疾患治療取扱病院
指定小児慢性特定疾病医療機関
難病指定医療機関
静岡県難病医療協力病院（脳脊髄液減少症対応）
エイズ治療拠点病院
地域周産期母子医療センター
災害拠点病院
救急告示病院
静岡県特定不妊治療費助成事業指定医療機関
臨床研修病院
臨床研修協力施設
日本医療機能評価機構認定病院
地域肝疾患診療連携拠点病院
静岡県地域がん診療連携推進病院

地域医療支援病院
臓器移植推進協力病院
母体保護法指定医のいる医療機関
身体障害者福祉法指定医のいる医療機関
出入国管理及び難民認定法に基づく指定医の指定医療機関
精神保健指定医のいる医療機関
DPC 対象病院
認知症疾患医療センター
臨床検査精度管理に係る基幹施設
障害福祉サービス事業者
紹介受診重点医療機関

（２）学会認定施設

日本内科学会認定医制度教育病院
日本神経学会専門医制度教育施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本腎臓学会認定教育施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本大腸肛門病学会認定施設
呼吸器外科専門医制度専門研修基幹施設（浜松医科大学付属病院）の専門研修連携施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本脳神経外科学会専門医認定基幹施設（東京大学医学部脳神経外科）の関連施設
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設
日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本産科婦人科学会生殖補助医療実施医療機関
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本産科婦人科内視鏡学会ロボット手術認定研修施設
日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設
日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医制度認定研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会認定インプラント実施施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会認定エキスパンダー実施施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本病理学会専門医制度研修認定施設 B
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本臨床細胞学会認定施設
日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度（I&A 制度）認証施設
日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ（栄養サポートチーム）稼動施設
日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設
日本病態栄養学会がん病態栄養専門管理栄養士研修実地修練施設
認定臨床微生物検査技師制度研修施設
認定輸血検査技師制度指定施設

日本口腔外科学会認定准研修施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）の暫定認定施設
日本周産期・新生児医学会周産期専門医（新生児）の暫定認定施設
日本脳ドック学会脳ドック施設
日本認知症学会教育施設
日本脳神経外傷学会研修施設
日本血液学会研修教育施設
日本感染症学会研修認定施設

３．施設基準等の指定状況

令和８年３月31日現在

（〇印→令和７年度取得）

基本診療科の施設基準

・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・歯科外来診療医療安全対策加算２
〇歯科外来診療感染対策加算３
・医療 DX 推進体制整備加算
・一般病棟入院基本料（急性期一般入院料１）
・急性期充実体制加算２
・救急医療管理加算
・超急性期脳卒中加算
・診療録管理体制加算１
・医師事務作業補助体制加算１(20 対１)
・急性期看護補助体制加算(25 対 1)(看護補助者５割以上)
(夜間 100 対１急性期看護補助体制加算「注２」)
(夜間看護体制加算「注３」)
(看護補助体制充実加算１「注４」)
・看護職員夜間 12 対１配置加算１
・療養環境加算
・重症者等療養環境特別加算
・緩和ケア診療加算
・栄養サポートチーム加算
・医療安全対策加算１
(医療安全対策地域連携加算１「注２」)
・感染対策向上加算１
(指導強化加算「注２」)
・患者サポート体制充実加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・ハイリスク妊娠管理加算
・ハイリスク分娩管理加算
〇術後疼痛管理チーム加算
・後発医薬品使用体制加算１
・データ提出加算２
・入退院支援加算１
(地域連携診療計画加算「注４」)
(入院時支援加算「注７」)
(総合機能評価加算「注８」)
・認知症ケア加算１

・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・精神疾患診療体制加算
・排尿自立支援加算
・地域医療体制確保加算
・ハイケアユニット入院医療管理料１
（早期栄養介入管理加算「注４」）
・新生児特定集中治療室管理料２
○小児入院医療管理料３
（プレイルーム加算「注２」）
（養育支援体制加算「注７」）

特掲診療科の施設基準

・歯科治療時医療管理料
・外来栄養食事指導料の「注２」
・外来栄養食事指導料の「注３」
・がん性疼痛緩和指導管理料
・がん患者指導管理料イ
・がん患者指導管理料ロ
・がん患者指導管理料ハ
・がん患者指導管理料ニ
・外来緩和ケア管理料
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）
・糖尿病透析予防指導管理料
・小児運動器疾患指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料
・婦人科特定疾患治療管理料
・腎代替療法指導管理料
・一般不妊治療管理料
・生殖補助医療管理料２
・二次性骨折予防継続管理料１
・二次性骨折予防継続管理料３
・下肢創傷処置管理料
・地域連携小児夜間・休日診療料２
・院内トリアージ実施料
・夜間休日救急搬送医学管理料の「注３」に掲げる救急搬送看護体制加算１
・外来放射線照射診療料
・外来腫瘍化学療法診療料１
・連携充実加算「注６」
・ニコチン依存症管理料
・開放型病院共同指導料（Ⅱ）
・がん治療連携計画策定料（1）
・外来排尿自立指導料
・ハイリスク妊産婦連携指導料１
・ハイリスク妊産婦連携指導料２
・肝炎インターフェロン治療計画料
・プログラム医療機器等指導管理料（ニコチン依存症治療補助アプリを使用する場合）
・こころの連携指導料（Ⅱ）
・薬剤管理指導料
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・医療機器安全管理料１
・歯科疾患在宅療養管理料の「注４」に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料

○救急患者連携搬送料
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の「注 2」
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の「注 2」に掲げる遠隔モニタリング加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する測定器）及び皮下連続式グルコース測定
・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
・遺伝学的検査の「注 1」
・染色体検査の「注 2」
・BRCA1/2 遺伝子検査
・先天性代謝異常症検査
・抗 HLA 抗体（スクリーニング検査）及び抗 HLA 抗体（抗体特異性同定検査）
・HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
・検体検査管理加算（Ⅳ）
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・神経学的検査
・全視野精密網膜電図
・小児食物アレルギー負荷検査
・内服・点滴誘発試験
・CT 透視下気管支鏡検査加算
・画像診断管理加算１（医科）
・CT 撮影及び MRI 撮影
・冠動脈 CT 撮影加算
・心臓 MRI 撮影加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来化学療法加算１
・無菌製剤処理料
・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算有）
・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算有）
・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算有）
・摂食機能療法の「注 3」に規定する摂食嚥下機能回復体制加算２
・がん患者リハビリテーション料
・集団コミュニケーション療法料
・歯科口腔リハビリテーション料２
・硬膜外自家血注入
・エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）
・エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）
・人工腎臓　慢性維持透析を行った場合１
・導入期加算 3「注 2」及び腎代替療法実績加算
・透析液水質確保加算「注 9」及び慢性維持透析濾過加算「注 13」
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算「注 10」
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・ストーマ合併症加算
・磁気による膀胱等刺激法
・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
・緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
○骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家培養軟骨移植術に限る）
・緊急穿頭血腫除去術
・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極埋込術を含む）及び脳刺激装置交換術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便過活動膀胱）
○緑内障手術　緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）
・緑内障手術　流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術

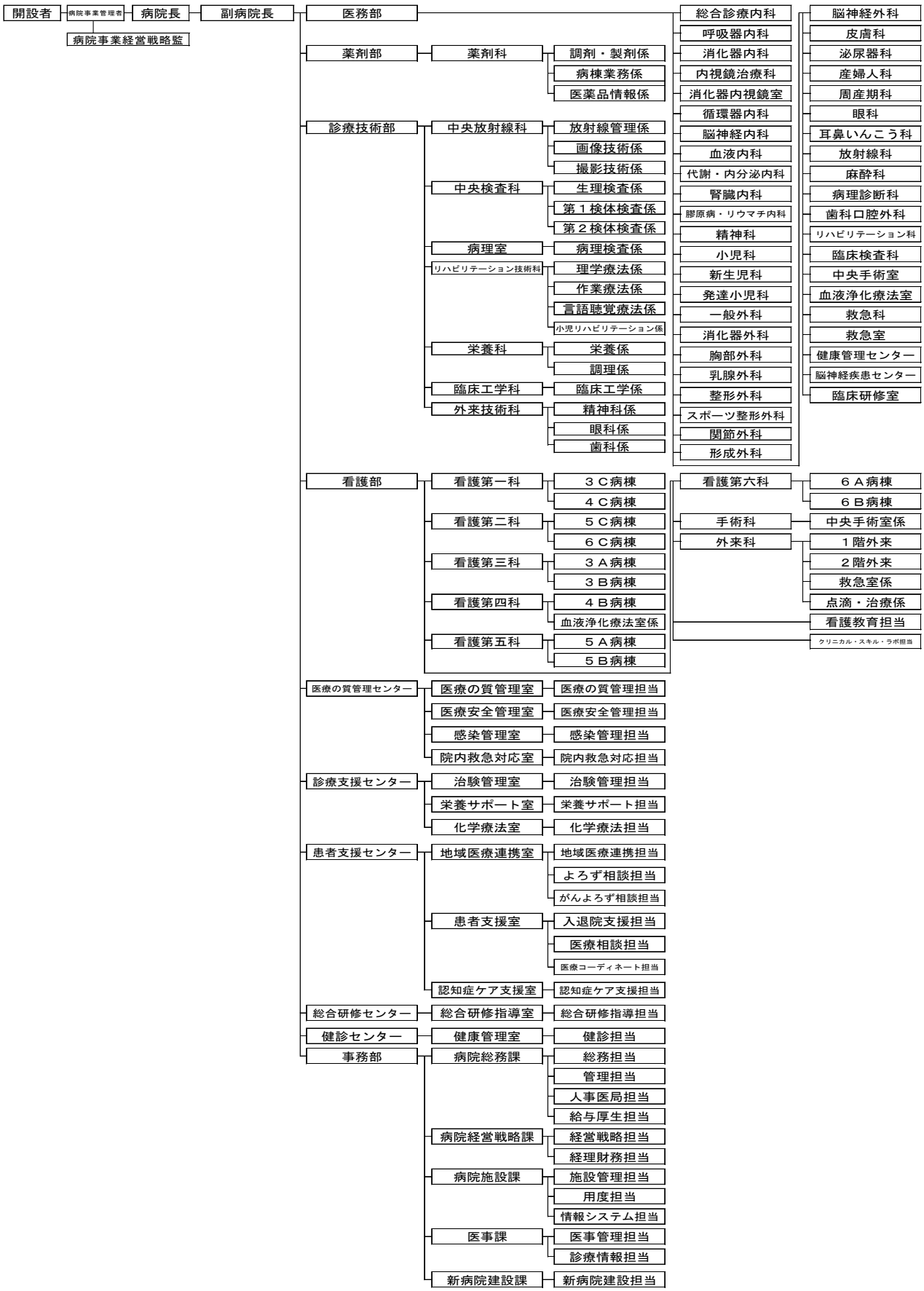
・緑内障手術　濾過胞再建術（needle 法）
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術）及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの）
・内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
・乳癌センチネルリンパ節生検加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
・乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術）
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
・食道縫合術（穿孔、損傷）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術等（全て内視鏡によるもの）
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術 4　側方
・体外衝撃波胆石破砕術
・腹腔鏡下肝切除術（1 部分切除　2 外側区域切除）
○体外衝撃波膵石破砕術
○腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・同種死体腎移植術
・生体腎移植術
・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎術
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工尿道括約筋植込・置換術
・精巣内精子採取術
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
○腹腔鏡下仙骨膣固定術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・腹腔鏡下腟式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
・輸血管理料Ⅰ
・輸血適正使用加算「注 2」
・自己生体組織接着剤作成術
・同種クリオプレシピテート作製術
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・麻酔管理料（Ⅰ）
・周術期栄養管理実施加算
・高エネルギー放射線治療
・保険医療機関間の連携による病理診断
・病理診断管理加算 1
・悪性腫瘍病理組織標本加算
・口腔病理診断管理加算 1
○看護職員処遇改善評価料 70
・外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
・歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
○入院ベースアップ評価料 105

入 院 時 食 事 療 養

・入院時食事療養（Ⅰ）

第2節　組 織 ・ 運 営

1.組織図(令和 7 年度)



2. 職員に関する事項

（1）職種別職員数

令和 8 年 3 月 31 日現在（人）

職種		職員数 令和 6 年度末		職員数 令和 7 年度末		増減	
医療職	医師	116	(20)	115	(20)	△ 1	(0)
	薬剤師	22	(0)	24	(0)	2	(0)
	放射線技師	21	(0)	25	(0)	4	(0)
	臨床検査技師	35	(5)	39	(6)	4	(1)
	臨床工学技士	12	(0)	13	(0)	1	(0)
	視能訓練士	3	(0)	3	(0)	0	(0)
	理学療法士	13	(1)	15	(1)	2	(0)
	作業療法士	8	(0)	8	(0)	0	(0)
	臨床心理士	3	(2)	3	(1)	0	(△ 1)
	言語聴覚士	5	(0)	4	(0)	△ 1	(0)
	管理栄養士	10	(0)	10	(0)	0	(0)
	歯科衛生士	5	(2)	5	(2)	0	(0)
	診療情報管理士	6	(3)	6	(3)	0	(0)
	看護師	496	(36)	489	(43)	△ 7	(7)
	准看護師	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	助手	76	(76)	80	(80)	4	(4)
	調理師	22	(9)	23	(10)	1	(1)
	小計	853	(154)	862	(166)	9	(12)
一般行政職		128	(70)	127	(70)	△ 1	(0)
合計		981	(224)	989	(236)	8	(12)

（ ）会計年度任用職員再掲

（2）診療科別医師数

令和 8 年 3 月 31 日現在（人）

診療科	職員数	診療科	職員数
総合診療内科	5 （ 0 ）	泌尿器科	6 （ 0 ）
呼吸器内科	1 （ 0 ）	産婦人科	10 （ 0 ）
消化器内科	9 （ 0 ）	眼科	2 （ 0 ）
循環器内科	2 （ 0 ）	耳鼻咽喉科	4 （ 0 ）
血液内科	1 （ 0 ）	放射線科	1 （ 0 ）
代謝内分泌内科	1 （ 0 ）	麻酔科	1 （ 0 ）
脳神経内科	7 （ 0 ）	病理診断科	1 （ 0 ）
腎臓内科	4 （ 0 ）	歯科口腔外科	2 （ 0 ）
精神科	1 （ 0 ）	救急科	2 （ 0 ）
小児科	10 （ 0 ）	臨床検査科	0 （ 0 ）
外科	9 （ 0 ）	健康管理センター	1 （ 0 ）
整形外科	8 （ 0 ）	小計	95 （ 0 ）
形成外科	3 （ 0 ）	臨床研修医	20 （ 20 ）
脳神経外科	3 （ 0 ）	合　計	115 （ 20 ）
皮膚科	1 （ 0 ）		

（ ）臨床研修医再掲

3. 病院の諸会議及び委員会

◆ 会　　議

名　　称
経　営　会　議
運　営　会　議
科　長　会　議

◆ 委　員　会

名　称	名　称
医療安全管理対策委員会	職員の勤務環境改善に関する委員会
医療ガス安全管理委員会	褥瘡対策委員会
医療器械等購入選定委員会	診療記録管理運営委員会
医療材料等管理購入選定委員会	接遇委員会
医療事故等対応委員会	臓器移植推進委員会
医療の質管理委員会	地域医療支援委員会
院外処方協議会	地域医療従事者研修委員会
院内感染対策委員会	治験管理運営委員会
院内迅速対応システム委員会（RRS）	中央検査科運営委員会
院内認知症ケア委員会	中央放射線科運営委員会
衛生委員会	DPC 診療報酬請求適正化委員会
栄養委員会	電波利用安全管理委員会
NICU・GCU 運営委員会	透析機器安全管理委員会
NST 委員会	図書委員会
外来管理運営委員会	内科専門研修委員会
化学療法小委員会	内科専門研修プログラム管理委員会
がん診療対策委員会	内視鏡管理運営委員会
感染対策リンクスタッフ委員会	認知症支援委員会
緩和ケア委員会	病院教育研修委員会
危機管理連絡委員会	病院広報委員会
虐待等予防対策委員会（児童部会）	病棟管理運営委員会
虐待等予防対策委員会（成人部会）	防災対策委員会
救急運営委員会	焼津市地域医療連携連絡会
救急救命士に関する委員会	薬事委員会
クリニカルパス検討委員会	リスクマネージャー委員会
血液製剤使用適正化委員会	リハビリテーション技術科運営委員会
検診業務運営委員会	臨床研修委員会
高機能病棟運営委員会	臨床研修管理委員会
個人情報保護推進・情報セキュリティ委員会	臨床倫理委員会
手術室運営委員会	倫理委員会
情報システム委員会	臨床研究倫理審査委員会

第２章　施　設　概　要

第１節　　施　　設

１．施　設　概　要

位　　置　　焼津市道原 1000 番地
敷 地 面 積　　65,402.57 ㎡
建物延面積　　33,220.47 ㎡
建 物 構 造　　鉄骨鉄筋コンクリート造６階建、塔屋２階
診 療 内 容

《診療科》

総合診療内科、呼吸器内科、血液内科、循環器内科、消化器内科、代謝・内分泌内科、脳神経内科、腎臓内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、胸部外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科

《専門外来》

内　　科…… 禁煙外来
消化器内科…… 内視鏡外来
腎 臓 内 科…… 膠原病・リウマチ内科外来、多発性のう胞腎外来
脳神経内科…… 認知症外来、アルツハイマー外来
循環器内科…… ペースメーカー
小　児　科…… 心臓外来、神経外来、川崎病外来、予防接種、乳児検診、すこやか外来、療育支援外来、シナジス
外　　科…… 乳腺・甲状腺外来、スキンケア外来、呼吸器外科外来、緩和ケア外来、血管外科外来、心臓外科外来、大腸肛門外科外来、
泌 尿 器 科…… 移植外来
脳神経外科…… 脳卒中外来、薬物治療外来、頭痛外来
産 婦 人 科…… 子宮癌検診、不妊外来、妊婦外来、体外受精、助産師外来
整 形 外 科…… リウマチ外来、スポーツ整形外科外来
形 成 外 科…… レーザー外来
眼　　科…… 網膜・緑内障外来
外来化学療法部門…… アロマ外来、化学療法室
そ　の　他…… CAPD 外来、セカンドオピニオン外来

《人間ドック》

日帰りドック

《相談・教室》

医療相談、栄養相談、言語相談・言語治療、糖尿病教室、プレママクラス
緩和ケア・がんよろず相談、退院後の療養・介護に関する相談

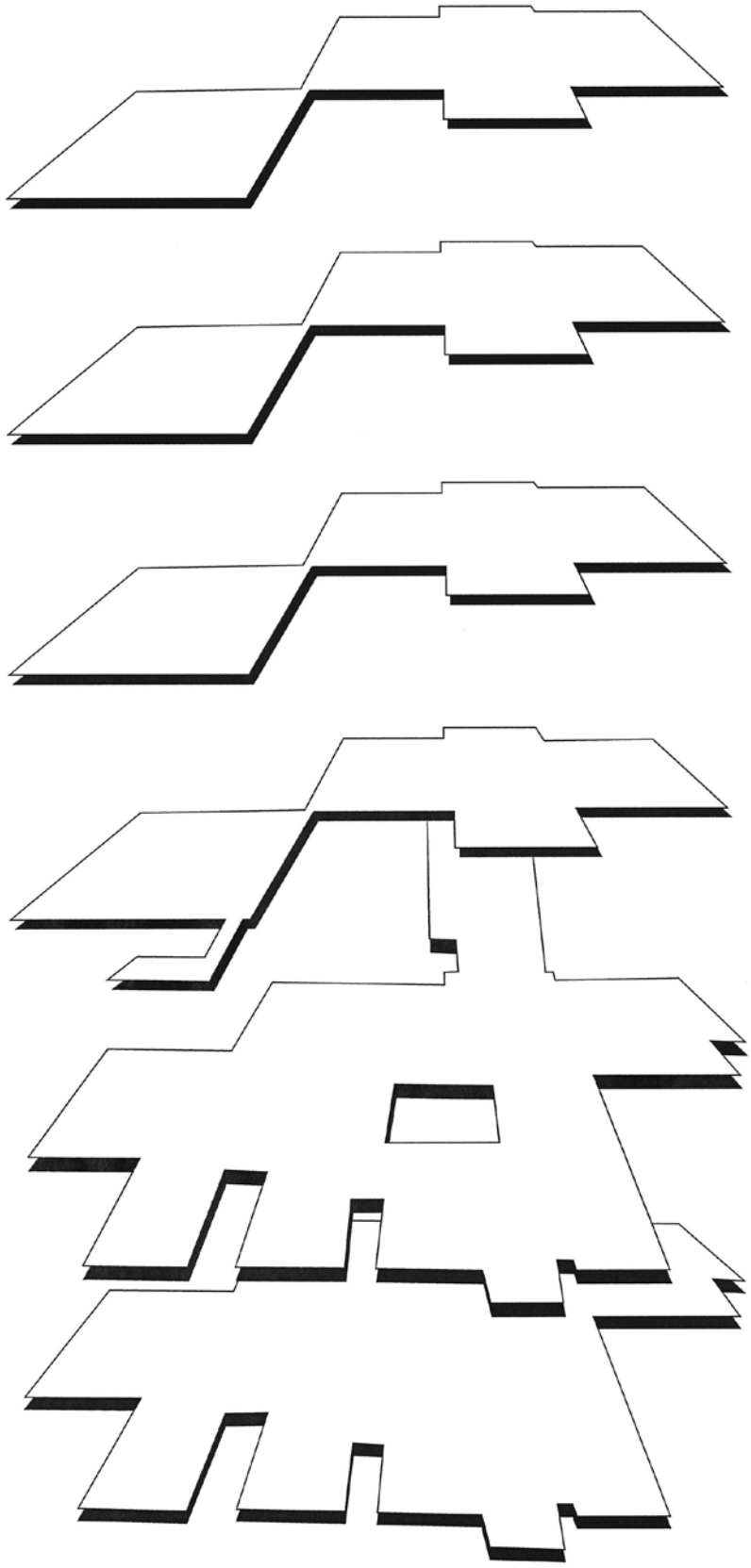
病　床　数　　423 床
病　　棟

３Ａ病棟（42 床）産婦人科、小児科、GCU
３Ｂ病棟（36 床）小児科、NICU
３Ｃ病棟（32 床）総合診療内科、循環器内科
４Ｂ病棟（50 床）泌尿器科、腎臓内科
４Ｃ病棟（40 床）消化器内科
５Ａ病棟（48 床）整形外科、外科
５Ｂ病棟（12 床）高機能病棟
５Ｃ病棟（39 床）血液内科、脳神経内科、消化器内科

６Ａ病棟（44 床）外科、整形外科
６Ｂ病棟（42 床）脳神経外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、形成外科
６Ｃ病棟（38 床）脳神経内科、呼吸器内科

駐　車　場　　1,033 台
交通（バス）　しずてつジャストライン（一色和田浜線・五十海大住線・焼津大島線）
焼津市自主運行バス　病院内ロータリー乗り入れ

各施設案内



6F

6A 病棟……44床
6B 病棟……42床
6C 病棟……38床

5F

5A 病棟……48床
高機能(5B)病棟…12床
5C 病棟……39床

4F

4B 病棟……50床
4C 病棟……40床
第 1・第 2 血液浄化療法室
点滴治療室
医療の質管理センター

3F

3A 病棟……42床
3B 病棟……36床 (NICU8 床含む)
3C 病棟……32床
講義室、面談室、 新病院建設課

2F

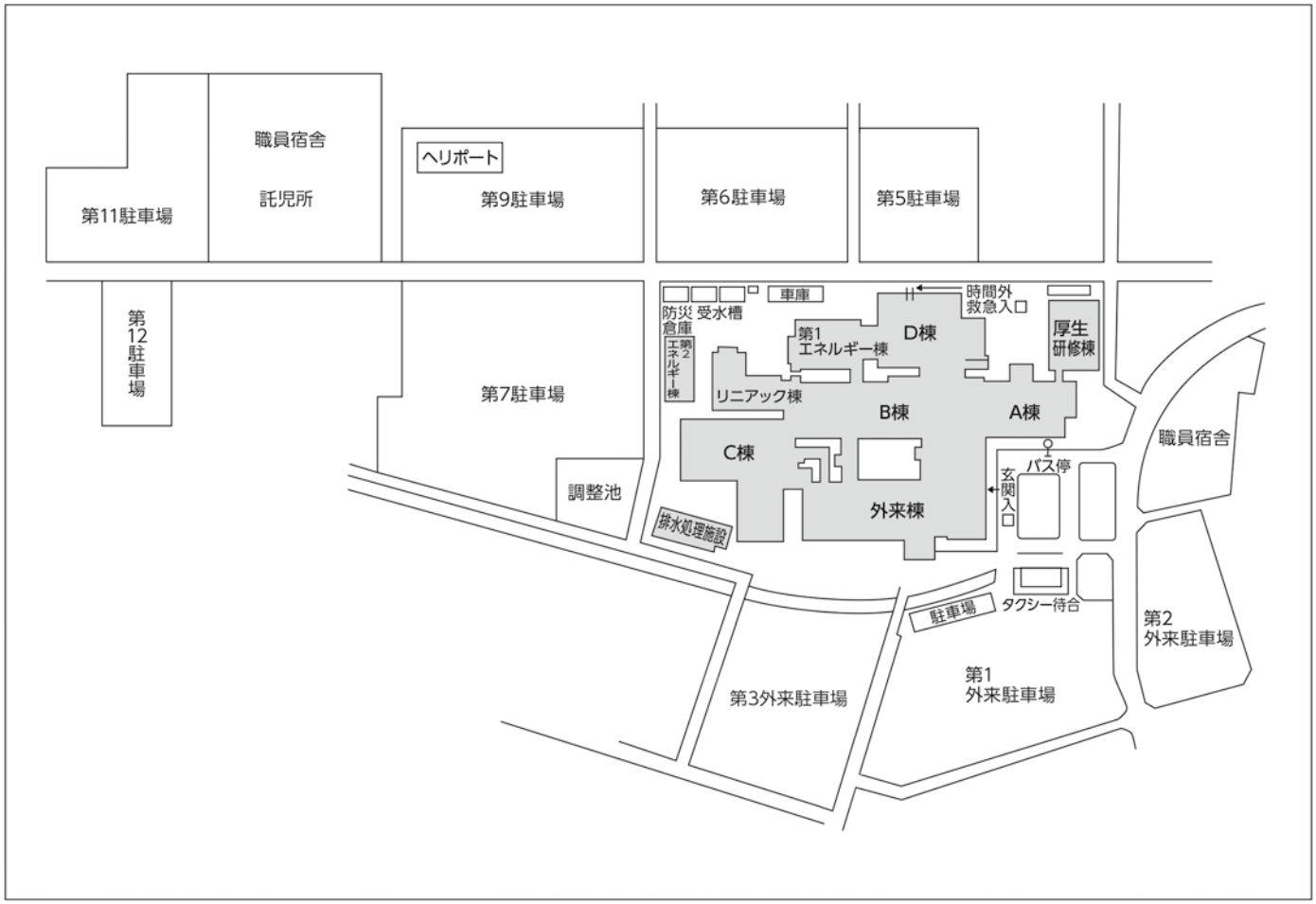
外来各診療科、中央検査科、
健康管理センター、中央手術室、
中央(滅菌)材料室、医局、図書室、研究室、
管理者室、応接室、看護部、看護学生室、
病院総務課、言語治療室、臨床工学科、
病理室、化学療法室、病院経営戦略課

1F

外来各診療科、リハビリテーション科、
中央放射線科、採血・注射室、
薬剤部、地域医療連携室、医療相談室、
患者支援室、玄関エントランスホール、
総合案内、医事課、救急室、栄養科、
患者給食厨房、病院施設課、 EDP室、内視鏡
室、職員厚生室、外来食堂、 理容室、洗濯室、
防災センター、監視室機械室、 ボイラー室、
発電機室、剖検室、霊安室、売店

2. 建物配置図及び案内図





3. 設 備 概 要

主 要 固 定 資 産　　(1,000 万円以上)　　令和 8 年 3 月 31 日現在

製品名称	製造元	形式・規格	購入日（西暦）	要求部署	設置場所
実験台	三英製作所		1983/2/28	中央検査科	生化学検査室
頭部精密撮影装置	シーメンスジャパン	ｵﾙﾋﾞｯｸｽTIT12	1985/3/20	中央放射線科	一般撮影室
アルファマッケ手術台システム1150型	マッケ		1999/3/31	中央手術室	中央手術室
磁気共鳴断層撮影装置（ＭＲＩ）	ＧＥ横河メディカルシステム	ｼｸﾞﾅﾎﾗｲｿﾞﾝ ｴｺｽﾋﾟｰﾄﾞLX 1.5T	1999/3/31	中央放射線科	ＡＢ棟ＭＲＩ室
超音波診断装置	東芝	Power Vision 6000　ＳＳＡ－370Ａ	1999/12/17	中央検査科	生理機能検査室
外科用移動型Ｘ線撮影装置	シーメンスジャパン	SIREMOBIL Compact	2001/7/19	中央手術室	中央手術室
コダックＣＲシステム	コダック		2002/3/11	中央放射線科	一般撮影室・救急Ｘ線撮影室
ガンマカメラシステム	フィリップス	AXIS	2003/3/20	中央放射線科	RI検査室
手術顕微鏡	ライカ	M500-N/OHS-1	2004/3/23	脳神経外科	中央手術室
ホルミウムレーザー装置　バーサパルスセレクト30W	ボストン・サイエンティフィック・ジャパン	840-901	2004/12/16	泌尿器科	中央手術室
HSトランスポーテーションシステム	シスメックス	XE-AlphaN	2005/12/29	中央検査科	血液検査室
多項目自動血球分析装置	シスメックス	XE-2100	2005/12/29	中央検査科	血液検査室
Qスイッチ　ルビーレーザー装置	ジェイメック	The Ruby Z1	2006/7/31	形成外科	麻酔科ブース
磁気共鳴断層撮影装置（MRI）	ＧＥ横河メディカルシステム	Signa EXCITE HD EchoSpeed Plus 1.5T	2007/3/9	中央放射線科	C棟MRI室
X線デジタルカメラ	キヤノン	CXDI-50G	2007/9/28	中央放射線科	救急撮影室
デジタルＸ線ＴＶシステム	東芝メディカルシステムズ	ZEXIRA DREX-ZX80/P2B	2009/11/30	中央放射線科	Ｘ線ＴＶ室
医用画像管理システム、読影レポートシステムサーバ及び端末	(株)日立メディコ	NASｻｰﾊﾞ+RAID16TB ほか	2010/7/30	中央放射線科	EDP室
光干渉断層計	カールツァイスメディテック	シラスHD-OCT	2011/2/28	眼科	眼科外来
人工呼吸器	フクダ電子（株）	ｓｅｒｖｏｉアダルト	2011/11/17	臨床工学科	臨床工学科
自動採血管準備装置	テクノメディカ(株)	BC-ROBO 8000RFID/T62	2012/9/28	中央検査科	中央検査科(採血室)
デジタルＸ線テレビシステム	(株)日立メディコ	ＥＸＡＶＩＳＴＡ	2012/10/30	内視鏡室	内視鏡室
乳房超音波診断装置	シーメンスジャパン	Acuson S2000+ABVS	2013/1/31	中央放射線科	生理機能検査室
ラパロカメラシステム	オリンパスメディカルシステムズ	VISERA ELITE	2013/8/26	消化器科	中央手術室
内視鏡システム	オリンパスメディカルシステムズ	CV-290 他	2013/11/25	内視鏡室	内視鏡室
低温プラズマ滅菌器	ジョンソン・エンド・ジョンソン	ｽﾃﾗｯﾄﾞ100NX	2014/1/29	中央材料室	中央材料室
乳房Ｘ線撮影装置	シーメンスジャパン	MAMMOMAT Inspiration	2014/3/20	中央放射線科	中央放射線科
超音波内視鏡システム	オリンパスメディカルシステムズ	EVIS LUCERA ELITEシステム	2014/10/23	内視鏡室	内視鏡室
手術用顕微鏡	ライカマイクロシステムズ	Ｍ－５２５－ＯＨ－４	2014/12/25	脳神経外科	中央手術室
高圧蒸気滅菌装置(両扉)	三浦工業	ＲＧ－４０ＦＭＷ	2015/1/16	中央材料室	中央材料室
デジタルＸ線ＴＶシステム	島津製作所	SONIALVISION Ｇ４	2015/3/24	中央放射線科	Ｘ線ＴＶ室
体外式結石破砕装置	イニシアメディカルテクノロジー	インテグラ	2015/4/30	中央放射線科	結石破砕室
ＭＲＩシステムアップグレード	ＧＥヘルスケアジャパン	Signa LX Ver9.1 to HDxt　Ver23	2015/5/28	中央放射線科	ＡＢ棟ＭＲＩ室
ビデオ内視鏡システム	オリンパスメディカルシステムズ	VISERA ELITE	2015/8/24	外科	中央手術室
白内障手術装置	日本アルコン（株）	CENTURION VISION SYSTEM	2015/10/16	眼科	中央手術室
術中神経機能モニタリング装置	日本光電工業(株)	ＭＥＥ－１２１６	2015/11/30	脳神経外科	中央手術室
放射線治療装置（リニアック）	エレクタ（株）	Synergy	2016/6/30	中央放射線科	リニアック室
バーチャルスライドシステム	浜松ホトニクス（株）	NanoZoomer　S210	2016/9/29	病理診断科	病理診断室
人工呼吸器	フクダ電子（株）	servo U	2016/11/15	臨床工学科	臨床工学室
超音波診断装置	キヤノンメディカルシステムズ（株）	Aprio300　TUS-A300	2016/12/12	泌尿器科	中央手術室
電動ﾘﾓｰﾄｺﾝﾄﾛｰﾙベッド（30台）	パラマウントベッド（株）	KA-75120A他	2017/3/24	看護科	5C,6C病棟
過酸化水素ガス滅菌装置	キヤノンライフケアソリューション(株)	ES-1400S	2017/7/21	手術室	中材
血管造影X線診断装置	(株)フィリップス・ジャパン 他	Allura Xper FD20／15	2017/8/23	中央放射線科	血管撮影室
移動型X線撮影装置	シーメンスヘルスケア(株)	CiosFusion	2017/9/12	手術室	手術室
逆浸透精製水製造システム	日機装(株)	DRO−NX132H	2017/11/28	血液浄化療法室	血液浄化療法室
一般撮影画像装置システム	富士フイルムメディカル(株)	CALNEO Smart 77	2018/1/26	中央放射線科	第2撮影室
全自動錠剤分包機	（株）八神製作所	GA08Ⅲ	2018/2/20	中央検査科	検体検査
人工呼吸器	エア・ウォーター(株)	ファビアンHFO	2018/6/27	小児科	NICU
器具除染用洗浄器	三浦工業(株)	RA-160EUW他	2018/9/19	中央放射線科	中央材料室
MRI撮像装置	GEヘルスケアジャパン(株)	DC270A他	2018/12/27	中央放射線科	C棟MRI
デジタルX線TVシステム	キヤノンメディカルシステムズ㈱	ZEXIRA(13X14)	2018/12/27	内視鏡室	内視鏡室
内視鏡システム(泌尿器科)	オリンパス（株）	OTV-S300他	2019/3/8	中央手術室	中央手術室
内視鏡システム(耳鼻咽喉科)	オリンパス（株）	OTV-S300他	2019/3/8	中央手術室	中央手術室

X線透視診断装置	キヤノンメディカルシステムズ(株)	CXDI401CCOMPACT	2019/3/27	中央放射線科	中央放射線科
手術支援ロボット機器	インテュイティブサージカル合同会社	daVinci	2019/6/24	中央手術室	中央手術室
重症系(CCU)モニタリングシステム一式	日本光電(株)	PU-621R・VL-611R・ORG-9100-Z28等	2019/6/28	看護科	3A,3C病棟
移動型X線撮影装置	シーメンスヘルスケア(株)	Cios Fusion	2019/7/3	中央手術室	中央手術室
デジタルX線TVシステム	キヤノンメディカルシステムズ㈱	ZEXIRA(13X14)	2019/9/13	内視鏡室	内視鏡室
脳神経外科用ナビゲーションシステム	日本メドトロニック(株)	StealthStation8	2019/9/30	中央手術室	中央手術室
生化学検体分注・搬送システム	キヤノンメディカルシステムズ(株)他	TBA-FX8/9B他	2020/1/6	中央検査科	検体検査室
鼻咽喉ビデオシステム	オリンパス(株)	OTV-S190	2020/4/22	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科外来
手術台	ｹﾞﾃｨﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ(株)	ｵｰﾃｻｽｺﾗﾑ独立移動型	2020/9/9	中央手術室	中央手術室
光干渉断層計	カールツァイス	シラスHD-OCTPlus	2020/11/30	眼科	眼科外来
マンモグラフィーサーバ及びクライアント	ネットカムシステムズ	XronoServer他	2020/12/8	中央放射線科	中央放射線科
生体情報管理システム更新	日本光電(株)	PRM-7100	2021/3/24	臨床工学科	5B病棟
関節鏡視下システム	ジンマーバイオメット(株)	ZEOS4Kカメラコンソール	2021/4/21	中央手術室	中央手術室
自動血球分析装置	シスメックス(株)	XN-10 SP-50	2021/6/18	中央検査科	検体検査係 血液
移動型X線撮影装置	シーメンスヘルスケア(株)	Cios Fusion	2021/7/8	中央手術室	中央手術室
超音波画像診断装置	ｷﾔﾉﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ(株)	Aplioi700	2021/12/14	中央検査科	生理検査
CT撮影装置	ｷﾔﾉﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ(株)	TSX-307A/3I	2022/9/27	中央放射線科	AB棟CT室
一般撮影装置	ｷﾔﾉﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ(株)	CXDIなど	2022/9/28	中央放射線科	1番撮影室
内視鏡システム	オリンパス(株)	VISERAELITEⅡ	2022/9/29	中央手術室	中央手術室
マルチカラーレーザー	(株)ﾄﾌﾟｺﾝﾒﾃﾞｨｶﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ	SL-PA-04	2023/3/8	眼科	眼科外来
核医学診断用装置	シーメンスヘルスケア(株)	Symbia EvoExcel	2023/8/23	中央放射線科	RI検査室
眼科手術顕微鏡	カールツァイス	OPMI LUMELLA 700	2023/9/20	中央手術室	中央手術室
整形外科 ロボット手術器械	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)	VELYSロボット支援ソリューション	2024/4/25	整形外科	中央手術室
透析用監視装置 (11台)	(株)日機装	DCS-200Si D-FAS	2024/8/16	血液浄化療法室	血液浄化療法室
前立腺レーザー装置	ボストンサイエンティフィックジャパン(株)	AMS GreenLight XPS	2024/8/28	泌尿器科	中央手術室
ウォッシャーディスインフェクター	ゲティンゲ・ジャパン(株)	WD86Turbo	2024/12/25	中央材料室	中央材料室
自動注射薬払出し装置	(株)トーショー	UNIPUL-5000	2025/3/14	薬剤科	薬剤科
放射線治療計画装置	キヤノンメディカルシステムズ(株)	Monaco	2025/3/14	中央放射線科	リニアック室
アンギオ装置 一式	(株)フィリップス・ジャパン 他	Azurion7 B12/12 他	2025/3/21	中央放射線科	中央放射線科
自動封入装置 密閉式自動固定包埋装置	サクラファインテックジャパン(株)	Glas g2-J0 VIP6 AI-J0	2025/8/12	病理診断科	病理検査室
自動採血管準備装置	(株)テクノメディカ	BC・ROBO9001	2026/2/6	中央検査科	採血室
全身用X線CT診断装置 一式	GEヘルスケアジャパン(株)	Revolution Vite Elite	2026/3/16	中央放射線科	中央放射線科
高圧蒸気滅菌装置	三浦工業(株)	RX-40FNW	2026/3/23	中央手術室	中央材料室

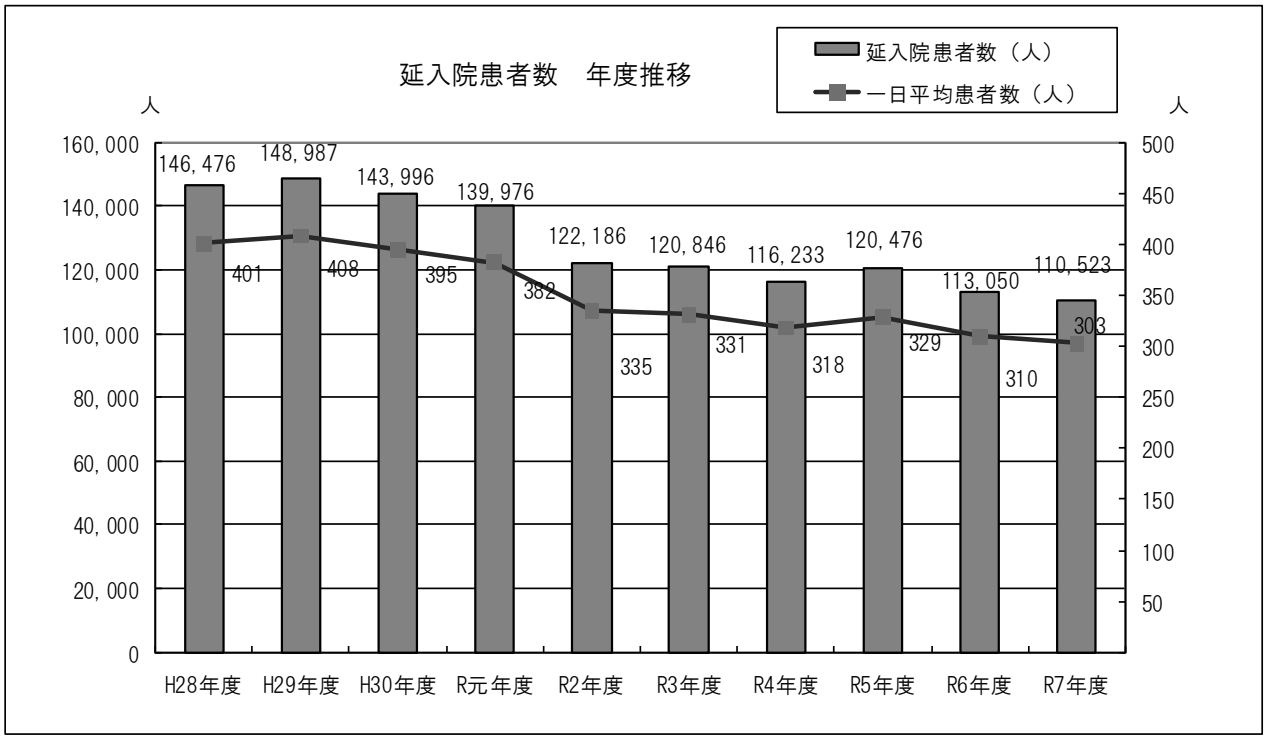
第３章　業　務　内　容

第1節　患 者 統 計

1．入院・外来

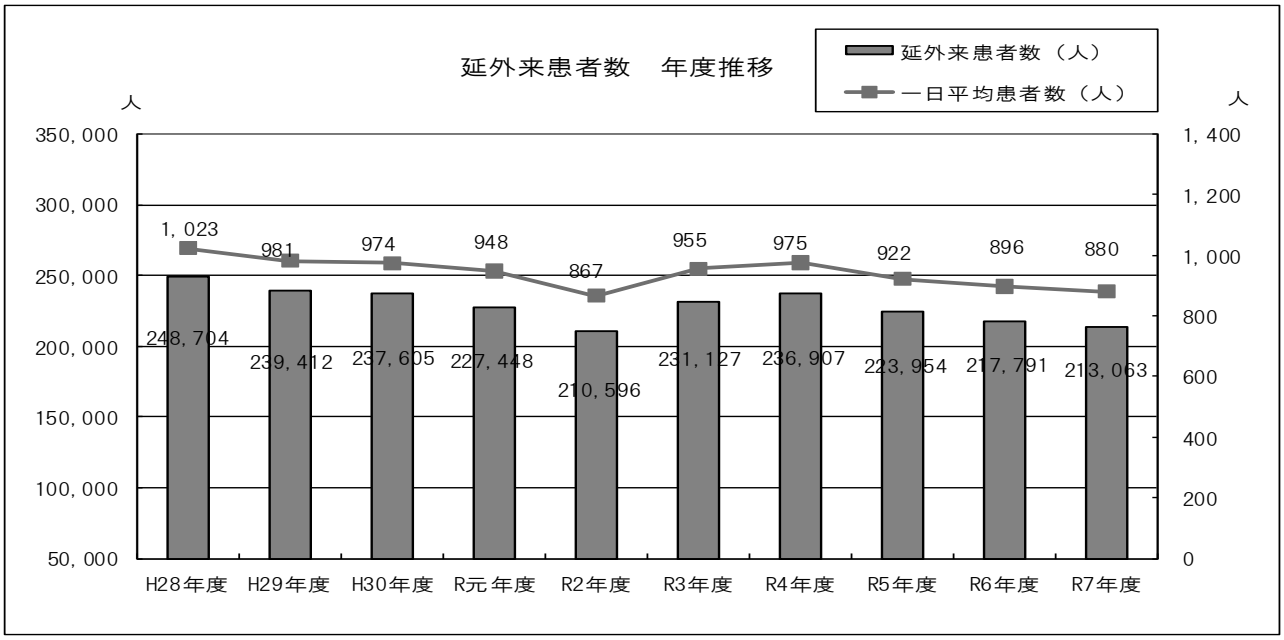
入　院　統　括

項　　目	平　成 28 年度	平　成 29 年度	平　成 30 年度	令　和 元年度	令　和 2 年度	令　和 3 年度	令　和 4 年度	令　和 5 年度	令　和 6 年度	令　和 7 年度
延入院患者数(人)	146,476	148,987	143,996	139,976	122,186	120,846	116,233	120,476	113,050	110,523
新入院患者数(人)	11,198	11,287	11,032	10,573	9,535	9,582	9,306	9,580	9,206	9,375
退院患者数（人）	11,205	11,302	11,083	10,561	9,558	9,593	9,326	9,594	9,174	9,422
病床稼働率（%）	85.2	86.7	83.8	81.2	71.1	70.3	67.6	76.6	73.2	71.6
一日平均患者数(人)	401	408	395	382	335	331	318	329	310	303
平均在院日数(日)	12.1	12.2	12.0	12.2	11.8	11.6	11.5	11.6	11.3	10.8
許可病床数（床）	471	471	471	471	471	471	471	423	423	423
稼 動 日 数（日）	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365



外　来　統　括

項　　目	平　成 28 年度	平　成 29 年度	平　成 30 年度	令　和 元年度	令　和 2 年度	令　和 3 年度	令　和 4 年度	令　和 5 年度	令　和 6 年度	令　和 7 年度
延外来患者数（人）	248,704	239,412	237,605	227,448	210,596	231,127	236,907	223,954	217,791	213,063
一日平均患者数(人)	1,023	981	974	948	867	955	975	922	896	880
稼動日数（日）	243 日	244 日	244 日	240 日	243 日	242 日	243 日	243 日	243 日	242 日



（1）診療科別入院延患者数

単位：人

診療科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
内科	5,505	6,939	8,861	9,549	7,914
呼吸器内科	630	603	737	274	247
消化器内科	13,425	11,965	12,037	12,162	13,353
循環器内科	3,861	3,653	3,945	4,025	5,262
血液内科	1,688	753	949	275	81
代謝・内分泌内科	464	501	541	642	425
脳神経内科	18,185	18,828	21,625	22,067	21,368
腎臓内科	10,183	9,673	8,950	7,530	6,230
精神科	0	0	0	0	0
小児科	5,692	5,782	6,446	5,734	5,269
外科	14,603	12,121	12,065	11,872	13,031
整形外科	13,541	14,853	15,845	13,400	12,679
形成外科	1,636	1,507	1,319	1,634	1,012
脳神経外科	8,820	7,159	7,210	5,799	5,272
皮膚科	448	422	584	776	966
泌尿器科	7,509	7,647	6,571	6,462	6,229
産婦人科	10,913	10,287	8,860	7,452	7,673
眼科	866	771	1,188	801	851
耳鼻咽喉科	2,323	2,260	2,118	2,043	2,084
放射線科	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	554	509	622	544	488
救急科	0	0	3	9	89
合計	120,846	116,233	120,476	113,050	110,523
病床数	471	471	423	423	423
新生児数	386	384	351	337	331
1日平均	331	318	329	310	303
稼働率	70.3%	67.6%	76.6%	73.2%	71.6%

（２）診療科別外来延患者数

単位：人

診療科	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
内　　科	10,659	15,594	7,594	6,546	6,889
呼吸器内科	3,320	3,311	3,600	3,378	3,466
消化器内科	14,712	13,663	13,449	13,050	13,214
循環器内科	7,954	6,781	6,401	6,637	6,783
血液内科	1,965	2,318	2,817	2,962	3,050
代謝・内分泌内科	3,884	4,724	5,070	5,103	5,435
脳神経内科	12,765	12,632	12,578	13,570	13,795
腎臓内科	22,272	24,380	24,191	22,563	21,578
精　神　科	3,966	3,514	3,210	2,986	2,757
小　児　科	13,866	15,965	18,038	17,959	16,594
外　　科	16,593	15,472	13,463	13,646	14,518
整形外科	22,633	24,403	22,817	20,934	20,482
形成外科	5,611	5,610	5,811	4,965	4,334
脳神経外科	7,903	7,179	6,652	6,406	5,476
皮　膚　科	6,628	6,622	6,478	6,390	6,509
泌尿器科	18,343	17,069	15,946	15,299	14,060
産婦人科	17,587	17,300	15,215	14,281	14,152
眼　　科	10,813	11,098	11,877	12,274	12,514
耳鼻咽喉科	7,701	8,643	8,429	8,155	7,923
放射線科	3,531	2,882	2,777	2,684	2,885
麻　酔　科	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	10,864	10,145	9,765	9,520	8,659
救　急　科	7,557	7,602	7,776	8,483	7,990
合　　計	231,127	236,907	223,954	217,791	213,063
診療日数	242	243	243	243	242
１日平均	955	975	922	896	880

（３）病棟別入院延患者数

単位：人

病棟	病床数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
３Ａ	42	833	885	697	724	760	653	728	779	827	745	760	328	8,719
３Ｂ	36	511	570	459	488	508	432	450	496	531	391	332	324	5,492
３Ｃ	32	875	819	824	821	841	854	838	831	898	896	864	907	10,268
４Ｂ	50	1,012	918	882	1,044	1,044	969	987	1,041	1,109	1,152	1,014	1,125	12,297
４Ｃ	40	1,064	932	825	880	1,014	973	941	918	1,067	1,113	1,053	1,093	11,873
５Ａ	48	948	807	864	946	993	972	1,146	1,035	1,170	1,334	1,197	1,327	12,739
５Ｂ	12	176	179	169	147	143	134	125	116	140	107	77	118	1,631
５Ｃ	39	1,064	891	808	889	1,046	999	944	981	1,027	1,089	1,054	1,121	11,913
６Ａ	44	1,086	1,022	1,106	1,040	1,067	1,097	1,095	971	1,070	1,168	1,058	1,077	12,857
６Ｂ	42	926	812	863	955	933	772	886	869	739	1,028	1,010	960	10,753
６Ｃ	38	1,040	907	885	949	1,063	970	1,005	993	1,001	1,073	1,022	1,073	11,981
合　計	423	9,535	8,742	8,382	8,883	9,412	8,825	9,145	9,030	9,579	10,096	9,441	9,453	110,523

（４）年齢別入院延患者数

単位：人

年　齢	０歳	1歳～2歳	3歳～5歳	6歳～14歳	15歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～	計
区　分	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）
内　科	0	0	0	0	69	73	75	348	171	319	552	1,470	4,836	7,913
呼吸器内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	23	44	174	247
消化器内科	0	0	0	0	157	104	265	766	601	1,193	1,353	2,437	6,477	13,353
循環器内科	0	0	0	0	152	19	27	145	294	228	272	552	3,573	5,262
血液内科	0	0	0	0	0	0	0	27	11	0	0	0	43	81
代謝内分泌内科	0	0	0	0	22	11	70	39	32	72	55	20	104	425
脳神経内科	0	0	0	0	423	530	705	1,628	978	1,986	1,690	4,474	8,954	21,368
腎臓内科	0	0	0	0	220	65	197	387	469	391	602	1,225	2,674	6,230
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小　児　科	3,427	707	363	686	78	0	4	4	0	0	0	0	0	5,269
外　科	0	0	3	36	240	283	632	857	894	1,303	1,672	2,568	4,543	13,031
整形外科	0	0	10	86	345	157	338	1,151	535	753	1,184	1,880	6,240	12,679
形成外科	0	0	0	9	89	60	114	145	33	14	108	140	300	1,012
脳神経外科	0	0	0	4	44	17	241	567	385	660	475	962	1,917	5,272
皮　膚　科	0	0	0	0	71	52	23	102	48	139	64	103	364	966
泌尿器科	0	0	0	0	95	77	165	466	430	828	1,080	1,428	1,660	6,229
産婦人科	0	0	0	12	1,264	2,515	1,164	920	392	524	233	325	324	7,673
眼　科	0	0	0	0	2	0	15	95	24	58	125	208	324	851
耳鼻咽喉科	0	9	65	162	266	158	197	233	130	129	318	174	243	2,084
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻　酔　科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	0	0	0	31	172	99	49	32	11	21	24	30	19	488
救　急　科	0	0	0	2	7	0	2	20	2	5	14	12	26	90
合　計	3,427	716	441	1,028	3,716	4,220	4,283	7,932	5,440	8,629	9,844	18,052	42,795	110,523

（５）年齢別外来延患者数

単位：人

年　齢	０歳	1歳～2歳	3歳～5歳	6歳～14歳	15歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～	計
区　分	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）	計（人）
内　科	0	0	0	0	268	300	369	913	472	610	723	1,203	2,031	6,889
呼吸器内科	0	0	0	0	23	35	108	156	211	355	403	868	1,307	3,466
消化器内科	0	0	0	46	296	460	708	1,864	949	1,515	1,686	2,699	2,991	13,214
循環器内科	0	0	0	0	48	88	300	623	408	644	782	1,234	2,656	6,783
血液内科	0	0	0	0	24	37	154	251	100	262	515	704	1,003	3,050
代謝内分泌内科	0	0	0	0	162	441	651	884	553	620	667	778	679	5,435
脳神経内科	0	0	0	0	605	733	1,008	1,790	1,047	1,460	1,689	2,541	2,922	13,795
腎臓内科	0	0	0	0	392	383	1,050	3,067	1,669	2,848	3,241	3,461	5,466	21,578
精神科	0	0	0	0	178	217	438	531	356	359	224	233	221	2,757
小　児　科	1,924	2,208	2,698	8,551	1,004	134	51	22	0	1	1	0	0	16,594
外　科	1	4	6	56	233	593	1,266	1,714	1,090	1,478	1,925	2,726	3,426	14,518
整形外科	29	59	124	693	1,218	837	1,154	2,659	1,606	1,949	2,345	2,920	4,889	20,482
形成外科	31	110	102	216	448	383	430	525	289	302	342	418	738	4,334
脳神経外科	28	93	75	126	217	154	437	782	450	502	576	847	1,189	5,476
皮　膚　科	23	32	37	176	300	313	485	787	435	579	717	994	1,631	6,509
泌尿器科	4	16	19	24	167	219	447	1,186	763	1,525	2,270	3,209	4,212	14,060
産婦人科	1	4	4	51	1,240	2,899	3,210	2,414	1,018	1,002	823	812	674	14,152
眼　科	11	25	42	126	180	155	393	1,168	746	1,247	1,551	2,729	4,141	12,514
耳鼻咽喉科	10	53	108	302	434	404	716	1,296	629	832	824	1,063	1,252	7,923
放射線科	0	0	0	0	1	45	213	315	284	359	453	513	702	2,885
麻　酔　科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	7	27	24	148	821	633	602	963	523	735	870	1,396	1,910	8,659
救　急　科	30	185	212	386	1,075	649	637	834	388	423	571	843	1,757	7,990
合　計	2,099	2,816	3,451	10,901	9,334	10,112	14,827	24,744	13,986	19,607	23,198	32,191	45,797	213,063

（６）入院・退院件数「診療科別」

単位：人

診療科		令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
内科	入院	542	664	833	865	817
	退院	263	359	461	457	425
呼吸器内科	入院	32	30	30	22	16
	退院	37	35	32	25	18
消化器内科	入院	935	909	845	844	969
	退院	948	949	921	925	1,087
循環器内科	入院	126	112	125	121	192
	退院	171	167	166	185	253
血液内科	入院	61	34	49	13	6
	退院	68	36	54	16	6
代謝・内分泌内科	入院	38	33	37	41	30
	退院	38	38	46	52	40
脳神経内科	入院	818	760	859	981	1,065
	退院	900	845	957	1,061	1,153
腎臓内科	入院	490	433	473	420	341
	退院	538	491	531	509	400
小児科	入院	762	905	933	850	816
	退院	776	897	933	855	819
外科	入院	1,191	1,018	953	1,010	1,124
	退院	1,232	1,090	1,014	1,054	1,192
整形外科	入院	714	809	852	728	793
	退院	723	805	844	738	774
形成外科	入院	112	151	144	159	92
	退院	114	152	152	161	91
脳神経外科	入院	464	390	354	342	304
	退院	472	398	356	340	314
皮膚科	入院	27	27	36	53	59
	退院	32	28	44	51	57
泌尿器科	入院	979	953	851	808	824
	退院	977	961	856	800	838
産婦人科	入院	1,476	1,301	1,161	993	1,004
	退院	1,481	1,300	1,174	994	1,023
眼科	入院	284	251	463	399	374
	退院	284	251	463	395	377
耳鼻咽喉科	入院	304	311	339	317	312
	退院	314	307	348	317	322
歯科口腔外科	入院	227	215	240	234	214
	退院	225	217	240	234	213
救急科	入院	0	0	3	6	23
	退院	0	0	2	5	20
合計	入院	9,582	9,306	9,580	9,206	9,375
	退院	9,593	9,326	9,594	9,174	9,422
平均在院日数		11.6	11.5	11.6	11.3	10.8

（７）入院・退院件数「病棟別」

単位：人

病棟		令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
３Ａ病棟	入院	1,383	1,310	1,291	1,132	1,126
	退院	1,435	1,342	1,352	1,171	1,156
３Ｂ病棟	入院	1,188	1,273	1,444	1,264	1,111
	退院	1,218	1,245	1,448	1,267	1,107
３Ｃ病棟	入院	526	438	527	533	579
	退院	500	481	512	481	549
４Ａ病棟	入院	113	203	3	0	0
	退院	72	143	2	0	0
４Ｂ病棟	入院	1,281	1,213	1,274	1,213	1,194
	退院	1,280	1,227	1,296	1,228	1,248
４Ｃ病棟	入院	890	907	889	861	866
	退院	873	900	884	877	909
５Ａ病棟	入院	752	773	782	694	769
	退院	767	792	786	715	766
５Ｂ病棟	入院	246	270	231	254	247
	退院	81	88	50	32	38
５Ｃ病棟	入院	647	611	614	635	689
	退院	658	617	585	630	661
６Ａ病棟	入院	1,096	941	965	982	1,063
	退院	1,170	1,054	1,085	1,097	1,185
６Ｂ病棟	入院	854	795	973	993	1,010
	退院	900	840	1,032	1,055	1,106
６Ｃ病棟	入院	606	572	587	645	721
	退院	639	597	562	621	697
合計	入院	9,582	9,306	9,580	9,206	9,375
	退院	9,593	9,326	9,594	9,174	9,422

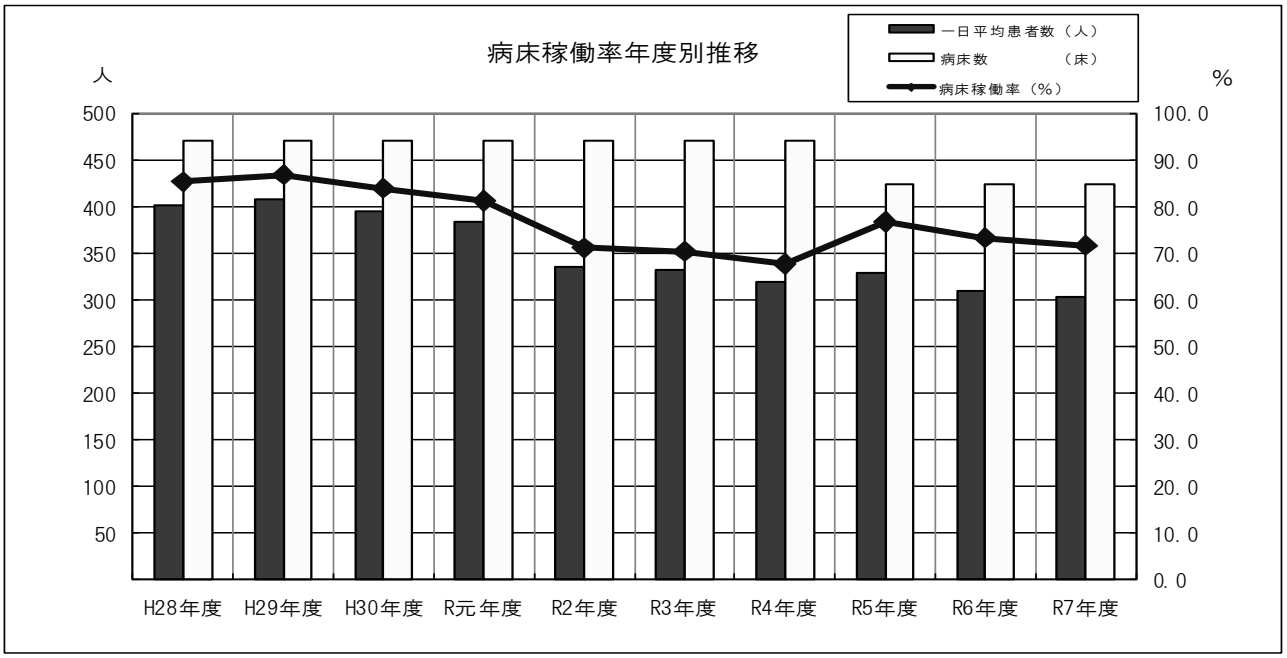
※4A病棟は令和５年５月31日にて終了

（８）病棟別病床稼働率

単位：％

	病床数	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	前年度稼働率	比較
３Ａ	42	66.1%	68.0%	55.3%	55.6%	58.4%	51.8%	55.9%	61.8%	63.5%	57.2%	64.6%	25.2%	56.9%	57.3%	-0.4%
３Ｂ	36	47.3%	51.1%	42.5%	43.7%	45.5%	40.0%	40.3%	45.9%	47.6%	35.0%	32.9%	29.0%	41.8%	48.8%	-7.0%
３Ｃ	32	91.2%	82.6%	85.8%	82.8%	84.8%	89.0%	84.5%	86.6%	90.5%	90.3%	96.4%	91.4%	87.9%	90.8%	-2.9%
４Ｂ	50	67.5%	59.2%	58.8%	67.4%	67.4%	64.6%	63.7%	69.4%	71.6%	74.3%	72.4%	72.6%	67.4%	70.4%	-3.0%
４Ｃ	40	88.7%	75.2%	68.8%	71.0%	81.8%	81.1%	75.9%	76.5%	86.1%	90.0%	94.0%	88.2%	81.3%	83.2%	-1.9%
５Ａ	48	65.8%	54.2%	60.0%	63.6%	66.7%	67.5%	77.0%	71.9%	78.6%	90.0%	89.1%	89.2%	72.7%	75.4%	-2.7%
５Ｂ	12	48.9%	48.1%	46.9%	39.5%	38.4%	37.2%	33.6%	32.2%	37.6%	28.8%	22.9%	31.7%	37.2%	40.2%	-3.0%
５Ｃ	39	90.9%	73.7%	69.1%	73.5%	86.5%	85.4%	78.1%	83.9%	85.0%	90.1%	96.5%	92.7%	83.7%	84.1%	-0.4%
６Ａ	44	82.3%	74.9%	83.8%	76.3%	78.2%	83.1%	80.1%	73.6%	78.5%	85.6%	85.9%	79.0%	80.1%	75.3%	4.8%
６Ｂ	42	73.5%	62.4%	68.5%	73.4%	71.7%	61.3%	68.1%	69.0%	56.8%	79.0%	85.9%	73.7%	70.1%	70.6%	-0.5%
６Ｃ	38	91.2%	77.0%	77.6%	80.6%	90.2%	85.1%	85.3%	87.1%	85.0%	91.1%	96.1%	91.1%	86.4%	89.3%	-2.9%
合計	423	75.1%	66.7%	66.1%	67.7%	71.8%	69.5%	69.7%	71.2%	73.1%	77.0%	79.7%	70.8%	71.6%	73.2%	-1.6%

（９）病床稼働率年度別推移



（10）入院地区別患者数年度推移

単位：人

市町名	令和3年度	比率	令和4年度	比率	令和5年度	比率	令和6年度	比率	令和7年度	比率
焼津市	94,476	78.2%	92,245	79.4%	96,985	80.5%	90,112	79.7%	89,081	80.6%
藤枝市	11,169	9.2%	9,267	8.0%	9,193	7.6%	8,543	7.6%	8,729	7.9%
島田市	3,688	3.1%	3,233	2.8%	3,337	2.8%	3,370	3.0%	3,046	2.8%
静岡市	838	0.7%	1,070	0.9%	1,265	1.1%	729	0.6%	675	0.6%
吉田町	5,048	4.2%	4,677	4.0%	4,086	3.4%	3,879	3.4%	3,747	3.4%
牧之原市	4,247	3.5%	4,103	3.5%	3,789	3.1%	4,665	4.1%	3,355	3.0%
御前崎市	342	0.3%	301	0.3%	508	0.4%	335	0.3%	436	0.4%
川根本町	71	0.1%	103	0.1%	67	0.1%	63	0.1%	167	0.2%
その他県内	543	0.4%	572	0.5%	434	0.4%	559	0.5%	494	0.4%
県外	424	0.4%	662	0.6%	812	0.7%	795	0.7%	793	0.7%
合計	120,846	100.0%	116,233	100.0%	120,476	100.0%	113,050	100.0%	110,523	100.0%

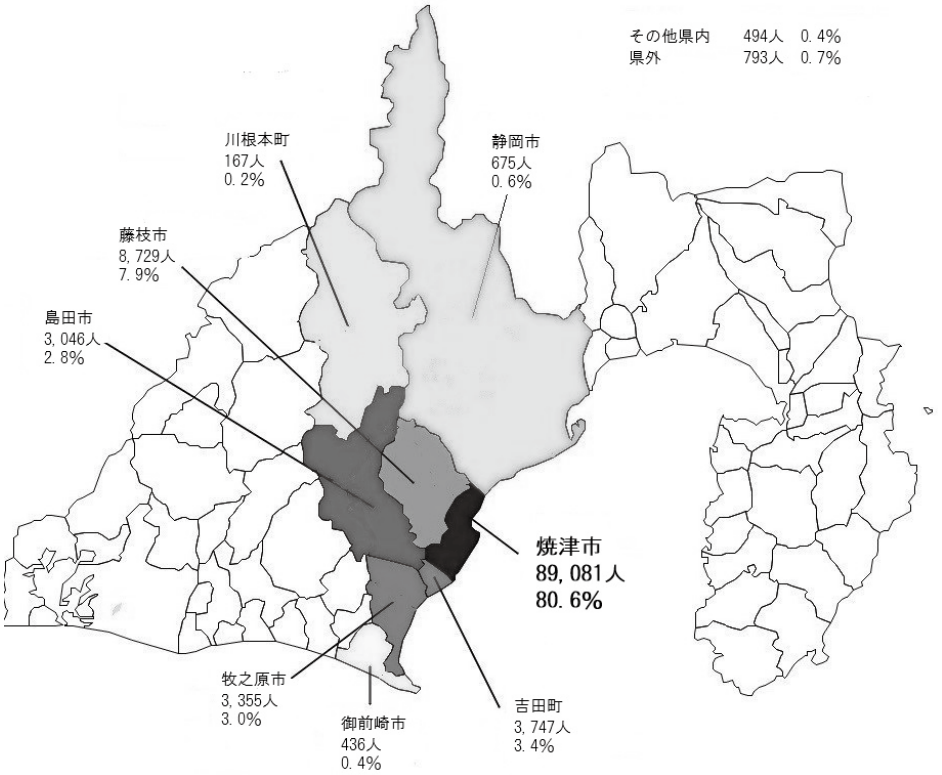
（11）外来地区別患者数年度推移

単位：人

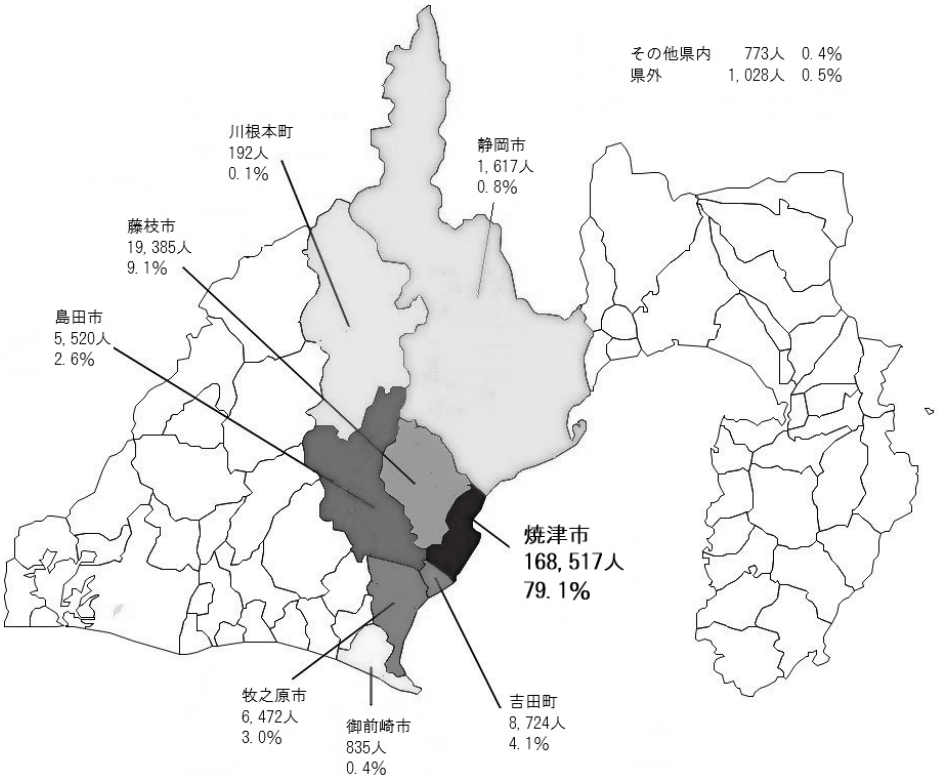
市町名	令和3年度	比率	令和4年度	比率	令和5年度	比率	令和6年度	比率	令和7年度	比率
焼津市	180,758	78.2%	185,770	78.4%	178,134	79.5%	172,243	79.1%	168,517	79.1%
藤枝市	21,318	9.2%	22,353	9.4%	19,700	8.8%	19,257	8.8%	19,385	9.1%
島田市	5,966	2.6%	5,967	2.5%	5,701	2.5%	5,711	2.6%	5,520	2.6%
静岡市	2,088	0.9%	2,271	1.0%	1,786	0.8%	1,730	0.8%	1,617	0.8%
吉田町	10,905	4.7%	10,190	4.3%	9,072	4.1%	8,988	4.1%	8,724	4.1%
牧之原市	7,562	3.3%	7,579	3.2%	6,875	3.1%	7,076	3.2%	6,472	3.0%
御前崎市	655	0.3%	766	0.3%	712	0.3%	801	0.4%	835	0.4%
川根本町	157	0.1%	171	0.1%	174	0.1%	164	0.1%	192	0.1%
その他県内	940	0.4%	824	0.3%	811	0.4%	802	0.4%	773	0.4%
県外	778	0.3%	1,016	0.4%	989	0.4%	1,019	0.5%	1,028	0.5%
合計	231,127	100.0%	236,907	100.0%	223,954	100.0%	217,791	100.0%	213,063	100.0%

地区別患者数

〔入院〕　延患者数　　110,523 人



〔外来〕　延患者数　　213,063 人



２．救急患者取り扱い件数

(1) 診療科別比較

診療科＼年度		令和3年度				令和4年度				令和5年度				令和6年度				令和7年度			
		件数	入院数	救急車	交通事故	件数	入院数	救急車	交通事故	件数	入院数	救急車	交通事故	件数	入院数	救急車	交通事故	件数	入院数	救急車	交通事故
総合診療内科	時間外	3,520	625	1,153	0	3,911	774	1,335	1	4,149	836	1,420	0	4,406	742	1,466	4	4,073	671	1,325	1
	時間内	1,985	234	462	1	2,099	265	535	0	1,917	390	606	1	1,580	265	559	4	1,496	191	528	1
	計	5,505	859	1,615	1	6,010	1,039	1,870	1	6,066	1,226	2,026	1	5,986	1,007	2,025	8	5,569	862	1,853	2
呼吸器内科	時間外	2	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	時間内	3	3	2	0	3	3	0	0	2	2	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0
	計	5	3	2	0	4	4	1	0	3	3	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0
消化器内科	時間外	269	245	135	0	229	220	108	0	247	227	115	0	267	251	133	0	395	367	200	0
	時間内	244	229	72	0	246	220	70	0	208	176	49	0	282	255	92	0	289	246	89	0
	計	513	474	207	0	475	440	178	0	455	403	164	0	549	506	225	0	684	613	289	0
循環器内科	時間外	38	37	22	0	35	33	22	0	39	39	20	0	30	28	20	1	63	61	37	0
	時間内	58	52	26	0	34	29	21	0	59	55	27	1	56	51	27	0	89	83	41	0
	計	96	89	48	0	69	62	43	0	98	94	47	1	86	79	47	1	152	144	78	0
血液内科	時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0
	時間内	3	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0
	計	3	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	4	0	0	0
代謝内分泌内科	時間外	3	2	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
	時間内	7	7	5	0	5	5	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2	0	0
	計	10	9	6	0	6	6	2	0	0	0	0	0	3	3	1	0	2	2	0	0
脳神経内科	時間外	212	197	133	0	189	175	130	0	242	220	154	0	329	305	217	0	388	363	257	0
	時間内	355	303	163	0	297	255	153	0	300	245	128	0	469	377	188	0	524	436	236	0
	計	567	500	296	0	486	430	283	0	542	465	282	0	798	682	405	0	912	799	493	0
腎臓内科	時間外	76	63	36	0	58	56	34	0	73	63	42	0	75	74	42	0	61	58	34	0
	時間内	134	132	68	0	121	116	53	0	128	125	58	1	135	133	67	0	121	115	58	0
	計	210	195	104	0	179	172	87	0	201	188	100	1	210	207	109	0	182	173	92	0
精神科	時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	時間内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科	時間外	1,670	233	170	0	2,358	310	279	2	2,788	329	221	0	2,674	300	225	0	2,652	286	270	4
	時間内	552	111	50	0	872	141	86	0	528	126	94	1	476	113	86	1	458	102	74	1
	計	2,222	344	220	0	3,230	451	365	2	3,316	455	315	1	3,150	413	311	1	3,110	388	344	5
外科	時間外	494	198	119	30	458	171	116	41	407	167	93	41	463	224	107	24	569	208	122	30
	時間内	238	159	86	20	200	132	64	16	212	141	80	21	287	190	91	24	233	145	69	25
	計	732	357	205	50	658	303	180	57	619	308	173	62	750	414	198	48	802	353	191	55

診療科＼年度		令和3年度				令和4年度				令和5年度				令和6年度				令和7年度			
		件数	入院数	救急車	交通事故	件数	入院数	救急車	交通事故	件数	入院数	救急車	交通事故	件数	入院数	救急車	交通事故	件数	入院数	救急車	交通事故
整形外科	時間外	1,436	170	366	153	1,551	202	414	143	1,644	249	416	161	1,662	185	412	176	1,651	195	409	159
	時間内	463	176	241	52	483	176	243	52	551	190	261	77	593	169	281	70	588	177	276	75
	計	1,899	346	607	205	2,034	378	657	195	2,195	439	677	238	2,255	354	693	246	2,239	372	685	234
形成外科	時間外	636	13	13	0	513	13	27	0	537	8	26	1	524	14	16	2	443	13	21	0
	時間内	101	14	12	0	97	16	11	0	124	9	12	0	142	14	13	0	114	8	11	2
	計	737	27	25	0	610	29	38	0	661	17	38	1	666	28	29	2	557	21	32	2
脳神経外科	時間外	1,136	233	363	44	1,165	205	385	38	1,187	179	354	43	1,222	165	360	51	1,108	159	345	30
	時間内	350	124	169	16	371	112	189	26	374	102	181	28	427	108	202	28	346	92	169	19
	計	1,486	357	532	60	1,536	317	574	64	1,561	281	535	71	1,649	273	562	79	1,454	251	514	49
皮膚科	時間外	275	1	5	0	251	10	8	0	262	9	7	0	324	6	9	0	338	4	10	0
	時間内	61	14	10	0	49	6	6	0	58	11	6	0	62	14	10	0	89	13	8	1
	計	336	15	15	0	300	16	14	0	320	20	13	0	386	20	19	0	427	17	18	1
泌尿器科	時間外	306	65	37	1	318	41	38	0	367	57	45	0	367	39	30	1	314	55	31	0
	時間内	80	30	14	0	98	33	20	0	79	26	14	1	88	27	11	0	111	40	17	1
	計	386	95	51	1	416	74	58	0	446	83	59	1	455	66	41	1	425	95	48	1
産婦人科	時間外	491	237	42	2	533	245	49	2	488	206	37	1	415	213	32	3	379	196	42	0
	時間内	32	22	19	0	46	27	22	1	49	30	26	1	46	27	18	0	54	42	25	0
	計	523	259	61	2	579	272	71	3	537	236	63	2	461	240	50	3	433	238	67	0
眼科	時間外	136	0	3	0	100	0	0	0	123	0	3	0	138	2	3	0	172	1	5	0
	時間内	5	0	1	0	3	0	0	0	6	0	0	0	7	0	0	0	13	1	1	0
	計	141	0	4	0	103	0	0	0	129	0	3	0	145	2	3	0	185	2	6	0
耳鼻咽喉科	時間外	175	15	20	0	217	24	41	1	235	30	27	1	248	24	25	1	210	25	21	1
	時間内	19	8	12	0	20	8	7	0	28	7	9	0	24	2	4	0	30	6	8	1
	計	194	23	32	0	237	32	48	1	263	37	36	1	272	26	29	1	240	31	29	2
歯科口腔外科	時間外	180	0	0	0	141	0	11	2	141	0	5	0	209	0	8	0	179	0	5	0
	時間内	7	1	1	0	8	0	3	1	10	0	0	0	15	0	1	0	18	0	2	0
	計	187	1	1	0	149	0	14	3	151	0	5	0	224	0	9	0	197	0	7	0
救急科	時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	8	1
	時間内	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	4	0	7	7	6	0	13	13	10	2
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	4	0	7	7	6	0	23	23	18	3
合計	時間外	11,055	2,334	2,618	230	12,029	2,481	2,999	230	12,932	2,620	2,985	248	13,357	2,573	3,106	263	13,008	2,672	3,142	226
	時間内	4,697	1,622	1,415	89	5,052	1,544	1,484	96	4,638	1,638	1,556	132	4,702	1,755	1,656	127	4,590	1,713	1,622	128
	計	15,752	3,956	4,033	319	17,081	4,025	4,483	326	17,570	4,258	4,541	380	18,059	4,328	4,762	390	17,598	4,385	4,764	354

(2) 令和７年度　時間外救急科別患者数

上段：受診者数
下段：内入院数
単位：人

診療科		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	受診者	290	301	287	352	442	352	255	360	363	365	377	329	4,073
	内入院	38	42	49	70	65	51	30	74	71	72	61	48	671
呼吸器内科	受診者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	受診者	24	33	30	30	25	34	36	34	43	47	31	28	395
	内入院	23	30	29	29	25	32	32	34	37	42	30	24	367
循環器内科	受診者	4	5	6	2	3	9	7	5	6	5	5	6	63
	内入院	4	4	6	2	3	9	6	5	6	5	5	6	61
血液内科	受診者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
	内入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
代謝内分泌内科	受診者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経内科	受診者	39	30	38	32	44	22	31	32	32	29	32	27	388
	内入院	34	29	36	30	40	22	29	31	31	28	29	24	363
腎臓内科	受診者	6	4	7	2	8	9	3	3	5	6	2	6	61
	内入院	6	4	7	2	6	9	3	3	5	6	2	5	58
精神科	受診者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科	受診者	157	194	212	202	231	219	233	303	252	195	254	200	2,652
	内入院	29	33	20	24	25	23	22	25	26	17	25	17	286
外科	受診者	30	53	62	61	47	71	43	48	45	48	41	20	569
	内入院	11	19	15	23	21	16	16	16	25	19	19	8	208
整形外科	受診者	132	132	114	114	127	156	116	163	166	177	127	127	1,651
	内入院	10	9	13	14	13	18	8	22	27	26	19	16	195
形成外科	受診者	37	36	31	20	31	33	36	54	52	46	35	32	443
	内入院	2	1	2	0	1	0	0	1	1	3	1	1	13
脳神経外科	受診者	83	100	66	87	87	90	95	116	111	89	88	96	1,108
	内入院	17	14	10	10	14	12	14	12	15	17	14	10	159
皮膚科	受診者	23	34	34	48	41	25	25	28	23	18	25	14	338
	内入院	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4
泌尿器科	受診者	28	30	20	23	26	35	30	28	30	24	21	19	314
	内入院	4	7	5	7	4	6	2	3	2	6	7	2	55
産婦人科	受診者	27	32	26	34	37	25	38	34	32	32	35	27	379
	内入院	16	15	14	15	16	16	15	21	17	17	18	16	196
眼科	受診者	5	11	15	9	19	6	9	15	26	23	19	15	172
	内入院	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
耳鼻咽喉科	受診者	12	21	12	11	13	18	19	13	18	26	25	22	210
	内入院	0	3	2	3	2	0	1	2	2	1	5	4	25
放射線科	受診者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	受診者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	受診者	21	20	13	10	17	9	11	20	18	10	9	21	179
	内入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	受診者	0	0	0	1	1	2	0	1	1	1	0	3	10
	内入院	0	0	0	1	1	2	0	1	1	1	0	3	10
計	受診者	918	1,036	973	1,038	1,199	1,115	987	1,257	1,224	1,143	1,126	992	13,008
	内入院	195	210	209	230	236	216	178	251	266	261	236	184	2,672

来院方法		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
救急ｾﾝﾀｰより	救急車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	1	1	3	1	0	0	0	2	0	0	3	11
他院より	救急車	16	9	14	18	11	9	14	17	19	20	13	6	166
	その他	40	31	36	27	38	37	29	41	33	34	32	23	401
直接来院	救急車	223	234	209	255	276	231	209	263	285	286	261	244	2,976
	その他	639	761	713	735	873	838	735	936	885	803	820	716	9,454
計	救急車	239	243	223	273	287	240	223	280	304	306	274	250	3,142
	その他	679	793	750	765	912	875	764	977	920	837	852	742	9,866
合計		918	1,036	973	1,038	1,199	1,115	987	1,257	1,224	1,143	1,126	992	13,008

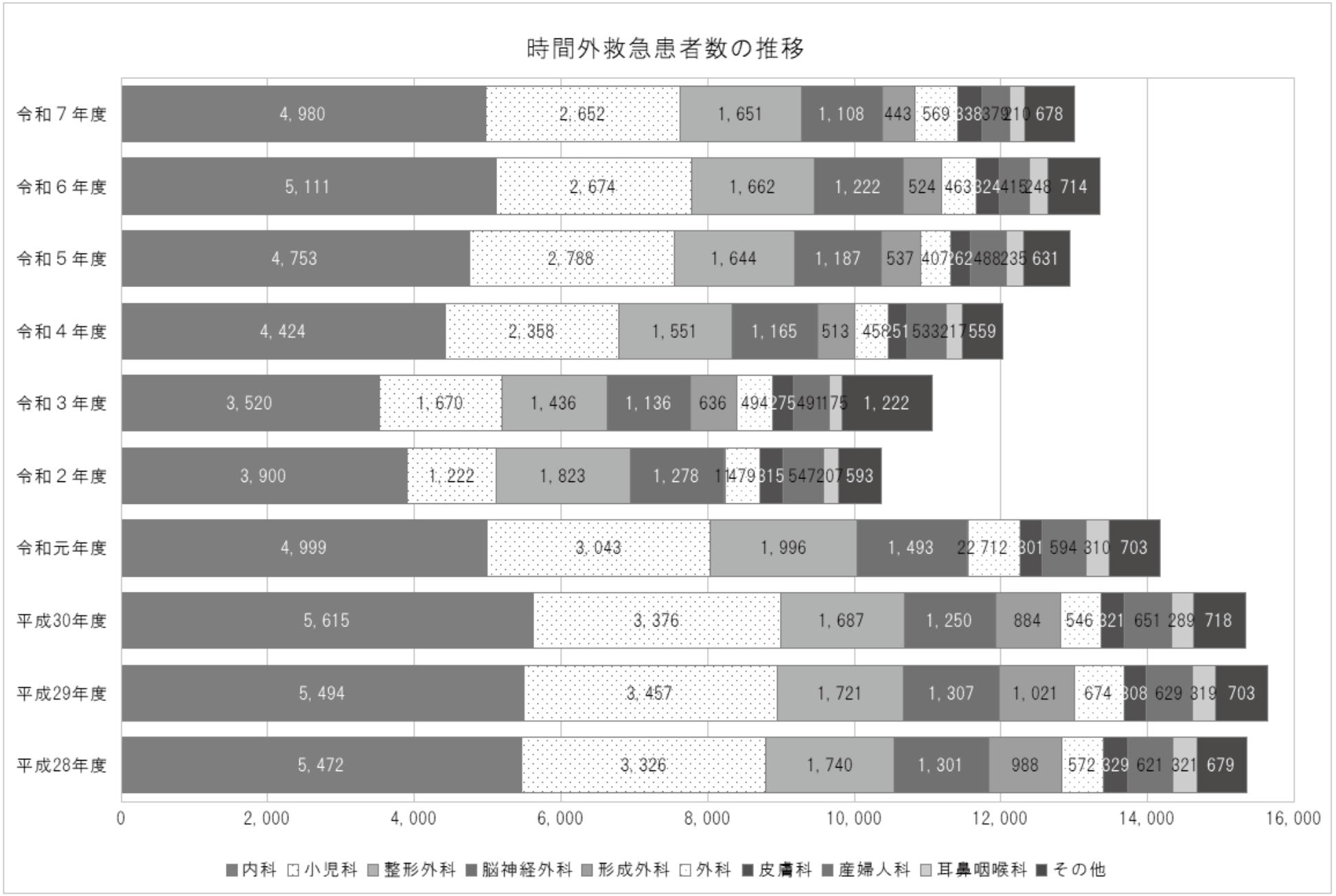
(3) 令和７年度　時間外救急患者取扱件数

令和７年４月～令和８年３月

診療科	時間	件数		入院数	救急車	交通事故
内科	17:15～21:59	1,484				
	22:00～8:29	1,418	4,073	671	1,325	1
	休日(8:30～17:14)	1,171				
呼吸器内科	17:15～21:59	0				
	22:00～8:29	0	0	0	0	0
	休日(8:30～17:14)	0				
消化器内科	17:15～21:59	157				
	22:00～8:29	156	395	367	200	0
	休日(8:30～17:14)	82				
循環器内科	17:15～21:59	30				
	22:00～8:29	28	63	61	37	0
	休日(8:30～17:14)	5				
血液内科	17:15～21:59	0				
	22:00～8:29	0	3	0	0	0
	休日(8:30～17:14)	3				
代謝内分泌内科	17:15～21:59	0				
	22:00～8:29	0	0	0	0	0
	休日(8:30～17:14)	0				
脳神経内科	17:15～21:59	181				
	22:00～8:29	140	388	363	257	0
	休日(8:30～17:14)	67				
腎臓内科	17:15～21:59	26				
	22:00～8:29	22	61	58	34	0
	休日(8:30～17:14)	13				
精神科	17:15～21:59	0				
	22:00～8:29	0	0	0	0	0
	休日(8:30～17:14)	0				
小児科	17:15～21:59	1,276				
	22:00～8:29	711	2,652	286	270	4
	休日(8:30～17:14)	665				
外科	17:15～21:59	119				
	22:00～8:29	130	569	208	122	30
	休日(8:30～17:14)	320				
整形外科	17:15～21:59	613				
	22:00～8:29	273	1,651	195	409	159
	休日(8:30～17:14)	765				
形成外科	17:15～21:59	166				
	22:00～8:29	58	443	13	21	0
	休日(8:30～17:14)	219				
脳神経外科	17:15～21:59	334				
	22:00～8:29	210	1,108	159	345	30
	休日(8:30～17:14)	564				
皮膚科	17:15～21:59	139				
	22:00～8:29	76	338	4	10	0
	休日(8:30～17:14)	123				
泌尿器科	17:15～21:59	89				
	22:00～8:29	111	314	55	31	0
	休日(8:30～17:14)	114				
産婦人科	17:15～21:59	102				
	22:00～8:29	157	379	196	42	0
	休日(8:30～17:14)	120				
眼科	17:15～21:59	64				
	22:00～8:29	31	172	1	5	0
	休日(8:30～17:14)	77				
耳鼻咽喉科	17:15～21:59	87				
	22:00～8:29	56	210	25	21	1
	休日(8:30～17:14)	67				
放射線科	17:15～21:59	0				
	22:00～8:29	0	0	0	0	0
	休日(8:30～17:14)	0				
麻酔科	17:15～21:59	0				
	22:00～8:29	0	0	0	0	0
	休日(8:30～17:14)	0				
歯科口腔外科	17:15～21:59	58				
	22:00～8:29	29	179	0	5	0
	休日(8:30～17:14)	92				
救急科	17:15～21:59	4				
	22:00～8:29	4	10	10	8	1
	休日(8:30～17:14)	2				
合計	17:15～21:59	4,929				
	22:00～8:29	3,610	13,008	2,672	3,142	226
	休日(8:30～17:14)	4,469				

一日平均　　夜間　（ 23.4 人）　　休日　（ 36.3 人）

前年　（ 23.8 人）　　前年　（ 38.4 人）

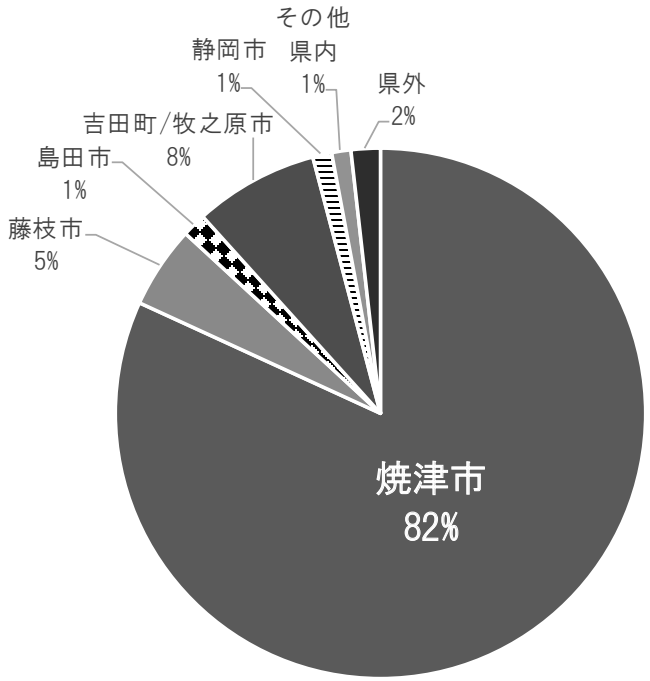

時間外救急患者数の推移
令和７年度
4, 980
2, 652
1, 651
1, 108
443
569
338
379
210
678
令和６年度
5, 111
2, 674
1, 662
1, 222
524
463
324
415
248
714
令和５年度
4, 753
2, 788
1, 644
1, 187
537
407
262
488
235
631
令和４年度
4, 424
2, 358
1, 551
1, 165
513
458
251
533
217
559
令和３年度
3, 520
1, 670
1, 436
1, 136
636
494
275
491
175
1, 222
令和２年度
3, 900
1, 222
1, 823
1, 278
479
315
547
207
593
令和元年度
4, 999
3, 043
1, 996
1, 493
22
712
301
594
310
703
平成30年度
5, 615
3, 376
1, 687
1, 250
884
546
321
651
289
718
平成29年度
5, 494
3, 457
1, 721
1, 307
1, 021
674
308
629
319
703
平成28年度
5, 472
3, 326
1, 740
1, 301
988
572
329
621
321
679
0
2, 000
4, 000
6, 000
8, 000
10, 000
12, 000
14, 000
16, 000
内科
小児科
整形外科
脳神経外科
形成外科
外科
皮膚科
産婦人科
耳鼻咽喉科
その他

（4）令和７年度　時間外救急取扱件数　（地区別）

単位：人

地区・市町		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
市内	焼津地区	112	143	117	114	167	128	122	177	166	145	154	154	1,699
	豊田地区	126	151	129	118	128	124	120	171	152	133	126	113	1,591
	小川地区	142	138	133	157	189	161	140	213	187	160	181	160	1,961
	東益津地区	31	34	35	37	60	42	38	46	34	50	40	46	493
	大富地区	171	134	125	158	160	144	144	182	174	164	147	116	1,819
	和田地区	100	108	108	134	118	154	128	130	153	159	154	105	1,551
	大井川地区	95	128	138	134	147	150	112	138	133	103	125	129	1,532
	小計	777	836	785	852	969	903	804	1,057	999	914	927	823	10,646
市外	藤枝市	35	48	51	44	62	65	44	58	76	54	60	55	652
	島田市	11	16	15	18	18	13	23	12	18	24	13	17	198
	吉田町 牧之原市	55	81	79	83	88	88	75	91	75	95	92	84	986
	静岡市	10	12	7	15	16	16	15	11	17	13	10	9	151
	その他県内	6	14	22	13	11	14	10	10	15	16	15	6	152
	県外	24	29	14	12	35	16	16	18	23	27	9	16	239
	小計	141	200	188	185	230	212	183	200	224	229	199	187	2,378
	合計	918	1,036	973	1,037	1,199	1,115	987	1,257	1,223	1,143	1,126	1,010	13,024

時間外地区別
患者数の割合



３．死亡者数　年度別推移

単位：人

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
死　亡	406	403	422	393	381
検　案	42	51	43	46	34
死　産	6	6	8	1	11
合　計	454	460	473	440	426
（うち解剖）	6件	4件	4件	8件	9件

４．妊婦・乳児・３歳児・産婦健康診査受診人数

単位：人

市町村	妊婦健診																							多胎妊婦健診					聴覚	乳児健診			3歳児	産婦健診		計
	初回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回	16回	超①	超②	超③	超④	血液	血算	GBS	1回	2回	3回	4回	5回		1ヶ月	4ヶ月	10ヶ月	健診	1回目	2回目	
焼津市	73	87	74	115	129	129	131	112	132	124	131	118	93	69	19	0	87	115	127	130	126	88	130	1	1	1	0	0	165	165	48	34	7	115	159	3,035
藤枝市	20	22	16	26	30	30	26	26	17	25	27	23	17	12	0	0	22	26	31	25	30	17	27	2	2	1	0	0	37	40	8	5	0	30	39	659
静岡市	2	3	2	4	3	2	2	2	3	3	4	3	3	2	1	0	3	4	2	4	2	2	3	0	0	0	0	0	4	7	2	0	0	4	6	82
吉田町	35	37	32	44	48	44	47	44	54	47	53	49	39	32	7	0	37	44	46	51	43	39	53	1	1	1	1	0	53	52	6	1	0	34	53	1,128
島田市	16	16	19	23	23	27	23	19	22	19	18	14	11	5	0	0	16	23	27	17	24	7	24	0	0	0	0	0	24	26	1	1	0	22	25	492
牧之原市	24	23	21	24	21	18	23	20	22	24	24	16	11	5	0	0	23	24	23	23	24	18	25	0	0	0	0	0	23	27	8	3	0	17	25	539
浜松市	0	0	0	1	1	1	1	1	4	4	4	4	3	2	1	0	0	1	1	4	1	3	5	0	0	0	0	0	6	6	1	1	0	5	6	67
御前崎市	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	13
湖西市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富士市	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	0	0	1	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	2	27
富士宮市	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
掛川市	0	0	1	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2	1	0	0	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	2	46
菊川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
袋井市	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	0	0	0	0	1	2	1	2	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	26
長泉町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
裾野市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	11
下田市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
御殿場市	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	23
沼津市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
磐田市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3
川根本町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
熱海市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伊豆の国市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
森町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小山町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
函南町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伊豆市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	174	191	166	240	259	255	257	229	260	256	270	236	185	134	29	0	191	240	261	263	254	183	276	4	4	3	1	0	320	331	75	47	7	234	320	6,155

第 2 節　クリニカル･インディケーター

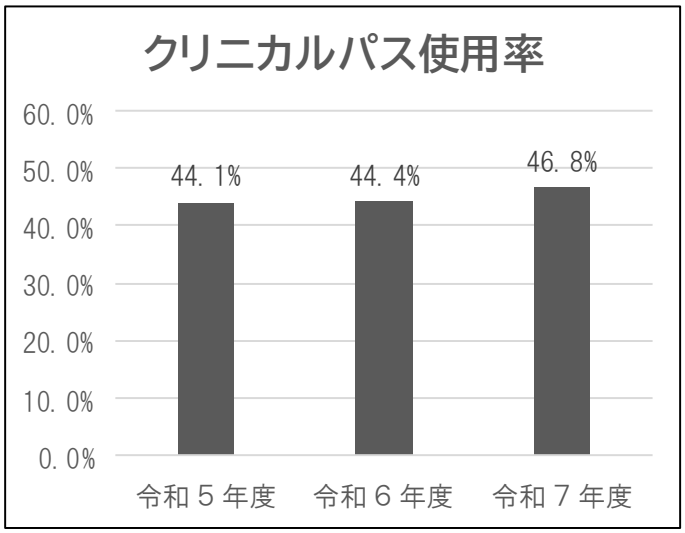
令和 7 年度　医療の質に係る指標

◆クリニカル・インディケーターを定めた目的・考え方

当院の役割や目指す病院像を実現するために、病院全体として活動状況を表す代表的な指標を設定し、医療の質の向上を目指すこと。

全職員が医療の質を向上させるという問題意識を持って継続的に取り組むための共通項目となるもの。

①クリニカルパス使用率

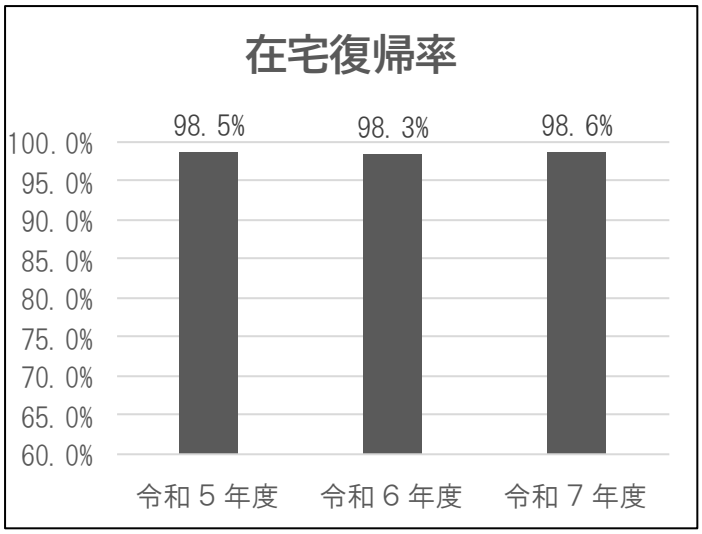


◆計算方法

分子　期間中のクリニカルパス使用患者（科歴）数

分母　期間中の退院患者（科歴）数

②在宅復帰率

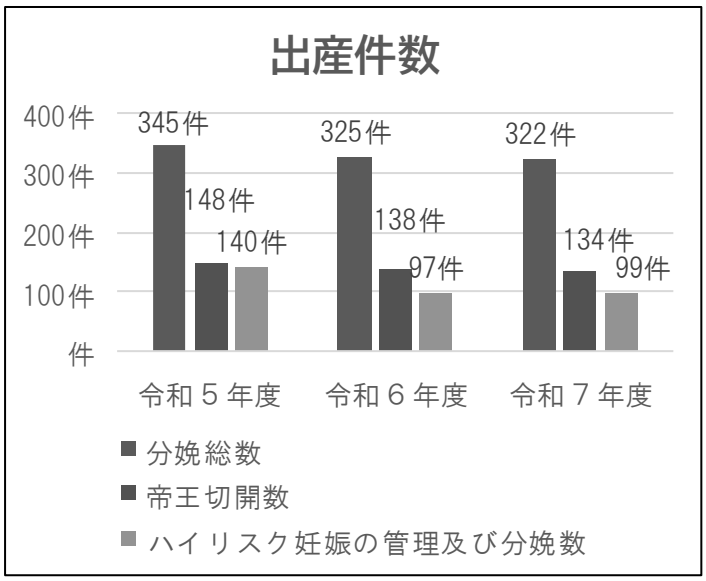


◆計算方法

分子　期間中の自宅への退院患者数

分母　期間中の退院患者数（死亡退院は除く。）

③出産件数（総数、ハイリスク妊娠の管理及び分娩数）



◆計算方法

期間内の出産件数（分娩総数、帝王切開数）

※多胎は１件

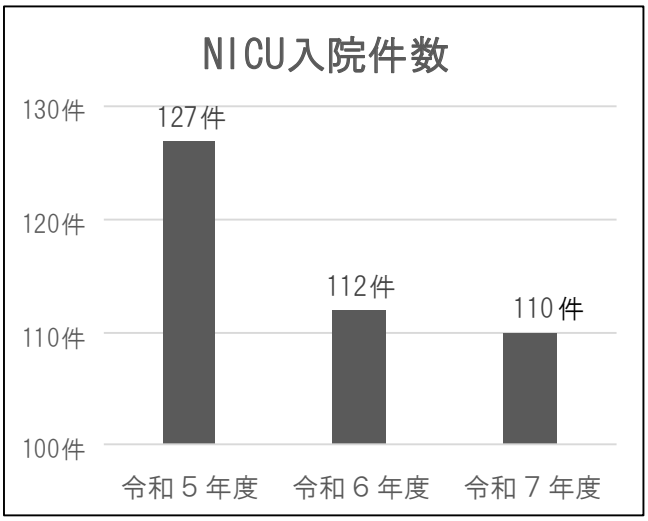
ハイリスク妊娠及び分娩は、

A236-2 ハイリスク妊娠管理加算

A237 ハイリスク分娩管理加算

を算定している患者数

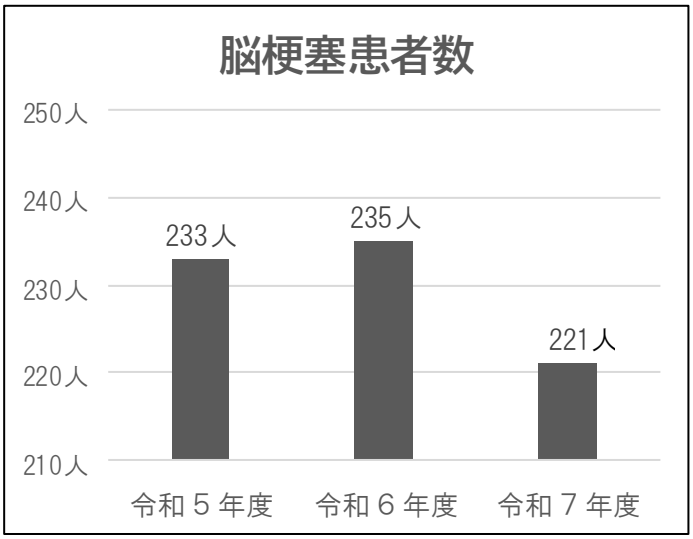
④NICU 入院件数



◆計算方法

期間中の NICU への入院患者数

⑤脳梗塞患者数

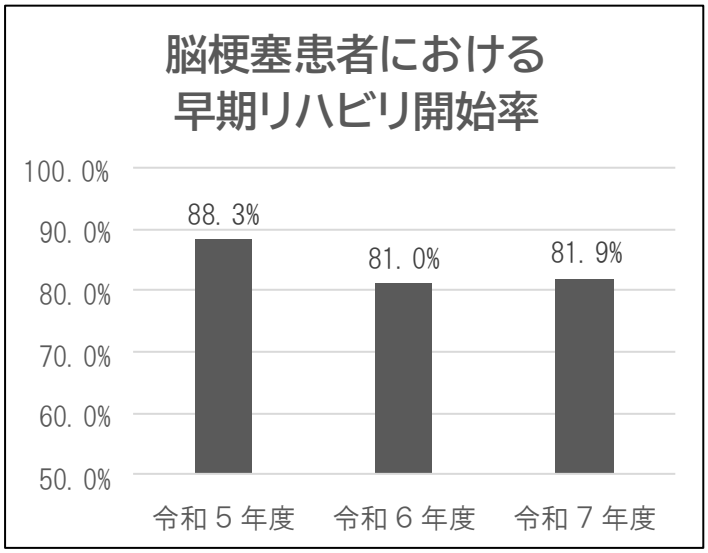


◆計算方法

測定期間内に退院した患者のうち、退院時主病名が「脳梗塞」であり、入院後に頭部 CT スキャン若しくは頭部 MRI 検査がなされている患者

※DPC 主病名にて抽出

⑥脳梗塞患者における早期リハビリ開始率



◆計算方法

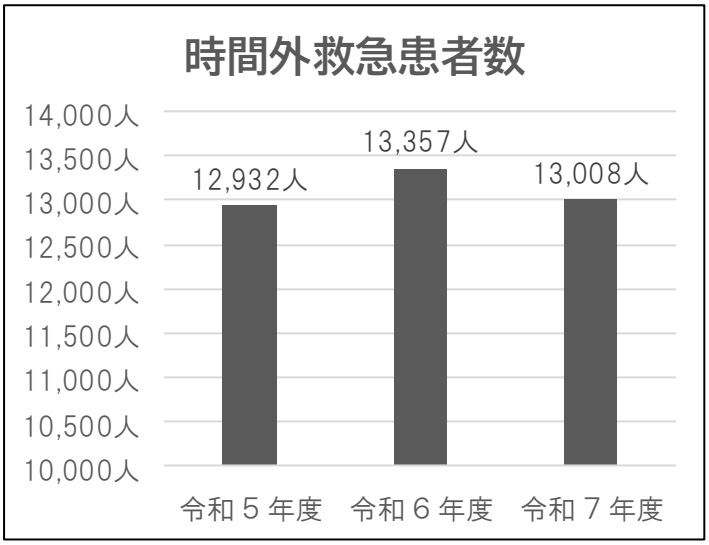
分子　分母対象例のうち、入院日より 4 日の時点で身体機能リハビリ処方が開始された患者数

分母　測定期間内に退院した患者のうち、退院時主病名が「脳梗塞」であり、入院後に頭部 CT スキャン若しくは頭部 MRI 検査がなされている患者で、かつ 3 日以上の入院がある者の患者数（転帰が死亡である場合、病名に「くも膜下出血」がある場合は除外する。）

追加条件：入院年月日-脳卒中の発症時期≦3、入院時 JCS が 1 桁、

除外追加：脳梗塞の発症時期＞入院年月日

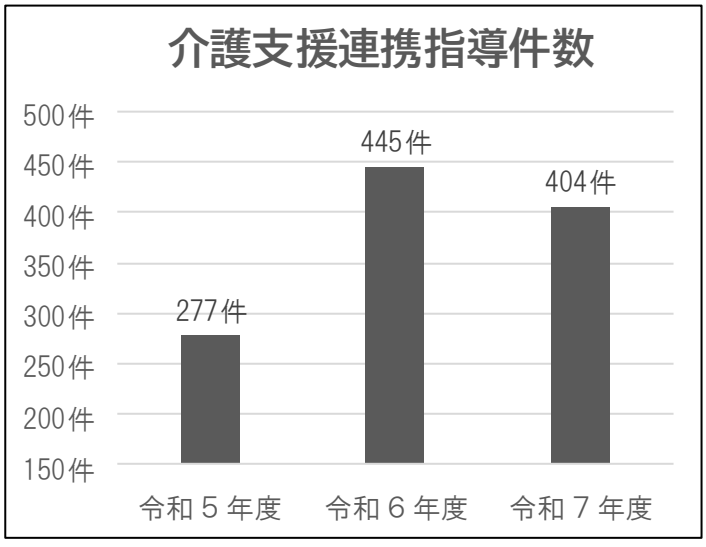
⑦時間外救急患者数



◆計算方法

平日の 17 時から翌朝 8 時 30 分・土日祝日に救急を受診した患者数

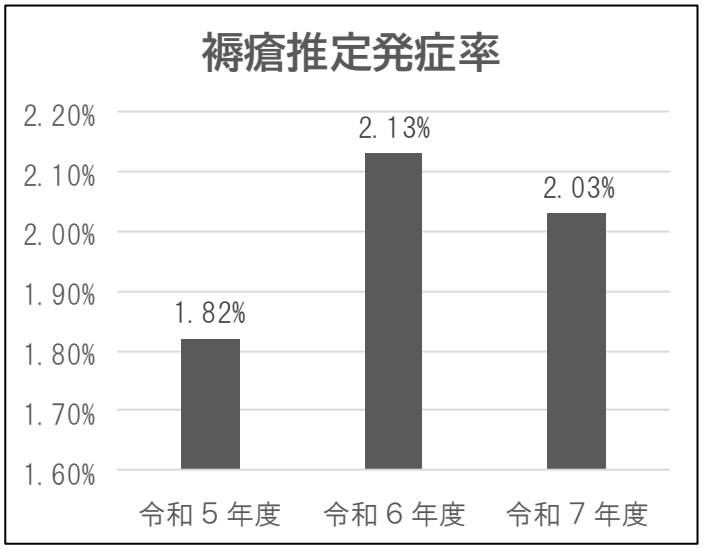
⑧介護支援連携指導件数



◆計算方法

期間中に介護支援連携指導を実施した件数

⑨褥瘡推定発症率



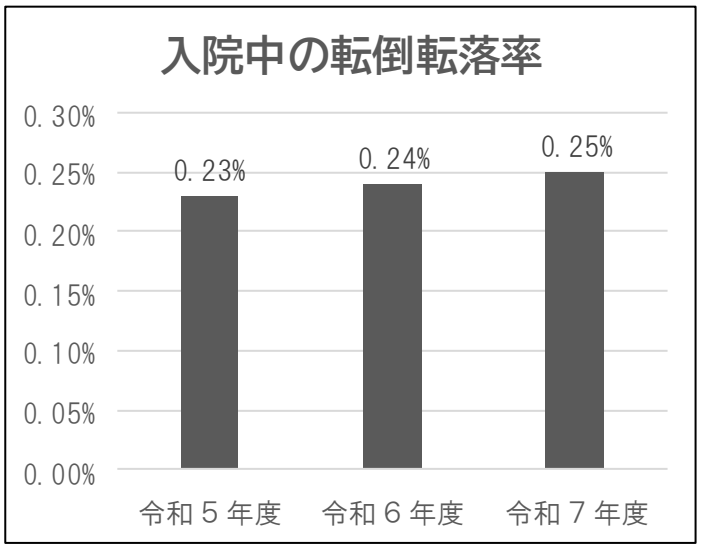
◆計算方法

分子　月１度の調査日に褥瘡を保有する患者数―入院時既に褥瘡保有記録がされている患者数

分母　月１度の調査日における施設入院患者数

※褥瘡推定発症率は、上記の計算方法に基づき毎月算出した１年間のデータ平均です。

⑩入院中の転倒転落率

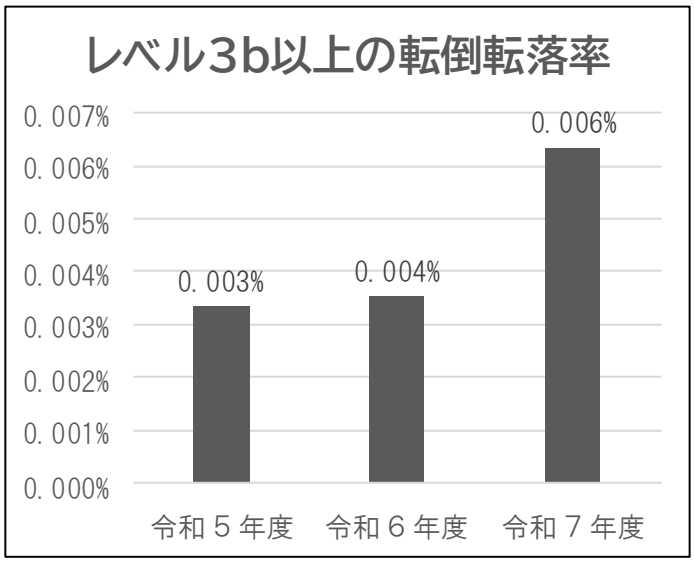


◆計算方法

分子　入院中の転倒転落患者数

分母　期間中の在院延べ患者数

⑪入院中の転倒転落によるインシデント影響度分類レベル 3b 以上の発生率

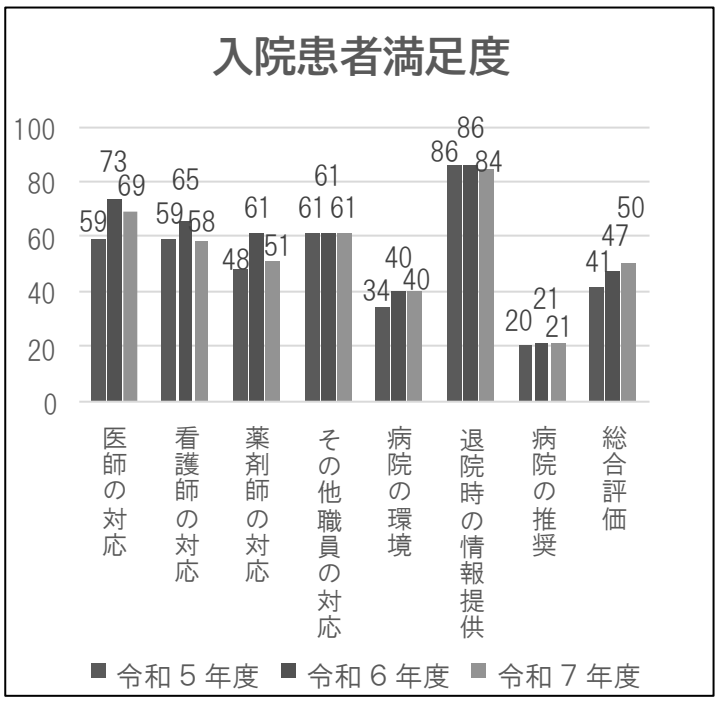


◆計算方法

入院中に発生したインシデント影響度レベル３ｂ以上の転倒転落患者数

分母　期間中の在院延べ患者数

⑫入院患者満足度

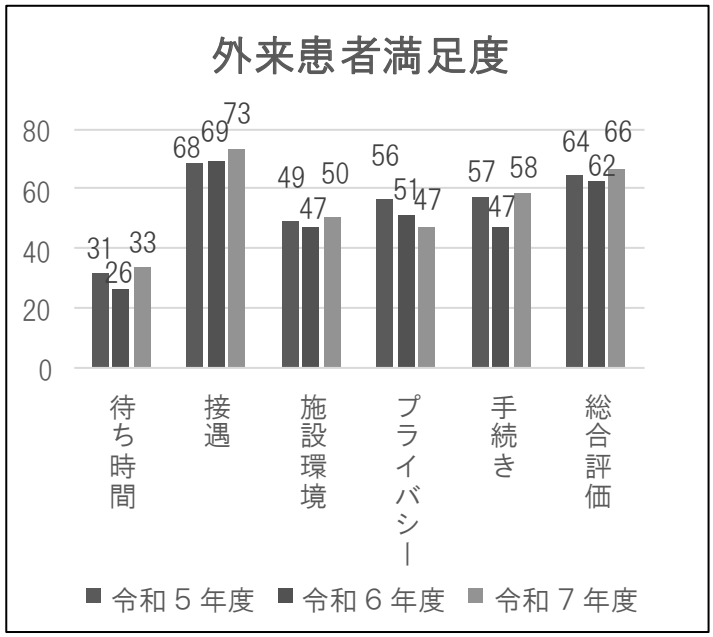


◆計算方法

入院患者満足度調査において 4 段階評価の上位 1 位の回答割合の平均をポイント化した数値

総合評価は 11 段階評価（0～10 点）の 9, 10 点の割合

⑬外来患者満足度



◆計算方法

外来患者満足度調査において 5 段階評価の内「大変満足」、「やや満足」の回答割合の平均をポイント化した数値

第3節　業 務 状 況

1. 総 合 診 療 内 科

【業務活動状況】

2025年度は常勤医池谷、大島一憲、大島弘彰に新たに中村紫音医師、島田総合医療センターから酒井医師が加わり、5人体制でした。外来は、引き続き大場先生、関管理者に担当していただきました。院内外からのコンサルトも含めて、不明熱、貧血など総合内科的な疾患を中心に対応いたしました。尚、2026年3月に酒井医師は退職され、島田総合医療センターの専攻医プログラムに戻りました。来年度は当院で研修終了し、他院にて専攻医として研修した川村彰医師、当院研修医の水村紘季医師が加わる予定です。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

（　）内は死亡数

病名	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
肺炎	124	(5)	155	(13)	180	(16)	215	(21)	200	(13)
気管支炎	1		3		3		4		6	
慢性閉塞性肺疾患	2		4		5		7		8	
上気道炎			1		1		2			
胸膜炎					1		1		1	
呼吸不全	2		4		8	(2)	6		2	
肺癌					2	(1)	1	(1)	2	
肺血栓塞栓症					1	(1)		(2)		
めまい	11		13		26		20		23	
高血圧症	2		2		1		4		1	
心不全	28	(1)	25	(5)	43	(3)	34	(4)	38	(2)
心筋梗塞	1	(1)						(1)	1	
気管支喘息	2		1		9		11		4	
狭心症	3		2		1		3			
一過性脳虚血発作			1		5		1		2	
脳梗塞			1		4		2		1	
脳出血	2		2		1				1	(1)
脳腫瘍	1						1			
心停止	1	(1)	4	(2)	2					
低酸素性脳症	1		6	(4)						
低体温	1		2	(1)	2		2		3	(1)
不整脈	1		1				2		1	
大動脈瘤	1						2		1	(1)
大動脈解離			1		2	(1)	1			
気管内異物				(1)	4		3	(3)	2	
低血圧症					2		1		1	
心筋症			1				1			
髄膜炎			1		1				1	
胃腸炎	27		19		17		21		27	
ウイルス感染症	4		3		12		3		22	
尿路感染症	45	(2)	37		41	(1)	24	(1)	34	(1)

病名	令和３年度		令和４年度		令和５年度		令和６年度		令和７年度	
蜂窩織炎	15		17		17		13	(1)	24	(1)
敗血症	21		28	(9)	12	(2)	5		13	(3)
細菌性腸炎	1		1		5		1			
感染性心内膜炎			1		1		3	(2)	3	
胸腔内感染症			4							
肝障害	3		2		7		1		1	
結核			1		3		1		2	
細菌感染症	3		9		7		12	(1)	59	
脱水	14	(2)	15		19		28	(2)	29	
薬物中毒	1		8		6		13		8	
アルコール中毒			3				2		1	
貧血	6	(1)	6		11		5		10	
てんかん発作	3		2		2		4		6	
糖尿病	20		8		11		16		25	
低血糖	4	(1)	7	(1)	13		9		5	
褥瘡	2		1		1		1			
失神・意識障害（原因不明）	17	(1)	12		11		11		13	
前立腺癌	1									
関節炎	1		2		2		4		2	
偽痛風	3				4		3		7	
全身性エリテマトーデス					1	(1)				
骨折	3		2		4		3		9	
腫瘍	1		4		1		9		2	(2)
胃潰瘍					2		4			
肝炎					7		3		2	
肝癌	1	(1)	1				2			
胃癌	1		1		1		3		1	
イレウス	3		3		4		3		6	
胆のう炎	15		14		7		11		12	
肝硬変	3		3		2	(1)	1		5	
便秘症	2				2				1	
食道癌			3						1	
大腸癌	3		1		1		2		6	
逆流性食道炎			1		1		2		1	
虚血性腸炎			6		20		7		10	
腹膜炎							1		3	
腹膜癌									1	
膵炎	3				2		1		3	
消化管出血	3	(1)	8	(1)	5		9	(2)	16	
播種性血管内血液凝固	3						1			
黄疸							4			
膵癌	1		1				1	(1)	1	
胆管癌	1		1		3	(1)			1	
クローン病									1	
成人スティル									1	
関節リウマチ	1				1		1		1	
サルコイドーシス				(1)						
多発性骨髄腫	1		1		1				3	(1)

病名	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
悪性リンパ腫	2		2	(1)	7		2	(3)	2	
急性白血病	1		1							
急性骨髄性白血病					2	(1)				
骨髄異形成症候群			1		1	(1)	1		1	
リウマチ性多発筋痛症	3				9	(1)	6		3	
血管炎	5		3						1	
アレルギー	6		6		11		11		7	
血小板減少症			1		1					
RS3PE 症候群									1	
TAFRO 症候群								(1)	1	
特発性血小板減少性紫斑病	1				2					
腎不全	18	(1)	23	(1)	29	(2)	20		22	(1)
ネフローゼ症候群	2		4				1			
腎炎			28		38		48		47	
腎梗塞					2					
多発性のう胞腎			1							
腎癌									3	
尿路結石									1	
電解質異常	14		18		19		23		18	
シャント感染症								(1)	1	
カテーテル感染症			1		1				1	
膠原病	3									
COVID-19	17	(1)	55	(4)	62		49		31	
COVID-19 ワクチン接種副反応	1		1		1					
その他	52	(2)	70	(2)	115		125	(7)	69	(4)
合計	545	(21)	681	(46)	871	(35)	858	(54)	886	(31)

2. 呼 吸 器 内 科

【業務活動状況】

常勤医師１名体制で週３回午前午後の外来診療を継続しました。

診療の主体は外来診療や他科入院中の診療介入でしたが、必要に応じて入院診療も行いました。

総合診療内科のカンファレンスに参加しました。呼吸器外科と主に肺癌治療や手術適応につき相談するカンファレンスを週１回行いました。

また、気管支鏡検査が必要な場合には、呼吸器外科の先生の協力のもと検査を行いました。

当院の規模の病院で全ての呼吸器疾患を１人で診るのは困難なため、肺癌については呼吸器外科に治療をお願いし、一般の呼吸器感染症などは各科で診療をお願いし必要時に相談していただくという対応をとりました。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

呼吸器内科病名別入院患者数	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
肺炎	9	18	22	6	9
間質性肺炎	3	4	2	3	1
誤嚥性肺炎	3	0	1	0	1
ニューモシスチス肺炎	1	0	0	0	0
難治性肺炎	0	0	0	1	0
気管支喘息発作	1	0	1	1	0
肺膿瘍	3	2	0	2	0
喀血	1	2	0	0	0
非結核性抗酸菌症	0	0	0	1	2
慢性呼吸不全	0	2	1	3	1
肺癌	11	4	2	5	4
癌性胸膜炎	1	1	0	0	0
肺結核	1	0	0	0	0
サルコイドーシス	1	2	0	0	0
肺気腫	1	0	0	0	0
肺アスペルギルス症	2	1	0	0	0
うっ血性心不全	1	1	0	0	0
悪性リンパ腫	1	0	2	0	0
肺胞出血	0	1	0	0	0
気管支拡張症	0	0	1	0	0
肺クリプトコッカス症	0	0	0	1	0
入院患者数合計	40	38	32	23	18
死亡数	4	5	2	1	3

3. 消 化 器 内 科

【業務活動状況】

常勤医６名（佐野、渡邉、山形、青山、川村、木佐森）と非常勤医４名（外来担当；梶村、内視鏡検査担当；日比野、乾、江本）で業務を行いました。年度途中の 2025 年 11 月から眞鍋医師が加わり、また内科専攻医として酒井医師が半年間消化器内科で研修を行い、人員的に充実した一年でした。

外来延べ患者数：13，050 人（令和６年度）→ 13，214 人（令和７年度）
入院延べ患者数：12，162 人（令和６年度）→ 13，353 人（令和７年度）
平均在院日数 ：12．７日 （令和６年度）→ 11．９日 （令和７年度）
外来延べ患者数・入院延べ患者数ともに増加し、平均在院日数は短縮しました。

【年間疾患別入院概数】

当科の患者台帳より抽出したデータを別表に示します。
本年度も総胆管結石・胆管炎で入院した患者が最多でした。
悪性腫瘍で入院した患者数は、前年と比べ、食道癌・胃癌・大腸癌・胆嚢癌・胆管癌で増加し
肝細胞癌で若干減少しました。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

病名	令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度		
	患者数	転科	死亡数	患者数	転科	死亡数	患者数	転科	死亡数	患者数	転科	死亡数	患者数	転科	死亡数
食道癌	34	1	5	32			12		3	29		2	44		2
食道炎	9	2		8			8			9			12		
アカラシア	0			1			0			1			1		
マロリーワイス	5			0			3			8			4		
胃癌	53	3	4	68	1	5	54	3	8	28		3	45	3	6
胃腺腫	1			1			2			3			0		
胃潰瘍	23	2		15			21	1		19			20		1
その他の胃疾患	7			19		1	18	4	2	16	1	1	20		
十二指腸潰瘍	14			6			7			13		2	6		
急性胃腸炎	2			4			8	1		6	1		8		
大腸癌	103	8	7	72	5	4	54	8	2	45	11	7	86	13	7
腸閉塞	37	8	4	40	6	1	41	4	1	29	3		46	4	
潰瘍性大腸炎	5			2			2			2			2		
クローン病	1			1			4		1	0			1		
虚血性腸炎	33			19			17			28			26		
大腸憩室炎	23			19			24			24			22	1	
細菌性腸炎	9			13			4			12			13		
大腸憩室出血	44	2	1	50	2		37	2	1	38			53		
その他の腸疾患	57	2	2	45	2		41	1	1	43	5	1	87	5	5
胆嚢癌・胆嚢ポリープ	3		1	4			5	1		2			4		2
胆石・胆嚢炎	24	14	1	17	7	1	22	14	1	21	4		22	7	
胆管癌	23	1	3	30	1	3	12		2	13		3	44		7
総胆管結石・胆管炎	200	9	2	189	12	2	189	12	8	173	3	3	128	5	1
膵臓癌	64	1	7	77	3	4	77		10	74	2	13	63	1	11
急性膵炎	22		1	20	1		26		3	22	1	1	28	2	
慢性膵炎	9	1		4			6			7			9		
肝細胞癌	8		2	13		1	4		3	15		2	12		3
肝硬変・食道静脈瘤	11	0	2	21	1	3	32	1	1	32	1	4	33		6
自己免疫性肝炎	4		2	1			1			1			28		1
急性肝炎	1			2			4			2			6		
慢性肝炎	1			0			0			1			5		
アルコール性肝障害	14	2	3	13	1		13			7			2		
肝嚢胞・肝膿瘍	12	1	2	2			14	1		6	1		7	1	1
その他の肝疾患	17		1	11			14		2	9		1	10		1
肺炎	52	6	10	45	3	8	67	3	9	68	7	7	53	1	2
尿路感染症	18	2		11	2		20	2	1	18		1	34	2	
その他の疾患	157	18	15	193	18	12	165	13	12	198	22	15	212	26	13
合計	1,100	83	75	1,068	65	45	1,028	71	71	1,022	62	66	1,196	71	69

4. 循 環 器 内 科

【業務活動状況】

令和7年度も常勤医2名体制で診療を継続し、外来・院内循環器診療を担った。一部非常勤医師による外来診療も継続された。

他科からの依頼件数は834件であり、前年度（914件）から減少した。一方で、救急外来や病棟からの口頭依頼を含めると依然として高い診療需要があり、循環器内科が院内診療において不可欠である状況が継続している。

入院患者数は290件と前年度（199件）から大幅に増加し、特に高齢者の増加が顕著であった。75歳以上の入院患者は79人から136人へと大きく増加し、超高齢化社会における循環器疾患診療の比重がさらに高まっている。特に心不全患者は101例と過去最多となり、日本全体で進行する「心不全パンデミック」を強く反映した結果と推察される。

疾病構造としては、心不全および肺炎を中心とした複合疾患併存症例が増加しており、循環器疾患管理というよりも全身管理を要する症例が主流となっている。これにより、求められる役割は、急性期治療に加えて慢性期管理および多職種連携を含む包括的医療へとさらに拡大している。

当科への依頼症例数は減少傾向にあるものの、紹介・相談内容は依然として重症度が高く、心不全管理、不整脈評価、周術期管理など専門性の高い症例が中心である。このことは、依頼件数の減少が必ずしも診療需要の低下を意味するものではなく、より重症な患者を選択して紹介するようになった可能性がある。

また、院内における循環器系検査の質向上のため、心電図判読および一部心エコー評価を専門医が行っている。これにより、早期診断・迅速治療介入が可能となり、院内全体の循環器診療の質向上に寄与している。

さらに、心不全患者に対する多職種連携体制の重要性が一層高まっており、看護師・薬剤師を中心としたチーム医療の役割が拡大している。特に高齢心不全患者の増加に伴い、退院支援や在宅療養支援を含めた包括的ケアの必要性が増している。

今後も当科は、急性期対応能力の維持とともに、高齢化社会に対応した慢性心不全管理および地域連携体制の強化を重点課題として診療体制の充実を図っていく方針である。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

病 名	令 和 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度
狭心症（疑いを含む）	4	3	0	4	1
心不全	94	64	66	82	101
急性心筋梗塞	3	6	2	2	5
心房粗細動	1	1	2	3	3
徐脈・ペースメーカー	1	3	2	2	4
陳旧性心筋梗塞	0	0	0	2	1
心臓弁膜症	8	0	1	0	1
高血圧	1	2	0	1	0
脳血管障害	1	0	0	0	1
大動脈瘤・大動脈解離	3	5	3	2	4
肺炎	21	30	24	30	46
意識消失	5	2	2	7	2
末梢動脈疾患	0	0	0	0	2
上室性頻拍・上室性期外収縮	2	0	0	1	0
発熱	1	1	3	5	3
心室性期外収縮・VT・VF	1	1	0	4	1
肺動脈血栓塞栓症	2	7	3	0	6
静脈血栓症	3	2	2	0	2
急性循環不全	0	1	0	0	0
心筋症	0	0	0	0	5
感染性心内膜炎	2	2	1	1	0
幻暈	1	2	3	2	3
来院時心肺停止蘇生後	1	4	1	0	0
その他	36	51	50	51	99
合計	191	187	165	199	290

入院患者年齢	令 和 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度
入院患者 65 歳未満	28	21	24	22	37
入院患者 65 歳～75 歳	24	25	24	17	38
入院患者 75 歳～85 歳	65	61	44	66	79
入院患者 85 歳以上	74	80	96	94	136

年 間 疾 患 別 手 術 件 数

病 名	令 和 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度
心臓血管系検査総数	0	0	0	0	0
うち緊急施行例	0	0	0	0	0
経皮的冠動脈インターベンション（POBA+STENT 総数）	0	0	0	0	0
うち緊急施行例	0	0	0	0	0
末梢動脈経皮的インターベンション（PTA+STENT 総数）	0	0	0	0	0
心臓ペースメーカー植えこみ手術（新規）	0	0	0	0	0
同（ジェネレーター交換）	0	0	0	0	0
体外式ペースメーカー挿入術	5	1	3	1	1
埋込型心電図記録計移植術	0	3	4	3	3
下大静脈フィルター留置など	0	0	0	0	0
経皮的心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）	0	0	0	0	0
心臓カテーテル	1	0	0	0	0
他院心臓外科治療依頼（静岡市立，静岡県立など）	131	127	151	145	110
うち緊急依頼例	54	36	39	37	41
tilt test	0	0	0	0	0

当科への依頼件数	916	951	933	914	834

5. 脳 神 経 内 科

【業務活動状況】

脳神経内科領域の疾患全般にわたり、専門医を含めたスタッフ 7 人体制で診療に当たっている。

入院患者数　1 日当たり約 55.4 人　年間入院数　約 1,247 人と増加している。平均在院日数は 18.2 日であった。外来患者数は 1 日当たり約 57 人とほぼ横ばいある。逆紹介など神経難病以外の外来患者さんを積極的にかかりつけの先生にお願いするようにしている。平成 29 年 4 月より認知症疾患医療センターに指定され、5 月より週 2 名予約だが認知症外来を開設している。

令和元年 9 月 1 日に脳卒中センターに指定され、令和 7 年は脳卒中センターコアを申請している。脳神経外科との協力のもと血栓溶解療法および血栓回収療法を積極的に行っている。また、神経免疫疾患に対する積極的治療やアルツハイマー型の早期認知症に対する新規治療、パーキンソン病や痙性対麻痺に対するデバイス治療などに取り組んでいる。

【診療実績及び治療成果】

脳血管障害が中心であるが、神経内科疾患を幅広く診療していると思われる。感染症や炎症性疾患など治療で完治するものもあるが、当科では脳梗塞など後遺障害が残る例も多く、また神経変性疾患など治療法のない進行性疾患も多い。リハビリテーションや栄養管理、全身管理を含め、少しでも ADL、QOL の改善に努力している。

内科系全体の医師減少に伴い神経内科疾患以外の肺炎・脱水・心不全などの全身管理や呼吸器科疾患や血液内科疾患などの入院加療も増えている。神経疾患のみならず、内科として地域医療を支えている。

【評価】

非常に特殊なもの以外、ほとんどの検査、治療は当院で施行可能であり、適切な診断、最善の治療にあたってきたと考えている。しかしながら、前述のように後遺症状が残ることや治療法がなく進行する疾患が多い領域であり、治療成果の自己評価は難しい。

【次年度の目標】

質の高い医療の維持、学会・症例検討会・合同カンファレンスなどへの積極的参加、在宅医療・地域医療との連携、認知症疾患医療センターとしての地域との連携や市民への啓蒙活動などを模索中である。

研修医の教育が非常に重要となってきている。また、後期研修として脳神経内科を志す人材の確保を目指したい。

多数の遺伝性疾患、神経免疫疾患、変性疾患の治療を担当させていただいており、積極的に臨床試験やレジストリへの参加、新しい知見の発信を行ってゆきたい。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

疾患名	令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	
	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数
血管障害										
脳血栓（ラクナ梗塞）	31		16		19		20	(1)	37	
(ｱﾃﾛｰﾑ血栓性･BAD)	95	(3)	87		82	(5)	88	(1)	52	
脳塞栓	37	(4)	45		45	(6)	38	(2)	42	(1)
T. I. A	19		13		20		13		9	
脳出血	12	(1)	25		24	(1)	31	(4)	40	(3)
原因不明の脳梗塞									8	
その他血管障害	14	(2)	13		11	(2)	19		22	
感染症										
ウィルス性髄膜炎･脳炎	10		2		14		12		16	

疾患名	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数
細菌性髄膜炎	2	(1)	2		1		3	(1)	3	
真菌性髄膜炎	1						1	(1)		
結核性髄膜炎							1			
その他感染症	3	(1)	1		1		4	(1)	3	
脳・脊髄腫瘍	4		2		3		2		8	(2)
脊椎・脊髄疾患	21		17		18		15		30	(1)
水頭症・低髄液圧症候群	3				2		3		5	
変性疾患										
パーキンソン病関連	43	(1)	37		32	(3)	43	(2)	58	(5)
ALS・MND など	36		39		27	(3)	27	(1)	40	(4)
SCD・MSA	13	(2)	18		12	(1)	22		23	
その他の変性疾患	13		9		18		44		43	(1)
多発性硬化症･視神経脊髄炎	25		27		27		32		25	
原因不明の脊髄炎･脳症・脳炎	20	(1)	35	(4)	37	(3)	17	(2)	19	(2)
筋疾患										
重症筋無力症	7		16		29		21		16	(1)
多発性筋炎・皮膚筋炎			2		2		8		6	
封入体筋炎	2		2		2		3		2	
その他筋疾患			3				8	(1)	4	
末梢神経障害										
AIDP、AMAN	5		3		3		12		8	
CIDP	21		19		19		30		16	
遺伝性ニューロパチー					3					
単末梢神経障害	3		5				10		5	
その他の末梢神経障害	10		4		12		10		5	
不随意運動	2				8		2		11	
てんかん けいれん	55		49	(1)	69	(1)	56		82	
意識消失発作　失神	2		4		3		6		4	
一過性全健忘	2						1			
めまい	15		12		23		11		29	
頭痛　しびれ	4		6		7		4		5	
内科疾患に伴うもの										
膠原病　血管炎症候群	22		15		10		14	(1)	5	
ビタミン欠乏症					4		4		5	
血液疾患（悪性リンパ腫など）	5		2		1		12	(2)	5	
サルコイドーシス	1				3					
循環器疾患					2					
代謝内分泌科疾患	5		10		6	(1)	14		9	
消化器疾患（肝性脳症など）					1		1		1	

疾患名	令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	
	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数
その他の内科疾患に伴う神経障害	5		2							
中毒	5		12		15		12		11	
機能神経障害			10		15		13		17	
その他	386	(28)	328	(20)	371	(22)	411	(24)	518	(34)
合計	959	(44)	892	(25)	1,001	(48)	1,098	(44)	1,247	(54)

【具体的ケースの診療実績】

脳神経内科で行われた代表的治療

・脳梗塞急性期の抗血小板、抗凝固療法、血栓溶解、血栓回収療法

・免疫関連性の脳神経筋疾患に対し、ステロイド療法、大量ガンマグロブリン療法、血漿交換及び各種免疫抑制、免疫調節薬投与、分子標的薬、核酸医薬(髄注)、バクロフェン髄注療法など

・経口摂取不可能な患者さんへの胃瘻造設、経管栄養法　など

6. 血 液 内 科

【業務活動状況】

2019 年 4 月以降、常勤医師 1 名、非常勤医師 2 名の体制を維持しつつ診療を続けています。医師の人数は変わりませんが、外来枠を拡充し、木曜日と金曜日もフルに対応できるようになりました。

この 2 年程は、外来でのがん化学療法を希望される方が多く、外来化学療法用のベッド確保が困難となっています。

入院診療については、担当医師が一人で、重症化した際の週末・祝日の対応が困難となったことから、基本的には対応せず、入院加療が必要な場合は、静岡済生会総合病院 血液内科や他の近隣施設に紹介する方針としています。入院枠を大きく縮小しましたが、外来患者数は増加傾向となりました。

引き続き、新たな分子標的薬が次々と登場してきていることから、治療方針を再検討しつつ、治療精度を高める様、努めていきます。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
慢性骨髄性白血病		9	11	13	13	18
慢性リンパ性白血病		4	3	3	5	4
慢性骨髄増殖性疾患		20	24	33	37	39
骨髄異形成症候群		14	22	30	30	41
再生不良性貧血		6	5	7	9	13
急性白血病	急性骨髄性白血病	6	8	6	7	7
	急性前骨髄球性白血病	1	0	0	0	0
	急性リンパ芽急性白血病	0	0	0	0	0
	急性白血病 未分類	1	1	0	0	1
ホジキンリンパ種		6	5	6	7	9
非ホジキンリンパ腫		68	68	83	91	94
多発性骨髄腫		30	26	29	29	30
単クローン性免疫グロブリン血症		7	10	8	8	9
AA アミロイドーシス		1	0	0	0	0
特発性血小板減少性紫斑病		14	26	25	30	25
血栓性血小板減少性紫斑病		0	0	0	0	0
その他		46	51	53	39	44
計		233	260	296	305	334

7. 代 謝 内 分 泌 内 科

【業務活動状況】

常勤は畠山寛医師１名で、外来と入院診療の両方を担当している。加えて、非常勤の橋本卓也医師が2024年度に引き続き週一回月曜日一日、静岡日赤病院の山田賀奈子医師が週一回木曜日午前の外来診療を行っている。対象患者は当科通院患者に加えて、近隣医療機関、院内他科からの紹介患者で、外来コンサルト、外来加療もしくは、多くの入院患者の併診加療などをコンスタントに行っている。通常外来からの入院に加え、救急外来からの高血糖緊急症、シックデイ、バセドウ病など内分泌疾患などを担当した。

２型糖尿病に関して、「焼津市立総合病院における２型糖尿病診療治療薬の考え方」を、ホームページや院内外での講演会などの広報活動を行い、院内や近隣医療機関への啓発に努めている。糖尿病診療では、糖尿病教育入院パスによる入院加療を行い、週２回のペースで、糖尿病教室を医師、薬剤師、検査技師、看護師、栄養士などからなるチームでコンスタントに行っている。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

代謝内分泌内科病名別入院患者数	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
１型糖尿病	2	2	3	3	2
２型糖尿病	28	26	30	27	25
２型糖尿病合併妊娠	1	0	0	3	0
糖尿病性低血糖性昏睡	1	0	3	2	1
膵性糖尿病	0	1	0	0	0
高血糖高浸透圧症候群	3	1	0	1	1
高血糖症	2	1	0	3	0
糖尿病性ケトアシドーシス	3	4	2	4	4
糖尿病性ケトーシス	2	4	5	3	2
糖尿病足病変	3	0	0	0	0
高カルシウム血症	1	0	0	0	0
低マグネシウム血症	0	0	0	0	1
低ナトリウム血症	1	0	0	0	0
甲状腺中毒症周期性四肢麻痺	0	1	0	0	0
副甲状腺機能低下症	0	1	0	0	0
シックデイ	0	0	5	4	4
コロナウイルス感染症	0	1	0	0	0
クッシング病	0	0	0	1	0
バセドウ病	0	0	0	2	1
褐色細胞腫	0	0	0	1	0
薬物乱用	1	0	0	0	0
中枢性尿崩症	0	0	0	0	1
梅毒性網脈絡膜炎	0	0	0	0	1
入院患者数合計	48	42	48	54	43

8. 腎 臓 内 科

【業務活動状況】

2025 年 3 月末に成田医師が異動し、2025 年度は 1 名減員のままで業務継続となった。腎臓外来は関、池谷、大浦、板谷、森が行い、総合内科外来も一部担当した。また週 1 回非常勤医師三谷、菊池医師（当院在籍あり）にサポートしていただいた。病棟業務は大浦、板谷、森 3 名が行い、専門外来は特定健診後の CKD 病診連携外来（全員）、糖尿病性腎症重症化予防外来（YES-I-DO）（板谷）、膠原病リウマチ外来（大浦）多発性嚢胞腎外来（森）を継続した。CARD 外来は新規導入 1 名も含め森が行った。また血液浄化療法選択外来は 53 名が受診した。血液浄化療法室の業務は、月水金午前の患者の大半と午後の患者、火木土午前の患者を担当した。また 2025 年 9 月より第 2 透析室の月水金午前の維持透析（10 名）に加え火木土午前（5 名）の維持透析も開始した。更に CHDF, SLED など急性血液浄化療法、他科入院の透析患者の維持透析管理、急性腎障害の対応を行った。透析中の運動療法は本年度はなく、アフェレーシス療法は本年度 15 例（脳神経内科 13 例、消化器内科 1、名腎臓内科 1 例）に行った。透析カンファレンスは泌尿器科医師、透析スタッフとともに月 2 回継続した。

IgA 腎症の免疫抑制療法としてのmPSL パルス療法.（当院プロトコールでは年 3 回）腎生検は週末の短期入院として行った。本年度は生体腎移植 2 例を東京大学腎臓内科、泌尿器科、当院泌尿器科と共に行い、周術期以後の管理を行った。(移植患者合併症入院 5 例)

初診紹介患者　299 人（昨年 229 人）その他の前年度との比較は病院統計参照。

【当科の検査】

エコーガイド下経皮的腎生検：23 例

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

病 名	令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	
	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数
慢性腎不全（合併症も含む）	67	8	60	4	65	9	96	8	57	8
〃（透析導入）	43	3	46	1	49	2	35	2	37	2
〃（透析合併症）	77	7	55	2	64	2	69	4	56	2
慢性糸球体腎炎	43	0	38	0	45	0	40	0	52	0
ネフローゼ症候群（合併症含む）	19	0	23	0	20	2	15	0	21	0
急性腎不全	21	4	20	2	24	2	30	5	21	0
急速進行性腎炎（合併症も含む）	4	0	2	0	3	0	4	2	8	0
薬物中毒	3	0	5	0	4	0	6	0	1	0
電解質異常	17	0	14	0	12	1	18	0	10	0
腎盂腎炎	42	0	40	0	32	1	48	2	21	0
膠原病（類縁疾患）	17	0	8	0	24	0	10	0	10	0
その他	244	20	208	22	235	18	177	11	144	10
合計	597	42	519	31	577	37	548	34	438	22

※その他には、COVID-19　9 人を含む

慢性腎不全は概ね CKDG3b 以下

多発性嚢胞腎トルバプタン導入　1 例

9. 精 神 科

【業務活動状況】

令和７年度外来延べ患者数は 2,757 名、1 日平均 13 名、新患は 75 名で内訳を(表Ⅰ)に示す。病棟からの初診患者が 62 名。

入院中のコンサルトでは、不眠、不安、抑うつ等の精神症状が多い。また、認知症患者の夜間せん妄・術後せん妄、自殺企図者の精神医学的コンサルテーションが年々増加している。

今年度より、末期癌患者の緩和医療カンファレンスに毎週参加している。

年 間 疾 患 別 新 患 概 数

（表Ⅰ）

病 名	令 和 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度
	患者数	患者数	患者数	患者数	患者数
統合失調症	14	5	8	12	8
うつ病	15	17	24	20	12
躁うつ病	3	1	2	3	1
てんかん	1	0	1	2	2
精神薄弱	4	4	0	1	2
神経症	35	26	30	21	29
（１）不安神経症	(5)	(7)	(9)	(9)	(6)
（２）強迫神経症	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)
（３）対人恐怖症	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)
（４）心気症	(3)	(3)	(4)	(1)	(3)
（５）ヒステリー	(2)	(0)	(1)	(0)	(0)
（６）心因反応	(9)	(6)	(6)	(2)	(4)
（７）性格神経症	(4)	(3)	(2)	(1)	(5)
（８）神経性不眠症	(2)	(2)	(0)	(3)	(2)
（９）神経性食欲不振症	(0)	(0)	(1)	(1)	(1)
（１０）過食症	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)
（１１）抑うつ神経症	(5)	(3)	(3)	(3)	(6)
（１２）その他	(4)	(2)	(1)	(1)	(2)
老年期精神障害	6	8	17	10	11
（１）老年痴呆（アルツハイマー型）	(2)	(5)	(14)	(5)	(8)
（２）脳血管性痴呆	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
（３）幻覚・妄想状態	(2)	(2)	(0)	(0)	(0)
（４）夜間譫妄	(2)	(1)	(3)	(5)	(3)
小児	0	0	0	0	0
（１）不登校	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
（２）その他（チック, 適応障害他）	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
中毒性精神病	1	1	2	5	5
（１）アルコール依存症	(1)	(0)	(2)	(4)	(4)
（２）振戦譫妄	(0)	(1)	(0)	(0)	(1)
（３）シンナー・覚醒剤中毒	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)
症状性精神病	1	1	0	0	0

病 名	令 年 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度
	患者数	患者数	患者数	患者数	患者数
脳器質性精神病	5	13	5	1	2
（１）頭部外傷	(1)	(5)	(1)	(0)	(0)
（２）脳腫瘍	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
（３）脳梗塞・脳内出血	(4)	(7)	(3)	(1)	(2)
（４）パーキンソン病	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)
その他	1	0	3	5	3
合 計	86	75	92	80	75

年 間 病 棟 ・ 外 来 別 他 科 依 頼 数

（表Ⅱ）

区分		総合診療内科	血液内科	脳神経内科	消化器内科	腎臓内科	呼吸器内科	循環器内科	代謝内分泌内科	小児科	産婦人科	泌尿器科	脳神経外科	外科	整形外科	皮膚科	耳鼻いんこう科	形成外科	歯科口腔外科	救急	合計
病棟依頼	初診	6		19	3	3		1			2	1	1	11	8						55
	再初診	1		3									1		2						7
	再診	19		15	21	1		1			3			24	33						117

10. 小 児 科

【業務活動状況】

焼津市及び近隣市町村の二次医療施設の小児科として、診療所では治療が困難な重症患者の治療、比較的専門性を要する疾患の治療に当たっている。また、医師会、他科当直医の協力を得ながら小児の救急医療、時間外診療を行っている。また、近年は発達障害や不登校など小児のこころの問題にも積極的に取り組み、地域での中心的役割を果たしている。

静岡中部地区の二次医療施設として、近隣の一次施設及び県立こども病院と協力しながら、新生児、早産児医療を行っている。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

一般病棟　　(診断が重複する例があるため、各疾患の症例数の合計と表の「合計」とは一致しない。)

病　　名	令 和 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度	備考
一般病床入院						
気道感染症	118	111	140	159	125	
急性胃腸炎	26	23	60	29	32	
尿路感染症	14	8	11	17	9	
インフルエンザ	0	0	14	16	21	
その他の感染症	42	48	74	69	65	不明熱、細菌性髄膜炎、皮膚感染症など
気管支喘息	26	42	26	40	32	
心疾患（川崎病を除く）	6	0	6	3	1	
川崎病	11	21	33	23	37	
熱性痙攣	28	23	34	55	36	
神経疾患・痙攣性疾患（熱性痙攣を除く）	49	34	53	44	52	てんかん発作、運動発達遅滞など
アレルギー疾患（気管支喘息を除く）	47	32	20	19	17	アナフィラキシー、食物アレルギーなど
血管性紫斑病	4	3	4	2	3	
腎疾患	6	4	7	3	4	ネフローゼ症候群など
消化器疾患（胃腸炎を除く）	25	7	16	10	11	腸重積、潰瘍性大腸炎など
内分泌疾患	26	5	7	7	12	糖尿病、思春期早発症など
血液疾患／腫瘍	5	2	2	5	7	ITP など
事故、虐待	30	6	4	3	15	熱傷、異物誤飲/摘出など
その他	55	79	94	58	60	
ホルモン分泌負荷試験	20	11	16	29	18	低身長、早春期早発症など
食物アレルギーに対する食物負荷試験	33	26	37	38	41	
合計	511	485	658	629	598	
NICU 入院						
1000g 未満	0	2	0	3	0	
1000～1499g	2	5	6	6	3	
1500～1999g	28	19	19	25	20	
2000～2499g	34	40	40	34	34	
2500g 以上	87	78	87	65	71	
合計	152	144	152	133	133	
GCU 入院	154	173	193	141	131	

11. 外 科

【業務活動状況】

1．外来：2-3 診／日。専門外来（乳腺、大腸・肛門、呼吸器、胆石）
2．病棟：40-50 人程度の入院患者治療・術後管理等
3．手術：年間 733 症例(緊急手術 214 件、癌症例の手術 262 件)
4．検査：大腸内視鏡検査、約 2 件／週
5．カンファレンス等：症例カンファレンス　1 回/週
　消化器内科との合同カンファレンス、第 2,4 火曜日　抄読会、第 1 火曜日

【主な手術術式と手術成績】

・胃癌切除術（全摘・亜全摘・部分切除）：14 例（内、腹腔鏡手術 9 例）
・結腸・直腸癌切除術：95 例
　内、da Vinci 手術：11 例
・肝切除術：18 例
・肺癌切除術(部分切除、葉切除　転移も含む)：28 例
・乳癌手術：62 例

・緊急手術症例　　214 例
・待期手術症例　　519 例
・全手術症例　　733 例

外 科 手 術 症 例 件 数

疾患部位	令 和 3年度	内悪性 腫瘍症例	令 和 4年度	内悪性 腫瘍症例	令 和 5年度	内悪性 腫瘍症例	令 和 6年度	内悪性 腫瘍症例	令 和 7年度	内悪性 腫瘍症例
食道	4	4	5	5	3	2	2	2	0	0
胃・十二指腸	39	30	45	38	30	22	30	24	30	24
小腸	50	6	43	6	29	6	45	0	42	3
結腸・虫垂	136	70	167	66	113	48	136	52	142	73
直腸・肛門	66	40	42	22	74	49	52	25	66	39
肝臓	13	12	7	7	12	10	15	15	19	18
胆道	106	6	94	6	112	5	100	2	127	1
膵臓	6	6	8	7	5	5	14	14	1	1
脾臓	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
腹壁・腹膜・後腹膜	142	3	132	5	131	1	115	3	132	1
その他の腹部疾患	16	10	13	11	16	11	14	10	10	6
乳腺	63	62	57	55	54	50	55	53	67	62
気管・気管支・肺	51	23	34	20	38	28	41	28	46	28
胸壁・胸膜・横隔膜	15	0	18	1	23	4	26	2	25	2
縦隔	7	0	5	1	4	1	5	0	4	0
その他の胸部疾患	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0
血管	15	0	8	0	9	0	7	0	10	0
頭頸部・体表	12	4	7	2	6	3	8	2	7	4
甲状腺・上皮小体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	14	0	14	3	20	4	21	6	0	0
計	756	276	699	255	680	249	687	239	733	262

外 科 手 術 術 式 別

＊（ ）内視鏡下手術

術式別	令 和 3年度	令 和 4年度	令 和 5年度
【消化器・一般外科】			
胃全摘術	1	2	2(1)
幽門側胃切除術	14(3)	20(6)	15(6)
噴門側胃切除術	7(2)	2(1)	0
胃部分切除術	2	4(3)	2(2)
胃空腸吻合・バイパス術等	6	10	2
胃瘻造設術	1	2	2(1)
大網充填術・胃十二指腸穿孔部縫合等	4	6	7(2)
小腸部分切除術	17	19	13(2)
イレウス解除術（腸切を伴わない）	20	17	9(1)
腸瘻造設術	0	1	1
肝切除術	14	7	10(1)
腹腔鏡下胆嚢摘出術(内　開腹移行)	97(1)	85(0)	104
開腹胆嚢摘出術	4	4	3
総胆管切開	2	2	1
膵頭十二指腸切除術	0	0	1
膵体尾部切除術	0	2	0
脾摘術	1	0	0
結腸切除術	67(30)	67(34)	51(24)
虫垂切除術	38(17)	66(38)	42(37)
直腸低位前方切除術	8(5)	10(6)	14(6)
直腸高位前方切除術	4(2)	7(3)	14(8)
ハルトマン手術	10	8(1)	9(1)
マイルズ手術	8(5)	0	4(2)
大腸亜全摘術	0	0	1(1)
骨盤内臓器全摘術	0	0	1
径肛門的ポリープ切除	5	3	4
人工肛門造設術	18	24	24
人工肛門閉鎖術	5	12	3
試験開腹、開腹生検術	5	6	1(1)
痔核根治術	9	3	5
痔瘻根治術	2	3	2
直腸脱根治術	5(5)	4(4)	5(2)
肛門狭窄症手術	0	0	0
肛門周囲膿瘍切開・排膿	2	0	3
その他肛門良性疾患手術	3	0	1
壊死性筋膜炎デブリドマン	0	0	0
ヘルニア根治術	135(57)	125(60)	123(81)
その他腹部疾患	7	4	3
【乳腺外科】			
乳癌に対する乳腺切除術	59	53	45
乳腺腫瘤切除術・生検術	1	2	7
腋窩リンパ節等郭清	0	1	2

術式別	令　和 3年度	令　和 4年度	令　和 5年度
【呼吸器外科】			
肺葉切除術	6	10	11(3)
肺区域切除術			6(3)
肺部分切除術	9	3	9(5)
胸腔鏡下肺切除術	15	5	＊＊＊
胸腔鏡下ブラ切除術	15	9	5
気管切開術	2	1	1
胸腔鏡検査・胸膜生検等	15	5	4
膿胸手術	2	14	15
胸壁腫瘍切除	0	0	2(1)
縦隔腫瘍切除術	1	2	0
胸腔鏡下縦隔腫瘍切除術	7	2	3
(外傷性)血胸止血術	0	2	0
その他胸部手術	0	5	0
【血管】			
下肢静脈瘤手術	10	8	9
腹部大動脈瘤/大血管、人工血管置換術	1	0	0
動脈血栓摘除術	0	0	0
仮性動脈瘤手術	1	0	0
CV ポート埋込み術	58	37	41
CV ポート抜去術	17	8	7
その他の血管手術	1	0	0
【頭頸部・体表・内分泌外科】			
体表腫瘤切除、リンパ節生検等	12	7	5
甲状腺癌に対する切除術	0	0	0
甲状腺良性疾患に対する切除術	0	0	0
上皮小体腫瘍切除術	0	0	0
その他	1	0	0
計（延べ数）	754	699	654

術式別	令　和 6年度		令　和 7年度	
【消化器・一般外科】		内視鏡 下手術		内視鏡 下手術
胃全摘術	2	1	1	1
幽門側胃切除術	10	6	9	6
噴門側胃切除術	2	1	2	1
胃部分切除術	3	1	2	1
胃空腸吻合・バイパス術等	8	3	10	2
胃瘻造設術	2	2	1	1
大網充填術・胃十二指腸穿孔部縫合等	5	1	4	0
小腸部分切除術	15	1	11	1
イレウス解除術（腸切を伴わない）	25		26	1
腸瘻造設術	0		0	
肝切除術	14	2	18	8
胆嚢摘出術	98	96	125	118
開腹胆嚢摘出術	＊＊＊	＊＊＊		
総胆管切開	1		1	0
膵頭十二指腸切除術	0			
膵体尾部切除術	1		1	0
脾摘術	0		0	0
結腸切除術	48	29	65	40
虫垂切除術	60	5	36	34
直腸低位前方切除術	8	7	14	12
直腸高位前方切除術	2	2	10	7
ハルトマン手術	7		8	0
マイルズ手術	2	1	6	3
大腸亜全摘術	1		1	0
骨盤内臓器全摘術	0		1	0
径肛門的ポリープ切除	5		6	0
人工肛門造設術	13		20	2
人工肛門閉鎖術	12		14	0
試験開腹、開腹生検術	1		6	4
痔核根治術	6		8	0
痔瘻根治術	1		0	0
直腸脱根治術	10	8	6	5
肛門狭窄症手術	0		0	0
肛門周囲膿瘍切開・排膿	3		5	0
その他肛門良性疾患手術	3		1	0
壊死性筋膜炎デブリドマン	0		0	0
ヘルニア根治術	108	66	137	96
その他腹部疾患	7		20	4
消化器・一般外科　計	483	232	575	347
【乳腺外科】				
乳癌に対する乳腺切除術	49		60	
乳腺腫瘤切除術・生検術	5		6	
腋窩リンパ節等郭清	1		0	
乳腺外科　計	55		66	

術式別	令　和 6年度		令　和 7年度	
【呼吸器外科】		内視鏡 下手術		内視鏡 下手術
肺葉切除術	9	9	12	10
肺区域切除術	5	4	11	9
肺部分切除術	10	9	10	9
胸腔鏡下肺切除術	＊＊＊			
胸腔鏡下ブラ切除術	7	6	10	10
気管切開術	1		3	0
胸腔鏡検査・胸膜生検等	4	4	2	2
膿胸手術	23	16	18	17
胸壁腫瘍切除			2	2
縦隔腫瘍切除術	4	4	4	4
胸腔鏡下縦隔腫瘍切除術	＊＊＊			
(外傷性)血胸止血術	0			
その他胸部手術	3		5	5
呼吸器外科　計	66	52	77	68
【血管】				
下肢静脈瘤手術	6		10	
腹部大動脈瘤/大血管、人工血管置換術	0		0	
動脈血栓摘除術	1		0	
仮性動脈瘤手術	0		0	
CV ポート埋込み術	＊＊＊			
CV ポート抜去術	＊＊＊			
その他の血管手術	0		0	
血管外科手術　計	7		10	
【頭頸部・体表・その他】				
体表腫瘤切除、リンパ節生検等	8		9	
CV ポート埋込み術	55		61	
CV ポート抜去術	6		7	
その他	4		0	
頭頸部・体表・その他手術　計	73		77	
計（延べ数）	684	284	805	415

12. 整 形 外 科

【業務活動状況】

＜診療体制＞　上半期常勤医 8 名（整形外科専門医 5 名)、下半期常勤医 7 名（整形外科専門医 5 名)、非常勤医 3 名、の体制であった。

＜外来＞　一般外来は午前に 3～4 診、午後に 1～2 で診療を行った。専門外来は以前よりリウマチ外来（第 2・4 金曜日）スポーツ整形外科外来を継続している。

＜救急＞

例年通り医師 6 名によるオンコール体制で対応した。主に 1 次から 2 次の救急外傷の診療を行った。

＜入院診療＞

病棟や医療連携室の職員の皆様にご協力いただき、入院患者の回復期リハビリテーション病院や施設への転院調整を円滑に進めることができている。

＜手術＞

令和 7 年 11 月に県内では初となる変形性膝関節症のラジオ波治療を導入した。広報活動も行い、多くの紹介患者が受診し、治療を実施している。手術室で治療を実施することで手術室の稼働率が上昇しており、入院で対応することもあるため病床稼働率上昇にも繋がっている。月、水、金曜日を整形外科の手術日として継続させていただき、手術日にかかわらず緊急手術や準緊急を要する外傷手術を早期の日程で実施させていただいている。特に当院で症例の多い高齢者の大腿骨近位部骨折においては、早期の手術実施により早期リハビリテーションの実施、患者 QOL の改善につなげることができている。

＜カンファレンス・研修等＞

週 1 回、入院患者・手術症例カンファレンスを行った。

初期研修医のローテーションもあり、主な研修内容は　上級医とともに救急外来での外傷診療、入院患者の担当、手術執刀であった。カンファレンスでは担当患者のプレゼンテーション、抄読会での発表を行った。

【評価】

・診療報酬、大腿骨近位部骨折の緊急手術加算と二次性骨折予防継続管理料の算定は令和 4 年度より開始し、継続している。当院は元々算定対象の症例数が多い施設であり、関係部署の皆様のご尽力により算定することができており、今後も継続する予定である。

・診療科の広報活動として地域の医療施設への訪問を 1 年間継続して行った。病院からのサポートもいただき、各施設を訪問した。令和 7 年 10 月に病院主催で市民公開講座を開催（静岡県整形外科医会「骨と関節の日」との共催、）し、変形性関節症について啓蒙した。講座の開催後受診患者が増加し、結果的には人工関節置換術数の増加に繋がったと考えている。

【次年度目標】

・外傷診療の水準を維持する。

・人工関節手術等　待機的手術の件数を増やす。

・整形外科専攻医、初期研修医の研修内容がより充実するよう工夫する。

年 間 疾 患 別 手 術 件 数

手術分野	部位	術式	令和2年度	内訳	令和3年度	内訳	令和4年度	内訳	令和5年度	内訳	令和6年度	内訳	令和7年度	内訳
骨折	上肢	観血的手術	158		128		162		105		89		151	
		（橈骨骨折・尺骨骨折）		71		53		79		58		43		125
		（ピンニング）		14		28		21		12		8		18
		（その他）		73		47		62		35		38		18
		人工骨頭挿入術	2		3		5		3		8		2	
		創外固定術	6		4		3		7		3		7	
	下肢	観血的手術	201		169		172		190		168		118	
		（大腿骨頚部骨折）		27		16		12		10		15		12
		（大腿骨転子部・転子下骨折）		89		96		96		74		79		58
		（その他）		85		57		64		106		74		48
		人工骨頭挿入術	59		75		66		58		74		76	
		創外固定術	8		6		12		9		14		11	
抜釘			75		78		126		87		81		79	
膝ラジオ波													23	
人工関節	膝	TKA	28		22		34		27		43		61	
		UKA	12		11		14		29		24		42	
	股	THA	37		23		31		40		62		71	
	肩	TSA/RSA	1		0		0		0		5		7	
骨切り	膝	HTO/DTO	9		4		4		7		3		5	
関節鏡	膝	ACL再建術	15		10		14		15		13		15	
		半月板切除、縫合術	43		34		13		25		18		25	
		遊離体切除	4		3		0		2		2		2	
		その他	28		28		35		25		26		40	
	肩	腱板縫合術	14		5		8		20		13		9	
		Bankart修復術	2		1		2		5		1		3	
		その他	6		4		3		6		7		4	
	肘	遊離体切除術	0		1		0		1		0		0	
	足		1		7		2		1		0		3	
脊椎			2		0		0		0		0			
腫瘍		骨・軟部腫瘍手術	11		8		10		5		6		7	
末梢神経	手	手根管開放術	3		10		19		8		14		13	
	肘	肘部管開放術	3		3		2		2		0		0	
切断			14		8		5		3				7	
その他	肘	靭帯修復	5		0		1		1		1		1	
	手	指腱鞘切開術	14		15		26		13		16		22	
		腱縫合	6		6		5		2		0		0	
		腱移行・腱移植	3		2		1		0		0		0	
	足	外反母趾手術	0		4		1		0		0		0	
		アキレス腱縫合術	8		7		6		6		7		6	
手術総数			845		769		858		734		789		834	

13. 形 成 外 科

【業務活動状況】

令和７年度は、常勤医２ 名・非常勤医２ 名で診療を行いました。

６ 歳未満の小児に関しては、全身麻酔の対応が困難のため、静岡日赤あるいは県立こども病院へ紹介しました。

＜外来＞

一般外来（月・水・金の午前）週３回のほか、レーザー外来（月・水の午後）週２回を設けています。

＜入院＞

患者の回診及び他科往診は、外来･手術の合間に毎日行いました。

＜手術＞

全身麻酔などの麻酔科管理手術（火曜午前）週１回、入院・日帰りなどの局所麻酔手術（月～木曜日）週４回行っております。

そのほか当科の性質上、緊急手術あるいは他科再建手術（外科、脳神経外科など）にも積極的な対応を心掛けております。

＜救急＞

顔面外傷、熱傷、手指開放骨折他の手指外傷全般を、当科で担当しております

夜間休日の救急外来での顔面および皮膚軟部組織損傷、手指外傷の処置後の翌日以降は当科で診療を担当しています。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

病名	令 和 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度
良性腫瘍	33	36	33	27	12
悪性腫瘍	20	31	27	9	9
熱傷	5	11	10	16	6
外傷	44	67	76	96	83
うち顔面外傷	(9)	(10)	(6)	(17)	(19)
うち四肢外傷	(35)	(49)	(60)	(62)	(60)
瘢痕・ケロイド	1	8	2	4	0
難治性潰瘍、褥瘡	29	8	14	48	31
先天異常	0	5	4	4	4
美容	0	0	0	0	0
その他	10	19	33	29	29
合計	142	185	199	233	174

年 間 疾 患 別 手 術 件 数

病名	令 和 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度
良性腫瘍	448	458	398	399	404
悪性腫瘍及びそれに関する再建	65	62	84	50	53
顔面骨骨折	5	8	7	13	0
顔面軟部組織損傷	45	39	40	27	30
四肢外傷	128	126	153	131	78
瘢痕、ケロイド	19	14	14	12	13
先天異常	0	8	10	15	3
潰瘍、褥瘡	40	69	26	58	73
美容	103	136	155	154	166
熱傷	7	13	11	19	13
陥入爪手術	10	16	8	0	9
その他（顔面神経麻痺、眼瞼下垂など）	14	21	47	19	25
合計	884	970	953	897	867

14. 脳 神 経 外 科

【業務活動状況】

令和 7 年度は、脳神経外科専門医 3 名の体制でした。

新規入院患者数は、334 名、手術件数は、178 件でした。

■**入院診療：** 病棟では原則主治医制をとりながら、脳神経外科全員で入院患者の情報を共有するよう努めました。毎朝カンファレンスを行い、夕回診を連日、入院患者・手術症例カンファレンスを週 1 回行いました。病棟入院患者に対する多職種カンファレンスは毎週行いました。医師、看護師、リハビリテーション療法士、医療相談員らにより、入院早期から患者情報を共有し退院調整を行いました。

■**手術：**手術件数は 178 件でした。緊急手術が多くなりましたが、中央手術室の協力を得て適切な対応がとれました。麻酔科医師の協力により、全身麻酔を要する緊急手術も全例で麻酔科管理としていただきました。

■**脳血管内治療：**脳血栓回収療法をはじめ、コイル塞栓術やステント留置などの治療が標準的に実施できるようになりました。

■**救急外来業務：**当科への入院患者は多くが救急外来経由でした。脳卒中や多発外傷症例等、関係各科との緊密な連携が実施できました。

■**外来業務：**外来診療は、木曜日に、浜松医大より坂本先生、金曜日に、門脇先生、岡崎先生に脳神経外科の診察をお願いしました。

■**脳ドック：**当院は日本脳ドック学会の認定施設で、脳ドックガイドラインに沿って健診を実施しました。

■**初期臨床研修：**当科の研修は、救急外来での、頭部外傷、脳卒中の初期診療を中心に、さらに手術やカテーテル検査等の基本的な臨床手技について積極的に指導しました。

【診療実績及び治療成果】

入院患者数は 334 名、手術件数は 178 件でした。入院病名、手術内容及び退院時転帰の詳細を下記に示します。

【評価】

退院患者の転帰等より、これらに対して適切に対処ができました。

【次年度目標】

救急搬送患者の診療のみでなく、地域から信頼され、選ばれる脳神経外科となれるよう、診療の質を改善していきます。

特に、脳血栓回収療法の治療開始までの時間短縮、回収療法の更なる時間短縮を目指すようにします。

初期臨床研修医に対する研修教育を充実させます。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

病　名	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数
脳血管障害	255	18	205	23	173	18	165	12	162	8
頭部外傷	163	3	144	7	139	6	145	4	131	4
脳腫瘍	40	1	24	2	29	1	17	1	16	0
その他	45	5	34	2	40	1	23	0	25	0
合計	503	27	407	34	381	26	350	17	334	12

年 間 疾 患 別 手 術 件 数

（　　）内訳

疾患・術式別	令　和 3年度	令　和 4年度	令　和 5年度	令　和 6年度	令　和 7年度
脳血管障害	57	48	51	58	79
脳動脈瘤クリッピング術	(19)	(9)	(10)	(11)	(8)
脳内血腫除去術(開頭)	(4)	(4)	(7)	(5)	(5)
脳動静脈奇形摘出術			(1)	(1)	(1)
脳血管内手術	(28)	(32)	(28)	(36)	(60)
血栓内膜剥離術	(6)		(1)	(2)	(2)
その他		(3)	(4)	(3)	(3)
頭部外傷	54	37	47	51	56
慢性硬膜下血腫	(48)	(33)	(43)	(47)	(46)
急性硬膜下血腫・外血腫	(6)	(3)	(3)	(4)	(7)
脳挫傷、頭蓋底骨折		(1)			(1)
その他			(1)		(2)
脳腫瘍	17	7	9	12	10
原発性脳腫瘍	(9)	(7)	(6)	(6)	(7)
下垂体腺腫	(1)		(2)		
転移性脳腫瘍	(4)		(1)	(2)	(3)
その他	(3)			(4)	
その他	46	37	38	26	33
脳室腹腔シャント術	(17)	(9)	(8)	(12)	(13)
脳室ドレナージ術	(4)	(6)	(1)	(2)	(2)
頭蓋形成術	(6)	(7)	(7)	(7)	(2)
その他	(19)	(15)	(22)	(5)	(16)
合計	174	129	145	147	178

退 院 時 転 帰

転帰	人数	転帰	人数
自宅退院	172	急性期病院転院	6
回復期リハビリテーション転院	86	院内転科	16
療養型病院	16	死亡	12
施設入所	19	入院中	7
合　　計			334

15. 皮 膚 科

【業務活動状況】

常勤医１名、非常勤医１名。

午前中は外来患者診療。午後は皮膚生検、皮膚小手術、病棟回診を実施し、多数の皮膚疾患患者の外来診療及び入院診察を行った。また、地域の医療機関から紹介された患者さんを積極的に受け入れ、病状の安定した患者さんを逆に紹介するなど良好な地域連携が行われた。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

病　名	令和３年度		令和４年度		令和５年度		令和６年度		令和７年度	
	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数	患者数	死亡数
帯状疱疹	3		1		4		11		14	
蜂窩織炎	18		14		25		18	1	17	
中毒疹	3		2		1		1		0	
蕁麻疹	0		1		0		6		0	
水疱性類天疱瘡	2		4		1		3		1	
カポジ水痘様発疹症	0		0		0		0		1	
下腿潰瘍	4		0		4		3	1	0	
糖尿病性壊疽	0		1		0		2		2	
褥瘡	1		2		5		10		5	1
尋常性乾癬	0		1		0		1		0	
壊疽性膿皮症	1		3		1		2		0	
皮膚悪性腫瘍	0		1		3	1	0		0	
マムシ咬傷	0		1		0		0		2	
スイート病	0		0		0		0		1	
その他	3		3		1		4		18	2
合計	35		34		45	1	61	2	61	3

年 間 疾 患 別 手 術 件 数

病　名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
脂漏性角化症	2	2	1	2	0
表皮嚢腫	0	1	4	0	0
軟線維腫	0	4	2	1	0
神経線維腫	0	1	0	0	0
血管腫	0	1	0	0	0
マダニ咬傷	0	2	1	0	0
その他	1	0	2	3	1
合計	3	11	10	6	1

16. 泌 尿 器 科

【業務活動状況】

令和 7 年度は、森亮太医員、田中恵梨子医員が赴任し、宍田智大医員、杉山和隆副科長、田邊邦明副科長が退職したため、常勤医 5 名体制となった。

外来のべ患者総数は 14,386 名、手術件数は 889 件であった。「ダ・ヴィンチ Xi」によるロボット支援手術は合計 60 件で、内訳として前立腺全摘除術 47 件、腎部分切除術 8 件、腎摘除術 4 件、腎盂形成術 1 件を行った。

腎移植については生体腎移植を 2 件行い、いずれも術後に血液透析を離脱することができた。

当科では泌尿器科専門医取得前の専攻医(本年度 2 名)や、泌尿器科を選択した初期研修医（本年度 6 名）に対しての教育に重点をおいている。科内で月 2 回、日常診療のフィードバックとなるテーマについて勉強会を開催している(本年度 18 回)。手術については、内視鏡手術、内シャント手術の実践を始め、ロボット手術のシミュレーターによる技術指導や手術録画記録の視聴による検討会により手術手技の研鑽に努めている(本年度 11 回)。

学会活動は、日本泌尿器科学会総会(松本)、日本老年泌尿器科学会(松本)、日本泌尿器科学会中部総会(田中亮)、西日本泌尿器科学会総会(田邊)、静岡泌尿器ラパロ・ロボット手術研究会(田中恵)、静岡県泌尿器科医会(田中恵)で計 6 演題の発表を行った。論文発表は計 2 報で、令和 4 年台風第 15 号による断水中に井戸水での血液透析を維持した治療について、「腎と透析」に報告を行い(杉山)、初期研修医によるラパロドライボックストレーニングの一環として折り鶴の作成について、「日本内視鏡外科学会雑誌」に短報を報告した(西松)。

地域医療への貢献として、市民公開講座である病院シンポジウムを焼津文化会館で開催し、東京大学泌尿器科学教室久米春喜教授を招いて、「ロボットが切り拓く前立腺がん手術」についてご講演いただいた。焼津市内の養護教諭からの依頼で、思春期男子の性について田中亮医長が出前講座の講演を行った。日本赤十字社医療センター泌尿器科からの生体腎移植の手術支援要請に対して、松本科長が 3 回出張対応した。

年 間 疾 患 別 手 術 件 数

（ ）内 腹腔鏡下

手術			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
副甲状腺	上皮小体摘除		0	0	0	0	0
副 腎	副腎摘除		0	2(1)	1(1)	2(1)	2(1)
		原発性アルドステロン症	0	0	0	1	0
		転移性悪性腫瘍	0	0	0	0	0
腎尿管	根治的腎摘除		11(8)	13(12)	13(7)	5(3)	10(6)
		ロボット支援	0	1	2	2	4
	腎移植		0	0	3	2	2
		生体腎	0	0	2	2	2
		献腎	0	0	1	0	0
	ドナー腎採取術				2(2)	2(2)	2(2)
	腎尿管全摘除		12(12)	10(9)	8(7)	3(3)	8(7)
	腎尿管部分切除		4(0)	11(0)	12(0)	8(0)	8(0)
		ロボット支援	4	11	12	8	8
	腎盂形成術		3(2)	0	1(0)	2(0)	1(0)
		ロボット支援	1	0	1	2	1
	開放腎生検		1	1	0	0	0
	経皮的腎生検		1	4	4	4	4
	逆行性腎盂造形		15	17	13	19	28

手術			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	PNL		0	3	3	4	6
	TAP		0	0	0	0	0
	腎瘻造設		26	20	20	29	16
	経皮的嚢胞穿刺		1	0	1	0	2
	TUL		114	106	88	91	103
	尿管鏡		13	23	13	19	28
	ESWL		71	66	66	48	36
	その他（ステント）		148	127	96	101	101
	針生検		1	0	1	0	0
後腹膜腔	後腹膜腫瘍摘除		0	3	0	3	0
膀　胱	膀胱全摘除ー尿路変更		8	8	5	1	3
		回腸導管	6	4	4	1	3
		尿管皮膚瘻	1	5	1	1	1
	膀胱部分切除		2	0	0	0	0
	TUR-Bt, B, TUC		148	143	110	93	101
	膀胱瘻造設		2	1	2	2	1
	膀胱水圧拡張術		4	1	1	0	1
	膀胱砕石		12	20	15	24	19
	尿膜管摘出術		0	3(3)	1(1)	1(1)	4(3)
	その他		0	0	0	0	0
前立腺	根治的前立腺摘除		45(0)	42(1)	36(0)	34(1)	47(0)
		ロボット支援	45	41	36	33	47
	被膜下前立腺摘除		0	0	0	0	0
	TUR-P		8	3	0	1	4
	前立腺生検		217	216	174	166	137
	レーザー前立腺蒸散		18	26	26	41	30
尿　道	内尿道切開		4	4	8	2	7
	尿道カルンクル切除		2	1	4	2	3
	その他		0	3	2	1	1
精巣・精巣上体	高位精巣摘除		1	4	2	3	6
	精巣摘除		6	0	2	0	1
	精巣固定		6	2	4	2	2
	陰嚢水腫根治		6	8	14	9	11
	精索静脈瘤結紮		4	0	1	0	1
	その他		1	0	1	0	2
陰　茎	環状切除		11	5	0	3	4
	背面切開		0	1	9	0	3
	その他		0	1	2	2	0
人工透析	ブラッドアクセス造設		126	160	145	136	139
	CAPD		2	2	1	1	1
その他	その他		13	10	22	6	3
合　計			1,067(22)	1,071(23)	932(18)	872(11)	889(19)

※腎盂形成術については令和3年度より記載を開始

※ロボット支援下腎摘除術については令和4年度より記載を開始

※生体腎移植術および献腎移植術については令和5年度より記載を開始。

17. 産 婦 人 科

【業務活動状況】

・医員の動向は成高・黒田・仲神・牧の 4 名に加え、東京大学・墨東病院・国立国際医療センター・聖路加国際病院から数名の専攻医を引き続き受け入れております。
・地域支援として、昨年初頭より、近隣産科施設への当直および手術応援を行いました。
・生殖補助医療（ART）分野については、牧が他院での研修を重ね、成高とともに当院での専門診療を担っております。
・婦人科領域では、骨盤臓器脱に対して仙骨子宮固定術を導入し、高齢女性の ADL 向上に貢献できるものと期待しています。
・周産期救急対応訓練として、静岡市・志太榛原地区の救急隊員を対象に合同研修を 2 月に開催しました。黒田が産科分野を担当し、墜落産（院外分娩）の初期対応を、小児科医師・救急科スタッフらのご協力のもと、実践的な研修会となりました。
・3 月には婦人科腫瘍勉強会において仲神が世話人を務め、若手医師の知識向上・研鑽の場づくりに貢献しました。
・県医会の事業として、牧が中学・高校への派遣授業を実施し、人権教育・予防医学を含めた性教育を行っております。
・令和 8 年 5 月の無痛分娩導入に向けて、医師・助産師らが他院での研修・実習を重ね、準備を着実に進めております。
・引き続き、県中部の母子医療中核病院としての役割を果たすべく、スタッフ一同邁進してまいります。

産婦人科年間実績統計

産婦人科		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
産科	分娩総数(多胎は 1 件)	380	377	351	326	324
	帝王切開数	165	156	150	138	133
婦人科	良性手術(内視鏡含む)	388	337	268	241	213
	内視鏡下手術	216	214	181	139	163
	悪性腫瘍手術	171	140	126	92	101
	その他	61	64	55	47	33
産婦人科手術総数		＊785	＊697	＊600	＊519	*515
IVF	治療周期数	113	58	37	35	23

＊重複分含む

産科分娩数（妊娠 22 週以降）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
分娩数	380	377	351	326	324
経膣分娩	215	221	201	188	191
正常分娩	185	196	174	161	175
鉗子分娩	23	16	8	17	6
吸引分娩	7	9	19	10	10
帝王切開手術（注 1）	165	156	150	138	133
既往帝王切開手術	67	53	59	58	49
胎児・胎盤機能不全	31	19	33	29	22
骨盤位	11	12	14	15	16
双胎	9	12	6	12	11
妊娠高血圧症候群	8	18	26	35	23
前置胎盤（低置胎盤を含む）	8	4	3	1	2
その他産科・母体合併症	31	38	20	40	19
早期産	64	50	63	45	54
妊娠 34 週以上 37 週未満	51	37	50	33	39
妊娠 30 週以上 34 週未満	11	9	10	12	13
妊娠 30 週未満	2	4	3	0	2

注 1）　R1～R4 帝王切開の内訳は最も関連した病名を選択、R5・R6 は重複あり

その他

			令和3年度
D&C	妊娠 12 週未満	自然流産	26
		人工妊娠中絶	0
		胞状奇胎（partial mole(注1)）	1
	診断的掻爬	子宮内膜増殖症	12
		子宮体癌･頸癌	20
		子宮外妊娠	0
	遺残	分娩後卵膜遺残/胎盤遺残	1
分娩（妊娠 12 週以降 22 週未満）		自然流産	0
		人工妊娠中絶	0
		その他処置	1
		合計	61

			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
D&C	妊娠 12 週未満	自然流産	16	20	19	12
		人工妊娠中絶	0	0	1	0
		胞状奇胎（partial mole(注1)）	3	0	3	0
	診断的掻爬	子宮内膜増殖症	16	14	13	15
		子宮体癌･頸癌	29	18	10	6
		子宮外妊娠	0	2	0	0
	その他	その他	0	1	1	0
		合計	64	55	47	33

注 1）同一症例を 2 度以上 D&C 施行している場合あり

ART 統計

		2021
治療周期数		113
症例数（患者数）		38
助成金利用		113
	利用	49
	利用せず	64
平均年齢		36.54
適応		56
	卵管因子	10
	子宮内膜症	4
	男性因子	24
	原因不明	5
	排卵障害	8
	その他	5
卵巣刺激		113
	自然	0
	CC	0
	hMGorFSH	1
	GnRHagonist	1
	GnRHantagonist	44
	選択なし（凍結ET）	67
採卵法		113
	採卵に至らず	0
	経腟超音波	44
	経腹採卵	2
	凍結胚の融解	67
胚の種類（予定を含む）		113
	新鮮胚	46
	凍結胚	67
治療方法（予定を含む）		113
	IVF-ET	8
	顕微授精	33
	IVF+顕微	5
	融解胚	67
発育段階		113
	未受精	2
	初期胚	9
	胞胚	57
	2段階胚移植	3
	ETｷｬﾝｾﾙ（全胚凍結/採卵0）	31
	選択なし/不明/凍結胚0	11
移植胚数		113
	1個	56
	2個	12
	3個	1
	4個	0
	0個or選択なし	44
黄体期管理		113
	なし	44
	P	3
	hCG	0
	hCG+P	0
	ｴｽﾄﾛｹﾞﾝ+P	66
	選択なし	0
副作用		113
	なし	111
	出血	0
	感染	0
	OHSS	2
	選択なし	0
妊娠の有無（ETした件数で）		69
	妊娠無し	59
	未受精・ETｷｬﾝｾﾙ	-44
	妊娠あり	10
	妊娠率	14.49%
	流産/外妊/死産	6
	出生	2
	出生率	2.90%

		2022	2023	2024	2025
治療周期数		58	37	35	23
症例数（患者数）		23	15	12	10
平均年齢		37.48	37.30	37.77	37.50
卵巣刺激		58	37	35	23
	自然	0	0	0	0
	CC	1	0	0	0
	hMGorFSH	0	0	0	0
	GnRHagonist	22	18	19	11
	GnRHantagonist	3	0	0	0
	選択なし（凍結ET）	32	19	16	12
胚の種類（予定を含む）		58	37	35	23
	新鮮胚	0	0	0	0
	凍結胚	58	37	35	23
治療方法（予定を含む）		58	37	35	23
	IVF-ET	1	1	2	0
	顕微授精	19	10	14	6
	IVF+顕微	4	3	1	1
	融解胚	33	19	16	12
発育段階		58	37	35	23
	未受精	1	0	0	0
	初期胚	2	0	0	0
	胞胚	31	19	16	12
	2段階胚移植	0	0	0	0
	ETｷｬﾝｾﾙ（全胚凍結/採卵0）	18	15	18	10
	選択なし/不明/凍結胚0	6	3	1	1
副作用（OHSS）		2	0	1	0
ET件数		33	19	16	12
	妊娠あり	12	5	3	4
	妊娠率	36.36%	26.31%	18.75%	33.33%
	出生	3	1	3	2
	出生率	9.09%	5.26%	18.75%	16.66%

（※妊娠中2）

婦人科良性疾患手術

			令和3年度	
腹式手術	子宮腫瘍（子宮筋腫・子宮腺筋症）		61	99
		単純子宮全摘術	25	
		筋腫核出術	13	
		単純子宮全摘術＋両側/片側付属器切除術	23	
	卵巣腫瘍		36	
		卵巣嚢腫核出術	13	
		両側/片側付属器切除術	17	
		単純子宮全摘術＋両側/片側付属器切除術	5	
		卵管切除術	1	
	子宮外妊娠		0	
	術後創部感染	創部離開部位縫合術	0	
	その他		2	

膣式手術	子宮脱・膣式子宮全摘術＋ﾊﾙﾊﾞﾝ/膣閉鎖術	36	52
	ﾊﾙﾊﾞﾝ手術/膣閉鎖術	7	
	バルトリン腺膿瘍開窓術	1	
	産褥外陰血腫/止血術	2	
	シロッカー氏の手術	1	
	その他	5	

内視鏡下手術	腹腔鏡下手術		205	237
		卵巣嚢腫核出術	54	
		片側/両側付属器切除術	67	
		腹腔鏡補助下膣式子宮全摘術	65	
		腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術	4	
		多嚢胞性卵巣焼灼術	2	
		不妊症検査	0	
		子宮外妊娠	8	
		試験開腹術	1	
		その他	4	
	ロボット支援手術		8	
	子宮鏡下手術		24	
		粘膜下筋腫	10	
		内膜ポリープ	12	
		内膜症焼灼	0	
		その他	2	
			388	

*令和３年度のロボット支援手術：５件は施設基準の届出要件を満たすための手術

			令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
腹式手術	子宮腫瘍（子宮筋腫・子宮腺筋症）		35		40		27			
		単純子宮全摘術 単純子宮全摘術＋両側/片側付属器切除術	29		30		21		11	
		筋腫核出術	6	76	10	65	6	66	4	40
	卵巣腫瘍		39		22		35		22	
	その他		2		3		4		3	

膣式手術		骨盤臓器脱手術	26		19		22		9	
		バルトリン腺膿瘍開窓術	1	36	0	20	1	32	2	17
		シロッカー氏の手術	3		1		0		2	
		その他	6		0		9		4	

内視鏡下手術	腹腔鏡下手術		166		101		104			
		卵巣嚢腫核出術 片側/両側付属器切除術	97		57		59		65	
		腹腔鏡補助下膣式子宮全摘術	53		33		32		31	
		腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術	5		4		2		8	
		子宮外妊娠	8	225	5	183	8	143	4	161
		その他	3		2		3		14	
	ロボット支援手術		12		9		7		6	
	vNOTES		2		8		4		7	
	子宮鏡下手術		45		65		28		26	
			337		268		241		218	

*良性疾患手術内重複　８件

婦人科悪性腫瘍手術

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
診断名	合計	合計	合計	合計	合計
CIN/CIS（注１）	74	52	57	44	43
子宮頸癌（Ⅰ期以上）	12	12	5	5	6
子宮内膜異型増殖症	1	1	2	2	2
子宮体癌	45	46	32	19	22
境界型悪性　卵巣腫瘍（注 2）	8	8	8	3	5
卵巣癌	27	15	19	14	18
転移性卵巣癌（大腸癌等）	1	1	0	0	1
外陰癌	0	0	0	0	1
膣癌	0	0	0	0	0
腹膜癌(卵管癌)	3	1	2	1	3
その他	0	4	1	4	0
総件数	171	140	126	92	101

(注 1) cervical intraepitherial neoplasma

(注 2) low malignant potencial

18. 眼 科

【業務活動状況】

入院・外来概要・手術概要

年 間 疾 患 別 入 院・外 来 概 数

病 名	令 和 3年度	令 和 4年度	令 和 5年度	令 和 6年度	令和7年度	
					入 院	外 来
白内障	275	250	345	274	274	248
白内障＋緑内障（同時手術）	0	0	58	27	14	29
白内障＋硝子体（同時手術）	0	0	0	0	25	13
緑内障	0	0	10	24	23	18
網膜硝子体疾患	0	0	26	71	25	206
角膜潰瘍	0	0	0	0	0	0
角膜裂傷	0	0	0	0	0	0
結膜裂傷	0	0	0	0	0	1
網膜下出血	0	0	0	0	0	1
網膜血管炎	0	0	0	0	0	1
結膜化膿性肉芽腫	0	0	0	0	0	2
眼窩脂肪ヘルニア	0	0	0	0	0	1
眼窩内反症	0	0	0	0	0	4
虹彩血管新生	0	0	0	0	0	2
シリコーンオイル挿入眼	0	0	0	0	1	0
翼状片	0	0	0	0	1	16
眼内レンズ亜脱臼	0	0	0	0	4	1
ぶどう膜炎	1	0	0	0	0	5
眼窩部蜂巣炎	0	0	0	0	0	0
角膜穿孔	0	0	0	0	0	0
強膜裂傷	0	0	0	0	0	0
視神経炎	0	0	0	0	0	0
眼球破裂	0	0	0	1	2	0
網膜動脈分枝閉塞症	0	0	0	0	0	0
糖尿病網膜症	0	0	0	0	0	0
甲状腺症	0	0	1	0	0	0
眼内炎	0	0	0	0	3	0
眼窩内反症	0	0	0	0	0	0
合 計	276	250	440	397	372	548

年 間 疾 患 別 手 術 概 数

コード	病　名	令　和 3年度	令　和 4年度	令　和 5年度	令　和 6年度	令　和 7年度
G015	ぶどう膜炎	0	3	3	3	1
	嚢胞様黄斑浮腫	4	0	4	5	5
	網膜血管炎	0	0	0	0	1
G016	硝子体内注射	0	0	25	94	206
K217-2	眼窩内反症手術（皮膚切開法）	7	3	3	7	5
K219	眼瞼下垂	0	0	0	0	0
K224	翼状片	5	12	7	6	17
K239	眼球内容除去	0	0	0	0	1
K241	眼球摘出術	0	0	0	0	0
K246	結膜・強膜縫合術	0	0	0	0	1
K268-2-イ	流出路再建術/眼内法	0	2	38	14	9
K268-3	濾過手術	0	0	0	15	10
K268-4	緑内障治療用インプラント挿入術/プレートのないもの	0	0	13	37	52
K268-5	緑内障治療用インプラント挿入術/プレートのあるもの	0	0	0	0	5
K268-6	水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術	0	0	19	8	6
K268-7	濾過胞再建術/needle 法	0	0	0	0	5
K279	硝子体切除術	0	0	37	75	10
K280-1	硝子体茎顕微鏡下離断術(網膜付着組織を含むもの)	0	0	0	0	43
K280-2	硝子体茎顕微鏡下離断術（その他のもの）	0	0	0	0	19
K281	増殖性硝子体網膜症手術	0	0	0	0	17
K282-1	水晶体再建術（眼内レンズを挿入するもの）	274	250	484	463	603
K282-2	水晶体再建術（眼内レンズを挿入しない場合）	1	0	14	13	4
K284	硝子体置換術	0	0	0	0	1
K269	虹彩整復・瞳孔形成術	0	0	0	0	3
K274	前房・虹彩内異物除去術	0	0	0	0	2
K275	網膜復位術	0	0	0	0	1
K220	結膜縫合術	0	0	0	0	1
K223-1	結膜嚢形成手術（部分形成）	0	0	0	0	1
K225-3	結膜肉芽腫摘除術	0	0	0	0	2
―	その他内眼部手術	1	1	3	5	0
―	その他外眼部手術	2	13	4	10	0
合　計		294	284	654	755	1,031

19. 耳 鼻 いん こう 科

【業務活動状況】

耳鼻咽喉科全般の診察を医師4人体制で行っております。耳鼻咽喉科専門医/指導医は1人で、専攻医が3名です。今後も専攻医が交代で着任し、勤務する予定です。

外来は、主に院内か開業医からの紹介患者です。診察は午前中に行い、午後は特殊な検査や処置、外来手術を行っています。

入院患者は、手術患者、突発性難聴や顔面神経麻痺や扁桃炎などの点滴治療患者、頭頸部悪性腫瘍患者で大半を占めます。

耳科手術症例は、静岡済生会病院の中耳手術・耳管センターの遠藤医師よりご指導いただき、月に一度、専門外来として耳外来を開設しており、診察していただいています。鼻科手術は、症例を増やしてきており、汎副鼻腔炎や鼻副鼻腔腫瘍、拡大前頭洞手術、鼻中隔彎曲症の前彎矯正など、内容もより高度で複雑な手術症例にシフトし、手術以外にも生物学的製剤の導入など積極的に行っています。甲状腺腫瘍や耳下腺腫瘍は、初診時から超音波検査から細胞診での診断を迅速に進め、手術適応を判断し積極的に手術治療を進めています。原発性副甲状腺機能亢進症の手術依頼をいただくことも多くありました。

頭頸部悪性腫瘍では、一次治療は手術を目指す方針になるためHigh volume centerへ紹介することが多いのですが、緩和化学療法や終末期医療のサポートは地域に必要とされる医療として、積極的に対応しています。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

病 名	令 和 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度
眩暈症	8	9	6
感音性難聴	40	33	23
顔面神経麻痺	21	18	10
慢性中耳炎	6	11	16
慢性副鼻腔炎	20	15	35
鼻出血	2	11	4
鼻・副鼻腔腫瘍	3	12	11
急性咽喉頭炎	5	4	8
慢性扁桃炎	51	57	76
喉頭腫瘍	9	11	13
頸部腫瘍	0	0	0
先天性耳瘻孔	2	3	0
唾液腺腫瘍	17	11	11
口腔・咽頭腫瘍	11	17	11
声帯ポリープ	4	2	6
睡眠時無呼吸症候群	21	33	39
その他	90	69	79
合計	310	316	348

病　名	令　和 6年度	令　和 7年度
眩暈症	7	15
感音性難聴	17	22
顔面神経麻痺	12	9
中耳炎	13	10
副鼻腔炎	43	68
鼻出血	6	4
鼻・副鼻腔腫瘍	4	2
急性咽喉頭炎	22	2
慢性扁桃炎	60	71
口腔・咽頭腫瘍	10	7
睡眠時無呼吸症候群	33	28
喉頭腫瘍・喉頭疾患	16	7
唾液腺腫瘍	11	9
甲状腺腫瘍	29	2
副甲状腺腫瘍	7	14
その他	31	56
合計	321	326

年　間　疾　患　別　手　術　件　数

病　名	令　和 3年度	令　和 4年度	令　和 5年度	令　和 6年度	令　和 7年度
耳疾患					
鼓室形成術	2	5	6	8	1
先天性耳瘻孔摘出術	2	3	0	1	4
外耳腫瘍摘出術	0	0	0	0	1
鼓室内チューブ留置術	5	10	9	9	16
その他耳手術	4	0	1	2	3
鼻疾患					
内視鏡下鼻内副鼻腔手術	39	42	92	71	114
鼻副鼻腔腫瘍手術	3	3	4	2	1
鼻中隔矯正術	0	2	4	8	3
その他鼻手術	1	2	6	2	8
口腔咽頭疾患					
扁桃摘出術・アデノイド	88	69	86	104	82
耳下腺腫瘍摘出術	3	6	7	8	7
顎下腺摘出術	5	1	4	5	6
口腔咽頭腫瘍	3	1	3	0	1
その他口腔咽頭手術	5	0	4	6	7
喉頭頸部疾患					
ラリンゴマイクロ手術	14	12	13	12	8
気管切開術	14	11	11	13	8
リンパ節摘出術	9	5	8	11	9
甲状腺手術	38	25	38	28	5
その他喉頭頸部手術	19	18	15	22	17
合計	254	215	311	312	301

・手術側が『両側』であるものおよび扁桃手術においては手術1件につき2として計測した

20. 放 射 線 科

■放射線科診断部門

【業務活動状況】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年比(%)
読影総数	13,060	14,714	14,951	15,263	15,570	102
常勤	7,360	7,329	6,833	6,513	5,246	81
外勤	5,700 (44%)	7,385 (50%)	8,118 (54%)	8,750 (57%)	10,324 (66%)	118
・外科	2,457 (25%)	2,277 (15%)	2,287 (15%)	2,298 (15%)	2,526 (16%)	110
・消化器科	2,334 (21%)	2,221 (15%)	2,348 (16%)	2,269 (15%)	2,342 (15%)	103
・泌尿器科	1,594 (9%)	2,272 (15%)	2,210 (15%)	2,088 (14%)	1,931 (12%)	92
・産婦人科	1,310 (12%)	1,361 (9%)	1,218 (8%)	1,271 (8%)	1,378 (9%)	108
検査内容別						
Ⅰ.CT(報告書作成分)	10,722 *4,867	11,672 *5,879	11,798 *6,455	12,347 *7,171	12,685	103
(うち常勤分)	5,855 (55%)	5,793 (50%)	5,343 (45%)	5,176 (42%)	4,083 (32%)	
・外科	2,221 *1,004	2,080 *1,113	2,067 *1,035	2,102 *1,247	2,265	108
・消化器科	1,654 *191	1,518 *176	1,593 *142	1,568 *227	1,615	103
・泌尿器科	1,365 *1,289	1,721 *1,415	1,674 *1,362	1,577 *1,429	1,438	91
・産婦人科	763 *201	854 *357	831 *477	862 *598	918	106
・救急及び時間外(躯幹)	2,473 (23%)	3,574 (31%)	3,498 (32%)	4,485 (36%)	4,802 (38%)	107
(剖検画像)	44	41	70	50	11	
・病診連携	380	379	395	431	573	133
Ⅱ.MR(報告書作成分)	2,331 *831	2,660 *1,131	2,644 *1,165	2,517 *1,184	2,632 *1,473	105
(うち常勤分)	1,500 (71%)	1,529 (57%)	1,479 (56%)	1,333 (53%)	1,159 (44%)	
・腹部	914 *283	945 *280	1.024 *305	1,056 *330	1,141	108
・産婦人科	542 *93	498 *102	384 *67	407 *108	462	114
・泌尿器科	229 *212	283 *262	302 *268	288 *265	261	91
・乳房	102	108	78	94	112	
・脊椎	80 *79	190 *190	205 *201	185 *198	164	
・四肢	76 *76	148 *147	160 *156	137 *137	115	
・DWIBS	312	348	440	268	263	98
(うち検診分)	204 (65%)	256 (74%)	326 (78%)	211 (79%)	207 (79%)	98
・病診連携	64	83	101	117	155	132
Ⅲ.RI(報告書作成分)		381	503 *495	396	248	

* 外勤依頼分

常勤1名　非常勤5名

病診連携からの依頼がCT,MRIともに前年より30%増加

この形式による活動状況の報告は、今回が最後になるかもしれない。

■治療部門

原発巣別患者内訳

疾患名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
肺・縦隔	21	20	11	13	9
乳腺	50	37	40	30	55
頭頚部	10	9	11	9	11
泌尿器・男性生殖器	30	46	22	28	23
肝・胆道・膵	2	2	1	6	4
結・直腸・肛門	7	6	4	9	10
女性生殖器	19	17	21	14	24
血液（リンパ腫を含む）	9	5	3	7	1
中枢神経	0	0	0	0	0
食道	3	6	2	5	9
胃	3	5	1	0	0
皮膚・軟部	3	2	4	0	1
他（原発不明を含む）	6	2	0	0	0
合計	**163**	**157**	**120**	**121**	**147**

21. 麻 酔 科

【業務活動状況】

１．業務体制

麻酔科科医は 12 名（常勤 1 名、非常勤 11 名）である。平日の日勤帯は毎日 5-6 名が業務にあたっており、土曜日、日曜日、夜間においては浜松医科大学などの協力により緊急手術は麻酔科管理で行われている。

２．麻酔件数

令和 7 年度の麻酔科管理の総麻酔件数は 3,214 件であった。各麻酔方法の内訳は表に示す通りである。麻酔方法の内訳は全身麻酔はやや増加、腰椎麻酔と硬膜外麻酔は横ばいである。

３．麻酔相談外来

ハイリスク症例は主治医が麻酔科にコンサルトできる体制を構築している。令和 7 年度の麻酔相談外来患者数は 179 件であり増加傾向である。

４．術後疼痛管理チームの立ち上げ

令和 7 年 6 月から活動を開始した。令和 7 年度の実施対象者は 69 名である。

５．無痛分娩立ち上げのためのワーキンググループの活動

令和 8 年の無痛分娩導入を目標に定期的な多職種会議や他院への見学を実施した。

麻酔法別年度比（麻酔科が行った症例に限る）

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
全身麻酔	2,279	2,256	2,259	2,239	2,424
腰椎麻酔	196	223	193	169	175
硬膜外麻酔	658	632	610	541	615
合計	3,133	3,111	3,062	2,949	3,214

22. 病 理 診 断 科 / 病 理 室

【業務活動状況】

常勤病理医２名(1 名は専攻医)、臨床検査技師は６名で、病理検査診断業務にあたった。臨床検査技師のうち、病理室に所属する細胞検査士は５名である。

組織診についてはすべての症例において複数の専門医が別個に検討し、診断精度を維持するよう努めている。診断に難渋する希少症例については、埼玉医大医療センターや東京大学附属病院病理部、日本病理学会の推薦したコンサルタントに意見を求めるほか、浜松医大をはじめとする県内他施設の病理専門医と検討した。

細胞診については、すべての症例について２名の細胞検査士が検鏡し、偽陽性以上の症例を病理医が review した。

臨床病理検討会 CPC を８回開催した。

医療法人甲賀病院からの解剖業務の受け入れを行っているが、実施実績はなかった。

患者への病理診断の説明に外科外来へ、また、迅速細胞診のために気管枝鏡検査へ細胞検査士を派遣している。

静岡県臨床細胞学会において、当院病理診断科 久力と、病理室 田森が理事を務めている。

病 理 検 査 統 計

病理組織診　　（件数）

病理組織診	診療科	生検材料	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	手術材料	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	総合診療内科		14	16	17	21	12		0	0	0	1	0
	呼吸器内科		13	6	8	13	5		0	0	0	0	0
	消化器内科		948	868	883	815	887		17	16	19	13	9
	循環器内科		0	1	0	0	0		0	0	0	0	0
	内科（血液）		43	62	84	109	114		0	0	0	0	0
	代謝・内分泌内科		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0
	脳神経内科		14	11	12	21	16		0	0	0	0	1
	腎臓内科		31	33	34	38	35		0	0	0	0	0
	精神科		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0
	小児科		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0
	外科		225	230	185	236	209		448	414	404	397	477
	整形外科		4	11	8	5	7		26	16	19	11	14
	形成外科		8	14	19	19	10		441	448	411	401	344
	脳神経外科		3	1	2	0	3		18	8	8	12	11
	皮膚科		114	152	122	101	88		1	5	8	4	1
	泌尿器科		394	370	296	269	253		123	117	105	79	104
	産婦人科		289	282	280	229	246		604	493	419	371	355
	眼科		0	7	2	7	2		1	2	2	2	2
	耳鼻咽喉科		84	97	131	123	132		127	97	131	131	99
	歯口腔外科		186	132	147	123	108		23	12	19	10	11
	健康診断		98	71	69	41	45		0	0	0	0	0
	その他		13	10	15	11	6		0	5	1	1	4
	小計		2,482	2,377	2,324	2,181	2,186		1,834	1,634	1,547	1,433	1,432
	ブロック数		4,522	3,867	3,733	3,555	3,586		18,499	17,118	15,349	12,283	12,521

病理組織診

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
院内検査	免疫組織染色件数	1,102	1,048	1,099	1,193	1,100
	染色枚数 組織診	3,559	3,136	3,348	3,435	3,471
	染色枚数 細胞診	122	39	79	105	93
	染色枚数 剖検	24	42	11	54	69
	染色枚数 合計(枚)	3,705	3,217	3,438	3,594	3,633
	保有抗体種類数	139	142	153	155	165
	ER/PgR	85	85	85	89	101
	HER2/neu(IHC)	10	12	8	4	2
	HER2/FISH	52	44	50	55	60
	蛍光抗体法	45	42	29	30	24
外注検査	大　腸　HER2		2	12	17	31
	大 腸 RAS/BRAF	22	12	25	23	32
	PDL-1	18	26	22	27	39
	ｵﾝｺﾏｲﾝDx,Amoy	6	4	9	19	20
	MSI	32	39	39	45	56
	My Choice (HRD)	5	6	7	5	6
	BRCA	5	6	5	10	7
	FCM	22	13	15	21	18
	電顕	22	24	27	30	21

病理細胞診

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
細胞診	婦人科	2,557	2,580	2,634	2,424	2,375
	呼吸器	143	108	113	100	92
	体腔液	267	241	244	219	241
	消化器	53	78	45	46	59
	泌尿器	1,759	1,561	1,338	1,234	972
	乳腺	51	39	32	33	24
	脳神経	75	61	65	55	50
	甲状腺	109	112	111	130	98
	口腔・鼻腔	28	37	32	27	31
	皮膚・軟部	23	11	17	13	11
	造血器	21	17	18	16	14
	感覚器	0	4	1	0	0
	集検	599	380	522	388	485
	小計	5,685	5,229	5,172	4,685	4,452

迅速診検査

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
組織診迅速	106	101	80	78	79
細胞診迅速	32	27	17	24	22

病　理　解　剖　統　計　（対象死亡者数：解剖未実施の死産、検案、外来死亡等を除く。）

診療科		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
総合診療内科	死	22	46	39	56	30
	剖	0	0	1	2	0
消化器内科	死	84	55	76	68	76
	剖	0	0	0	2	1
代謝・内分泌内科	死	1	1	0	1	0
	剖	0	0	0	0	0
循環器内科	死	37	27	24	23	36
	剖	0	0	1	0	0
血液内科	死	2	1	1	0	0
	剖	0	0	0	0	0
腎臓内科	死	37	31	39	34	25
	剖	2	0	0	1	1
呼吸器内科	死	4	6	2	1	1
	剖	0	0	0	0	0
脳神経内科	死	45	40	52	46	54
	剖	3	3	1	3	6
小児科	死	0	0	0	0	0
	剖	0	0	0	0	0
外科	死	46	47	40	34	27
	剖	0	0	0	0	0
整形外科	死	2	7	7	1	3
	剖	0	0	0	0	0
脳神経外科	死	25	27	20	13	12
	剖	0	0	0	0	0
産婦人科	死	5	17	6	5	18
	剖	0	1	1	0	0
耳鼻咽喉科	死	0	2	5	7	2
	剖	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	死	0	0	0	0	0
	剖	0	0	0	0	0
泌尿器科	死	22	21	12	10	9
	剖	1	0	0	0	1
皮膚科	死	0	0	1	1	2
	剖	0	0	0	0	0
形成外科	死	1	0	1	1	2
	剖	0	0	0	0	0
眼科	死	0	0	0	0	0
	剖	0	0	0	0	0
救急科	死	0	0	2	4	1
	剖	0	0	0	0	0
合計	死	333	328	327	305	298
	剖	6	4	4	8	9

23. 歯 科 口 腔 外 科

【業務活動状況】

外来初診患者数、紹介率は昨年度と大きな違いはありませんが、院内からの紹介患者は所謂「周術期口腔機能管理」の増加により初診患者数は増加となってきています。

年間の手術数（内容）も概ね昨年度までと変わりありません。

なお、来年度は医師の退職、異動、コメディカルスタッフの配置再編などが予定されており、外来の体制にもその影響が及ぶ可能性が考えられます。

年 間 疾 患 別 入 院 概 数

病　名	令　和 3年度	令　和 4年度	令　和 5年度	令　和 6年度	令　和 7年度
1. 抜歯関連	169	157	173	189	164
過剰歯	(7)	(12)	(4)	(10)	(7)
埋伏歯	(146)	(116)	(148)	(166)	(146)
多数歯・単純抜歯	(16)	(29)	(21)	(13)	(11)
2. 奇形・発育異常	3			1	1
小帯強直症	(3)			(1)	(1)
3. 外傷	1		2	2	3
下顎骨骨折	(1)		(1)	(2)	(1)
抜釘目的			(1)		(2)
顔面多発骨折					
4. 嚢胞	40	48	38	31	33
顎嚢胞	(40)	(48)	(38)	(31)	(32)
軟組織嚢胞					(1)
5. 炎症	1	5	9		2
蜂窩織炎		(1)	(5)		
骨髄炎	(1)	(3)	(3)		(2)
インプラント周囲炎		(1)	(1)		
6. 腫瘍	9	4	14	7	10
良性腫瘍	(9)	(4)	(14)	(7)	(10)
7. 口腔粘膜疾患	1			1	
8. 唾液腺疾患					
9. その他	2	1	1	1	
骨隆起	(1)		(1)		1
顎骨内異物	(1)				(1)
歯槽骨整形術		(1)		(1)	
合　計	226	215	237	232	214

年 間 疾 患 別 手 術 件 数

病　名	令　和 3年度	令　和 4年度	令　和 5年度	令　和 6年度	令　和 7年度
1.抜歯術	169	156	173	189	163
埋伏歯/過剰歯	(153)	(127)	(152)	(176)	(152)
多数歯・単純抜歯	(16)	(29)	(21)	(13)	(11)
2.奇形・先天異常・発育異常	4		1	1	2
小帯切離移動術	(3)			(1)	(1)
骨隆起形成術	(1)		(1)		(1)
3.外傷		1	2	2	3
下顎骨骨折観血的整復術			(1)	(2)	(1)
抜釘術			(1)		(2)
4.嚢胞	40	47	38	31	33
顎嚢胞摘出術	(40)	(47)	(38)	(31)	(32)
顎骨嚢胞開窓術					
軟組織嚢胞摘出術					(1)
5.腫瘍	8	3	13	5	9
腫瘍切除術（良性）	(8)	(3)	(13)	(5)	(9)
6.その他	4	5	5	4	3
腐骨除去		(3)	(3)		(2)
インプラント除去術		(1)	(1)		
顎骨内異物	(1)				
生検	(3)		(1)	(2)	(1)
白板症切除術				(1)	
歯槽骨整形術		(1)		(1)	
合　計	225	212	232	232	213

24. 内 視 鏡 室

【業務活動状況】

１．業務体制

内視鏡室のスタッフは看護師5名、看護補助者1名、事務1名である。上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査、小腸内視鏡検査（カプセル、バルーン内視鏡）、ERCP、EUS、気管支鏡、膀胱鏡検査の業務に関わっている。医師は消化器内科、呼吸器内科、外科、泌尿器科がそれぞれの検査にあたっている。夜間休日を含め24時間体制で緊急内視鏡検査ができるように看護師も当番制で対応している。

２．体位固定具の導入

ERCP検査時に被験者が動いた場合に医師や看護師による抑制を行っており、被曝量の多さが問題であった。本年度、体位固定具（メドーVフィックス）を導入した。体をしっかり固定することが可能となり、患者の体動が劇的に減少した。また、今まで行っていた介助者による抑制が不要となることが多くなり、介助者の被曝量が低減されただけでなく、ERCP手技の安定性向上とタイムロス軽減に繋がった。

３．経費削減

本年度も内視鏡処置具の見直しを行い経費削減に心掛けた。

【年間業務報告】

内視鏡件数はほぼ例年と変わりなかった。

年 間 検 査 別 内 視 鏡 件 数

	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度
上部消化管内視鏡検査（総件数）	2,207	2,357	2,186	2,018
内視鏡的止血術	73	86	87	78
止血以外の処置（ESD、PEG 等）	68	56	46	72
大腸内視鏡検査（総件数）	991	1,476	972	1,070
内視鏡的止血術	34	36	24	30
止血以外の処置（EMR、ESD 等）	488	467	423	511
ERCP	281	216	224	189
気管支鏡	47	45	64	51
膀胱鏡	888	798	811	737

25. 中 央 手 術 室

【業務活動状況】

1. 業務体制

手術室看護師は25名（うち師長1名、副師長3名）である。看護補助者は7名であり、その内2名は手術室の清掃、5名が中材業務に関わっている。麻酔科医師は平日の日勤帯は常勤医師1名、非常勤医師が4～5名が業務にあたり、土曜日、日曜日、夜間においても浜松医大などの協力により緊急手術は麻酔科管理で行われている。

2. 手術件数

今年度の手術件数は4,468件で、手術件数の多い診療科は眼科、外科、泌尿器科、整形外科であった。眼科は年間920件の手術で前年度より236件増(35%増)、外科は年間802件で前年度より130件増(19%)であった。前年度と比較し手術件数が減少しているのは産婦人科18件減少（4%減)、形成外科119件減（39%減）であった。緊急手術は年間531件であり、外科、産婦人科、整形外科が多くを占めている。また麻酔科管理の手術は2,972件、うち全身麻酔による手術は2,264件であった。

3. 手術枠の調整

今年度4月～12月の手術稼働率をもとに、より効率的に手術枠を使用できるように次年度の手術枠を検討した。

4. 業務のタスクシフト

1）昨年度に引き続き、手術室業務を見直し、看護師が看護に専念出来る事を目標としてタスクシフトに取り組んでいる。NHSには予定手術のピッキング、鋼性小物の準備、術後の診療材料の片付けなど業務のタスクシフトを徐々に拡大している。

2）今年度より臨床工学技士の手術直接介助業務を導入した。手術室看護師が清潔操作や手術直接介助の教育を行い、現在5名の臨床工学技師がローテーションで手術室業務に就いている。今後も計画的に臨床検査技師の手術室業務拡充をめざしていく。

5. 術後疼痛管理チームの体制作り

手術後の患者において「疼痛スコアの減弱」「生活の質の向上」「合併症の予防」を目的に術後疼痛管理チームの活動を開始し、今年度は69件の術後疼痛管理を実施した。また訪問の条件を満たし「術後疼痛管理チーム加算」が認められた。次年度はチームメンバーを増員し対象患者を拡大していきたい。

6. 経費の削減

NHSと情報交換し、診療材料を把握して適宜定数の見直しを行っている。また、NHSを通して業者の切り替えや代品への変更により9,650,536円の削減効果が得られた。

手 術 件 数 診 療 科 別 年 度 比

診療科	令 和 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度
外　　科	751	693	675	672	802
整 形 外 科	687	754	734	669	715
脳 神 経 外 科	151	104	122	116	130
産 婦 人 科	746	670	575	497	479
眼　　科	298	276	610	684	920
耳 鼻 咽 喉 科	196	164	214	227	228
泌 尿 器 科	910	846	775	735	769
口 腔 外 科	233	241	232	233	212
形 成 外 科	581	399	293	309	190
麻酔・皮膚科	3	7	0	0	0
脳 神 経 内 科	4	2	7	7	0
腎 臓 内 科	25	22	26	26	22
そ　の　他					
合　計	4, 585	4, 178	4, 263	4, 175	4,468

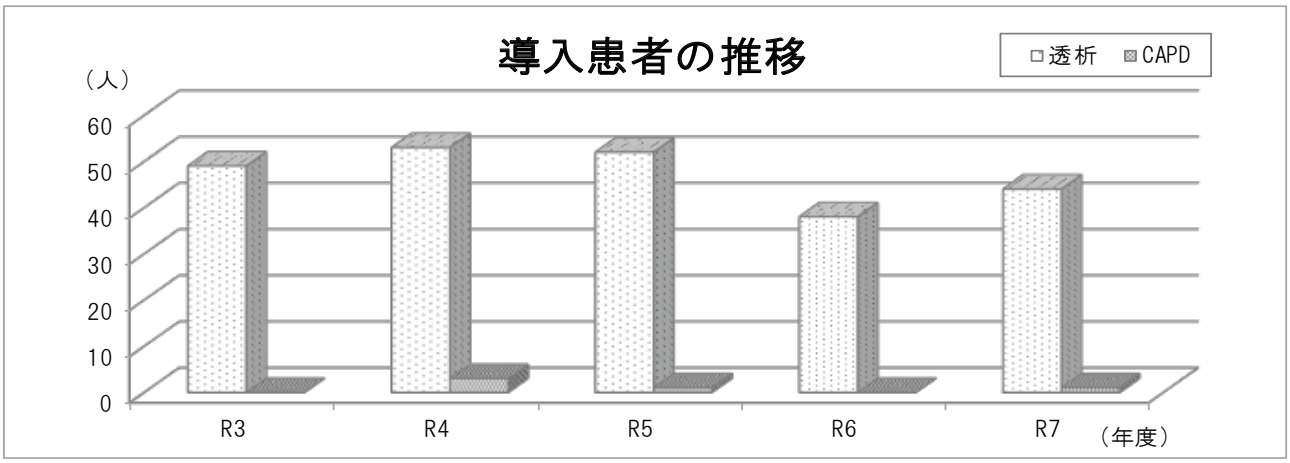
麻 酔 法 別 年 度 比

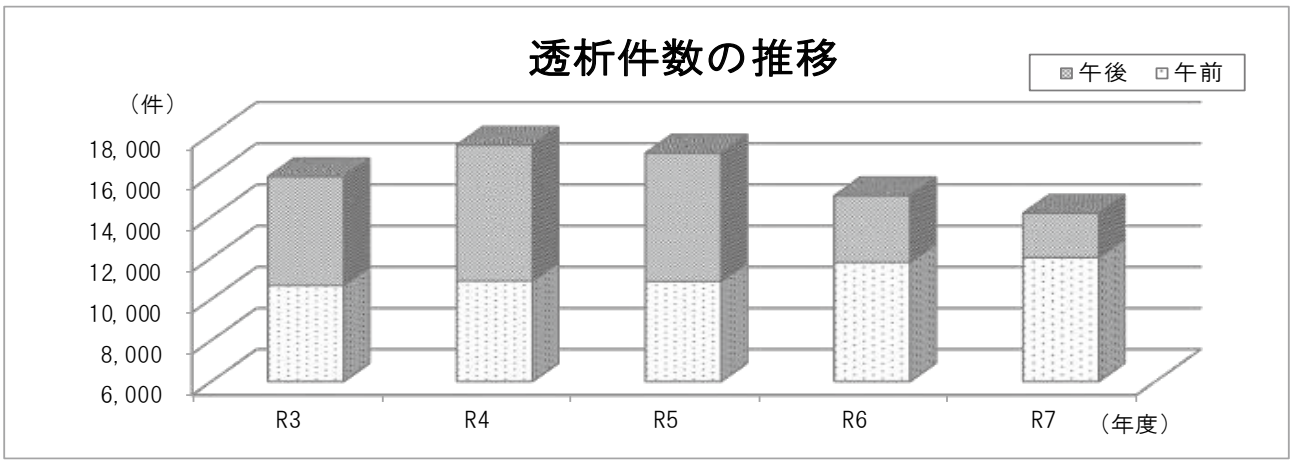
麻酔法別	令 和 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度
全 身 麻 酔	2, 283	2, 257	2, 264	2, 247	2,377
腰 椎 麻 酔	635	561	481	460	450
硬膜外麻酔	658	618	677	543	615
局 所 麻 酔	1, 207	940	859	1, 429	1,392
静 脈 麻 酔	255	240	222	240	205
合　計	5, 038	4, 616	4, 503	4, 919	5,039

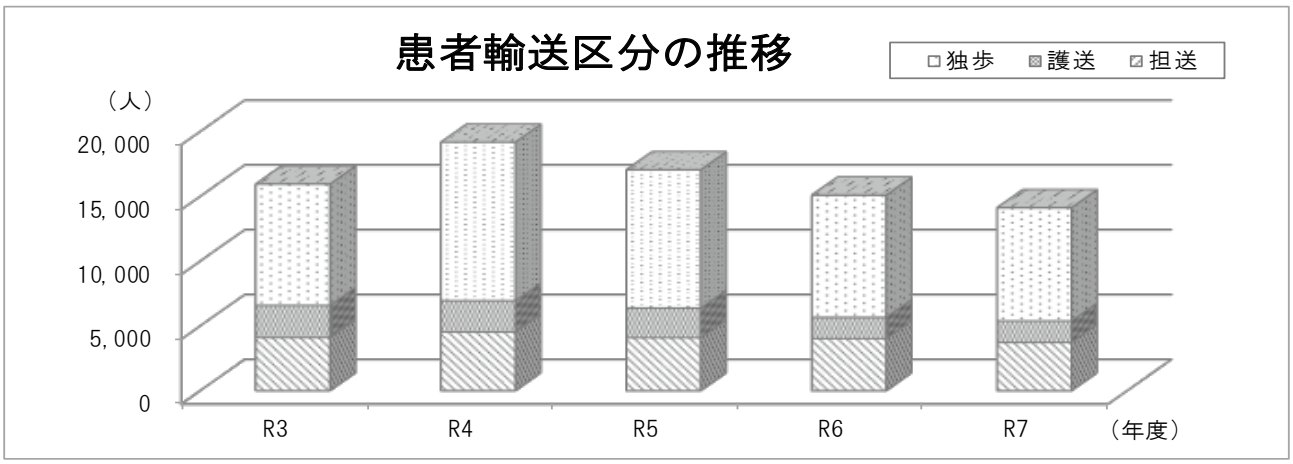
26. 血 液 浄 化 療 法 室

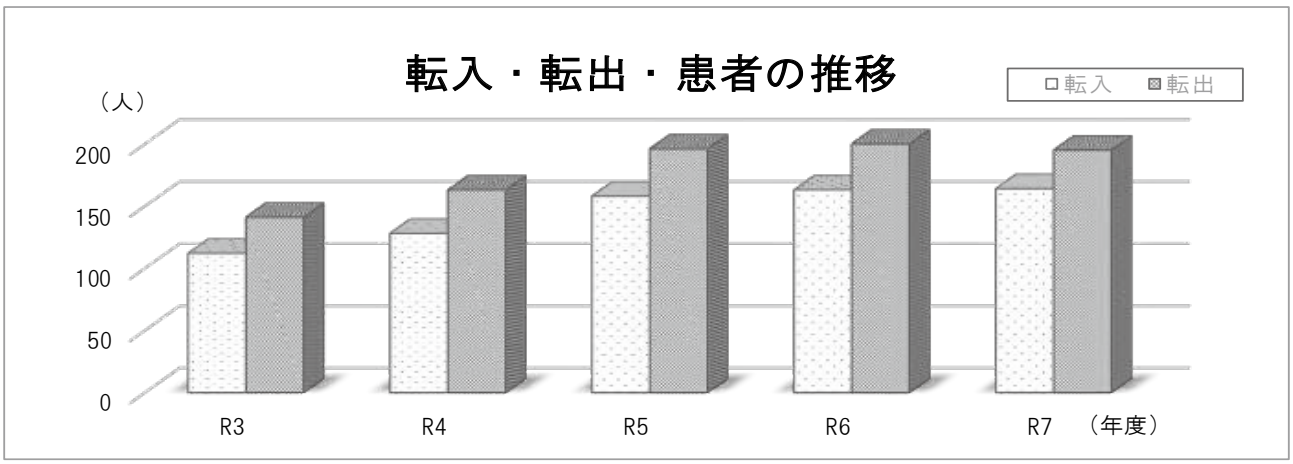
【業務活動状況】

・透析可動ベッド数：午前35床、午後23床
　月水金2クール（午前・午後）　火木土１クール（午前）
　第2血液浄化療法室　月水金（午前）11床　火木土（午前）5床
・維持透析患者数：93名（令和8年3月31日現在）
・透析件数：別表参照
・その他の血液浄化療法件数：業務状況の臨床工学科参照
・今年度は生体腎移植を2例実施。術前・必要時は術後の透析を実施した。
・前年度同様、体重増加や検査結果により必要時個別で栄養指導を行った。
・毎月1回足観察を行い、医師と情報共有することで異常の早期発見に役立て、下肢末梢動脈疾患指導管理加算を取得している。
・業務内容は血液透析（HD,HDFを含む）CAPD（腹膜透析）・免疫吸着・血漿交換など多岐にわたり、周術期及び重症患者など移動困難を来す場合には病棟での血液透析やCHDF（持続的血液濾過透析）を行っている。また、透析導入前には選択ビデオを見て頂き、不安や疑問に対応している。また血液透析導入後も透析看護師による継続した指導を行っている。必要時栄養士や地域の薬剤師に指導を依頼し、多職種との連携を行っている。
・医師、臨床工学技士、看護師にて、患者症例カンファレンスを定期的（第2，4木曜日）に行っている。患者の情報共有や治療方針の確認に役立っている。
・透析実施曜日により透析担当科が異なり、泌尿器科、腎臓内科、総合診療内科にて回診を行っている。
・透析装置安全管理委員会を定期的（月1回以上）に開催し、透析液の管理状態を報告している。
・医師、臨床工学技士、看護師で血液浄化療法室運営会議を毎月（第3火曜日）実施しており、運営に関する方針を話し合いにて決定している。
・看護師、臨床工学技士との合同カンファレンスを適宜実施し、スタッフ間の情報交換及び業務改善、決定事項の確認を行っている。
・災害対策に関して、スタッフには実際に仮設トイレの設置体験を行い、患者に対しては災害時のパンフレットを使用し透析中や自宅で地震が起きたときの対応を指導している。
・ここ数年、患者への集団学習会は開催していないが、栄養士がパンフレットを作成し、夏と冬（年末年始）に食事面での注意点を個別に指導を行った。
・新型コロナ感染患者・インフルエンザ罹患患者の透析治療も昨年同様テント内にて実施した。
・血液浄化療法室専用の超音波画像診断装置にて、穿刺困難・血流不足等に瞬時に使用することができ、定期的なシャント超音波検査にて狭窄部位や血流量の評価を行っている。
・昨年は164人の転入患者を受け入れた。他院で維持透析を行っていたが脳血管疾患・消化器疾患・整形外科疾患等により入院した患者やシャント閉塞などの患者を受け入れている。
・毎週木曜日午前・午後枠にて腎代替療法選択指導士3名による腎代替療法選択指導を行っている。
・腎臓リハビリテーションを今年度2名の患者に実施した。


導入患者の推移
□透析 ▨CAPD
（人）
60
50
40
30
20
10
0
R3
R4
R5
R6
R7
（年度）


透析件数の推移
▨午後 □午前
（件）
18, 000
16, 000
14, 000
12, 000
10, 000
8, 000
6, 000
R3
R4
R5
R6
R7
（年度）


患者輸送区分の推移
□独歩 ▨護送 ▨担送
（人）
20, 000
15, 000
10, 000
5, 000
0
R3
R4
R5
R6
R7
（年度）


転入・転出・患者の推移
□転入 ▨転出
（人）
200
150
100
50
0
R3
R4
R5
R6
R7
（年度）

27. 救 急 科

【業務活動状況】

(1) 診療体制

365 日 24 時間体制で、救急患者の受け入れをしています。救急部門は、看護部は専属 25 名で、ほぼ独立しており 3 交代制で勤務しています。医務部は、各科当番制の対応に加え、平日日勤帯は救急科の医師 2 名体制を継続しています。また、今年度から平日日勤帯に救急救命士 2 名が勤務しております。志太榛原地区を中心に救急患者を受け入れています。循環器内科の常勤医師は 2 名の体制ですが、カテーテル治療などは他院へ搬送しています。また、休日を中心に多くの非常勤医師の応援による救急診療も継続されています。救急診療の効率化のため、全救急患者に対し看護師によるトリアージを実施しています。

(2) 研修体制

研修医は、昨年度と同様に週 2 回程度の日当直を通年行うことと平日日勤帯に救急専属で 1 ヶ月間の研修をしました。また、救急セミナー、メディカルコントロール講習会などをとおして、必須の研修項目の履修をしました。救急救命士の研修も、例年どおり病院研修を実施しました。

(3) メディカルコントロール

4 月に指導医師の研修会を行いました。救急救命士などに対する直接指導を施行しました。心肺停止患者の検証会を毎月 1 回開催しました。また、志太榛原メディカルコントロール検討会に参加しました。

(4) 災害医療

DMAT の技能維持訓練や国、中部ブロック、県の DMAT 訓練に参加しました。院内の災害学習会を開催しました。

(5) 設備・物品

救急室患者一覧モニターを 2 台購入し、速やかな情報の共有が可能となりました。

【診療実績】

令和 7 年度の救急患者の内訳は患者統計を参照してください。

全体では、17,598 人（時間内救急患者 4,590 人、時間外救急患者 13,008 人）でした。これは昨年度より 461 人の減少でした。また、救急室からの入院は 4,385 人で、昨年と比べ 57 人の増加でした。救急受診の患者の約 24.9%が入院となりましたが、入院率は昨年より 0.9%の増加でした。救急車受け入れ台数は、4,764 台で昨年度より 2 台の増加となりました。

救急室の患者は、1 日平均受診者約 48 人で、救急からの入院患者約 12 人でした。昨年度と比べ、受診者も入院患者も大きな変動はありませんでした。2 次救急医療の役割を十分果たしていると思われます。当院を含め志太榛原地区の基幹病院間の連携がうまく機能していると思われます。

28. 健 康 管 理 セ ン タ ー

【業務活動状況】

人間ドックと健康保健指導・生活習慣病予防健診(船員ドック･協会けんぽ)・労働安全衛生法に基づく事業所健診・就職や就学時等の公的病院指定個人健診・各種予防接種・焼津市による市民がん検診・静岡県によるＢ型･Ｃ型肝炎ウイルス検査などの一般的業務、および当院独自事業としての高度医療機器を用いた各種がん検診その他を実施しています。

令和７年度のスタッフは、専任医師１名・保健師２名・看護師１名・臨床検査技師１名管理栄養士１名・看護補助者１名・事務員４名で構成されました。

【実績と成果】

1：人間ドック・生活習慣病予防健診　（表１・表２・表３）

令和６年度と比較し人間ドック・生活習慣病予防健診実施日が約９割に減少し、人間ドック・生活習慣病予防健診を合わせた件数は98%であったが、稼働額は前年比102%でした。

受診者の性別は男780人･女462人とほぼ2:1の割合､年齢構成は40歳未満　7%･40歳～64歳69%･65歳～74歳19%･75歳以上8%であり、共に変化ありませんでした。

オプションの脳ドックは32件・骨密度検査31件でした。

（表 1）過去 5 年間の稼働状況

		Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
合計	総件数（件）	5, 850	5, 764	5, 652	4, 968	4, 905
	総稼働額（円）	89, 591, 247	92, 114, 891	90, 141, 288	76, 661, 802	78, 504, 042

（表 2）人間ドック・生活習慣病予防健診の稼働状況

			Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
人間ドック ＋ 生活習慣病予防健診		件数（件）	1, 505	1, 534	1, 465	1, 250	1, 242
		稼働額（円）	50, 515, 438	52, 257, 001	50, 372, 861	43, 102, 635	44, 078, 905
人間ドック		件数（件）	700	721	703	589	585
		稼働額（円）	32, 934, 650	34, 311, 230	33, 523, 940	28, 197, 960	28, 734, 930
生活習慣病予防健診	件数（件）		805	813	762	661	657
	内訳	船員ドック	22	21	22	13	17
		協会けんぽ	783	792	740	648	640
	稼働額（円）		17, 580, 788	17, 945, 771	16, 848, 921	14, 904, 675	15, 343, 975
	内訳	船員ドック	511, 737	496, 201	590, 906	347, 909	425, 799
		協会けんぽ	17, 069, 051	17, 449, 570	16, 258, 015	14, 556, 766	14, 918, 176

（表 3）人間ドック・健診・オプション検査項目別件数

		Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
胃カメラ	経口	326	303	316	248	258
	経鼻	382	403	410	327	339
動脈硬化検査		307	320	326	311	335
乳がん検診	マンモグラフィ	263	264	236	184	182
	乳腺エコー	72	80	96	61	77
子宮がん検診		298	310	263	199	206
前立腺がん検査		203	218	220	253	103
ＢＮＰ		23	24	25	17	25
内臓脂肪検査		20	12	9	6	17
睡眠時無呼吸検査		0	1	1	1	2
骨密度（精密）		15	25	31	21	31
歯科検診		9	7	6	6	4
脳ドック		32	38	22	29	32
栄養相談（後日）		5	3	0	1	0

2：事業所健診・個人健診・簡易血液尿検査・予防接種等　（表 4・表 5）

簡易血液尿検査以外の事業所健診・個人健診(任意がん検診を含まず)はやや減少しました。

（表 4）事業所健診・個人健診・予防接種等の稼働状況

		Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
事業所健診	件数（件）	1, 704	1, 692	1, 570	1, 375	1, 364
	稼働額（円）	15, 293, 303	15, 805, 735	16, 047, 292	11, 954, 162	13, 139, 224
個人健診（がん検診含まず）	件数（件）	260	229	175	140	104
	稼働額（円）	3, 452, 974	2, 817, 905	3, 272, 995	2, 567, 081	1, 637, 660
簡易血液尿検査（“ち～検”）	件数（件）	145	198	214	153	136
	稼働額（円）	362, 400	479, 350	542, 900	404, 550	363, 050
予防接種	件数（件）	154	238	169	110	59
	稼働額（円）	759, 386	1, 204, 856	1, 049, 584	593, 684	303, 814
静岡県無料肝炎	件数（件）	3	1	4	3	0

（表 5）予防接種　項目別件数

	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
麻疹	0	0	0	1	0
風疹	0	0	2	0	0
麻疹風疹混合	21	24	14	3	6
破傷風	55	20	49	33	3
ムンプス	2	21	7	2	0
水痘	2	2	3	0	1
帯状疱疹		1	29	14	4
日本脳炎	3	2	1	1	0
肺炎球菌	17	12	17	4	2
A型肝炎	0	0	0	0	0
B型肝炎	54	156	47	52	43

3：高度医療機器を用いた各種がん検診・焼津市による市民がん検診　（表６・表７）

高度医療機器を用いた各種がん検診は件数・稼働額共に微増しました。特に「痛くない MRI 乳がん検診」の増加が目立ちます。

焼津市による市民がん検診のうち婦人科検診は２年毎の受診となり、子宮がん検診については隔年での増減が認められますが、乳がん検診は若干の増加が見られます。

なおドック健診を含め、胃癌２例・乳癌１例が発見されました。

また市民がん検診受診後、当院での精密検査により発見された癌は、前立腺癌 17 例・乳癌８例・大腸癌２例でした。

（表 6）がん検診の稼働状況（延べ件数）

がん検診			Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
件数（件）			391	434	412	429	441
内訳	総合がん	単独	184	229	195	195	189
		ふるさと納税	1			0(納税4件)	8(納税5件)
		オプション	26	35	36	22	23
	肺がんCT	単独	0	1	1	1	1
		ふるさと納税				0	0
		オプション	19	15	19	14	17
	痛くない MRI乳がん	単独	42	26	22	22	34
		ふるさと納税				0	0
		オプション	1	2	3	1	1
	プレミアム乳がん		118	126	136	174	168
稼働額（円）			12,057,428	14,261,278	12,724,090	12,424,464	12,850,824
内訳	総合がん	単独	8,662,500	10,994,500	9,207,000	9,185,000	9,086,000
		ふるさと納税				199,840	249,800
		オプション	973,500	1,320,000	1,386,000	847,000	885,500
	肺がんCT	単独	0	16,940	16,940	16,940	16,940
		ふるさと納税					
		オプション	257,450	203,250	257,450	193,090	229,500
	痛くないMRI乳がん	単独	1,386,000	858,000	726,000	726,000	1,038,720
		ふるさと納税					
		オプション	22,000	44,000	66,000	22,000	22,000
	プレミアム乳がん		755,978	824,588	1,064,700	1,234,594	1,322,364

（表 7）市民がん検診の稼働状況

		Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
市民がん検診（精密検査報告含）	件数（件）	1,757	1,513	1,683	1,518	1,580
	稼働額（円）	8,450,688	6,913,006	7,804,292	6,774,459	7,267,565
内訳	子宮がん	629	410	551	388	485
	乳がん	813	805	832	852	819
	大腸がん	25	24	30	23	18
	前立腺がん	98	104	91	65	70
	精密検査報告	192	170	179	190	188

4：インターネット予約　（表 8）

当院ホームページからの人間ドック等の申し込みは増加しました。インターネット予約業者が変わり申込が簡便になった事や、扱う検診項目が増えた事に因ると思われます。

（表 8）インターネット予約受付数

		Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
合計		133	156	129	105	234
内訳	男	67	72	63	27	90
	女	66	84	66	78	144
年代別						
内訳	40才未満	30	35	39	32	26
	40才代	35	42	51	36	76
	50才代	31	28	47	39	87
	60才代	15	17	15	14	35
	70才以上	7	11	4	8	10

5：保健指導　（表 9）

ドック当日の保健指導は、健診業務の質を担保する指標となります。

令和 7 年度はドック当日の医師による結果説明及び保健指導件数、割合は前年度までと同水準を維持しています。

（表 9）保健指導件数

			Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
当日	医師結果説明	件数（件）	547	515	550	404	404
		面接割合（%）	71.6	66.0	69.4	64.2	62.9
	保健師	件数（件）	412	474	260	321	381
	管理栄養士	件数（件）	294	304	288	83	16

【評価と課題】

「人間ドック健診」の業務の質を担保する専任の医療職については、これまで様々な経験や研鑽を重ね、施設としての機能は標準的な水準を維持している自負はあります。

しかしながら、「人間ドック健診」の施設管理運営および営業活動を俯瞰的専門的に担う専任の事務職員が不在のままで、依然として弱点となっています。

日本人間ドック学会の調査では、日本の地方各地での「人間ドック健診」はもっぱら総合病院併設型健診施設が行っています。当院の当地での「人間ドック健診」役割について、将来への展望の確立が望まれます。

一方、当院の高度医療機器を用い各専門医の判断を仰ぐ各種がん検診は、総合病院併設健診施設の利点です。院内専門外来との連携強化は受診者の需要を満足させるものであり、稼働額に貢献する点も今後さらに期待できます。

来年度は電子カルテ更新に伴い健診システムの更新も見込まれています。院内電子カルテとの連携強化により、紙ベースでの情報管理量の減少での作業省力化が期待されるところです。

29. 薬 剤 部

【業務活動状況】

令和 7 年度は薬剤師 24 名（前年度比＋2 名）、薬剤助手 5 名の体制のもと、薬剤部業務を実施した。薬局内の業務では、内服薬・注射薬の調剤、持参薬の確認、高カロリー輸液および抗がん剤の無菌調製、小児用投与設計（PI）、治療薬物モニタリング（TDM）の解析・報告、医薬品の在庫管理や供給不安定品への対応などを行った。病棟では、薬剤管理指導・退院時薬剤指導業務を中心に、医療スタッフへの医薬品情報提供や常備薬管理を担い、安全かつ適正な薬物療法の推進に努めた。また、感染対策チーム（ICT）には専任 AST 薬剤師 1 名を含めて参画し、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策、緩和ケア、認知症ケア、医療安全などの各種チーム医療にも積極的に関与した。

薬局中央業務では、内服処方箋枚数は 74,484 枚となり、前年度（74,148 枚）とほぼ同水準で推移した。一方、注射処方箋件数は 217,263 件と前年度から大幅に増加したが、これは令和 7 年 1 月に実施した自動注射払出装置の更新に伴い、集計方法が従来の「処方箋枚数」から「処方件数」へ変更されたことによるものであり、入院患者は増加しておらず業務量の増加を示すものではない。

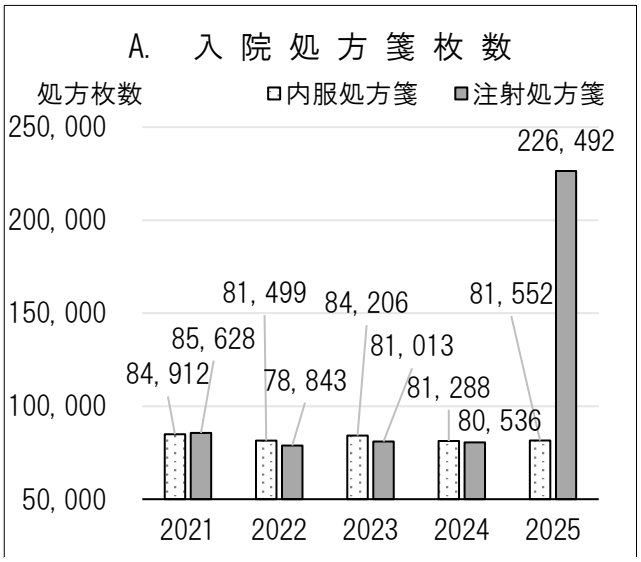
抗がん剤無菌調製業務では、調製件数は 5,622 件となり、前年度の 5,542 件からわずかに増加した。しかしながら、令和 3 年度の 7,360 件をピークとして減少傾向が続いており、近年のがん患者数や治療件数の推移を反映した結果と考えられる。今後も安全かつ効率的な無菌調製体制を維持しながら、質の高い薬物療法の提供に努めていく。

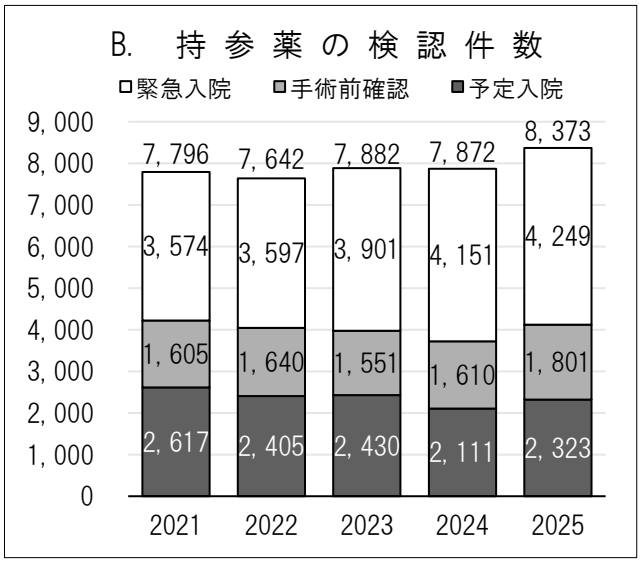
病棟関連業務では、薬剤管理指導料の算定件数が 16,203 件となり、前年度（14,729 件）を上回って過去最高を記録した。近年継続して増加傾向にあり、病棟薬剤師による積極的な患者介入や薬学的評価の充実に加え、多職種との連携を通じた適切な薬物療法支援が着実に推進された結果と考えられる。これらの取り組みは、患者の安全性向上や治療効果の最大化に大きく寄与している。

また、退院時薬剤情報管理指導料の算定件数は 4,040 件となり、前年度（2,837 件）から大幅に増加し、こちらも過去最高を更新した。退院時における患者・家族への服薬指導や、保険薬局・地域医療機関への薬剤情報提供を積極的に実施したことが主な要因と考えられる。高齢化やポリファーマシーへの対応が求められる中、入院から退院後まで切れ目のない薬学的管理を推進し、地域医療との連携強化に貢献した。

【年間業務報告】

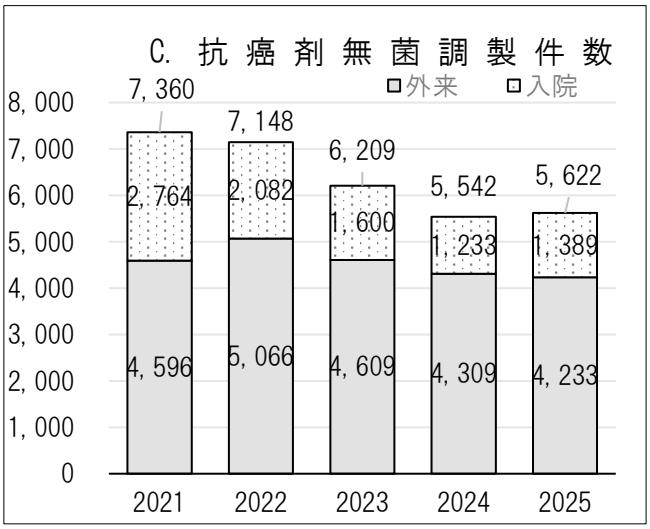
1．調剤・持参薬検認業務

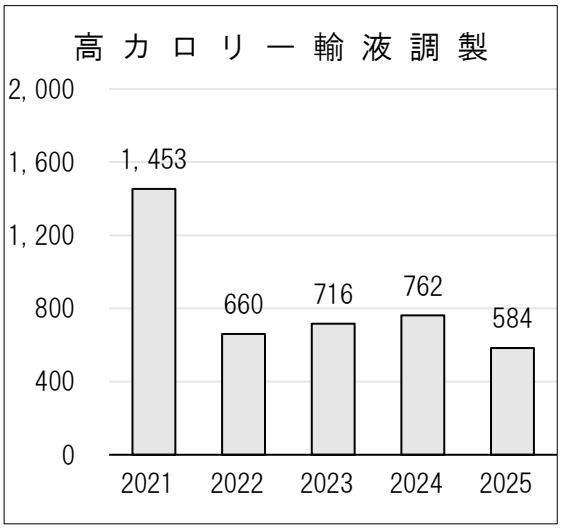




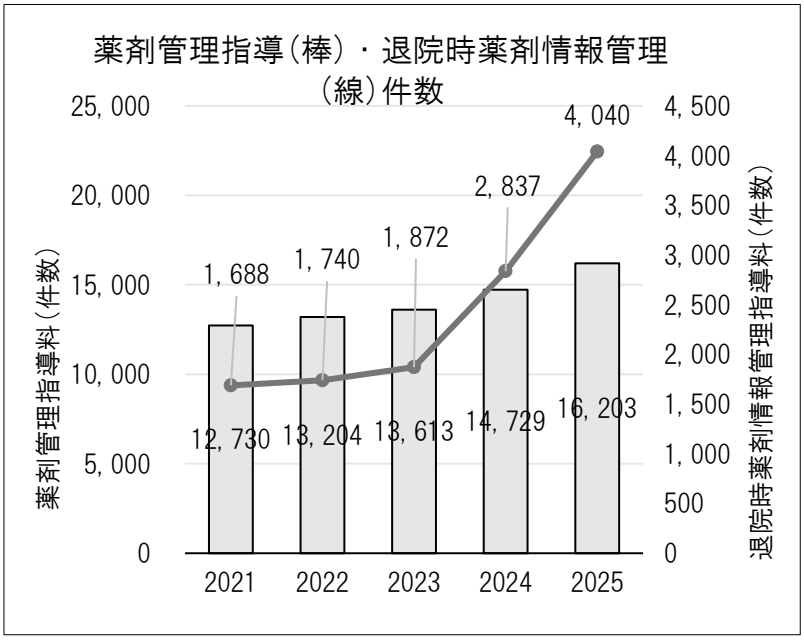
※2025 年注射処方箋数は装置更新により処方枚数から処方件数に集計方法が変更されている

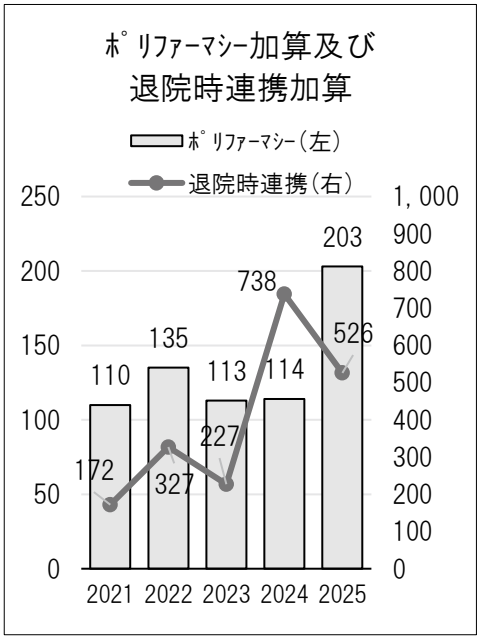
2．無菌調製件数　（抗癌剤及び高カロリー輸液）



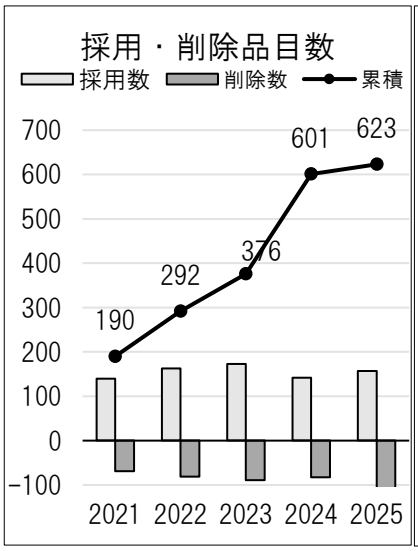


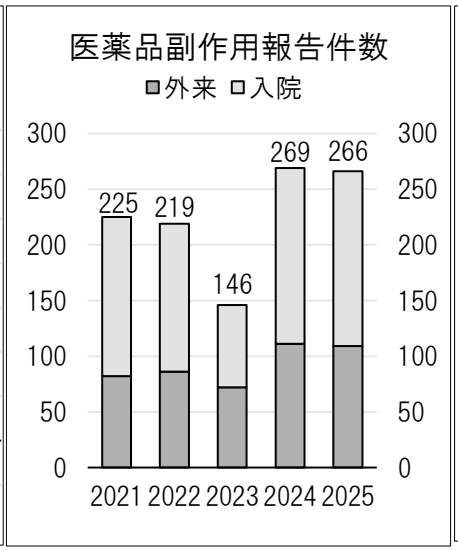
3．病棟関連業務

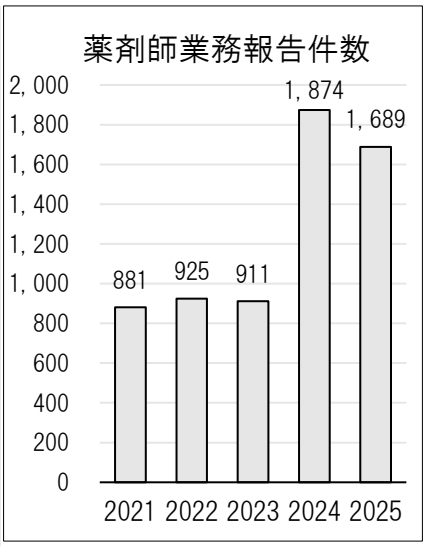




4．医薬品情報







30. 中 央 放 射 線 科

【業務活動状況】

今年度は診療放射線技師 25 名（内女性 5 名）、看護師 4 名、事務員 2 名で業務を実施しました。検査数および治療件数は、合わせて 91,456 件、対前年比で 740 件（1%）減少となりました。

今年度もチーム医療の一員として各科との連携を図り、より良い医療を行うように心掛け、迅速かつ的確な検査及び画像処理を行い、情報量の多い画像を各診療科に提供をしました。

主要機器である CT 撮影装置と乳腺撮影装置の機器更新を同時に行いました。また、来年度予定されている病院システム（HIS）更新に伴い、既存システムの老朽化のため放射線科情報システム（RIS）や医療画像管理システム（PACS）の機種選定の検討を行いました。来年度から最新の AI 技術を用いた診療支援および業務効率化を目指し、富士フイルム社製 RIS/PACS（SYNAPSE）に更新いたします。

【診療実績及び治療成績】

○放射線管理係

RI 検査の総件数は 599 件、前年度より 37 件（6%）減少しました。年間件数が一桁台の各種検査の微減、入院で行われていた脳領域の検査数の減少が要因として考えられます。脳血流シンチ検査のダイアモックス負荷検査が全年度より約 3 倍、増加となりました。これは脳神経外科での血管内治療前評価としての検査が増加した為と考えます。入院中の検査数は前年度 48 件から 23 件となり、48%減少しました。

骨密度の総件数は 987 件でした。前年度より 98 件（9%）減少しました。外来件数は 779 件で前年度の 843 件と比較して 64 件の減少となり、入院患者の撮影件数は 208 件で前年度と比較し 35 件の減少となりました。また、撮影部位の数も総件数が 1,986 件と前年度 2,215 件と比較して 229 件の減少となりました。件数減少の主な原因は、整形外科からの依頼件数が 82 件減少したものと考えられます。

放射線治療の総件数は 147 件、前年度より 20 件ほど増加しました。年間治療件数は 2,491 件となり、昨年度の年間治療件数は 2,351 件でしたので約 6%増加となりました。今年度は乳腺症例が昨年度よりも増加し、総患者数、年間治療件数どちらも増加となりました。照射部位に関しては、乳腺症例の依頼件数が最も多く、次いで骨転移症例となっています。目的別では、根治・準根治が 18%、姑息・緩和が 30%と姑息・緩和の方が多い傾向が続いています。術後照射は 42%、その他が 10%でした。また、2025 年 1 月から 2025 年 12 月までの新患数は 137 件となり、施設基準を満たすことができました。

令和 8 年度より、放射線治療の保険点数の改定があり、放射線治療件数、放射線治療の質的向上、診療報酬の増収のためにも常勤医師の着任が望まれます。

○画像技術係

CT 検査の総件数は 21,632 件、前年度より 119 件（2%）減少しました。本年度、当院 CT 室 1 において稼働しておりました CT 装置（キヤノン社製：Aquilion ONE）がメーカーのサポート終了を迎えるにあたり、診療体制の維持および更なる精度向上を目的とした機器更新を実施いたしました。長年にわたり当院の画像診断を支えてきた旧機種に代わり、最新鋭の CT 装置（GE 社製：Revolution Vibe）を導入。これにより、故障リスクの低減はもとより、最新のスペクトラルイメージング（Spectral Imaging）機能の搭載を用いた高度な画像提供が可能となりました。従来の「形態診断」から、組織の性質にまで踏み込んだ「質的診断」が期待されます。この新しい技術を最大限に活用し、各科診療科への迅速かつ質の高い画像提供を通じて、当院の地域医療への貢献に努めていきます。

MRI 検査の総件数は、7,516 件、前年度より 249 件（3%）増加となりました。病診連携による共同利用は年間 528 件でした。予約外での当日検査は 955 件と総件数の約 12.7%を占めています。また、時間外検査は 419 件実施し、日当直時においても緊急検査に対応しています。DWIBS（ドゥイブス）撮影による検査は 347 件ありましたが、その内 219 件は総合がん検診による検査です。また、DWIBS 法を利用した無痛乳がん検診は 36 件実施しました。その特徴は、「被ばく無し」、「痛くない」、「つぶされない」、「さわられない」等、非侵襲的な検査のため、今後も乳がん検診の受診率を上げていきたいと思います。今年度も 1 月に医療安全講習会を開催し安全性について講演を行いました。今後も安全管理体制に務めていきます。

TV 室検査の総件数は、981 件、 前年度より 59 件ほど減少しました。主な検査では、人間ドックの胃透視検査が 289 件前年度比 50 件減、尿管ステント交換が 112 件前年、胃瘻交換 77 件、子宮卵管造影が 61 件となりました。X 線 TV 装置を利用した検査は年々減少傾向が続いていますが、その分より丁寧で親切な検査を心がけて検査を実施していきます。

○撮影技術係

一般撮影総件数は 57,024 件で前年度比 844 件(2%)減少となりました。検査数はここ数年横ばいで推移しています。他院から当院、当院から他院への患者の紹介も近年増加し、それに伴って検査情報の取り込みおよび書き出しのニーズが高まっています。昨年度は 2,915 件の依頼があり今後、増加することが予想されます。撮影技術係としては患者の個人情報の安全管理、患者および放射線業務従事者の被ばく低減に努めています。

血管撮影の検査数は 189 件で前年度比 39 件（26%）増加となりました。今年度血管撮影室に携わる医師増員により昨年度以上に高度な検査のニーズが高まり、血管撮影室としてより迅速に検査対応できる事を重点とし体制構築の強化を行いました。今後も医師と協力し迅速で安全な検査・治療が出来るよう体制を整えていきます。

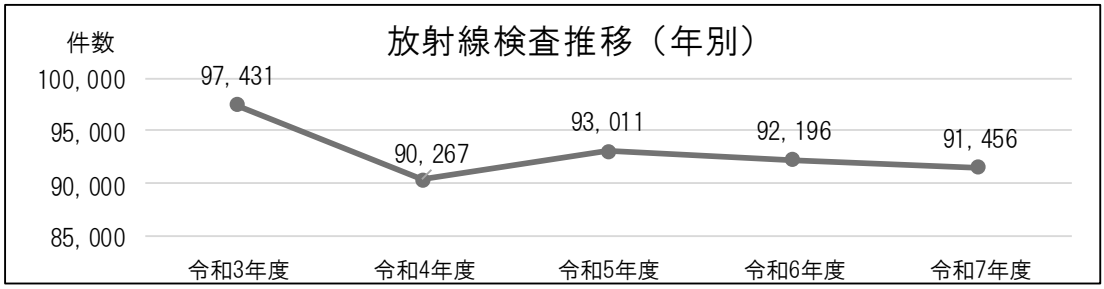
乳房 X 線検査の件数は 1,488 件で前年度比 50 件（3.3%）減少となりました。今年度、乳腺撮影装置（シーメンス社製：MAMMOMAT Inspiration）もメーカーのサポート終了を迎えるにあたり、機器更新を行い最新の乳腺撮影装置（GE 社製：Senographe Pristina）を導入いたしました。

【次年度目標】

・専門性を発揮し、医療の安全確保と医療の質の維持・優れた医療人材の育成をする。
・働き方改革とマルチタスク化の推進をする。
・AI技術（画像診断補助）を効果的に運用し、業務効率化を推進することでチーム医療の質向上に貢献する。

【放射線検査件数　（年度別）】

検査別	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
一般撮影	60,723	57,018	58,631	57,868	57,024
CT	21,670	19,876	21,294	21,751	21,632
MRI	8,006	7,466	7,540	7,267	7,516
TV 室	1,406	1,237	1,167	1,040	981
核医学	784	578	571	636	599
骨密度	980	1,124	1,094	1,085	987
血管撮影	203	136	133	150	189
結石破砕	72	66	68	48	37
放射線治療	3,587	2,766	2,513	2,351	2,491
総件数	97,431	90,267	93,011	92,196	91,456



31. 中 央 検 査 科

【業務活動状況】

■第 1 検体検査係

院内検体検査および外注検査は、昨年度より患者数の減少に伴い全項目において検査数の減少が認められる。

細菌検査は血液培養ボトル供給不良が解消されたため、一般菌の検査数は前年より増加している。CD トキシンの検査が増加傾向にあり、それに伴い陽性も増加傾向にある。報告体制も医師・病棟スタッフへ確認しやすいように新たに構築し、早期対応へ繋がるよう工夫をしている。今後も感染対策との連携を図っていきたい。

全国的に結核件数が減少傾向にあることから、抗酸菌の検査数は減少傾向にある。

機器更新：全自動迅速同定感受性検査システム（BD フェニックス M50）

■第 2 検体検査係

輸血検査昨年に比べ RBC 製剤と FFP 製剤の廃棄量が減少した。RBC については、R2 年 12 月より RBC 廃棄製剤削減の取り組みとして依頼単位数に対して使用率が低い（使用率 16.4%）手術室の T&S 依頼について、Hb10.0g/dl 以上（脳神経外科は 12.0g/dl 以上）の場合は依頼単位数の在庫確保はしない、緊急時は O 型 RBC などの異型適合血を利用することを推奨してきた。さらに RBC の有効期限が 1 週間伸びたことや使用頻度の低い AB 型製剤の在庫期限の管理などにより期限切れによる廃棄が少しずつ減少されていると感じる。

中央採血室では、1 日平均 200 名の採血、またその他として毎月血液培養採血約 5 件、安静採血約 10 件、負荷試験採血約 12 件の業務を行っている。担当者を 1 日勤務者 1 名、2～3 時間勤務者 3 名、看護科より採血の応援をしていただき待ち時間 30 分以内を目指し業務を遂行している。

機器更新：採血管供給装置（BC-8000）

■生理検査係

生理検査件数は検査項目により増減が見られます。特に超音波検査数は年々減少傾向を認めています。例年と比較し泌尿器科領域検査は減少していますが、神経生理領域検査は増加しています。

研修医を対象としたエコーカンファレンス教育を救急診療に生かせる内容で 5 回実施した。日常業務での研修医のエコー指導にも力を入れ、消化器内科・循環器内科・放射線科研修時でのエコー指導も実施しており、研修医に対する超音波研修で魅力のある病院作りに努めています。

カンファレンスの内訳 ： 腹部エコー・FAST 2 回　 下肢エコー 1 回　 心臓エコー 2 回

機器更新：膀胱用超音波画像診断装置（クリニースキャン）

【評価】

令和 7 年度は新規採用職員が 7 名入職し正規職員 24 名（うち産前産後・育児休暇 3 名）、会計年度職員 9 名体制で業務を行った。今年度から 2 交代制業務が始まり開始当初は稼働職員が少ないため週休日出勤や時間外業務が多かったが、徐々に改善し週休日取得率 9 割を超えるようになった。

静岡県電子カルテ情報共有サービスモデル事業に参加するため、検査情報に関しての臨床検査項目分類コード JRAC11 のコードリストを作成し地域連携システムに協力した。科内ワーキンググループを中心に広報・教育・診療支援活動を行いチーム医療に貢献した。専門分野でのスキルアップに励み 5 名の技師が資格を取得し、より良い検査科を目指す動きが各所で見られた。

採血業務では看護部の採血業務援助のおかげで待ち時間短縮や大きなトラブルなく業務を遂行することができ、ご協力していただいた看護部の皆様に深謝致します。

【次年度目標】

・専門分野でスキルアップをしてチーム医療に貢献できる人材を育成する。
・DX 化による業務効率化で時間外業務を減らし、働き方改革を目指す。時間外業務を検査科全体で 80 時間/月以内にする。
・医事課の協力およびシステムを利用して保険点数査定の削減を目指す。

◆検査件数

係	検査部門		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
第1検体検査係	生化学・免疫検査		1,643,184	1,600,964	1,632,385	1,580,899	1,515,042
	一般検査		109,359	104,424	109,783	96,192	90,697
	細菌検査	一般菌	12,406	12,011	12,886	10,883	11,569
		抗酸菌	1,430	1,258	1,463	1,090	1,074
		CD トキシン	332	293	362	417	404
	外注検査		54,154	49,338	47,006	44,180	42,831
第2検体検査係	血液・凝固検査		249,861	227,482	235,587	229,401	211,545
	採血室	採血患者数	52,814	52,403	52,403	52,027	51,053
生理検査係	心電図関連		10,137	9,429	9,200	8,362	9,005
	超音波全般		15,124	14,129	13,868	13,183	12,886
	肺機能関連		2,186	2,293	2,718	2,634	2,824
	神経生理領域		1,394	1,427	1,455	1,470	1,982
	耳鼻科領域		1,549	2.013	1,974	1,824	1,949
	泌尿器科領域		1,482	1,520	1,535	1,624	1,386

◆輸血検査

輸血製剤使用実績

製剤種	使用数（単位）	廃棄率(%)
赤血球-LR	3,068	0.4
血小板-LR	2,450	0
FFP-LR	1,018	2.2
クリオプレシピテート	56	6.7
5%・25%アルブミン	4,517	0.1
フィブリノゲン製剤（1ｇ）	3ｇ	0

貯血式自己血使用実績	118 単位
緊急輸血（0・1）依頼件数	83 件

◆中央検査科の院内活動

病棟カンファレンス	3B 病棟(小児科)（毎週水曜日）	
糖尿病療養指導	糖尿病教室外来　「糖尿病と検査」講義（隔週火曜日）	
	持続血糖測定器指導(随時)	
	糖尿病性腎症連携パス　患者個人指導（毎週水曜日）	
感染管理室ラウンド	全病棟（毎週火曜日）	
環境感染ラウンド	病院内全体（毎週火曜日）	
ICS ミーティング	（毎月第 4 火曜日）	
排尿機能検査（泌尿器外来）		3 件
排尿指導管理カンファレンス		50 件
骨髄液採取介助	各外来・病棟での業務	75 件
自己血貯血介助	各外来・病棟での業務	62 件
心電計・超音波装置メンテナンス	救急室および病棟心電計・救急室超音波診断装置	12 件

脳神経外科術中モニタリング		5 件
外科術中ソナゾイド		11 件
新生児簡易聴力検査	3A・3B	336 件
病棟ポータブル心電図検査		51 件
病棟ポータブル脳波検査		40 件
病棟ポータブル超音波検査		103 件
入院特別食候補患者の抽出	入院予定患者から抽出	4,023 件
体外受精（IVF）補助業務（3A 病棟）	AIH（人工授精精液調製）	27 件
	C-IVF（体外受精）	0 件
	ICSI（顕微授精）	6 件
	C-IVF+ICSI	1 件
	胚凍結	6 件
	凍結胚移植	12 件
	精子凍結	0 件
治験補助業務	治験関連検体処理	51 件
広報活動	検査科ニュース	13 件

●講師

第 1 回医療安全講習会	輸血用血液製剤の取扱い	有賀技師
	安全に採血するために	松村技師
第 1 回院内感染対策研修会	感染症の流行状況	石原技師

●委員会

中央検査科運営委員会	3 回
血液製剤使用適正化委員会	6 回

32. リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 技 術 科

【業務活動状況】

1. 理学療法係

4月は新人職員2名を迎えて理学療法士11名体制で稼動開始。6月から育休明け職員1名が復帰し、12月からパートタイム職員1名が加わり、令和8年3月には1名育児休業となり、3月末では12名体制となった。実労働者数は増加したが2名の新人教育業務と総新患数が昨年に比べて200名程度低下したことにより、療法士1名あたりの平均単位数は過去5年と比較して4%減となった。

疾患別では、がん患者リハビリテーション料の単位数が前年比70%増、運動器リハビリテーション料は20%増・廃用症候群リハビリテーション料は15%増・呼吸器リハビリテーション料は30%増・脳血管リハビリテーション料は30%増と全体的に大きな増加がみられた。運動器リハビリテーションでは、入院時から月1回の土曜リハビリを行った。主に人工股関節・膝関節術後は早期離床・自宅退院にむけて病棟と協力した事により、早期に自宅退院し外来に移行する件数も増加した。今年度から内科・循環器内科のカンファレンスにも参加でき多職種連携体制を強化出来た。また、糖尿病教室の活動は継続して行った。

2. 作業療法係

作業療法士7名（内1名は11月から休職）体制で稼動し、年間の実労働者6.63名となった。作業療法処方箋数は前年と同水準であった。超急性期リハビリテーションや廃用症候群に対する介入も安定して実施できた。処方箋数は、消化器119%増、外科179%増となった。婦人科におけるがんのリハビリテーションも126.3%増となった。

病棟で行われる退院支援カンファレンスは、脳神経外科・脳神経内科を中心に参加し、病棟スタッフとの連携を強化した。認知症ケアサポートチームの一員として週1回のカンファレンスとラウンドに参加し、認知機能の低下を来した患者様へのケアの検討やリハビリテーション内容を検討した。

その他、リハデミー（オンライン）を使用し、基礎から応用までを段階的に学び、さらなる治療技術の研鑽をはかった。

3. 言語聴覚療法係

令和7年度は言語聴覚士5名で稼動開始したが、秋に2名退職し、1月に1名入職と人員的に不安定な一年となり。診療報酬・単位数ともに前年度比22%減となった。新患処方箋数は、入院が前年度比9%の減で、脳神経内科・脳神経外科の処方数は著変ないものの、内科系の摂食嚥下に関する処方数が約20%減少した。外来の処方数は26%減で、特に小児科では40%減となり、医師や作業療法士が発達検査を行うようになったことが大きな理由である。

入院では摂食嚥下チームのラウンドに参加し、外来では脳ドックの認知機能検査を担当した。その他の業務としては、焼津市幼児ことばの教室指導員への講義を行い、院外の専門職と連携し地域貢献に努めた。

4. 小児リハビリテーション係

常勤の理学療法士・作業療法士各1名の2名体制となって6年目となった。理学療法は、実施人数や実施単位数など前年度比1%未満の増減であり、安定して稼動が出来た。その他、焼津市で実施しているどんぐり教室のサポート業務も行った。作業療法士は10月から育休より復帰した。1ヶ月あたりの稼動状況は前年度比55%程度と大きく減少したが、発達検査や読み書き検査の施行を開始し、業務拡大に努めた。係全体としては、発達障害児連絡会をコロナ禍以降再開でき、76名の発達障害に関わる専門職の参加があり、ニーズの高さが示された。

療法士1日あたりの平均単位数　（疾患別リハビリテーション料のみ）

療法士数（人）	理学療法	作業療法	言語療法	小児リハ	リハ科
令和3年度	16.1	14.5	15.4	14.0	15.3
令和4年度	16.0	14.9	12.4	13.8	14.5
令和5年度	16.0	17.1	12.1	13.6	15.2
令和6年度	17.2	15.6	11.1	14.5	15.1
令和7年度	15.7	15.9	10.2	12.8	14.6

※言語療法は、疾患別リハビリテーションの他「摂食機能療法」を1,317件実施（令和7年度年間）

診療科別新患数(令和３年度-令和７年度の比較)

	診療科	理学療法					作業療法					言語療法				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
[入院]	内科	130	144	221	193	159	7	105	94	69	31	19	34	60	73	47
	消化器内科	146	126	147	181	194	33	95	101	98	117	16	14	29	15	24
	循環器内科	28	38	55	61	79	9	6	20	27	37	6	7	7	12	19
	血液内科		2		4											
	脳神経内科	524	500	552	591	616	362	424	419	478	492	311	324	384	366	344
	腎臓内科	178	184	177	166	89	14	35	80	56	18	43	56	42	56	35
	呼吸器内科	12	6	8	6	3										1
	小児科	25	20	43	44	34						3	2	4	6	1
	外科	157	141	206	222	211	66	86	78	77	138	27	24	37	50	29
	整形外科	535	544	564	550	469	124	117	137	115	114			10	13	16
	形成外科	12	18	17	18	8	8	7	5	4	8					
	脳神経外科	312	261	235	221	173	288	224	190	189	178	238	167	162	145	149
	皮膚科	12	11	17	16	14				**2**	**2**			1		
	泌尿器科	42	33	41	35	29	2	2	4	4	2			5		6
	産婦人科	16	29	14	20	15	12	14	14	19	24	2	6	3		2
	耳鼻咽喉科	9	13	9	12	14		1			7	1	4	3	6	3
	歯科口腔外科															
	その他	21	15	32	18	5			3	3	2		1	1	1	2
	合計	2, 159	2, 085	2, 338	2, 359	2, 112	925	1, 116	1, 145	1, 141	1, 170	666	639	748	743	678
[外来]	内科		1													
	消化器内科															
	呼吸器内科															
	脳神経内科	19	4	9	10	18	17	35	13	34	16	28	32	27	43	26
	小児科	40	40	46	52	42	4	61	72	4	68	159	186	224	212	127
	外科			1			1	1	3	2						
	整形外科	52	45	48	44	51	100	110	114	101	101					
	形成外科			2			19	25	31	10	26					
	脳神経外科	1		1	3	2	3	16	4	5	2	6	6	12	9	6
	泌尿器科			2	1											
	耳鼻咽喉科							1		1		4	10	5	5	9
	歯科口腔外科											1				1
	救急科							1		1						
	その他	1		1									1			29
	合計	113	90	110	110	113	144	250	237	158	213	198	235	268	269	198
総合計		2, 272	2, 175	2, 448	2, 469	2, 225	1, 069	1, 366	1, 382	1, 299	1, 383	864	874	1, 016	1, 012	876

33. 栄 養 科

【業務活動状況】

科目標「安全でおいしい給食の提案」を継続して活動しました。正規職員の入職と長期休養の職員の復帰により業務負担が軽減されました。調理方式（クックサーブ）を一部再加熱方式（クックチル）に移行し、朝食の作業軽減を実現しました。また、行事食やイベントメニューの月1回以上の施行も再開し、患者サービス向上に努めました。令和7年度購入の医療機器の有効活用も軌道に乗せてフードロスの軽減が実現化しました。給食が円滑に進められたことにより、管理栄養士が栄養管理に関わる内容は充実して周術期栄養管理実施の件数や栄養食事指導件数の増、チーム医療への貢献度も高まりました。一方、新人職員の離職で新人教育研修の難しさやメンタルヘルスについての情報共有の大切さも経験した一年となりました。更に、年々上昇する厨房内の温度に対して大量調理の衛生管理が更に厳しく、調理後の冷却機器の需要が高まる状況下にあります。

次年度の課題として6月の診療報酬改定で嚥下調整食の特別食加算算定に向けて組織作り、運用、献立の見直しの実施、更にリハ・栄養・口腔連携体制加算算定に向け、積極的な栄養管理体制の構築と大きく躍進する年度になるよう科内一同で取り組みます。

	季節膳献立（献立を特別に作成）年 10 回	行事食（献立を一部変更）年 18 回
1 月	正月、睦月膳	七草粥、成人の日
2 月		節分、バレンタインデー、天皇誕生日
3 月	ひなまつり膳	春分の日
4 月		
5 月		憲法記念日、こどもの日
6 月	水無月膳	
7 月	エスニック膳	七夕、海の日、土用の丑の日
8 月	栄養の日	山の日
9 月		敬老の日、秋分の日
10 月	秋の膳	十五夜、スポーツの日
11 月	えびす講	文化の日
12 月	クリスマスメニュー、年越しそば	冬至

◆他のイベントメニュー　7 月 15 日、8 月 5 日、8 月 26 日　冷やし中華
◆災害備蓄用アルファーご飯を使用
4 月 18 日、5 月 26 日、6 月 16 日、7 月 2 日、7 月 23 日、8 月 13 日、9 月 3 日、9 月 24 日
10 月 24 日、11 月 14 日、12 月 5 日、12 月 19 日
◆地産地消の推進
・なまり節酢の物 ・桜エビのかき揚げ ・鰹飯 ・うま煮風（なると巻き）
・やきそば（なると巻き入り）・つみれ煮

やきつべ減塩長寿食レシピ掲載献立

料理名
厚焼き卵
胡麻なます
柚子蒸しキンメ

広報誌ひだまり レシピ de 元気　掲載献立

	料理名
春号	かぶ香漬け
夏号	バターチキンカレー
秋号	南瓜スープ
冬号	ハッシュドビーフ

業務活動状況

（単位：件）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
一般食	常食	50,952	45,492	44,885	41,831	39,908
	軟食	109,236	106,356	96,341	102,099	95,212
	小計	160,188	151,850	141,226	143,930	135,120
特別食		110,736	109,369	131,403	109,695	111,678
食数合計		270,924	261,219	272,629	253,625	246,798
特別食比率(%)		41	42	48	43	45
1食単価（円）		234	247	259	279	288
栄養管理計画表作成枚数		6,756	7,179	8,227	8,182	8,416
指導	個人指導	2,844	2,549	2,666	2,657	3,031
	集団指導	60	133	153	126	134
回診	NST	396	574	551	406	344
	褥瘡	48	89	135	102	59
	緩和	120	111	99	139	182
	透析	0	18	0	0	0
	摂食嚥下				83	80
他	入退院センター	516	649	606	775	749
	人間ドック	300	295			
	周術期栄養管理実施（～8月）		992	1,748	642	710
	早期栄養介入管理（～8月）			111	111	
	外来化学療法栄養食事指導				142	132
お手紙		168	183	189	322	270

34. 臨 床 工 学 科

【業務活動状況】

臨床工学科は、科長を含め 13 名で活動している。

【血液浄化療法業務】（グラフ①参照）

・透析液の作成、透析装置の保守管理、穿刺返血等の臨床業務を行っている。
・CHDF・血漿交換等の各種血液浄化療法にも対応している。
・5B（高機能）病棟での血液透析や CHDF 等の治療にも対応している。
・透析液の清浄化に対する保険掲載を受けて、透析機器安全管理委員会を設置し、エンドトキシン濃度及び細菌検査を実施している。
・On Line HDF、I－HDF を行っている。

【ＭＥ機器管理業務】

《 輸液ポンプ・シリンジポンプ　等》　（グラフ②③参照）

・医療機器及び医療用具を管理するため、医療機器管理ソフト CEIA を用いて機器用具の登録および貸出返却等の業務を行っている。
・病棟での医療機器調査を行うことで、病棟管理機器の把握を行い、医療機器管理ソフト CEIA 台帳への登録作業を行っている。
・病棟設置の吸引器・酸素流量計・血圧計・点滴スタンド等の備品系についても把握管理及び修理を行っている。

【臨床技術提供業務】（グラフ④参照）

《手術室業務》

・通常勤務日業務として、麻酔器・麻酔モニタ・無影灯・医療ガス・血液ガス分析装置・手術台等の手術室機器の点検を行っている。
・臨床提供業務としては、泌尿器科のレーザー砕石装置・グリーンレーザー装置の操作、ダヴィンチ OP 介助、OP 直接介助業務を行っている。
・脳神経外科領域においては、ナビゲーション業務を担当している。
・外科領域では、ダヴィンチ OP 介助業務、呼吸器外科レーザー装置の操作、下肢静脈瘤血管内焼灼術で使用するレーザー装置の操作を行っている。
・婦人科領域では、ダヴィンチ OP 介助業務を担当している。
・整形外科領域では、OP 直接介助、ラジオ波装置操作、ロボット支援 OP 介助業務を担当している。

《内視鏡室業務》

・内視鏡点検業務を担当している。

《アンギオ業務》

・腹部アンギオにおいて、介助業務を担当している。
・消化器科の RFA 治療のラジオ波発生装置の操作業務を担当している。

《院内業務》

・病棟設置のモニタ等の取扱いや不具合等にも初期対応して病棟モニタラウンドも行っている。
・人工呼吸器の使用部署に対しては、呼吸器ラウンド（月～土曜日）を行っている。

《心臓カテーテル室業務》

・一時ペーシングや IABP 留置時に介助員として 1 名を派遣し、業務を担当している。

【 その他業務 】

《医療安全に関する業務》

①科長が医療の質管理センター　医療安全管理室副室長を兼務し、医療安全に関する業務を行っている。
②科長が医療機器安全管理責任者である。
　臨床工学科と医療安全管理室の関わりが強く、連携を図りながら業務に反映するように努めている。

《医療機器及び医療用具等の不具合に関する業務》　（グラフ⑤参照）

①院内での医療用具の不具合に関する調査および報告。PMDA の報告等も行っている。

②PMDA からの医療機器及び医療用具に関する不具合情報の収集および報告を行っている。
③不具合情報等の院内への啓発活動を行っている。
医療安全との連携を図っている。

【 院内広報活動 】

・院内ポータルを利用し、勉強会の資料等を掲示している。

【 院内啓発活動 】

①新人看護師向けＭＥ機器取り扱い説明会
新人オリエンテーション

輸液・シリンジポンプ	1 件	20 名
人工呼吸器、心電図モニター	1 件	20 名

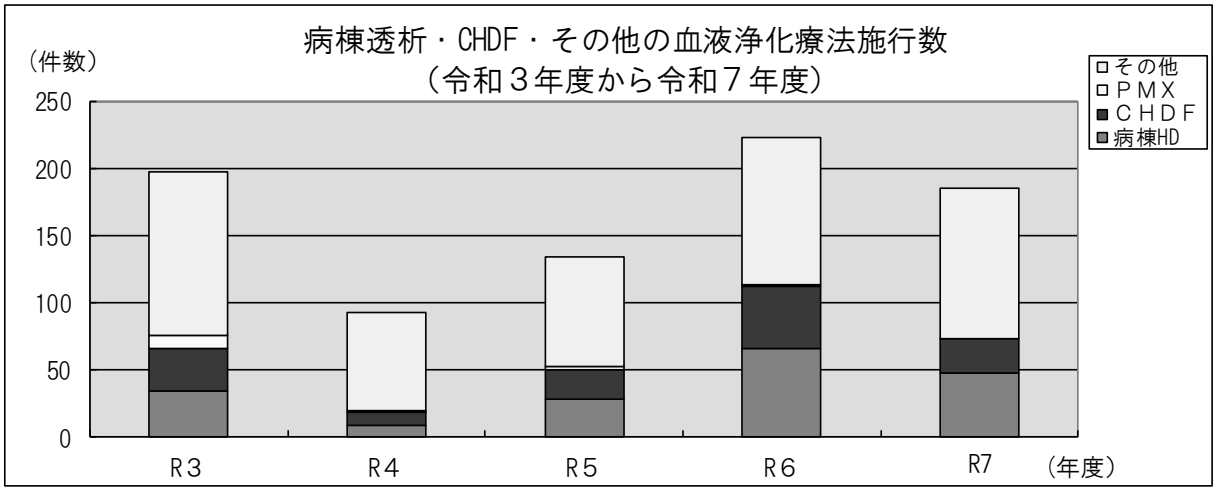
②研修医向け ME 機器取り扱い説明会

人工呼吸器	2 件	13 名

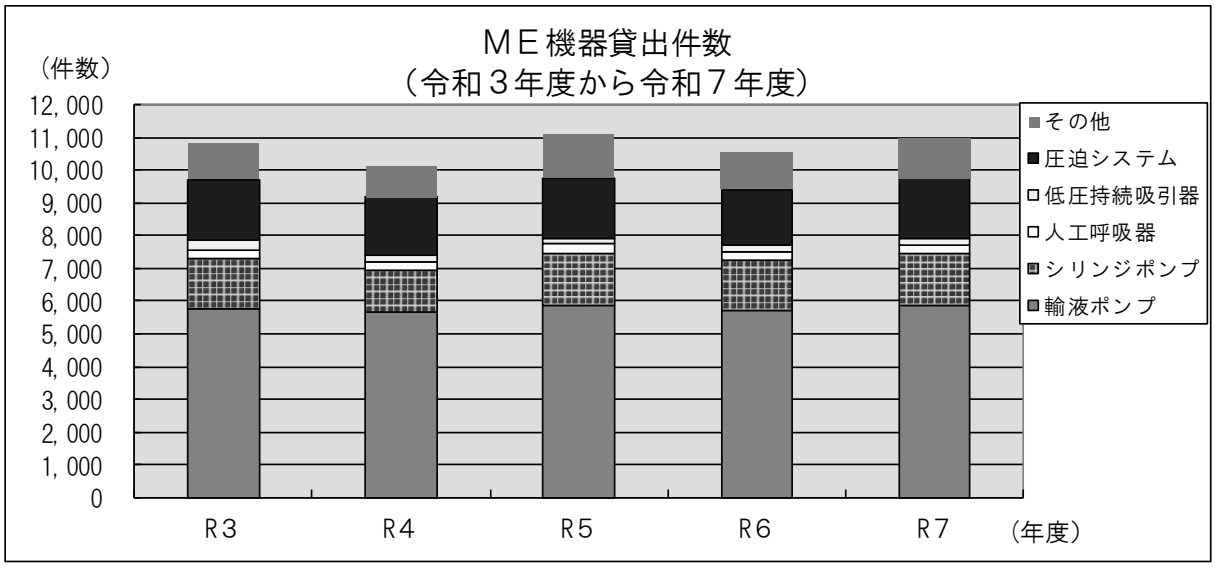
③ME 機器取り扱い説明会(対象：医療従事者)

持続緩徐式血液透析濾過装置 JUN55XⅡ、55XⅢ	4 件	34 名
透析監視装置 (DCS200Si)	1 件	3 名
生体情報モニタ	2 件	14 名

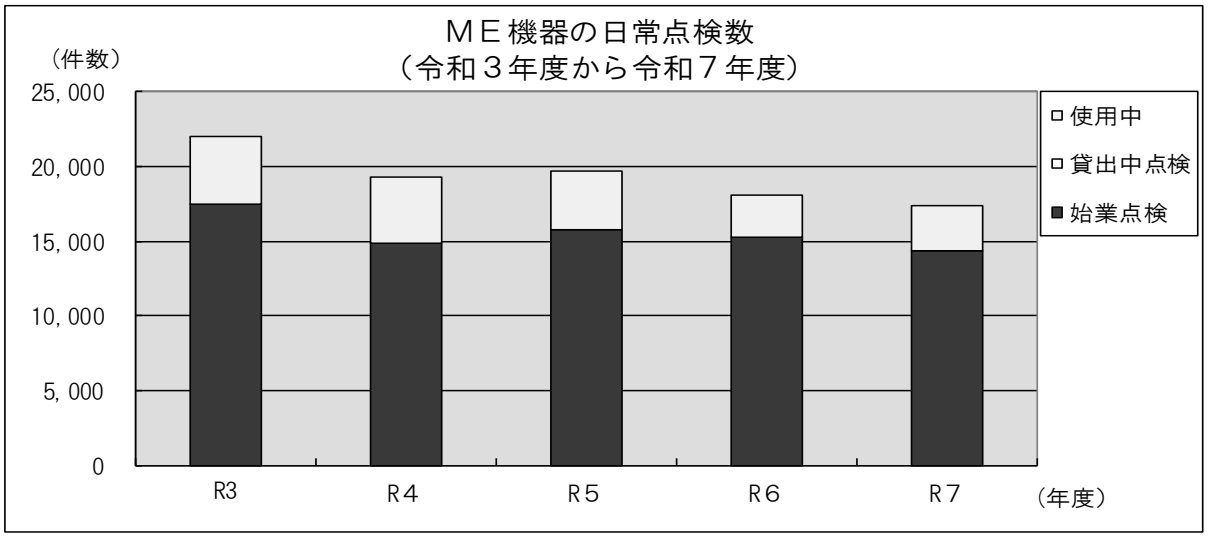
①病棟透析・CHDF・その他の血液浄化療法施行数



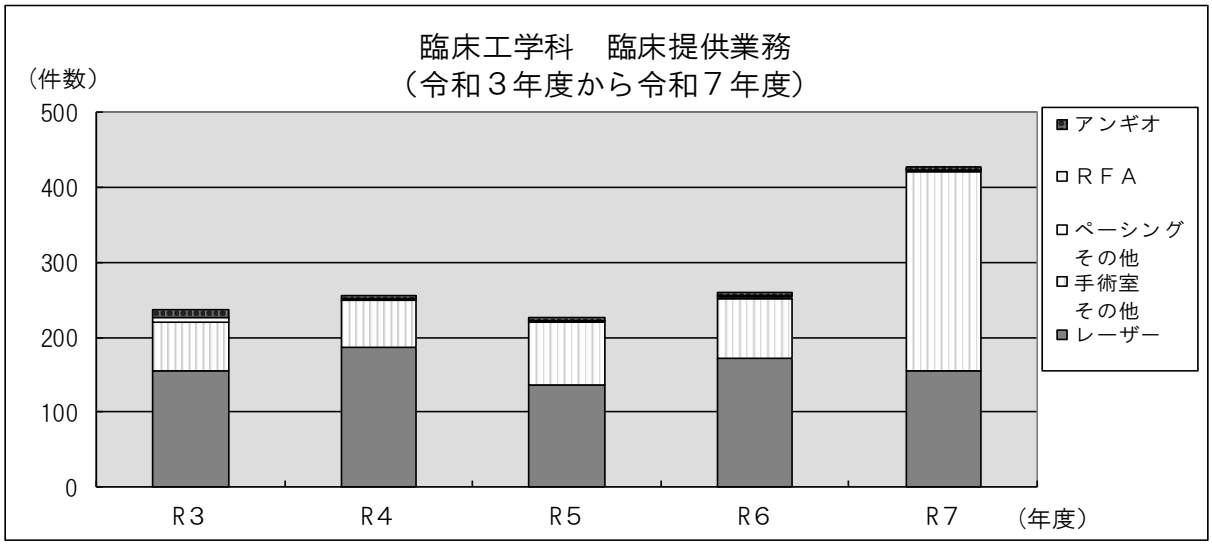
②ＭＥ機器貸出件数



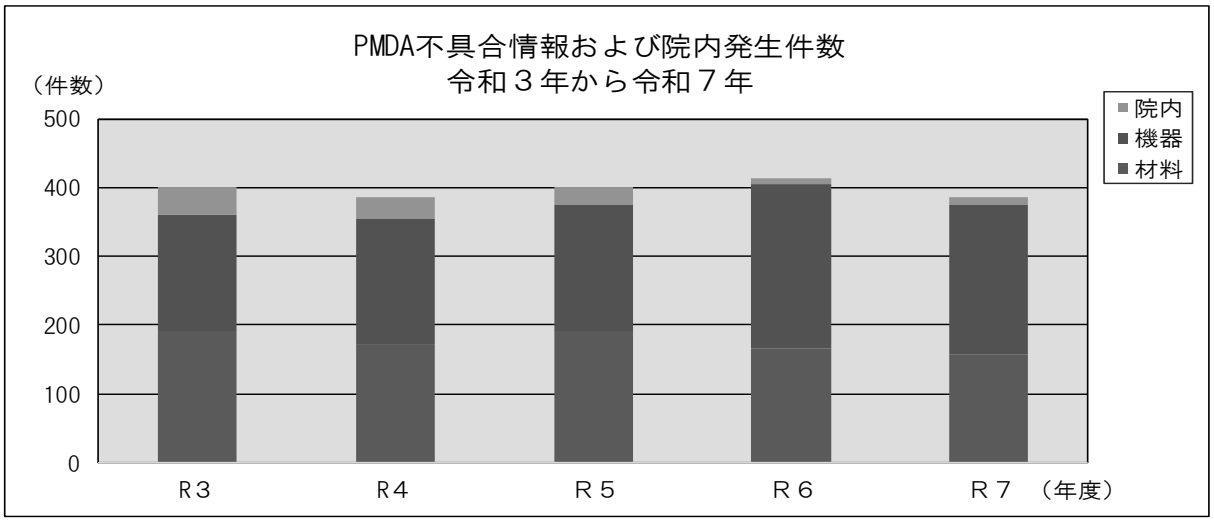
③ＭＥ機器の日常点検数



④臨床技術提供業務件数



⑤医療用具・医療機器不具合情報及び院内不具合情報件数



35. 看 護 部

1. 令和7年度看護部業務総括

【看護部業務総括】

令和 7 年度は新たに看護副部長 1 名、看護科長 1 名、師長 2 名、副師長 2 名を迎え始まった。

看護 DX 推進により働き方の改善が求められる昨今､看護の質を落とさず看護過程が展開できることと看護記録にかかる時間を削減するために【チームコンパス】を導入した。令和 8 年 1 月からの稼働のため本年度は問題の抽出と改善の繰り返しであるが浸透と習得ができるよう、次年度もチームコンパスを活用の醸成に注力していきたい。

診療報酬改訂に基づき身体拘束解除に向けての取り組みが強化された。今年度の身体拘束実施率は月平均 4.0%～7.0%だった。各部署でのカンファレンス、身体抑制解除や実施に対する意識を高めていった。

次年度は早期退院に向けて身体機能の維持や尊厳が保たれるようさらに、急性期病院としての看護、看護師のあり方を発展させたい。

【認定看護師の活動状況】

今年度は総勢 12 名、10 分野での活動となった。

登録分野別の認定看護師数

登録分野	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
がん性疼痛看護	1	1	1	1	1
皮膚・排泄ケア	1	1	1	1	1
感染管理	2	2	2	2	1
脳卒中ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護	2	2	2	2	2
緩和ケア	2	2	2	2	1
手術看護	1	1	1	1	1
がん化学療法看護	1	1	1	1	1
不妊看護	0	0	0	0	0
透析看護	1	1	1	0	0
認知症看護	2	2	2	2	2
摂食・嚥下障害看護	1	1	1	1	1
慢性心不全看護			1	1	1
合計人数	14	14	15	14	12

特定行為研修終了看護師

登録特定行為区分	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
創傷管理関連 栄養及び水分管理に係わる薬剤投与関連	1	1	1
栄養及び水分管理に係わる薬剤投与関連 感染に係わる薬剤投与関連		1	1
合計	1	2	2

1）認定看護師による同行訪問

新型コロナウイルス感染症が拡大した 3 年間は、活動が縮小された。

令和 5 年度より活動を再開し、令和 5 年度の実施件数は 2 件、令和 6 年度の実施件数は 2 件、令和 7 年度の実施件数は 9 件（褥瘡領域 5 件、緩和領域 4 件）であった。

【専任看護師登録制度】

専任看護師登録制度は、平成 17 年に創設された当院独自の院内認定制度であったが、令和 5 年に制度の見直しを行い廃止となった。

【看護部研修会】

内容	作成者・講師
＜実践報告会＞ ・ファーストレベル研修を通しての学び・今後の課題 1.静岡県看護協会主催研修参加 2.浜松医大看護キャリア開発センター主催研修参加	6A病棟看護師長 鈴木千佳子 2階外来看護師長 瀧澤理恵
＜伝達講習会＞ ・看護教員と実習指導者の合同研修 「発達障害および発達障害が疑われるグレーゾーンな学生の理解と支援」	3C病棟看護師 中野幸子 6B病棟副看護師長 川原崎由美子 入退院支援室看護師 孕石美枝
＜管理者研修会＞ ・テーマ 「当院の経営状況について」	病院経営戦略課課長 関 肇 病院経営戦略課担当総括主幹 大畑敦志

【他施設看護職員受入研修】

平成 30 年度より開始した「他施設看護職受入研修」は、今年度で 8 年目となる。地域で働く看護職を対象とした看護職員研修受入事業で、この研修の目的は、地域の医療機関や訪問看護ステーション等に勤務する看護職の人材育成に貢献することである。今年度の受入実績は、4 つの研修プログラムに延べ 9 名の受講者を受け入れた。

【看護研究発表】

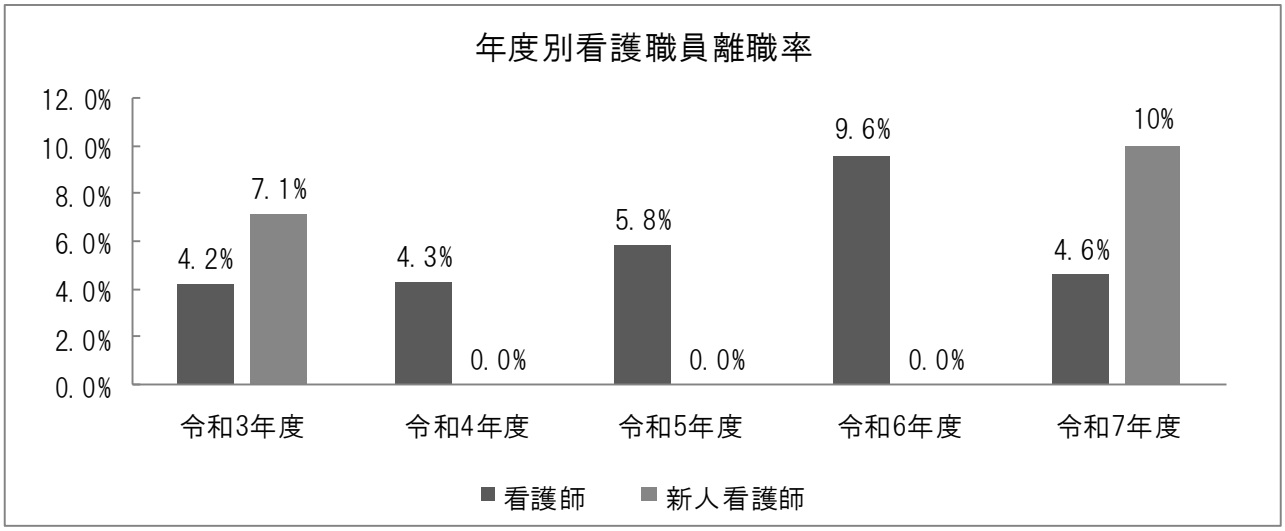
院内看護研究発表　開催日：令和8年3月　WEB開催 院内

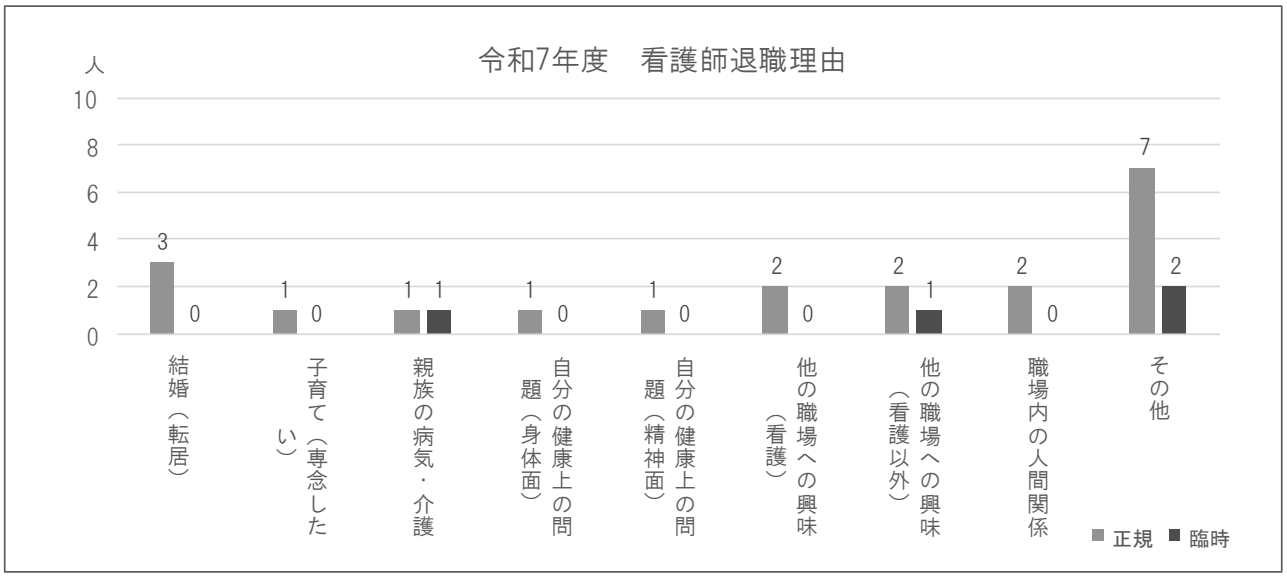
(1) 外科病棟における超高齢者患者の家族が退院支援に対して抱える思い
～インタビューを通して看護師ができること～
6A病棟　鈴木美代子、池谷千晶

(2) 急性期病院の脳卒中患者特性に合わせた排便ケアの検討
～排便管理カンファレンスを実施した結果から～
6B病棟　赤坂美乃里、鶴橋元

2.看護職員について

1） 正規看護師離職率と退職理由





36. クリニカル・スキル・ラボ

【業務活動状況】

令和７年度のスキルラボ室使用者延べ人数は、2,134 名であり　前年度より 229 名減少した。前年度まで WEB 会議室として 27 回使用していたが、は院内 WiFi の整備や web 会議室の活用に伴い 8 回に減少している。

BLS 参加者は昨年度 447 名であったのに対して、579 名と増加した。診療技術部においては、延べ 190 名の参加があり技術の向上がみられた。また放射線技師、理学療法士のインストラクターがスキルラボ担当のサポート受けながら指導を行った。

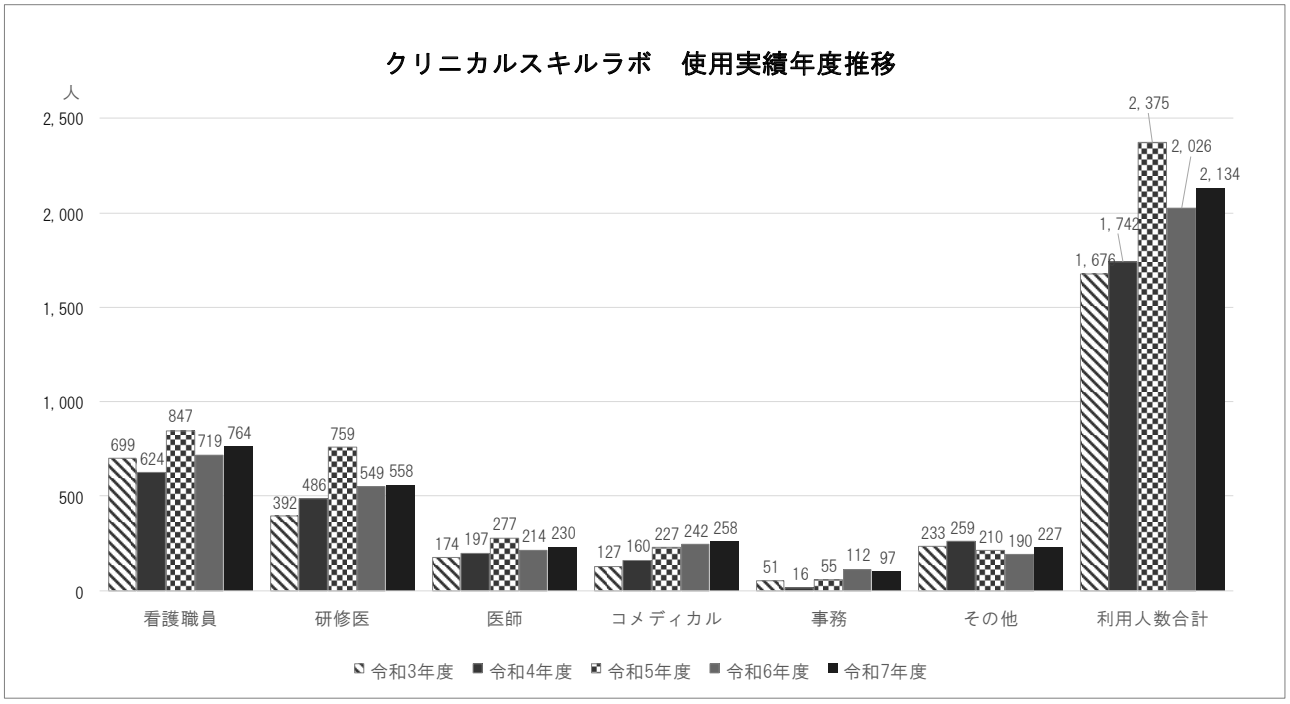
初期臨床研修医指導ガイドラインに則り、直腸診シミュレータを購入した。また既存のレサシアンシミュレータに質評価をするためのアプリをダウンロードし、胸骨圧迫の質の可視化が容易になった。ICLS コースおよび診療技術部 BLS で使用した。

【評価】

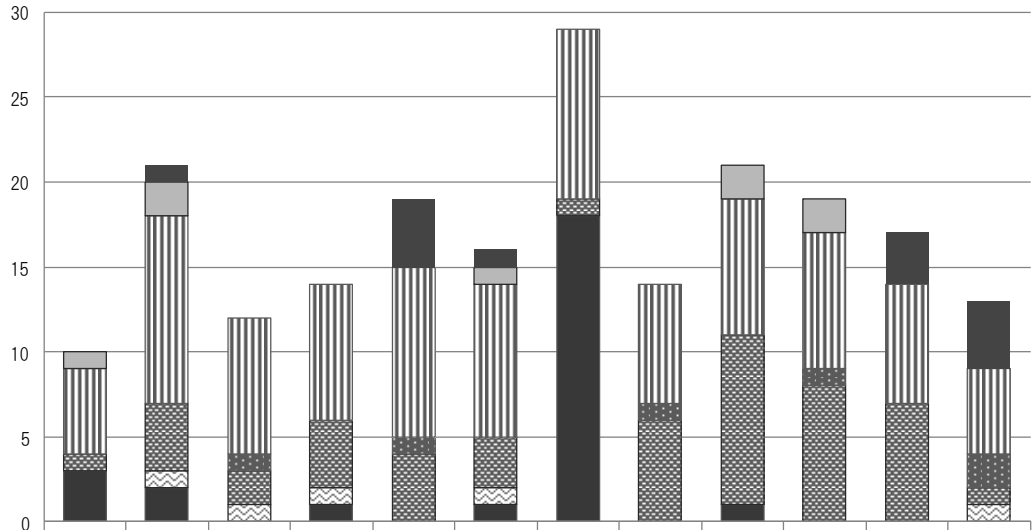
働き方改革の取り組み（時間外勤務や院内滞在時間を減らす）もあり、時間外研修会の開催は難しくなった。そこで、日勤カンファレンスの時間などを使い、BLS ショート研修やぬきうち BLS 研修を短時間で複数回開催した。しかし、部署毎の回数の差が大きく、血液浄化室が 5 回開催する一方で、1 度も実施しない部署も見受けられた。次年度からは、病院事業管理者主導のもと、ICLS 認定インストラクターによる、全職員を対象とした BLS 研修が開始される予定であり、BLS の質向上が期待される。

【次年度の目標】

１）MET　BLS の定期開催（看護師 300 名参加予定）
２）診療技術部インストラクターを日本救急医学会公認インストラクターに育成する
３）救急医学会認定 ICLS コース　3 回／年開催

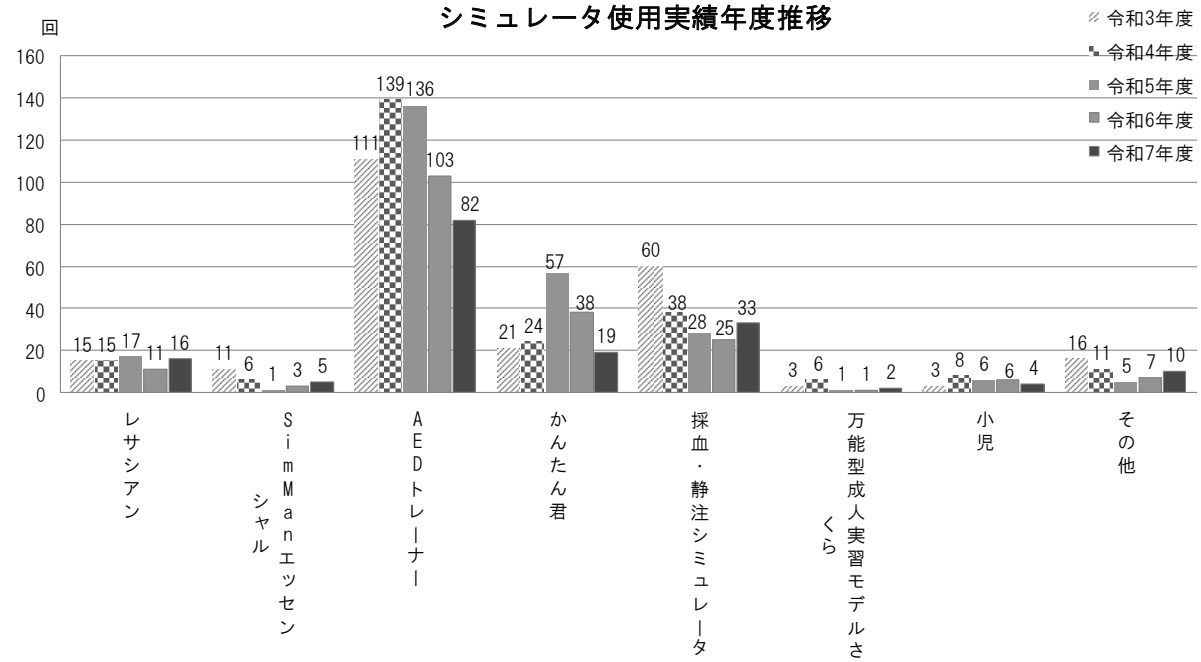


クリニカルスキルラボ目的別使用実績（研修開催回数）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
その他	0	1	0	0	4	1	0	0	0	0	3	4
WEB	1	2	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0
講義	5	11	8	8	10	9	10	7	8	8	7	5
シミュレーション	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	2
BLS・ルーカス	1	4	2	4	4	3	1	6	10	8	7	1
ICLS・BVM・挿管介助・DC	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1
採血・静脈注射	3	2	0	1	0	1	18	0	1	0	0	0

シミュレータ使用実績年度推移



37. 医 療 の 質 管 理 室

【業務活動状況】

医療の質管理室は部門横断的に業務改善活動を継続する目的で令和5年度に創設された。
所管業務は下記の通り

① 医療の質改善に関すること。
- 医療の質管理委員会
- 高難度新規医療技術評価部会

② 医療サービスの向上に関すること。
- 患者満足度アンケート

③ 臨床評価指標（クリニカルインディケーター）の計測、監視及び分析に関すること。
- 医療の質可視化プロジェクト
- クリニカルインディケーター

④ 医療機能の第三者評価に関すること。
- 病院機能評価

⑤ 臨床倫理に関すること。

⑥ その他医療の質管理に関すること。
- 職員満足度アンケート
- 病院機能評価サーベイヤー、医療クオリティマネジャー養成

【実績】

① 高難度新規医療技術評価部会
- 導入前検証「無痛分娩の導入について」

② 患者満足度アンケート
- 入院患者　9月～10月実施　有効回答率　42%（206部/495部）
- 外来患者　11月17日～11月21日実施　回答数　406部
  アンケート用紙回答380部　電子回答　26部
  アンケート用紙回収率　76%（380部／502部）

③臨床評価指標
- クリニカルインディケーターの計測

医療の質可視化プロジェクト結果報告

	指標名	単位	2024年10月-12月				2024年1月-3月			
			分母	分子	計測値	中央値	分母	分子	計測値	中央値
医療安全	入院患者の転倒・転落発生率	‰（パーミル）	27,128	73	2.69‰	2.51‰	30,567	73	2.39‰	2.64‰
	入院患者での転倒転落によるインシデント・アクシデント影響度分類レベル3b以上の発生率	‰（パーミル）	27,128	1	0.04‰	0.04‰	30,567	2	0.07‰	0.07‰
	リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率	%	312	290	92.95%	91.47%	325	294	90.46%	92.25%
感染管理	血液培養2セット実施率	%	663	498	75.11%	83.80%	698	571	81.81%	79.04%
	広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率	%	186	172	92.47%	88.28%	181	172	95.03%	87.00%
	手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与率	%	499	496	99.40%	98.79%	476	474	99.58%	98.84%
ケア	d2（真皮までの損傷）以上の褥瘡発生率	%	27,128	19	0.07%	0.08%	30,567	28	0.09%	0.09%
	65歳以上の患者の入院早期の栄養ケアアセスメント実施割合	%	1,364	1,358	99.56%	91.62%	1,325	1,296	97.81%	90.98%
	身体拘束率	%	27,128	1,697	6.26%	7.95%	30,567	2,084	6.82%	8.66%
	指標名	単位	2025年4月-5月				2025年6月-9月			
			分母	分子	計測値	中央値	分母	分子	計測値	中央値
医療安全	入院患者の転倒・転落発生率	‰（パーミル）	18,277	40	2.19‰	2.63‰	35,502	82	2.31‰	2.65‰
	入院患者での転倒転落によるインシデント・アクシデント影響度分類レベル3b以上の発生率	‰（パーミル）	18,277	1	0.05‰	0.05‰	35,502	2	0.06‰	0.06‰
	リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率	%	243	217	89.30%	92.75%	466	417	89.48%	92.90%
感染管理	血液培養2セット実施率	%	458	365	79.69%	85.28%	1,022	832	81.41%	84.21%
	広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率	%	133	127	95.49%	88.87%	224	215	95.98%	87.07%
	手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与率	%	332	332	100.00%	99.13%	684	682	99.71%	99.14%
ケア	d2（真皮までの損傷）以上の褥瘡発生率	%	18,277	7	0.04%	0.08%	35,502	9	0.03%	0.07%
	65歳以上の患者の入院早期の栄養ケアアセスメント実施割合	%	907	901	99.34%	92.78%	1,779	1,776	99.83%	93.17%
	身体拘束率	%	18,277	813	4.45%	7.64%	35,502	1,759	4.95%	6.48%

中央値は同規模病院（400～600 床未満）で当院と同じ条件での測定病院群の値

④病院機能評価

・自己評価シートの作成

・外部サーベーヤーによる部署ヒアリング実施

⑤臨床倫理に関すること

・臨床倫理委員会の制定、活動開始（運営は病院総務課に移管）

⑥その他医療の質管理に関すること

・職員満足度アンケート：R7.2～3 月実施　回答率　41%（408/988）

・遺伝子検査の記録と生データに関わる検討会

・医療クオリティマネジャー養成：看護師 1 名

38. 医 療 安 全 管 理 室

(1) 医療安全管理担当

【業務活動状況】

■目標

1．院内職員の医療安全意識を向上する
2．院内医療事故、医事紛争、医療訴訟を防止する
3．医療安全対策地域連携加算に係わる相互チェックの実施

■実績

1．院内職員の医療安全意識を向上する
(1) 職員オリエンテーション・研修
ア　新入職者オリエンテーション
イ　新人医師・研修医オリエンテーション・新規看護補助者オリエンテーション
ウ　新人看護師オリエンテーション・新管理者研修・新人指導者研修・補助者研修
(2) 職員研修（令和 7 年度　院内研修会開催報告　第 4 章　第 3 節に掲載）
(3) リスクマネージャー等の院外研修への参加
(4) 医療安全推進月間
・「お名前と生年月日をお願いします」キャンペーン
医療安全推進月間に「お名前と生年月日をお願いします」のキャンペーンメッセージを入れたティッシュを配布して医療安全の意識向上を図った。
・医療安全推進週間ポスターの掲示
(5) 医療安全ラウンド
ア　院内ラウンド（医療安全カンファレンスメンバーで毎月 1 回実施。一部は師長も同伴）
イ　輸液・シリンジポンプ病棟ラウンド
ウ　心電図モニター使用状況ラウンド
エ　薬剤保管状況、薬剤使用時の指示受けから施行までの流れ、ダブルチェックの方法、救急カートの薬品点検状況をラウンドし確認した。
オ　転倒転落危険因子ラウンド
（病棟）ベッドサイド・浴室等　（外来）診察室、患者用トイレ、窓の開閉状況等

2．医療事故、紛争、訴訟を防止する
(1) 院内死亡報告書による死因の確認
(2) 委員会等
ア　危機管理連絡委員会　毎月開催
イ　医療安全管理対策委員会　毎月開催
ウ　リスクマネージャー委員会　毎月開催　年度末には各部署の業務改善に取り組んだ
エ　作業部会（事故防止部会、医療機器安全部会、医薬品安全部会）　毎月開催
オ　医療安全カンファレンス　毎週開催
(3) 症例検討会
(4) 患者･家族相談
(5) 医療安全管理対策マニュアル・説明書等の作成・改訂等
(6) 事例分析

3．医療安全対策地域連携加算に係わる近隣医療機関との相互チェックの実施

医療安全レポート報告件数　年次推移

※R3 年度は新型コロナワクチン接種後副反応報告を含む。

分類	患者影響レベル	内　　容	R3	R4	R5	R6	R7
インシデント	レベル０	間違った事が患者に実施される前に気づいた	545	399	451	490	520
	レベル１	間違った事が実施されたが、患者には変化がなかった	932	869	811	834	978
	レベル２	事故により患者への観察が強化された	790	856	881	823	927
	レベル３ａ	簡単な治療や処置を要した	446	436	357	381	271
アクシデント	レベル３ｂ	濃厚な処置や治療を要した	22	17	15	13	29
	レベル４	事故により永続的な障害や後遺症が残った	0	4	1	1	4
	レベル５	事故が死因となった	0	1	0	0	0
	その他	苦情 等	224	146	151	162	105
医師レポート件数			4	5	8	10	8
合　　計			2, 963	2, 733	2, 675	2, 714	2, 842

部署別報告件数　年次推移

報告部署	R3	R4	R5	R6	R7
医務部	147	160	163	135	165
看護部	2, 074	1, 975	1, 956	2, 038	2, 047
薬剤科	275	195	257	265	262
中央放射線科	47	19	20	26	28
中央検査科	104	94	91	55	96
病理室	21	14	4	2	6
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ技術科	37	47	17	36	23
栄養科	123	102	88	53	99
臨床工学科	20	21	26	10	22
外来技術科	20	6	4	12	12
事務部	51	58	20	35	34
医療の質管理センター（旧業務管理センター）	18	14	4	7	6
健診センター	16	15	7	4	4
患者支援センター	10	13	18	36	38
その他	0	0	0	0	0
合計	2, 963	2, 733	2, 675	2, 714	2, 842

発生内容別報告件数　年次推移

発生内容	R3	R4	R5	R6	R7
薬剤	986	869	929	992	1, 001
輸血	22	15	10	13	12
治療・処置	177	184	200	148	95
医療機器等	80	89	92	74	64
ドレーン・チューブ	465	423	384	406	404
検査	330	290	243	203	257
療養上の世話	343	277	254	204	258
転倒	235	215	196	198	234
転落	75	74	79	75	59
その他	246	292	280	391	450
医師レポート	4	5	8	10	8
合計	2, 963	2, 733	2, 675	2, 714	2, 842

※R3 年度は新型コロナワクチン接種後副反応報告を含む。

（2）褥瘡担当

【業務活動状況】

1）勉強会内容：褥瘡ケアの基本　褥瘡予防から治療につながるケア
日時：令和 7 年 12 月 5 日 9 時～16 時
出席者数：94 名（うち院外医療従事者 2 名）
講師：褥瘡対策委員
同内容を WEB 配信期間：令和 7 年 12 月 9 日～12 月 31 日
参加者数：545 名（医師・看護師・コメディカルなど）

2）褥瘡回診延べ人数　（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
褥瘡回診	8	15	14	9	7	12	10	7	13	11	9	11	126

3）褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定数　（褥瘡ハイリスク患者ケア加算：500 点／1 入院）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
算定件数	66	81	104	110	92	103	106	90	109	117	89	92	1,159

4）クリニカルインディケーター（単位%）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11 月	12月	1 月	2 月	3 月	平均
褥瘡有病率	6.1	5.5	7.6	3.0	3.0	4.1	4.0	3.9	6.7	9.0	7.6	6.0	5.5
褥瘡推定発生率	2.0	2.8	3.1	1.2	0.9	1.2	3.0	1.2	3.2	1.8	1.9	2.3	2.0

5）今後の課題

今年度は褥瘡推定発生率が 0.1%減少することができた。入院早期からの褥瘡予防ケアを実施することができていたと示唆される。チームコンパスが導入され、皮膚に関連した用語が多く用いられることから、褥瘡、スキンテア、MDRPU（医療関連機器褥瘡）、IAD（失禁関連皮膚炎）の用語の定義やケア方法を周知徹底させていくように働きかけていく。

39. 感 染 管 理 室

【業務活動状況】

1. 院内感染対策委員会

毎月火曜日12回／年開催

2. 抗菌薬適正ラウンド（全病棟をラウンド）

原則毎週火曜日

医師、薬剤師、細菌検査技師、看護師

項目	合計
細菌検出数	787
限定抗菌薬数	1,432
（内）適正指導数	34
適正使用確認件数	2,219
AST 介入件数	303

3. 環境ラウンド（全部署をラウンド）

病棟は1カ所／週ラウンド実施

侵襲の多い処置を行う部署は1回／2ヶ月を目処にラウンド実施

その他の外来、診療技術部部署は1カ所／週を目処に1年を通して全部署実施

4. 感染対策リンクスタッフ委員会

毎月火曜日 12 回／年開催

＜今年度活動＞

・手指衛生の遵守率向上への活動
・各部署課題抽出と改善策取り組み
・サーベイランス勉強会（CLABSI、SSI、CAUTI、VAE）
・CDI 減少のための依頼・講義等
・栄養科より経管栄養の取り扱いについて講義
・臨床工学科よりクリーンパーテーションの使用方法講義

5. 院内研修会、広報活動

・新規採用者オリエンテーション
・院内感染対策研修会：2 回実施
・CoMedix 上回覧板使用し、感染トピックスや県からの情報を配信
・N95 マスクフィットテスト

6. 職業感染予防策

1）HB ワクチン接種
2）麻しん・風疹・水痘・ムンプス抗体価確認検査
3）針刺し切創/血液曝露後対応
4）針刺し切創/血液曝露予防対策
5）結核発生時 IGRA 検査（対象者）と接触者検診（必要者）

7. サーベイランス

1）「検査部門」「SSI 部門」（厚生労働省サーベイランス事業参加）
2）「院内針刺し/血液曝露状況」（全国エピネット事業参加）
3）院内冬季ウイルス性疾患発生状況（インフルエンザ/嘔吐下痢症）
4）院内結核発生状況
5）中心ライン関連血流感染サーベイランス（全病棟）
6）尿道留置カテーテル使用比算出（全病棟）
7）人工呼吸器関連イベントサーベイランス（全病棟）

8. 感染対策向上加算１算定

＊加算１同士の連携

＜社会医療法人　駿甲会　コミュニティホスピタル甲賀病院＞

相互評価を２病院で各１回

＊加算２との合同カンファレンス：岡本石井病院

計４回：令和７年６月 21 日、９月 27 日、12 月 17 日、令和８年３月４日

＊指導強化加算

令和７年５月９日　　山下内科医院

令和７年６月４日　　長岡内科

令和７年６月 18 日　小長谷内科消化器科医院

令和７年８月 20 日　たなか耳鼻科

令和８年３月９日　　岡本石井病院

9. その他

・中部地区地域エイズ医療対策連絡会出席

・厚生労働省　院内感染対策講習会（看護師１名参加）

・ICS 感染制御講習会１コース（検査技師１名参加）

・地域連携「静岡県中部感染対策ネットワーク」参加

・感染対策支援セミナー参加

・院外研修への参加

40. 院 内 救 急 対 応 室

令和 4 年度から当院に院内迅速対応システム（Rapid Response System）（以下「RRS」という。）及び院内迅速対応チーム（Medical Emergency Team）（以下「MET」という。）を置き、活動を開始している。

【業務活動状況】

1　委員会及び MET 活動について

（1）院内迅速対応システム委員会（RRS 委員会）

・令和 7 年 6 月 16 日開催
・令和 7 年度 RRS 委員会委員について報告
・焼津市立総合病院 RRS 運用要項を改訂した
・令和 6 年度 MET 活動報告
・コードブルー症例の振り返りについて検討した
・年 5 回 RRS 通信を発行した

（2）MET 検討会

・毎月第 2 金曜日　17 時～開催
・MET 起動症例についてメンバーで検証した

・各症例の起動までの経過から主治医との連携、その後の経過などについて意見交換などを行った

（3）MET 活動実績

MET 回診を毎週月曜日 11 時～実施

＜令和 7 年度　MET 活動実績＞

	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
MET 起動件数	8	73	85	68
MET 回診件数 （※令和 5 年 7 月～開始）		110	129	117

2　研修・勉強会について

院内迅速対応チーム（MET）の対応体制及び対応状況等について院内に周知するとともに、RRS への理解を深めるために院内勉強会等を開催した。

41. 治 験 管 理 室

【委員会活動状況】

治験管理運営委員会

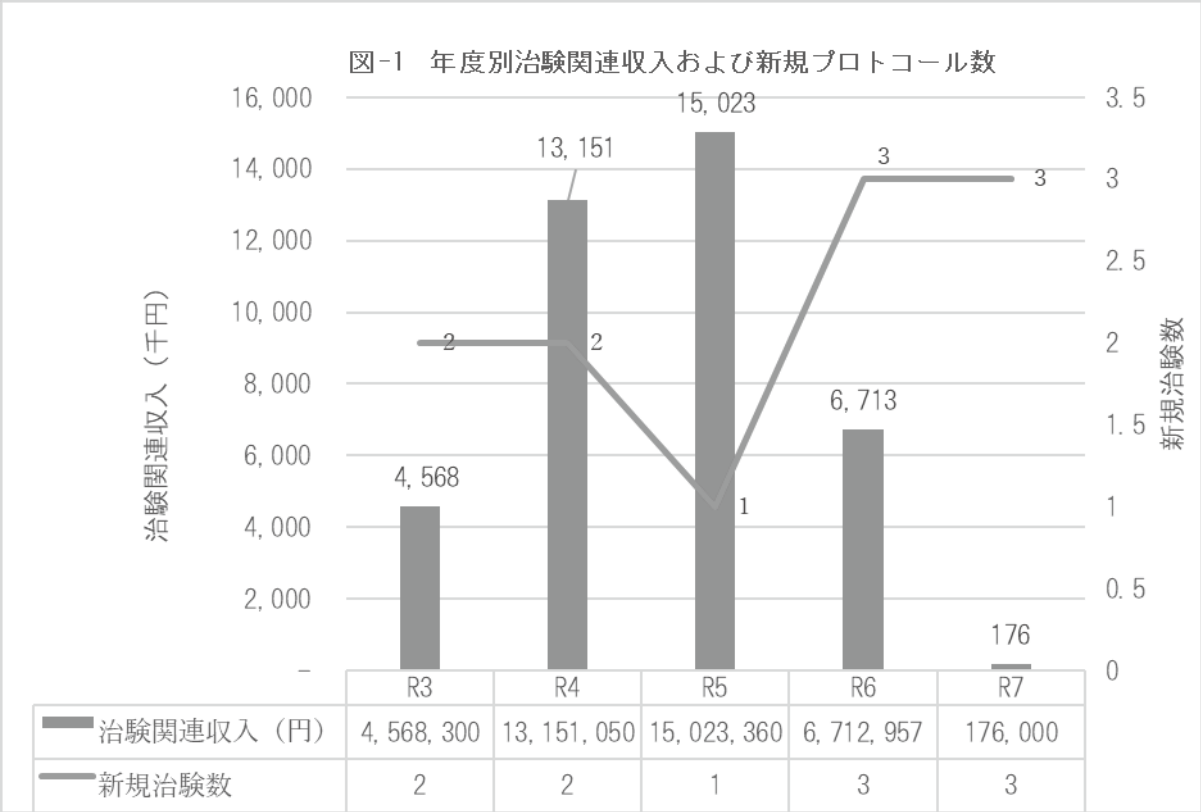
回	開催日	報告・検討事項
50	3/5 回覧	・使用成績調査実施状況　・治験実施可能性調査対応状況 ・治験進捗状況　・中央治験審査委員会導入 ・治験クラウドシステム「Agatha」のシステムバリデーション報告 ・リファーラルサイト試験の受託

【実績】

1. 治験/臨床試験実施状況（2026.3.31）

被験薬	対象疾患	診療科	実施期間*	契約例数	同意取得	投与
baxdrostat （アルドステロン合成阻害）とダパグリフロジンを併用投与	高血圧を合併する慢性腎臓病	腎臓内科 総合診療内科	2024/5～2027/12	5	7	5
baxdrostat （アルドステロン合成阻害）とダパグリフロジンを併用投与	高血圧を合併する慢性腎臓病	腎臓内科 総合診療内科	（イベント駆動型） 2025/2 ～ primary endpoint のイベント数が N＝845 に達するまで	4	5	3
EFC18156 Riliprubart（ヒト化モノクローラル抗体（mAb))	慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー	脳神経内科	2025/2～2027/5	1	0	0
EFC17236 Riliprubart（ヒト化モノクローラル抗体（mAb))	難治性慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー	脳神経内科	2025/9～2028/4	1	1	1
AZD5148 （抗ヒト IgG1 モノクローナル抗体)	C.difficile 感染症	消化器内科	2025/11～2028/6	2	0	0
TS-172（腸管選択的 NHE3 阻害作用）とリン吸着薬併用投与	高リン血症（透析）	腎臓内科 （透析センター)	2025/11～2027/7	5	3	2

*;初回 IRB～終了報告もしくは契約期間



契約中央治験審査委員会

治験名	依頼者	中央審査委員会
高血圧 CKD	アストラゼネカ（株）	北町診療所
高血圧 CKD 駆動型	アストラゼネカ（株）	臨床研究の倫理を考える会
CIDP	サノフィ（株）	日本ホスピタルアライアンス
難治性 CIDP	サノフィ（株）	中目黒アトラスクリニック
C.difficile 感染症　再発防止	アストラゼネカ（株）	臨床研究の倫理を考える会
HD 中の高リン血症	大正製薬（株）	北町診療所

2．製造販売後調査実施状況（2026.3.31）

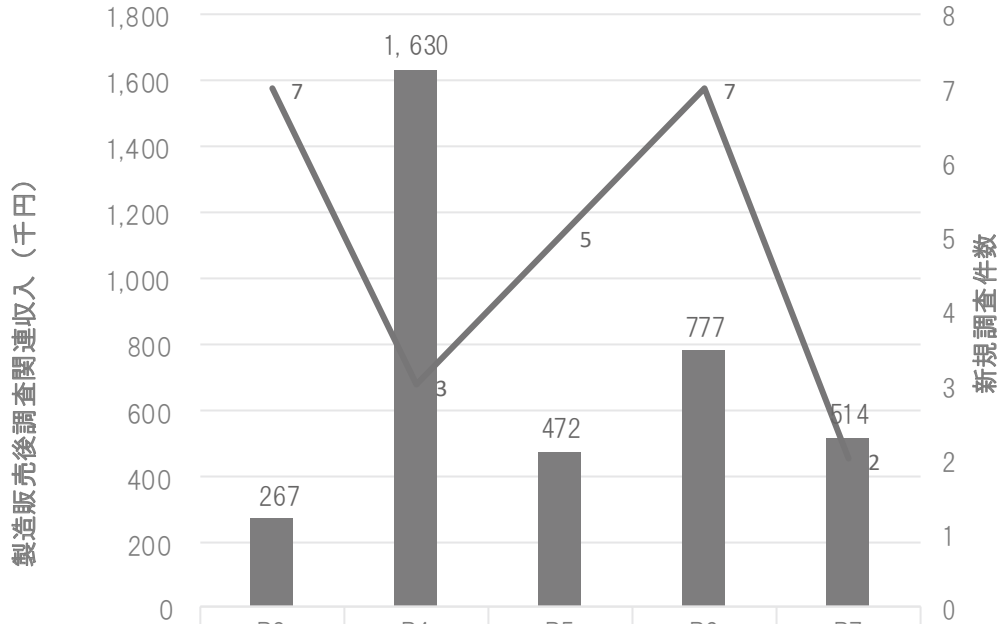
1）新規契約締結

医薬品名	区分	担当科	契約例数
クアルソディ	使用成績調査	脳神経内科	全例
フェスゴ	使用成績調査	消化器内科	1 例

2）調査終了

医薬品名	区分	担当科	実績/契約例数
エンタイビオ（クローン病）	特定使用成績調査	消化器内科	0/1 例
デュオドーパ	特定使用成績調査	脳神経内科	1/全例

図-2　年度別製造販売後調査関連収入及び新規調査件数



	R3	R4	R5	R6	R7
製造販売後調査関連収入（円）	267,410	1,629,628	471,900	777,062	514,371
新規調査件数	7	3	5	7	2

【総括】

治験については、今年度より業務効率化とペーパーレス化を目的に電磁化・中央治験審査委員会を導入。特にトラブルもなく新規治験の審査が行われ、導入・継続することができています。

収益については、院内治験審査委員会閉会により治験審査委員会関連費用分が減収となっています。また、現在の治験が長期試験のため来年度まで請求できる試験はなく、収益の見込みはありません。期間の短い治験導入の検討をしています。

製造販売後調査については、新薬でも調査の必要な薬剤のみの契約となっているため、新規契約が減っています。契約が必要な薬剤については薬事委員会の前より担当者から報告があるため、投与前には契約締結が.出来、スムーズに行えています。

収益については、調査終了件数は少ないですが、症例数の多い認知症治療薬の調査費を中間報告として分割して請求することにしたので、収益を維持することができました。

42. 栄 養 サ ポ ー ト 室

【業務活動状況】

・NST委員会は4回開催（5月、9月、12月、3月）
・NST回診、カンファレンスの実施は下記の通り
　全体-52回/年、6C病棟-12回/年
・NST専任は医師11名、薬剤師10名、看護師14名、管理栄養士8名
・リンクナース連絡会は2回開催
・NST委員会では、回診、企画研修、マニュアルの担当を各職種の立場から分担して活動

1. 回診担当　入院患者への適切な栄養管理

NST介入による適切な栄養管理の実施を目標に、褥瘡・創傷の栄養管理、経管栄養管理に重点を置き、早期栄養介入による重症化予防や状態改善に努めた。従来の全科型NST回診とは別に、2026年1月からは6C病棟の病棟型NST回診を再開し､NSTによる適切な栄養管理の介入件数の増加につなげた。

2. 企画研修担当　栄養管理の学習会の開催

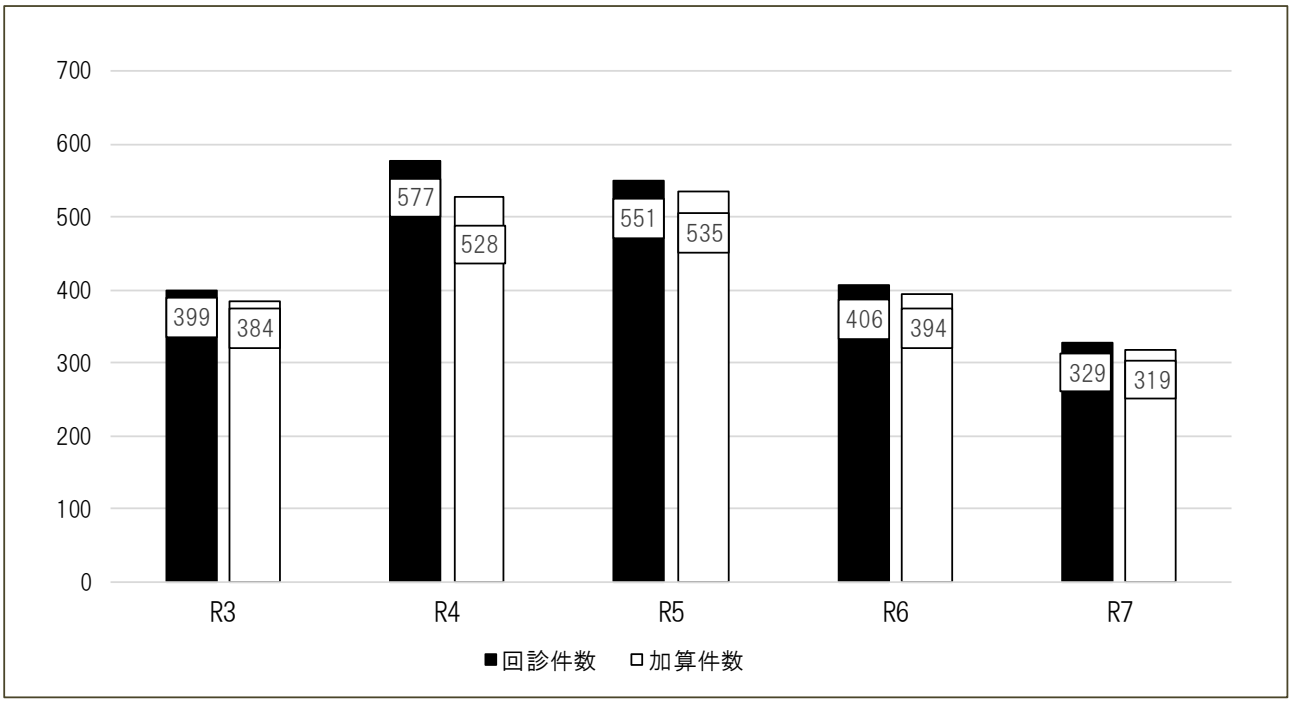
各病棟に入院している患者の特徴を考慮した栄養介入方法についての勉強会を、積極的に行うことができた。

3. マニュアル担当

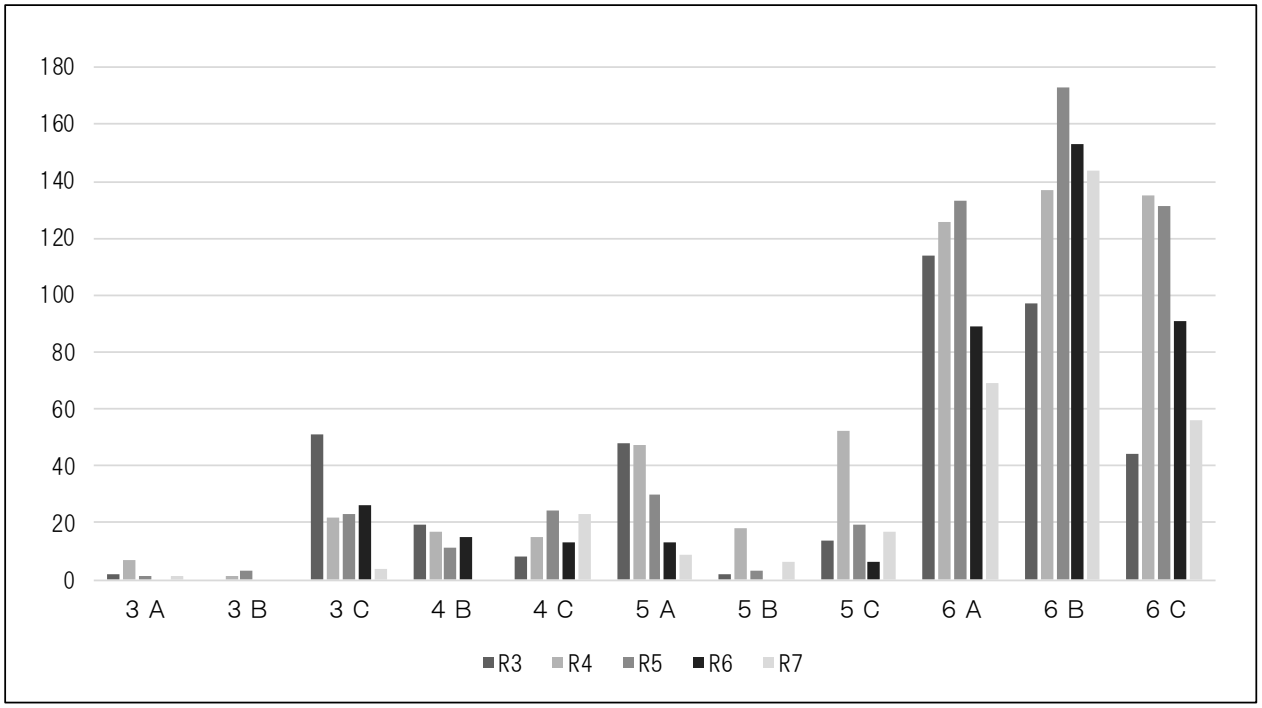
・院内使用経腸栄養剤一覧の改訂を実施

【活動実績】

1）NST回診件数と栄養サポートチーム加算算定数（単位:件）
（栄養サポートチーム加算：200点/週1回）



2）病棟別 NST 回診件数



43. 化 学 療 法 室

1. 化学療法室

【業務活動状況】

・当センターのスタッフは専任医師 1 名、師長を含めて看護師 11 名、うち 3 名が専任である。化学療法中は、がん薬物療法認定薬剤師 2 名が交代で副作用等をアセスメントして指導している。
・看護師は安全に治療が遂行できるように、患者への観察を行っている。また、副作用や不安な思い、在宅での生活の仕方など生活面での情報収集を行い、外来や他職種へとつなげている。
例として、がん性疼痛認定看護師が患者の相談や指導、栄養士による栄養指導を行っている。
・近年外来化学療法以外の点滴患者（主に脳神経内科難病指定疾患に対する薬剤）・輸血施行患者の増加に伴い、令和 6 年 4 月より旧 4A 病棟に点滴治療室（10 床）を開設稼動し、輸血・骨転移の治療薬・補液・抗生物質・小児の点滴、ホルモン製剤を実施し、また内視鏡鎮静後患者の様子観察ベッドとしても活用している。ホルモン製剤は薬剤によっては 1 階注射室に依頼している。
・令和 6 年 4 月より従来の点滴治療センターを、化学療法室と名称変更し、外来化学療法（外来化学療法加算取得薬剤）を施行している。

【診療実績及び治療成果】

2 階化学療法室　（単位：件）

診療科	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
外科	1, 215	1, 062	803	756	655
消化器内科	766	705	762	570	520
血液内科	232	381	412	421	415
泌尿器科	262	390	489	438	298
耳鼻咽喉科	46	108	101	88	26
総合診療内科	3	2	3	2	0
脳神経外科	11	19	35	45	11
整形外科	13	16	19	25	2
腎臓内科	32	41	46	28	7
婦人科	412	584	458	470	443
脳神経内科	56	104	184	25	17
合計	3, 048	3, 412	3, 312	2, 868	2, 395

（化学療法・分子標的治療薬を含む）

4 階点滴治療室　（単位：件）

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
ビスホスホネート製剤・ランマーク　*1	540	628	533	160	100
ホルモン製剤　*2	1, 603	1, 516	1, 373	466	489
難病指定疾患治療薬 ≪消化器内科≫				93	78
≪脳神経内科≫				101	125
認知症治療薬				231	191
抗生剤・補液等　その他薬剤				2, 403	1, 861
輸血	239	329	403	340	317
血液製剤	26	67	65	27	57
内視鏡後鎮静		382+α　*3	562+α　*4	623	778

*1・2　令和 6 年度より 1 階注射室で施行している薬剤あり
*3・4　令和 4・5 年度　+α は点滴センター以外で経過を診る症例もあり

2. 緩和ケア委員会

【業務活動状況】

・緩和ケア委員会は、外科医師、婦人科医師、総合内科医師、精神科医師、管理栄養士、臨床心理士、医事課職員のメンバーだったが､医師の異動を機に１月から消化器内科医師､救急科医師も加わった。
・緩和ケアチームは 12 月までは、薬剤師や看護師、栄養士などが中心になり毎週水曜日に定期的に依頼患者のカンファレンスや病棟ラウンドを行っていたが、令和８年１月より医師中心の緩和ケアチームが活動を開始し、月曜日に精神科カンファレンス、木曜日にチームカンファレンスを行って毎日ラウンドを実施している。
・「生活に関する質問表」「化学療法中の生活に関する質問表、＜STAS－J＞」で苦痛を拾い上げ、情報共有や他職種につなげている。
・がんよろず相談では、院内外の患者、家族、医療者などからの依頼に対応している。
・乳がん患者の術後の治療、血液内科や呼吸器内科の診断や治療について同席して患者支援を行っている。

【診療実績及び治療成果】

緩和ケア診療加算件数

※「緩和ケア診療加算」は令和２年度６月より開始（神経難病、心不全は申請対象外）
令和８年１月より、医師中心の緩和ケアチームが発足して、毎日ラウンドを行っている。

診療科	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
外科	12	21	41	35	18
消化器内科	16	8	7	35	21
内科	0	1	0	4	0
腎臓内科	0	0	1	5	0
婦人科	38	24	43	25	82
泌尿器科	41	31	23	29	95
耳鼻咽喉科	14	4	5	6	32
血液内科	0	0	0	0	0
脳神経外科	0	4	1	0	2
その他	1	4	3	3	5
計	122	97	124	142	255

緩和ケア内訳	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
外来ケモ中相談 がんよろず相談	2, 961	3, 135	3, 608	2, 505	2, 575
がん患者指導管理料イ	95	93	92	104	78
がん患者指導管理料ロ	121	94	130	113	91
がん患者指導管理料ハ					49
リンパ浮腫指導管理料					75

★　がんサロンは５月、10 月に実施　（ピアサポーター含め６月６名、10 月８名参加）
★　指導管理料　イ：医師による診療方針の面談に認定看護師が同席（患者１名に対し１回のみ）
ロ：患者の心理的不安など看護師が面談（患者１名に対し６回まで）
ハ：抗悪性腫瘍剤を投薬、注射する場合、医師又は専任の薬剤師の指導

＜がん性疼痛管理料＞

がん性疼痛に対し、医療用麻薬を使用している患者の疼痛評価を行った場合に月に１回限り算定を

行っている。令和 7 年度の算定件数は以下のとおり。

令和 7 年度　外来　166 件、入院　117 件　（令和 6 年度　外来 178 件、入院 108 件）

（件）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
外来	16	20	11	14	17	15	10	17	13	9	14	10	166
入院	10	3	11	5	9	15	9	7	14	12	8	12	117

【次年度目標】

・緩和ケアカンファレンスや、ラウンドの充実をはかる為に環境を整えていく。緩和ケア診療加算の増加を図る。

・緩和ケア委員会主催で行う講習会について、集合研修の再開を行いたいと考えている。

44. 地 域 医 療 連 携 室

1　地域医療連携担当

当院は、急性期病院の役割を明確にし、地域住民に効率よく良質で満足度の高い医療を提供することを心掛けています。地域医療連携担当では、地域医療機関との機能を分担する病診連携を推進するため、次の事業について取り組みました。

(1) 地域医療機関からFAXによる専門的な治療を必要とする紹介患者の受診申込みを受付し、患者診察後は、紹介医に対して病状報告の返信業務を行いました。

(2) 地域医療機関による当院の高額医療器機（MRI・CT 等）利用に係る受付及び請求事務を行いました。

(3) 病診連携による地域全体の医療水準の向上と医療サービスの充実を図るため、焼津市医師会との「焼津市地域医療連携連絡会」を開催しました。
また、当院が保有する医療資源を地域医療機関において効果的に活用して地域医療の充実と向上を図るため、当院の支援が適切に行われることを審議する「地域医療支援委員会」を開催しました。

(4) 急性期を脱した患者や慢性期にある患者にあっては、地域医療機関（開業医等）への紹介（逆紹介）の推進に努めました。

(5) 基幹病院（当院や静岡県立総合病院など）とかかりつけ医の間を情報通信ネットワークで結ぶ地域医療連携システム「ふじのくにねっと」の推進に努めました。このシステムによりかかりつけ医は焼津市立総合病院へ紹介した患者の診療情報を閲覧することができ、より正確な情報に基づいた高度で安全な医療を行うことができます。

(6) 当院の診療科の情報を地域医療機関へ発信することにより、患者紹介が円滑に行われるよう「地域医療連携室だより」を発行しました。

年度別紹介患者受診者数の状況　（単位：人）

紹介元	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	全体	病診連携	全体	病診連携	全体	病診連携	全体	病診連携	全体	病診連携
焼津市医師会	5,198	2,137	5,098	2,103	5,105	2,145	5,210	2,272	5,256	2,350
志太医師会	1,913	972	1,781	898	1,899	927	1,959	891	2,000	940
榛原医師会	819	236	693	187	680	234	669	211	651	231
島田市医師会	233	118	222	103	212	108	243	131	234	137
歯科医	1,016	18	1,008	10	971	9	905	6	819	12
その他	1,725	426	1,746	494	1,908	576	2,091	614	2,123	682
計	10,904	3,907	10,548	3,795	10,775	3,999	11,077	4,125	11,083	4,352

令和7年度　高額医療検査器機共同利用の状況　（単位：人）

	焼津市医師会	志太医師会	その他市外	計
CT検査	408	109	0	517
MRI検査	501	25	1	527
RI検査	3	0	0	3
DWIBS検査	0	0	3	3
骨密度検査	24	0	0	24
生理機能検査	1,354	27	0	1,381
マンモグラフィ	2	1	0	3
計	2,292	162	4	2,458

＊焼津市医師会には焼津市内の非会員医院を含む

令和７年度　科別紹介患者受診者数

（単位：人）

	病診連携							直接来院							
医師会 / 診療科	焼津市医師会	志太医師会	榛原医師会	島田市医師会	歯科医	その他	小計	焼津市医師会	志太医師会	榛原医師会	島田市医師会	歯科医	その他	小計	合計
総合診療内科	89	24	8	1	0	16	138	518	219	45	20	1	189	992	1,130
呼吸器内科	21	2	3	1	0	24	51	13	13	0	0	0	24	50	101
消化器内科	242	79	13	11	1	77	423	73	70	9	4	1	100	257	680
循環器内科	39	8	2	6	0	27	82	14	3	0	1	0	15	33	115
血液内科	5	0	0	0	0	5	10	0	0	1	0	0	3	4	14
代謝内分泌内科	57	19	4	3	0	13	96	10	7	1	0	0	16	34	130
脳神経内科	167	211	63	49	0	48	538	55	68	11	25	1	33	193	731
腎臓内科	157	31	13	1	0	13	215	39	16	2	1	0	25	83	298
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科	21	21	4	2	0	17	65	449	163	149	15	1	100	877	942
外科	171	41	12	5	0	50	279	140	67	16	2	0	231	456	735
整形外科	219	79	10	13	0	21	342	352	51	40	3	0	70	516	858
形成外科	247	31	3	1	0	19	301	146	26	6	1	1	10	190	491
脳神経外科	29	12	4	1	0	21	67	49	20	17	3	0	25	114	181
皮膚科	86	36	1	4	0	16	143	258	30	5	0	1	20	314	457
泌尿器科	130	42	17	2	0	18	209	176	86	17	0	0	116	395	604
産婦人科	90	61	22	31	0	31	235	204	145	74	17	0	277	717	952
眼科	55	27	8	1	0	67	158	261	8	9	3	0	38	319	477
耳鼻咽喉科	173	81	44	5	0	53	356	115	58	18	1	5	32	229	585
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	8	11	11
歯科口腔外科	1	0	0	0	11	3	15	31	10	0	1	796	109	947	962
共同利用（MRI、CT等読影あり）	351	135	0	0	0	143	629	0	0	0	0	0	0	0	629
合　計	2,350	940	231	137	12	682	4,352	2,906	1,060	420	97	807	1,441	6,731	11,083

２　よろず相談担当

よろず相談担当では、患者からの苦情、提案、意見（以下「意見等」という。）を最優先課題として認識し、誠実かつ迅速な対応を心掛けるとともに、患者の声を真摯に受け止め、常に医療サービスの改善を図るため、来室、面談での意見等、電話による意見等、電子メールや手紙による意見等、院内に設置している意見箱への意見等の窓口となっています。

令和７年度意見等の状況

○意見箱

内容	意　見	50
	苦　情	64
	お　礼	51
	その他	0
	計	165

○意見箱以外

内容	意　見	6
	苦　情	50
	お　礼	6
	その他	9
	計	71

45. 患 者 支 援 室

1. 入退院支援担当

【業務活動状況】

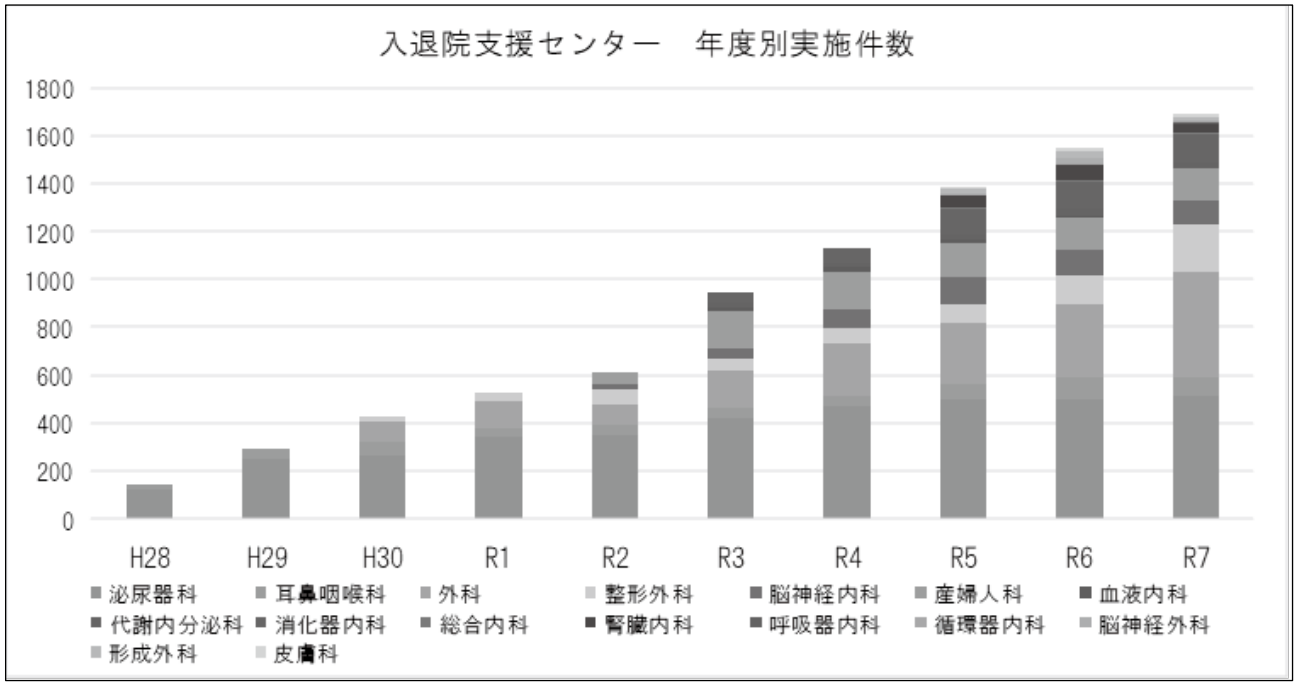
①入退院支援センター（入院前支援）

平成 28 年より、入院予約患者を対象とした入院前支援を実施しています。対象は外来で退院支援が必要と判断された患者で、退院支援を必要とする患者の増加に加え、令和 7 年度からは一部診療科において休日入院患者を退院支援の要否にかかわらず全例対象としたことにより、対応件数が増加しています。

入院前支援では、患者情報の収集や治療・入院生活に関する説明を行うとともに、患者の状態に応じて看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種が連携し、入院前から支援を実施しています。これにより、患者・家族の不安軽減に加え、多職種・多部門間での情報共有を促進し､円滑な入院･退院支援や職員のタスクシフトにつなげています。

また、主治医の指示に基づき、周術期等口腔機能管理（口腔外科受診）や栄養指導の予約調整、術前リハビリテーションとして理学療法士による呼吸機能訓練を実施しています。さらに、栄養指導や口腔外科受診日に合わせた予約対応や、LINE を活用した入院案内「ポケさぽ」の導入により、待ち時間の短縮や患者負担の軽減、効率的な患者対応を進めています。

【表 1】年別診療科別入院前支援件数



【表 2】入院時支援加算算定件数

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
算定件数※	603	794	996	1,159	1,489

②退院・在宅療養支援

退院支援看護師が、医療相談担当（社会福祉士、保健師）と協働しながら、早期より退院後の生活を見据えて在宅につながる支援を行っています。社会的に家族の果たす役割が多様化し、独居や身寄りのない方、高齢者世帯、認知症、家族介護力の不足、経済的に困窮など様々な困難なケースへの対応が増えています。癌末期や神経難病といった医療依存度の高い方、入院前と病状や生活状況に変化がある患者さんに、安心して在宅で過ごすことができるよう在宅チームと連携を取り退院前カンファレンス、在宅療養支援を行いました。

【表3】令和7年度　在宅療養支援調整件数

	外来	入院	総数
医療相談担当からの依頼		204	204
退院前カンファレンス		84	84
訪問診療	15	44	59
訪問看護	17	70	87

2.医療相談担当

【業務活動状況】

①医療相談関係について

医療相談は、入院中のこと、または退院後の生活に関する相談をお受けしています。特に退院後も医療や介護を必要とする高齢者や独居の方の入院が増加し、退院支援の役割が大きくなっています。また、外来時の相談も増えており、住み慣れた地域で自分らしい生活が送れるよう支援しています。

さらに、保健・医療・福祉の連携を充実するため、地域のネットワーク会議、連絡会議へ参画しています。

令和７年度　内容別医療相談件数　（単位＝件）

相談内容	件　数
① 退院援助（介護保険制度全般・施設関連・在宅介護サービス関連）	13,855
② 社会復帰援助（生活保護・年金受給・障害手帳・精神保健福祉関連等）	258
③ 受診・受療援助	1,194
④ 経済的問題の解決・調整援助（医療費支払い方法・他制度の活用等）	239
⑤ その他	2,466

年度別医療相談件数　（単位＝件）

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
入院患者	7,291	7,886	8,288	7,754	7,595
外来患者	1,764	1,661	1,430	1,860	1,579
合　　計	9,055	9,547	9,718	9,614	9,174
新規（再掲）	6,089	6,510	6,841	6,622	6,773

3.認知症疾患医療センター

【業務活動状況】

当院は、志太榛原圏域の認知症医療の拠点として、平成29年4月1日に静岡県から「地域型認知症疾患医療センター」の指定を受け、認知症疾患における鑑別診断や専門医療相談、地域保健医療・介護関係者への研修や連携等を行っております。

（1）認知症疾患医療センターの概要
○類型　地域型
○指定期間　令和5年4月1日から令和8年3月31日（令和8年以降も更新継続）
○スタッフ　専門医（副病院長）、臨床心理士、精神保健福祉士、保健師
（2）令和7年度実績
○初診患者数 86人（焼津市 40人、藤枝市 21人、吉田町 13人、島田市 1人、牧之原市 10人、圏域外 1人）
○鑑別診断件数 86件（軽度認知 39件、アルツハイマー型 30件、レビー小体型 3件、前頭側頭型 3件　その他 11件）
○専門医療相談　延べ件数　1,365件
○志太榛原圏域認知症疾患医療連携協議会　開催日：令和7年9月18日
○院内委員会
認知症支援委員会
第1回　認知症支援委員会　令和7年5月26日
第2回　認知症支援委員会　令和8年2月16日

4. 医療コーディネート担当

【業務活動状況】

医師の負担軽減を目的に、27 名（うち 1 名は時短パート職員）の医療コーディネーターを配置しております。退職などの人員減に伴い、今年度は新たに 3 名の職員が採用となりました。

3 年未満の職員数は 5 名であり、医師事務作業補助体制加算 1（20 対 1）を届け出ております。

本来医師が行う事務作業のうち、次の業務の補助を行いました。

(1) 診断書等の文書作成補助
(2) 診療録及び診察又は検査の予約等の代行入力
(3) 診療に関するデータ整理
(4) その他医師の指示に基づく事務作業の業務

コーディネーターへの業務依頼が診療科によりバラツキがあることが課題です。業務の平準化および適正な人員配置を目指すため、業務分担の見直し、他部門を含めた調整を進めていきます。

46. 認 知 症 ケ ア 支 援 室

【業務活動状況】

・認知症支援室は脳神経内科医師、認知症看護認定看護師 2 名、社会福祉士が、主に認知症ケア加算 1 に関する委員会として、院内認知症ケア委員会、看護部認知症ケア委員会、認知症支援委員会を担っている。

・認知症ケアサポートチーム（以下 DST と略す）として、脳神経内科医師、認知症看護認定看護師、社会福祉士、薬剤師、作業療法士、看護部認知症ケア委員会委員長看護師長で毎週水曜日にカンファレンスとラウンドを行っている。認知症看護認定看護師が週に 2 日ずつ活動を行い、ケア加算対象者の患者確認やラウンドを行い、スタッフへの助言や指導、ケアの実施状況を確認している。

・研修は、院内認知症ケア委員会として、認知症ケアに関わる職員に 11 月に認知症ケアに関わる職員にコメディックスで動画と PDF で脳神経内科医師、認知症看護認定看護師、作業療法士、薬剤師から認知症に関する学習会を配信し、928 名中アンケート回答者は 643 名でした。

・看護部認知症ケア委員会では、委員会内で 5 月に「認知症ケアについて」研修を行った。10 月に看護部認知症ケア委員会は「安心できる声のかけ方を考える」と研修を行い、各部署で検討を行った。講義形式で 9 月に新人対象の研修、1 月に看護補助者の研修を行った。3 月に看護職員にコメディックスで認知症ケアについての PDF を 414 人に配信し、352 名が既読し、アンケート回答者は 321 名（75.5%）でした。

認知症ケア加算対象の延べ患者数は 15,327 人で昨年度の 17,706 人より、2,379 人減少した。

認知症ケア加算　年度別延べ人数総計

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数
１４日以内の期間	7,197	6,606	6,454	6,216	5,578
１５日以上の期間	7,937	8,854	9,254	8,698	8,087
１４日以内の期間身体的拘束実施	2,294	1,378	971	862	556
１５日以上の期間身体的拘束実施	3,064	2,101	2,020	1,930	1,106
	20,492	18,939	18,699	17,706	15,327

令和 7 年度認知症ケア加算 1　算定状況

正式名称	R07. 4	R07. 5	R07. 6	R07. 7	R07. 8	R07. 9	R07. 10	R07. 11	R07. 12	R08. 1	R08. 2	R08. 3	合計
	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数
１４日以内の期間	414	397	419	573	469	551	566	492	467	395	461	374	5,578
１５日以上の期間	708	576	564	548	670	579	819	683	742	739	701	758	8,087
１４日以内の期間身体的拘束実施	39	54	49	41	89	48	27	30	44	56	71	8	556
１５日以上の期間身体的拘束実施	78	77	79	88	100	100	85	37	20	142	147	153	1,106
	1,239	1,104	1,111	1,250	1,328	1,278	1,497	1,242	1,273	1,332	1,380	1,293	15,327

認知症ケア加算対象者の入院患者は 721 人で、退院患者は 746 人で平均在院日数は 26 日でした。平均年齢は 85.3 歳で、86～90 歳が 223 人と最も多く、91 歳以上は 205 人でした。

疾患別では肺炎が 149 人と多く、骨折は 88 人、尿路感染症 63 人、心不全 43 人、コロナ、脱水は 47 人と例年とあまり変わりありませんでした。

認知症ケア加算患者の身体拘束率は 10 部署（高機能病棟も含む）の年間の平均が 10.5%であった。身体拘束最小化として、回避・軽減・解除、薬剤の適正使用に向けた指導、助言も行っている。

年齢別人数

年齢	人数
～65	11
66～70	22
71～75	38
76～80	99
81～85	148
86～90	223
91～95	151
96～100	51
101～	3
	746

疾患別人数

病名	人数
肺炎	149
骨折	88
尿路感染症、腎盂腎炎	63
心不全	43
コロナ、脱水	38
担癌者	22
脳梗塞、消化管出血	20
消化管出血	19
脳出血	18
敗血症、イレウス、胆管炎	16
パーキンソン	15
発熱	13
意識障害	12
てんかん、ショック	10
インフルエンザ、蜂窩織炎、腎不全	9
クロイツ・ヤコブ	2

DST のカンファレンスは 364 件実施し、画像やケア、薬剤の評価を行い、指導や助言を行った。

DST カンファレンス・ラウンド実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
加算対象新規入院件数（人）	46	51	42	77	62	60	61	62	62	61	66	51
加算対象退院件数（人）	69	55	47	63	60	68	70	69	69	49	62	67
退院者平均在院日数（日）	29	30.1	26	22.5	22.5	24	24	22	22	29	29	30
カンファレンス数	27	28	28	32	32	33	40	34	34	29	20	27

画像評価については、現在の脳萎縮の程度、脳器質性疾患との関連、認知機能低下を起こすような所見がないかの確認を行いました。ケアに関しては、認知機能低下により意思疎通ができない、コミュニケーションに関することや対処が困難となりやすいケースが多く、認知機能にあわせたコミュニケーションを指導しました。また、せん妄、混乱、帰宅願望、大声、易怒性、落ち着かない方の本人の不安や行動の理由を考え、ケアについて検討を行い、まず非薬物療法での改善を図り、薬剤使用時には適正に使用しているか、副作用などは出ていないかを確認するようにアドバイスをしていきました。せん妄の予防ケアや、身体症状の改善や生活リズムを整える、その人に合わせた ADL の自立支援やリハビリ内容を配慮したケアについて助言や指導を行いました。身体拘束患者については、代替案の提案や認知症ケアの工夫や夜間の睡眠の確保など、身体拘束がなるべく早く解除となるように、また、身体拘束をしないようにするケアについて助言や指導を行いました。

来年度も認知症の人を理解して良いケアを行うためのアセスメント能力の向上を図っていくように研修会などの実施や委員会での伝達などを行い､ラウンド時などの指導や助言を行っていく。なるべく住み慣れた場所に戻れるように入院中の ADL の低下予防や廃用予防のケア、身体拘束解除の検討などを行ない、患者さんが安心して治療を効果的にうけられるようにケアができるように努めていきたいと思う。

47. 総 合 研 修 指 導 室

総合研修指導室は、卒後1、2年の医師を対象とした初期臨床研修及び新専門医制度における専門研修に係る業務を担当している。

総合研修指導室は、いずれも兼務で医師3名、看護師1名、事務4名から構成され、毎週ミーティングを行い、研修及び業務の進捗確認及び情報の共有を行っている。

Ⅰ．初期臨床研修

【業務活動状況】

1　初期臨床研修プログラムの立案及び実施

臨床研修管理委員会及び臨床研修委員を開催し、臨床研修の実施状況の報告や懸案事項の協議のほか、臨床研修プログラムについて検証し、年度末までに調整（修正案の作成）を行っている。また、指導医会及びシニアレジデント会において、ローテーション中の研修医一人ひとりの状況報告や、初期臨床研修に係わる指導医・上級医からの意見収集及び情報提供を行っている。

2　研修医の指導及び評価

各診療科での研修の指導及び評価を取りまとめるほか、各研修医と面接を行い、適切な指導を行っている。

また、2月開催の臨床研修委員会において研修医の評価を行い、3月開催の臨床研修管理委員会にて承認を受け、臨床研修の修了認定としている。

3　医学生へのリクルート活動

(1) 合同説明会への参加

出展実績：㈱メディカルプリンシプル社主催　レジナビ東京2025（6/29）、レジナビ東京2026春（3/15）
静岡県主催静岡県病院合同説明会（7/20、3/1）

(2) ホームページにおける初期臨床研修に関する情報の適時更新と情報発信

(3) 病院見学者の対応

当院への見学者を随時募集し、合同説明会やホームページ、口コミなどで当院を見学に訪れた医学生に当院の研修プログラムを説明し、各診療科での見学を調整している。

4　厚生労働省、県等への申請、報告、情報収集

静岡県への臨床研修年次報告や、次回の制度改正に向けた情報収集を行う。

5　東京大学、浜松医科大学及び山梨大学の各医学部附属病院が開催する臨床研修管理委員会への出席

これらの大学附属病院からは「協力病院」として初期臨床研修医を受け入れている。

受入実績：山梨大学…１年次１名

6　臨床研修指導医講習会への参加依頼及び派遣

派遣実績：臨床研修指導医講習会…2名受講（開催：日本病院会、浜松医科大学）

【令和７年度活動実績】

○臨床研修管理委員会（3回）
○臨床研修委員会（12回）
○WEB指導医会、シニアレジデント会（各8回）
○研修医オリエンテーション　4/1～6（計4日間）
○研修医lecture、基本的臨床研修能力評価勉強会【4月～7月　木曜日16:15～16:45】
○研修医Case Conference【7月～3月　木曜日12:15～12:45】
○ランチョンセミナー（救急当番での事案の振返り）【第1・2水曜日、第3・4火曜日12:15～13:00】

○講義及び実習　4/25、8/27・28・29、11/28集中講義等を実施。実習は時間外にて適宜実施。
○学会等での研修医の症例発表　10回（内科系7回、外科系3回）
○臨床研修医 歓迎会（4/4）、送別会＆同窓会（2/28）
○臨床研修修了式（3/23）

【評価】

・令和７年度に実施した令和8年度採用試験では基幹型研修医定員10名に対し、面接および小論文による採用試験を実施し、研修医マッチングにおいて10名の枠に対して10名がマッチした。大学卒業試験および医師国家試験の結果、2名欠員となった。
・研修医の年度当初のオリエンテーション及び年間を通じての講義及び実習に関し、内容や回数、実施時期について研修医からの感想等を含めて検証し、次年度に向けた見直しを行った。
・看護科・薬剤科・栄養科での実習について、研修医から他職種の業務を知る良い機会となったとの感想が多く聞かれた。

【次年度の目標】

・初期臨床研修における講義及び実習の充実を図る。
・JCEP（臨床研修評価機構）訪問調査受審（令和8年度）に向け、準備を行う。
・研修医に対し、インシデントレポートの必要性を周知し、事例の報告を促進する。
・専門研修に関する情報提供を行うとともに、専門研修との機能的な連携を図る。

Ⅱ　専門研修

【業務活動状況】

1　当院が基幹施設となる基本領域
　内科、総合診療科
2　当院が連携施設となる基本領域
　内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、病理診断科、麻酔科、救急科
3　基幹プログラムの更新申請
4　基幹プログラムの運用及び専攻医の研修状況の管理
　(1) 研修管理委員会及び院内研修委員会の開催及び運営
　(2) 専攻医の研修ローテーションに関する連携施設との調整
　(3) J-OSLER（内科専門研修 専攻医登録評価システム）の運用及び登録状況の確認
5　連携施設としての施設概要報告

【令和7年度活動実績】

○内科専門研修委員会（2回）
○内科専門研修管理委員会（2回、臨時委員会1回）

【評価】

・初期臨床研修医に対する専門研修・専攻医登録に関する情報提供を行った。
・令和7年度には、連携施設として11領域において専攻医の受入れをすることとなった。
・また、令和7年3月末で当院の初期臨床研修を修了した研修医のうち、3名が引き続き当院にて専門

研修を行った。

【次年度の目標】

・新専門医制度に関する情報収集を行い、情報提供を行う。
・基幹プログラムを中心とした専攻医の確保に努める。

【臨床研修医の推移】 （単位：人）

項　　目	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28
基幹型１年次	10	10	9	10	10	8	8	8	8	6
基幹型２年次	9	9	11	11	9	8	7	8	6	9
協力型１年次	1	1	2	0	1	3	8	7	4	4
協力型２年次	0	0	0	1	1	3	1	0	0	4
合　　計	20	20	22	22	21	22	24	23	18	23

【病院見学者の推移】 ※延べ人数、直接来院者に限る。 （単位：人）

項　　目	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28
見学者数	69	53	60	57	45	27	61	40	50	50

【新専門医制度における専門研修の状況】 （単位：人）

基本領域科目	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R1
内　　科	6(3)	8(3)	9(2)	7(4)	5(3)	3(2)	4(1)
総合診療科	0	0	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
小　児　科	6	6	7	6	5	6	3
外　　科	2	2	3	2	3	4	4
整形外科	2	4	3	3	1	0	0
形成外科	1	2	2	1	1	0	0
脳神経外科	0	1	1	1	1	1	0
泌尿器科	2	1	2	2	4	2	2
産婦人科	5	5	5	5	5	3	2
眼　　科	1	1	1	1	1	1	1
耳鼻咽喉科	2	1	1	0	1	0	0
病理診断科	1	0	0	1	1	0	0
麻　酔　科	0	0	0	0	0	0	0
救　急　科	1	0	0	1	0	0	0
合　　計	29(3)	31(3)	34(2)	30(4)	28(3)	20(2)	16(1)

※（　）内は当院基幹プログラム専攻医数
※数値は年度末時点

48. 事 務 部

病院総務課

(1) 管理担当

管理担当では、院内の庶務事務、医療関係の許認可・届出事務、院内保育所の運営事務、院内携帯電話リスト、職員駐車場の管理事務、郵便物・宅配便管理、代表メールの処理、出前講座の事務を行っている。また、運営会議、科長会議、倫理委員会及び臨床研究倫理審査委員会などの事務局に加え、臓器提供業務の事務補助も行っている。今年度から、臨床現場で生じた倫理的問題や終末期医療について医学的・倫理的観点から検討することを目的に、新たに臨床倫理委員会を設置した。

さらに、市議会対応、例規等の告示、市等の調査回答などの業務を担当している。

〔委員会の報告〕

・倫理委員会 対面方式 7 回、WEB 方式 18 回　計 25 回開催
　案件 27 件（承認 26 件、方針確認 1 件）
・臨床研究倫理審査委員会 対面方式 1 回、WEB 方式 12 回　計 13 回開催
　案件 13 件（承認 11 件、不承認 1 件、取り下げ 1 件）

〔講座の開催〕

出前講座 8 回、総参加者 261 人

(2) 人事医局担当

人事医局担当では、職員の採用・退職事務、職員研修の企画運営に係る業務を担当し、研修や人事評価を通した、人材の育成や活力ある組織の実現に努めている。

(3) 給与厚生担当

給与厚生担当では、給与の支給事務や社会保険の手続き、職員の健康管理や公務災害補償などに係る業務を担当し、職員が働きやすい職場環境の整備に努めている。

病院経営戦略課

(1) 経営戦略担当

経営戦略担当では、病院運営に関する中期経営計画である「公立病院経営強化プラン（令和 6 年 3 月策定)」に基づく病院運営、院内・院外調整及び経営改善に向けた取り組みの統括、広報活動等を行いました。

ア　病院経営に関すること。

○病院事業の基本方針及び重要施策等の審議並びに院内における総合調整を行うことにより、適正かつ円滑な病院経営を図るため、事務局として焼津市立総合病院経営会議を開催（月 1 回の計 12 回開催）しました。
○経営改善に繋がる PFM 推進の一貫として、病院全体の病床を一元的に管理・調整するベッドコントロールセンターを設置し、入退院や病床管理の効率化を図り、引き続き収益増及び業務の標準化・効率化に向け、改善活動を行いました。
○病院経営分析システムを用いた分析結果を経営会議等へ報告し、経営改善の取組を推進しました。
○毎月、主要管理指標を作成し、運営会議に提出し、院内での情報共有を図っています。
○病院経営支援会議を通じ、市長部局の病院経営支援室との連携及び経営改善や新病院建設に係る情報共有を行いました。

イ　公立病院経営強化プランに関すること。
　焼津市立総合病院経営強化プラン（中期経営計画：令和和 6 年 3 月公表）について、アクションプランを作成し、進行管理を行いました。

ウ　広報活動
○病院情報の発信及び PR 活動のため、事務局として病院広報委員会を月 1 回開催し、協議・検討を行いました。その上で病院広報誌「ひだまり」の発行（年 4 回)、病院ホームページの運営、市広報誌への情報掲載（8 回の「出張版ひだまり」掲載を含む。)、記者会見への情報提供などを実施しました。
○院内向け広報誌「しおかぜ」を毎月発行し、職員への情報発信・情報共有を行い、その他院内ポータルへ情報データを掲載することで、情報提供を図っています。
○病院年報第 42 号　令和 6 年度版を発行しました。
○病院全体のインスタグラムのアカウントから、イベントのお知らせや院内研修の実施状況を発信しています。
○令和 7 年 2 月にリニューアルした病院ホームページについて、担当からの依頼に基づき、適宜更新を行っています。。

エ　その他
○病床機能報告その他各種調査について、関係部署からのデータを取りまとめ、適切に回答を行いました。
○県等が実施する各種補助事業について、適切に申請し、収益確保に努めました。

(2) 経理財務担当
　経理財務担当では、一般会計からの繰り入れをしたうえで必要最低限の設備投資を行い、適正な予算執行及び運転資金の管理により、資金不足が生じないよう経営の健全化に努めました。

① 予算
　令和 7 年度補正予算＜11 月(第 1 号)＞及び令和 8 年度当初予算の編成を行いました。
② 執行管理
　予算執行の適正化、経費の節減に努めました。
③ 現金出納
　適正経理及び経費の節減に努めました。
④ 資金の運用・管理
　一般会計より繰り入れをしたうえで資金のシミュレーションを行い､運用･管理に努めました。
⑤ 一般会計繰入金
　病院経営の安定のため、一般会計に対し、繰出基準に基づく繰入金を要求しました。
⑥ 企業債
　医療機器等の更新や新病院関連事業を行うにあたり､企業債の借入を行うとともに､過年度における企業債の償還を行いました。
⑦ 監査
　例月現金出納検査（書類審査、聴取審査)、定期監査及び決算審査を受けました。
⑧ 決算
　令和 6 年度決算の調製を行い、9 月議会にて決算認定を受けました。
⑨ 決算統計
　令和 6 年度決算統計の調製を行いました。

病院施設課

(1) 用度担当

用度担当は、医薬品、診療材料及び、医療機器の購入をはじめ、消耗品、印刷製本の発注、病院寝具等の賃借、洗濯委託、検査委託、院外SPD 業務委託、災害時の備蓄品確保などの業務を主に担当しています。

医薬品は、約3,000 品目、診療材料は約4,300 品目の取扱いで複雑多岐にわたっています。同種同効品のチェック、委員会を開催するなど、効果的、効率的な管理運用及びより安価な購入が図れるよう努力しています。

医薬品の購入については、業者間の競争性を高めることを実践しました。また、後発品への切り替えを積極的に行っています。

診療材料については、院外SPD（院外の倉庫より材料調達）の方式を取り、この業務を外部委託しています。各所属において定数管理をし、効率的な運用に努めています。看護部と共に在庫のあり方、汎用医療材料の使用の仕方について見直しを前年度より継続して行いコスト削減に取り組みました。

検査委託については、院外SPD 委託先の共同購入事業に参加をすることでコスト削減に成功しました。

洗濯委託において看護衣のリース化は、安定した運用がされています。

中央手術室において再製造単回使用医療機器（R-SUD）収集事業を継続しています。再製造制度は、医療廃棄物の削減や医療材料費の削減といったメリットを享受でき、世界中で取り組まれている SDGs（持続可能な開発目標）にも則した制度だと考えられています。

医療材料等管理購入選定委員会を4 回開催し、新規材料の選定、より安価な材料への切替えなどの検討を実施しました。

医療機器の購入については、医療機器等購入選定委員会を40 回（対面1 回、Web39 回）開催し、CT撮影装置、自動採血管準備装置、高圧蒸気滅菌装置など高額医療機器を含め、医療機器の整備を行いました。また、修理不能等で至急購入しないと診療に影響を及ぼすような医療機器について購入をしました。

災害時の備蓄（医療材料）におきましては、高所一括管理にて院外SPD 運用を含め在庫の管理及び期限の管理の仕組みをSPD 管理下にて継続運用しています。

老朽化した機器があるなか、高度な医療体制を維持する為には、医療機器の更新は必須であり、財源を含めた病院全体の経営、運営の中で検討しております。

(2) 施設管理担当

施設を安心して使用していただくと共に効率的なエネルギーの運用を行い、安全で快適な病院環境の維持管理に努めております。

現在、電気・都市ガス・上水道・地下水といった供給安定性の高いエネルギーを採用し、非常時でも安定供給を維持できる体制を整えています。

令和７年度は、C 棟系統吸収式低温水発生機 CH-2 オーバーホールに加えて、C 病棟のナースコール更新を実施しました。また、老朽化が進む病院機能維持に向けた延命化対策を推進いたしました。

開設から 40 年以上が経過し、建物や設備の老朽化が顕著となっておりますが、新病院建設を見据えたコスト抑制を図りつつ、開院まで現行施設を安全かつ安定的に運用できるよう、適切

な維持管理を継続してまいります。

(3) 情報システム担当

・令和８年６月病院総合情報システム更新に向けての準備
・サーバー室の移転に伴うサーバーラック免震ベース導入
・チームコンパス導入
・電子カルテ情報共有サービスモデル事業参加
・院内情報システム管理、対応
・院内情報システム関連契約・物品購入
・新規院内情報システム関連提案
・各種関連システムの情報収集・情報提供
・院内情報システムの内部監査
・研修・発表で使用する動画作成等のフォロー
・情報システム委員会の開催及び情報システム委員会ニュース発行
・情報セキュリティ合同研修会開催(集合形式)
・電子カルテプログラム更新、不具合対応報告
・法定停電時のシステム関連業者手配、当日対応
・Zoom 等を用いた WEB 会議開催時、参加時のフォロー

医事課

(1) 医事管理担当

医事管理担当では、医事業務委託、患者数や稼動統計・平均在院日数等の統計・算出業務、公費医療、救急統計・救急事務、受付事務、予防接種請求業務、在宅賃貸借業務、未収金回収業務、通訳業務等、多岐に渡る業務を行いました。診療報酬や施設基準など、課としての業務も行いました。

前年度同様、今年度もマイナンバーカードによる保険証確認を推進し、スマホでのマイナ保険証確認機能の導入など、利用率向上に努めた結果、マイナ保険証利用率は 75%に到達することができました。

また、受付患者さんの導線を変更し、自動再来受付機の有効利用に努めました。

来年度導入予定の自動精算機、マイナ保険証確認機能付自動再来受付機、後払い会計サービスの導入にむけ、引き続き検討・運用構築を進めていきます。

ア　委託業務

○医事業務委託

委託業者名	株式会社　ソラスト
契約期間	令和５年 12 月１日～令和８年 11 月 30 日

○未収金管理回収業務委託

委託業者名	弁護士法人　ライズ綜合法律事務所
	弁護士法人　エジソン法律事務所
契約期間	令和７年４月１日～令和８年３月 31 日

イ　統計・算出業務

入院・外来患者数、1 日平均入院患者数、平均在院日数・稼動統計

ウ　公費医療、県単独医療業務

指定難病、小児慢性特定疾病、マル長、肝炎、自立支援、養育、生保　等

こども医療、母子医療、重度障害医療

エ　救急業務
志太榛原地域救急医療体制協議会への対応
救急救命士の事後検証、特定行為指示料、静脈確保　等の請求業務
2 次救急輪番業務

オ　通訳業務
診療現場における多言語対応のため、通訳者（ポルトガル語、スペイン語、英語、タガログ語）3 名と契約し、ポケトーク（音声翻訳機）も活用。翻訳専用タブレットも導入。

カ　その他
予防接種請求業務、在宅賃貸借業務、出産一時金、妊婦・乳児健診　等

令和７年度 診療報酬等請求額一覧表

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
社保	入院	210, 374, 467	185, 041, 137	187, 193, 495	164, 899, 987	174, 697, 286	190, 489, 067	152, 311, 614	165, 249, 437	204, 551, 220	156, 091, 722	160, 067, 331	146, 370, 588	2, 097, 337, 351
	外来	130, 470, 386	125, 231, 546	145, 155, 455	127, 012, 460	106, 340, 718	116, 783, 836	125, 505, 121	118, 386, 284	105, 312, 157	129, 498, 765	108, 839, 041	117, 878, 795	1, 456, 414, 564
社保計		340, 844, 853	310, 272, 683	332, 348, 950	291, 912, 447	281, 038, 004	307, 272, 903	277, 816, 735	283, 635, 721	309, 863, 377	285, 590, 487	268, 906, 372	264, 249, 383	3, 553, 751, 915
国保	入院	433, 063, 464	374, 185, 993	410, 740, 676	422, 552, 914	410, 422, 624	407, 661, 859	441, 511, 632	406, 173, 710	430, 388, 992	471, 932, 104	441, 165, 970	440, 206, 273	5, 090, 006, 211
	外来	206, 900, 279	189, 203, 134	181, 586, 071	197, 647, 258	207, 589, 422	192, 555, 885	209, 643, 120	159, 877, 785	192, 470, 877	192, 443, 555	190, 627, 543	200, 314, 665	2, 320, 859, 594
国保計		639, 963, 743	563, 389, 127	592, 326, 747	620, 200, 172	618, 012, 046	600, 217, 744	651, 154, 752	566, 051, 495	622, 859, 869	664, 375, 659	631, 793, 513	640, 520, 938	7, 410, 865, 805
保険請求合計額		980, 808, 596	873, 661, 810	924, 675, 697	912, 112, 619	899, 050, 050	907, 490, 647	928, 971, 487	849, 687, 216	932, 723, 246	949, 966, 146	900, 699, 885	904, 770, 321	10, 964, 617, 720
労災・公災等	入院	8, 305, 863	14, 163, 912	6, 025, 567	9, 331, 116	7, 853, 900	5, 171, 359	16, 455, 612	7, 857, 192	1, 737, 668	10, 087, 146	10, 975, 132	7, 115, 043	105, 079, 510
	外来	2, 711, 114	2, 624, 349	2, 829, 588	2, 419, 698	2, 485, 155	2, 532, 130	3, 036, 379	1, 951, 974	2, 203, 227	2, 672, 688	2, 328, 864	2, 467, 236	30, 262, 402
妊婦乳児健診等	入院	9, 971, 350	12, 857, 150	8, 649, 890	9, 874, 250	14, 755, 730	8, 412, 330	11, 911, 020	13, 002, 550	13, 450, 290	10, 355, 040	8, 803, 460	11, 791, 000	133, 834, 060
	外来	2, 781, 268	2, 623, 196	2, 476, 908	2, 816, 438	2, 173, 066	2, 473, 926	2, 612, 254	2, 068, 850	2, 666, 322	2, 399, 676	2, 273, 564	2, 452, 206	29, 817, 674
その他	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
請求額合計		1, 004, 578, 191	905, 930, 417	944, 657, 650	936, 554, 121	926, 317, 901	926, 080, 392	962, 986, 752	874, 567, 782	952, 780, 753	975, 480, 696	925, 080, 905	928, 595, 806	11, 263, 611, 366

(2) 診療情報担当

診療情報担当では、診療記録に関すること、診療記録の開示請求に関すること、DPC 請求事務に関すること、がん登録業務に関することなどを主に担当しています。

また、診療記録管理運営委員会、クリニカルパス検討委員会、がん診療対策委員会の委員会事務局として活動しました。

ア　診療記録の記載・保管管理・監査、診療情報の分類、登録に関すること

電子カルテ内の書式管理、診療記録の保管管理、入院診療記録の量的点検及び質的点検、国際疾病分類、手術処置分類によるコーディング、各種統計作成・診療情報抽出、クリニカルパス管理とバリアンス分析などを行いました。

入院診療記録の量的点検では、適切な記録となるように指導、依頼に取り組みました。また、令和 7 年度も毎月質的監査を実施し、主治医及び担当医へのフィードバックも実施しました。

令和 7 年度の退院患者数は、9,422 人でした（表 1－1)。退院後 14 日以内のサマリ作成率は、9 割を越えて維持しております（表 1－2)。表 2 に示す章別疾病分類では、前年統計と変わらず上位は第 2 章新生物、第 11 章消化器系の疾患、第 19 章損傷、中毒及びその他の外因の影響の順でした。死亡退院患者数は 299 人で、入院患者死亡率は 3.2%でした（表 3)。手術などの医療行為の分類は、3,716 件でした（表 4)。統計における診療科は、入院診療科で算出しており入院中に他科に依頼した術式も含まれています。

クリニカルパスは、投薬、手術・処置などの診療行為のほか、看護、検査、指導、食事などを入院から退院までの工程を時間軸にまとめた標準的な診療計画です。令和 7 年度のクリニカルパス使用件数は、4,829 件、使用率は病院全体で 46.75%でした（表 5)。使用率 60%を目標に昨年度より取り組んできた結果、徐々に使用率が上がってきています。今後も積極的なパスの使用に向けて活動を行っていきます。

イ　情報公開及び個人情報保護事務（診療記録及び診療情報に係るものに限る）に関すること

診療記録及び診療情報情報の提供、開示業務を行いました。国が行っている肝炎訴訟の政策により、令和 7 年度も肝炎訴訟に関する記録の開示請求が続いております。令和 7 年度は、52 件の診療情報提供依頼に対し 46 件開示対応しました。

ウ　DPC 請求事務、査定・返戻業務に関すること

DPC 請求におけるコーディング確認業務や査定・返戻業務を行いました。令和 7 年度も請求漏れの調査や査定・返戻対応に力を入れ取り組みました。

エ　がん登録に関すること

院内がん登録に取り組んでいます。当院は、静岡県から「静岡県地域がん診療連携推進病院」の指定を受けています。令和 5 年 3 月に更新され、令和 9 年 3 月 31 日まで指定期間となっています。

がん登録の集計は、年度単位ではなく、暦年を基準としており、2024 年登録症例は 849 症例でした（表 6)。

表 1-1　年度別・診療科別・退院患者数　　単位：人

診療科	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
患者総数	9,592	9,326	9,592	9,174	9,422
総合診療内科	263	359	461	458	426
呼吸器内科	37	35	32	25	18
消化器内科	948	949	921	925	1,087
循環器内科	171	167	166	185	253
血液内科	68	36	54	16	6
代謝内分泌内科	38	38	46	52	40
脳神経内科	900	845	957	1,061	1,153
腎臓内科	538	491	531	508	400
小児科	776	897	933	855	819
外科	1,232	1,090	1,014	1,054	1,192
整形外科	723	805	844	738	774
形成外科	114	152	152	161	91
脳神経外科	471	398	356	340	314
皮膚科	32	28	44	51	57
泌尿器科	977	961	856	800	838
産婦人科	1,481	1,300	1,174	994	1,024
眼科	284	251	463	395	377
耳鼻咽喉科	314	307	348	317	322
歯科口腔外科	225	217	240	234	213
救急科	--	--	2	5	18

表 1-2　年度別・退院後 14 日以内のサマリ完成率

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
診療科歴総数	10,314	10,003	10,364	9,932	10,329
サマリ完成数	9,707	9,534	9,677	9,327	9,686
サマリ完成率(%)	94.1	95.3	93.4	93.9	93.8

表２　令和７年度・疾病大分類別・診療科別・患者数

		総数	構成比（%）	総合内	呼吸器	消化器	循環器	血液内	代謝内	神経内	腎臓内	小児科	外科	整形外	形成外	脳神経	皮膚科	泌尿器	産婦人	眼科	耳鼻咽	歯科口	救急
総　　数		9,422	100.0	426	18	1,087	253	6	40	1,153	400	819	1,192	774	91	314	57	838	1,024	377	322	213	18
構成比（%）		100.0		4.5	0.2	11.5	2.7	0.1	0.4	12.2	4.2	8.7	12.7	8.2	1.0	3.3	0.6	8.9	10.9	4.0	3.4	2.3	0.2
第　Ⅰ　章	感染症及び寄生虫症	288	3.1	36	2	51	4		3	67	10	79	13				13		4		6		
第　Ⅱ　章	新生物	1,630	17.3	11	2	277	1	5		16	4	2	530	5	11	12	4	318	388		35	9	
第　Ⅲ　章	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	57	0.6	6		11				5	8	8	8					4	7				
第　Ⅳ　章	内分泌、栄養及び代謝疾患	267	2.8	39		31	16		37	49	19	43	3	3	1	1	3	6	1	6	8		1
第　Ⅴ　章	精神及び行動の障害	37	0.4			1	2			12		22											
第　Ⅵ　章	神経系の疾患	445	4.7	3		9	1			344	1	28	1		1	15					41		1
第　Ⅶ　章	眼及び付属器の疾患	381	4.0							5		2			8					365	1		
第　Ⅷ　章	耳及び乳様突起の疾患	102	1.1	9		8	2			26	7	3									47		
第　Ⅸ　章	循環器系の疾患	564	6.0	16		21	131			206	18	2	5			156	4	2	2				1
第　Ⅹ　章	呼吸器系の疾患	908	9.6	141	12	71	50	1		167	93	159	55					2	2		155		
第　ⅩⅠ　章	消化器系の疾患	1,229	13.0	10		500	2			11	3	17	468	1	3			3	9		2	200	
第　ⅩⅡ　章	皮膚及び皮下組織の疾患	108	1.1	13		5	4			10	9	13	3	4	6		30	3	4		4		
第　ⅩⅢ　章	筋骨格系及び結合組織の疾患	345	3.7	22		13	1			56	11	38	1	195	5		1	2					
第　ⅩⅣ　章	腎尿路生殖器系の疾患	911	9.7	63		27	16			63	171	14	9					393	155				
第　ⅩⅤ　章	妊娠、分娩及び産じょく＜褥＞	427	4.5										1						426				
第　ⅩⅥ　章	周産期に発生した病態	233	2.5									233											
第　ⅩⅦ　章	先天奇形、変形及び染色体異常	27	0.3							1	3	11	2			1		4			4	1	
第　ⅩⅧ　章	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	209	2.2	16		20	7			55	6	67	7		3			11	10		7		
第　ⅩⅨ　章	損傷、中毒及びその他の外因の影響	989	10.5	23		25	9			32	30	71	63	496	48	124	2	28	3	6	12	2	15
第　ⅩⅩⅠ　章	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	184	2.0		2	3				2			21	70	5	5		62	13			1	
第　ⅩⅩⅡ　章	特殊目的用コード	81	0.9	18		14	7			26	7	7	2										

表 3　年度別・診療科別・死亡退院患者数

診療科	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
総数	337	337	332	312	299
死亡率	3.5	3.6	3.4	3.4	3.2
総合診療内科	22	46	39	57	31
呼吸器内科	4	6	2	1	1
消化器内科	84	56	77	70	76
循環器内科	37	27	24	23	36
血液内科	2	1	1	--	--
代謝内分泌内科	1	1	--	1	--
脳神経内科	46	40	52	46	54
腎臓内科	37	32	39	34	24
小児科	--	--	--	0	--
外科	47	47	41	34	28
整形外科	2	7	7	1	3
形成外科	1	--	1	1	2
脳神経外科	27	34	25	17	12
皮膚科	--	--	1	1	2
泌尿器科	22	21	12	10	9
産婦人科	5	17	6	5	18
眼科	--	--	--	--	--
耳鼻咽喉科	--	2	5	7	2
歯科口腔外科	--	--	--	--	--
救急科	--	--	2	4	1

表 4　年度別・診療科別・手術数（入院:ICD-9-CM による分類）

診療科	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
総数	3,977	3,797	3,886	3,657	3,716
総合診療内科	33	45	39	29	32
呼吸器内科	1	2	--	--	--
消化器内科	83	61	70	57	73
循環器内科	3	3	4	1	10
血液内科	2	1	2	2	--
代謝内分泌内科	3	3	--	--	4
脳神経内科	24	30	36	42	40
腎臓内科	68	47	54	54	59
小児科	3	2	4	--	1
外科	640	591	548	573	686
整形外科	613	694	694	640	638
形成外科	106	133	142	161	93
脳神経外科	156	93	116	114	111
皮膚科	3	6	1	3	6
泌尿器科	818	794	709	650	686
産婦人科	754	676	585	509	486
眼科	283	248	463	395	377
耳鼻咽喉科	161	150	187	198	205
歯科口腔外科	223	218	232	229	209

（診療科は入院科）

表5　年度別・診療科別・クリニカルパス件数

診療科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
					件数	使用率（%）
総数	4,721	4,455	4,572	4,413	4,829	46.75%
総合診療内科	6	12	20	25	86	6.30%
呼吸器内科	10	5	6	9	5	31.25%
消化器内科	1	25	21	32	122	11.57%
循環器内科	--	--	1	--	8	3.60%
血液内科	--	--	--	--	--	0.00%
代謝内分泌内科	23	23	21	30	23	69.70%
脳神経内科	15	20	7	16	43	3.64%
腎臓内科	28	32	50	59	82	20.76%
小児科	489	628	704	705	721	88.03%
外科	666	503	486	558	782	68.30%
整形外科	615	657	662	608	603	74.26%
形成外科	--	1	--	1	8	8.33%
脳神経外科	66	35	54	51	71	22.40%
皮膚科	--	--	--	2	--	0.00%
泌尿器科	620	596	531	549	563	66.55%
産婦人科	1,452	1,260	1,095	892	877	85.31%
眼科	281	246	458	388	363	95.53%
耳鼻咽喉科	229	200	230	256	263	84.57%
歯科口腔外科	220	212	226	232	208	98.11%
救急科	--	--	--	--	1	4.17%

表 6　年別・部位別・院内がん登録登録件数

部位別	2020 年症例	2021 年症例	2022 年症例	2023 年症例	2024 年症例
総数	648	696	870	895	849
口腔・咽頭	12	12	20	23	28
食道	19	7	11	13	17
胃	43	59	72	62	55
結腸	45	82	89	76	82
直腸	30	35	39	61	37
肝臓	16	14	15	17	12
胆のう・胆管	16	15	18	17	12
膵臓	29	29	35	28	41
喉頭	5	4	5	5	2
肺	42	43	38	50	50
骨・軟部組織	0	0	4	2	2
皮膚(黒色腫を含む)	4	4	33	38	35
乳房	55	64	66	65	70
子宮頸部	38	60	62	68	55
子宮体部	18	35	52	44	26
子宮	0	1	0	0	1
卵巣	12	13	21	26	18
前立腺	111	101	113	87	83
膀胱	70	60	50	44	49
腎・他の尿路	19	18	42	41	35
脳・中枢神経系	17	3	13	29	13
甲状腺	0	7	9	14	17
悪性リンパ腫	19	8	22	27	33
多発性骨髄腫	6	5	7	10	6
白血病	4	4	6	9	16
他の造血器腫瘍	2	1	8	17	19
その他	16	12	20	22	35

新病院建設課

（1）新病院建設担当

ア　新病院建設基本設計の再見直し

令和6年度に取りまとめた新病院の修正基本設計について、新型コロナウイルス感染症拡大以降、患者動向が変化していること、建設資材の高騰や人件費の上昇等により予想以上に建設費が増大していることなど、取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえ、病床数や建物規模、機能等について再見直しに向けた検討に取り組みました。

当院における最新の患者推計では、入院患者数は2030年頃にピークを迎えるもののこれまでの予測を下回る見込みとなるなど、医療需要が変化しています。

このような状況から、病床数についてはピーク時の患者需要に適切に対応するとともに、政策医療に必要な病床数を確保した上で、安全に運用できる病床利用率や経営効率を考慮し、令和6年度にまとめた423床から350床程度へ見直すこととしました。

また、規模、機能等については、将来にわたり地域医療を支える中核病院としての役割を果たすため、高度急性期、急性期医療及び災害時医療等の必要な機能を維持するとともに、国の新たな地域医療構想の方向性を踏まえた健全で持続可能な病院経営を目指し、この病床規模に合わせた建物規模、機能の最適化に向け詳細な検討を行う基本設計の再見直し業務に着手しました。

なお、病床数の見直し（350床程度）については、令和7年度第3回志太榛原地域医療構想調整会議の審議を経て同年12月10日に承認をいただいております。

イ　新病院建設に伴う職員仮駐車場整備

建設中に不足する職員駐車場を確保するため、病院北側の民間用地を借地し、仮駐車場を整備する方針としました。

令和8年度以降の仮駐車場整備工事着手に向けて、仮駐車場予定地の土地所有者との協議、用地測量及び仮駐車場の設計を行いました。

ウ　新病院建設に係る周辺道水路整備

新病院建設に係る周辺道水路の整備として、病院第5駐車場内の道路について整備工事が行われ、これに伴う補償業務、駐車場利用調整業務等を行いました。

49. 災 害 対 策

当院では､災害拠点病院として災害に強い病院づくりを目指し､災害時の各種支援協定の締結、診療情報の多重バックアップシステムの構築、ライフラインを確保するための施設設備の整備及び防災訓練や災害研修会の実施など、災害時に医療救護活動を継続できるよう災害対策に積極的に取り組んでいます。

◆災害派遣医療チーム DMAT

DMAT とは、Disaster Medical Assistance Team（災害派遣医療チーム）の略称で、大地震や航空機・列車事故といった災害時に、被災地に迅速に駆けつけ、被災地内で救急医療や災害医療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームです。

当院は平成 26 年 4 月に静岡 DMAT 指定病院として静岡県知事の認定を受けました。

１チーム 4～5 人の医師、看護師、業務調整員で構成され、今年度、当院では医師 4 名、看護師 11 名（内 L 隊員 2 名)、業務調整員 7 名（内 L 隊員 2 名）の計 22 名で活動しました。

災害発生時、全国の DMAT が派遣要請されるため、当院の DMAT チームにおいても、被災地支援ができるよう準備を進めています。

また、院内防災訓練・研修会等の企画立案を担当し、より実践的な訓練となるよう取り組んでいます。

DMAT の主な活動

○災害時

現場活動 ：被災現場における消防と連携したトリアージ及び緊急治療

情報収集 ：被災現場での医療情報収集・伝達

病院支援 ：被災地内の病院での診療活動

広域搬送 ：被災地内では対応が困難な重症患者の被災地外への搬送等

○平常時

院内における災害対策についての啓蒙活動、防災訓練・研修の企画立案

DMAT 出動・訓練等活動実績

開催日	出動・訓練等名称	場所・会場
令和 7 年 8 月 27 日	静岡県総合防災訓練　本部運営訓練	藤枝市立総合病院
令和 7 年 9 月 5、6 日	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）	岩手県立中央病院 岩手医科大学附属病院
令和 7 年 10 月 19 日	静岡県総合防災訓練実働訓練 （主催：焼津市、藤枝市）	当院
令和 7 年 11 月 15、16 日	中部ブロック DMAT 実動訓練	福井県立病院
令和 8 年 1 月 9 日	地震対策オペレーション 2026(大規模図上訓練)	静岡県庁

○岡谷市民病院との災害時相互支援協定

地震・台風等による災害が発生し、被災病院のみでは十分に対応できない場合、相互に支援する協定を岡谷市民病院（長野県）と締結しています。

支援の内容は、災害発生直後の初期対応を中心に、医療機器・薬品類・食料その他応急物資の援助、医師・看護師・コメディカルその他の人員の派遣、患者の移送等も含め被災病院から特に

依頼があった事項です。

〇医療材料物流ネットワークを活用した災害時病院間相互支援協定

平時より医療材料等の共同購入を実施している加盟病院のうち、全国にある 39 病院で災害相互支援協定を締結しています。医療材料物流ネットワークを活用し、各病院が物資の提供を行うことで被災病院を支援する取り組みです。

〇JA 大井川との災害時における物資の供給に関する協定

大規模災害時に物流が停止しても迅速、円滑に食糧調達を受けることができるよう、大井川農業協同組合と「災害時における物資の供給に関する協定」を締結しています。協定では、大井川農業協同組合の組合員である近隣の生産農家が当院に直接物資を運ぶことになっています。この協定により、災害時の当院の食糧調達と、物流が止まって余剰な農産物を抱え込んでいる地元農家の支援が両立できると考えています。総合病院と生産者によるこのような内容の協定は、全国でも珍しい取り組みとなっています。

〇災害時の電力供給に関する協定

災害時の電力供給の停止に備え、大型の非常用発電装置の設置及びポータブル発電機（30 台）を用意していますが、これらに加えて当院の南側に設置された太陽光発電システムにおいて発電した電力を焼津市立総合病院に供給することができるよう、市内在住の中島篤様（アイ・ランド社長）と「災害時における電力の供給に関する協定」を締結しています。

〇地下水利用システムの設置

診療の継続及びライフラインとして欠くことのできない水を確保するために、既存の水道設備及び飲料水の備蓄に加え地下水利用システムを設置しています。

本システムは良質な大井川水系伏流水の得られる地下 130ｍから地下水をくみ上げ、逆浸透膜により高度に浄化した水を院内に供給するものです。病院では通常、水道水と地下水の両方を利用しますが、災害などにより市内水道管が破損した場合でも、必要なすべての水を地下水のみでまかなうことが可能です。

また、もう１つの特徴は既存の院内水道配管の損傷に備えて、災害時最も水を必要とする血液透析室に地下水専用配管を設置していることです。これにより透析治療の安全性が向上しています。地下水を利用した透析治療を確実に行うための院内二重配管は県内医療機関では初の試みです。

〇災害時の医療継続に向けた病院情報システムの構築

災害時に患者データの保全と診療継続を図るため、通常のシステムサーバーとは別の場所への参照専用サーバーの設置及び持ち運び可能なポータブルハードディスクへの診療情報の保存など、４重のバックアップシステムを構築しています。仮にシステムサーバーの障害や院内の通信障害が発生した場合でも、病棟等での患者データの参照が可能になっています。

また、数百キロ離れた遠隔地にバックアップサーバーを設置し、災害時に限り当院または他病院からの診療情報の WEB 参照を可能とすることにより、診療を継続する可能性を持たせてあります。当院の医療継続に向けた病院情報システムは、あくまでも患者本位に構築されたものであり、大災害で患者の移動が余儀なくされた場合でも、そのデータを有効利用することを目指しています。

〇スターリンクの設置

低軌道衛星を利用した高速ブロードバンドインターネットサービスを利用できるスターリンクは、通信インフラが正常運用できない災害時においても、高速かつ低遅延のインターネット接続が可能であるため、災害対策本部として設定見込である講義室に常設しました。令和６年１月、

石川県能登半島地震において、当院 DMAT が活用した経緯もあり、安定したネット環境にて、各関係機関との連携や被災状況把握等、より迅速な情報交換、収集を目指していきます。

〇地震防災訓練の実施

当院では、年１回、当日勤務職員を除く全職員参加の地震防災訓練を実施しています。

また、防災訓練に向けて職員の防災意識を高めるため、DMAT 隊員を講師とした院内災害学習会や災害対策本部運営訓練を実施しています。

令和 7 年 7 月 24 日	トリアージタッグの取り扱い学習会	講義室
令和 7 年 8 月 25 日	トリアージ実践学習会	講義室
令和 7 年 9 月 12 日	院内災害対策本部運営訓練	講義室
令和 7 年 9 月 17 日	災害時カルテの書き方学習会	講義室
令和 7 年 10 月 19 日	院内地震防災訓練 （静岡県総合防災訓練と共催）	院内全体
令和 8 年 3 月 17 日	災害時の口腔ケア学習会	講義室

令和７年度、災害拠点病院として、院内災害対策本部の確立、受援体制の確立と外部支援との連携、病床維持と共にベッドコントロールと人員配置調整、各機関との搬送調整確立を目標に院内地震防災訓練を静岡県総合防災訓練と共催にて実施しました。

広域搬送調整における自衛隊機の離着陸訓練、支援 DMAT における市救護所（市立豊田小学校）からの搬送訓練等、外部との調整は架空ではなく、実際に焼津市医療救護本部と防災無線で情報交換を実施しました。

また、支援に来院していただいた複数の DMAT（伊東市民病院、富士市立中央病院、国際医療福祉大学熱海病院、静岡医療センター、順天堂大学医学部付属静岡病院）にも院内訓練に参加いただき、第三者による訓練評価を当院の災害対策の参考にしております。

第　4　節

1．各科別収入状況

入　　院

科別＼月別	令和7 4	5	6	7	8	9	10
	円	円	円	円	円	円	円
総合診療内科	43,545,823	31,429,780	28,307,812	32,396,768	38,357,559	32,632,457	25,769,605
呼吸器内科	2,379,704	1,028,023	478,339	750,040	737,967	1,434,953	1,754,960
消化器内科	68,594,895	61,287,296	55,789,459	54,035,257	57,367,765	72,020,979	68,115,401
循環器内科	17,677,853	19,057,270	16,863,557	20,409,238	13,645,344	20,484,820	20,948,551
血液内科	2,880,811	2,642,897	1,381,348	0	640,774	0	0
代謝・内分泌内科	870,181	1,286,125	1,644,496	2,517,402	2,093,568	4,233,733	1,637,154
脳神経内科	123,021,709	95,648,678	100,039,722	106,230,435	127,091,021	109,576,932	97,071,067
腎臓内科	25,449,654	26,808,811	24,706,830	27,657,450	30,465,754	26,811,629	28,227,560
小児科	36,610,296	46,145,285	31,454,259	32,845,012	34,141,796	29,378,278	32,978,606
外科	96,391,823	96,752,248	95,615,103	85,355,658	95,588,464	108,604,669	100,575,555
整形外科	91,720,085	71,910,554	81,201,593	79,650,230	66,392,676	62,012,702	96,841,920
形成外科	9,888,654	4,736,986	8,704,779	8,234,485	4,088,330	2,019,914	5,886,655
脳神経外科	34,675,175	31,455,602	53,717,866	37,812,227	34,175,008	41,665,074	33,335,952
皮膚科	2,351,406	4,575,362	4,837,307	5,252,278	4,433,882	4,295,038	6,785,078
泌尿器科	58,860,325	48,079,976	44,572,665	47,920,496	38,323,477	43,124,151	40,799,767
産婦人科	67,039,480	62,254,216	53,691,364	61,128,777	62,739,335	55,007,990	56,756,858
眼科	10,179,400	9,378,839	11,011,819	10,883,396	7,516,764	6,894,933	9,992,239
耳鼻いんこう科	17,856,273	17,947,918	12,928,925	17,612,647	15,742,002	16,261,668	15,537,771
歯科口腔外科	3,196,035	3,062,974	3,457,877	4,266,451	3,279,148	3,009,271	3,462,956
救急科	0	125,156	0	304,588	489,810	2,837,281	226,469
合計	713,189,582	635,613,996	630,405,120	635,262,835	637,310,444	642,306,472	646,704,124
一人一日あたり診療収入	74,797	72,708	75,209	71,514	67,713	72,783	70,717

外　　来

科別＼月別	令和7 4	5	6	7	8	9	10
	円	円	円	円	円	円	円
総合診療内科	6,954,443	6,507,691	6,974,007	7,232,227	7,046,668	8,071,092	8,073,993
呼吸器内科	3,649,604	3,831,708	3,533,925	3,636,488	3,457,249	3,536,753	3,098,612
消化器内科	25,513,735	22,717,148	24,554,562	23,803,958	21,431,021	25,991,050	26,266,401
循環器内科	3,564,597	3,962,468	3,605,307	3,543,982	3,499,428	3,841,666	4,361,369
血液内科	21,708,053	19,185,241	19,941,345	21,300,152	17,518,035	23,811,011	26,125,350
代謝・内分泌内科	6,707,912	6,648,856	7,063,555	6,153,582	6,180,474	6,276,539	6,638,862
脳神経内科	68,234,146	74,806,798	68,442,757	58,824,468	84,453,755	61,551,169	72,489,603
腎臓内科	34,686,751	36,097,151	34,299,250	31,691,782	32,166,860	35,448,863	35,249,044
精神科	1,125,767	1,089,468	1,086,669	1,100,035	1,071,650	1,130,543	1,175,504
小児科	42,427,285	29,496,455	25,319,828	22,721,177	18,102,115	17,641,174	25,002,070
外科	29,904,952	27,736,903	28,438,302	28,136,382	24,425,051	26,968,426	30,773,246
整形外科	15,896,677	17,767,419	14,718,646	13,350,706	13,178,939	14,473,885	13,435,303
形成外科	2,921,449	2,484,829	2,537,535	2,848,317	2,363,234	3,416,729	2,640,749
脳神経外科	8,192,702	3,356,304	3,764,934	3,046,496	2,584,015	3,570,824	3,351,357
皮膚科	1,827,613	1,400,740	1,821,377	1,750,536	1,779,826	1,633,090	2,141,821
泌尿器科	36,547,849	28,669,172	28,157,238	28,731,973	28,205,130	31,142,481	35,354,432
産婦人科	24,774,850	24,006,630	26,610,600	29,974,514	21,606,185	24,245,835	23,637,937
眼科	11,010,799	10,324,527	16,479,198	11,052,200	10,586,838	13,542,588	14,167,889
耳鼻いんこう科	11,047,929	9,098,948	11,545,781	9,490,352	9,771,524	10,168,236	11,579,686
放射線科	927,549	3,566,613	3,951,507	2,306,077	2,190,165	3,534,688	3,809,151
歯科口腔外科	4,730,941	4,595,314	4,794,014	3,945,451	4,208,786	3,692,101	5,433,217
救急科	19,608,630	19,191,317	17,746,690	19,023,543	23,614,723	21,406,800	18,548,740
合計	381,964,233	356,541,700	355,387,027	333,664,398	339,441,671	345,095,543	373,354,336
一人一日あたり診療収入	21,604	20,344	19,743	17,837	19,587	19,160	19,736

経　　営

年　　度						令和６年度	前年度増減比較	
11	12	1	2	3	計		金　額	比　率
円	円	円	円	円	円	円	円	%
32,767,031	43,794,032	40,863,571	39,217,599	31,726,372	420,808,409	509,079,865	△ 88,271,456	△ 17.3
1,518,022	1,083,609	982,390	867,057	0	13,015,064	13,977,877	△ 962,813	△ 6.9
58,418,968	71,491,861	72,941,218	73,242,071	64,104,261	777,409,431	704,342,199	73,067,232	10.4
17,376,135	19,108,849	26,295,957	25,515,298	28,928,913	246,311,785	177,705,938	68,605,847	38.6
0	0	0	0	0	7,545,830	19,284,914	△ 11,739,084	△ 60.9
267,213	1,034,510	424,908	516,526	3,217,430	19,743,246	29,402,807	△ 9,659,561	△ 32.9
99,774,342	122,021,478	101,065,455	91,582,513	98,103,350	1,271,226,702	1,257,699,714	13,526,988	1.1
26,603,174	30,717,046	27,238,992	25,828,748	26,398,663	326,914,311	406,578,986	△ 79,664,675	△ 19.6
36,029,040	38,108,948	27,512,422	26,603,717	20,757,041	392,564,700	428,465,700	△ 35,901,000	△ 8.4
76,787,503	101,060,596	89,000,776	77,797,552	80,184,832	1,103,714,779	959,946,059	143,768,720	15.0
79,999,935	90,929,740	113,314,931	100,267,453	111,791,029	1,046,032,848	1,020,497,476	25,535,372	2.5
4,287,965	2,879,549	6,894,598	7,038,467	7,402,654	72,063,036	116,751,576	△ 44,688,540	△ 38.3
45,254,248	26,226,774	53,389,770	50,512,039	42,430,381	484,650,116	466,003,902	18,646,214	4.0
2,758,638	1,529,852	1,974,869	1,955,908	478,520	41,228,138	35,522,409	5,705,729	16.1
38,063,686	43,879,312	40,323,618	36,957,487	40,570,502	521,475,462	517,339,914	4,135,548	0.8
59,915,129	61,572,189	49,207,507	44,534,844	36,557,011	670,404,700	654,487,978	15,916,722	2.4
8,423,732	7,159,181	10,372,682	9,887,671	13,199,021	114,899,677	129,749,295	△ 14,849,618	△ 11.4
15,069,429	13,933,038	12,964,642	12,835,690	15,596,890	184,286,893	172,434,375	11,852,518	6.9
3,480,534	2,782,626	2,975,578	2,575,016	3,713,844	39,262,310	44,780,713	△ 5,518,403	△ 12.3
387,389	1,065,209	1,262,887	287,638	1,591,579	8,578,006	1,003,174	7,574,832	755.1
607,182,113	680,378,399	679,006,771	628,023,294	626,752,293	7,762,135,443	7,665,054,871	97,080,572	1.3
67,241	71,028	67,255	66,521	66,302	70,231	67,802	2,429	3.6

年　　度						令和６年度	前年度増減比較	
11	12	1	2	3	計		金　額	比　率
円	円	円	円	円	円	円	円	%
6,268,290	6,574,162	7,043,653	6,203,608	7,457,291	84,407,125	80,493,271	3,913,854	4.9
2,947,366	2,814,873	2,889,346	2,706,345	3,295,307	39,397,576	39,464,650	△ 67,074	△ 0.2
23,352,002	23,562,331	28,178,120	25,194,971	28,672,363	299,237,662	293,596,868	5,640,794	1.9
2,949,437	3,957,945	3,618,077	3,224,577	4,234,162	44,363,015	44,352,284	10,731	0.0
21,319,985	27,622,336	21,868,339	29,491,607	22,620,394	272,511,848	241,294,905	31,216,943	12.9
5,835,509	6,505,576	6,459,489	6,287,815	7,091,449	77,849,618	70,590,645	7,258,973	10.3
57,363,372	55,345,900	73,547,557	58,745,436	66,323,834	800,128,795	807,781,626	△ 7,652,831	△ 0.9
30,902,084	34,224,016	36,802,548	32,408,346	35,975,066	409,951,761	422,204,688	△ 12,252,927	△ 2.9
950,628	1,057,432	1,044,732	969,977	1,103,497	12,905,902	14,255,788	△ 1,349,886	△ 9.5
19,302,702	17,036,914	19,579,936	14,311,714	14,915,677	265,857,047	381,503,368	△ 115,646,321	△ 30.3
22,038,055	28,596,100	27,021,625	31,098,039	25,768,831	330,905,912	318,640,255	12,265,657	3.8
13,422,964	14,873,297	17,870,931	14,390,005	15,106,019	178,484,791	182,876,900	△ 4,392,109	△ 2.4
2,216,912	2,441,227	2,593,535	2,240,818	5,799,280	34,504,614	34,004,660	499,954	1.5
2,974,738	3,328,425	3,137,998	2,861,005	3,895,342	44,064,140	87,139,127	△ 43,074,987	△ 49.4
1,437,791	1,605,265	1,561,417	1,301,800	1,472,134	19,733,410	20,710,339	△ 976,929	△ 4.7
25,312,102	30,371,919	30,141,625	27,023,690	32,132,857	361,790,468	435,722,467	△ 73,931,999	△ 17.0
19,881,957	23,075,653	22,676,098	21,339,981	21,085,349	282,915,589	233,603,838	49,311,751	21.1
11,079,577	14,508,200	14,216,788	13,396,579	16,805,719	157,170,902	116,334,503	40,836,399	35.1
8,678,180	6,967,371	7,936,646	6,585,705	7,516,980	110,387,338	125,432,359	△ 15,045,021	△ 12.0
1,929,058	3,387,783	4,422,160	3,930,519	3,804,952	37,760,222	34,654,929	3,105,293	9.0
3,672,058	4,244,649	3,935,686	3,574,551	4,721,697	51,548,465	50,705,221	843,244	1.7
20,331,003	19,331,150	21,375,523	21,027,439	19,714,681	240,920,239	256,624,700	△ 15,704,461	△ 6.1
304,165,770	331,432,524	357,921,829	328,314,527	349,512,881	4,156,796,439	4,291,987,391	△ 135,190,952	△ 3.1
19,001	18,111	20,340	19,966	18,849	19,510	19,707	△ 197	△ 1.0

2. 各科別収入年次推移

入　　院

月別 / 科別	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
	円	円	円	円	円
総合診療内科	262,882,337	380,352,201	459,779,774	509,079,865	420,808,409
呼吸器内科	28,531,665	27,684,596	33,422,861	13,977,878	13,015,064
消化器内科	699,200,745	693,920,851	686,300,880	704,342,199	777,409,431
循環器内科	157,626,607	168,397,767	177,607,922	177,705,937	246,311,785
血液内科	136,813,899	53,313,512	75,913,519	19,284,912	7,545,830
代謝・内分泌内科	19,555,246	25,116,476	26,017,060	29,402,809	19,743,246
脳神経内科	984,589,062	1,004,929,955	1,152,248,127	1,257,699,714	1,271,226,702
腎臓内科	496,302,217	474,402,484	451,556,516	406,578,987	326,914,311
小児科	398,285,607	429,415,590	472,151,345	428,465,700	392,564,700
外科	1,064,545,136	965,405,399	957,261,897	959,946,058	1,103,714,779
整形外科	918,769,448	1,044,891,192	1,095,209,123	1,020,497,476	1,046,032,848
形成外科	86,702,338	104,184,143	98,870,363	116,751,576	72,063,036
脳神経外科	599,958,540	493,246,173	484,896,317	466,003,902	484,650,116
皮膚科	17,879,299	19,879,182	24,980,806	35,522,409	41,228,138
泌尿器科	541,255,434	590,188,882	527,972,913	517,339,915	521,475,462
産婦人科	899,408,890	881,831,267	734,823,154	654,487,977	670,404,700
眼科	67,048,376	62,599,568	133,998,448	129,749,295	114,899,677
耳鼻いんこう科	149,630,890	155,800,532	164,397,335	172,434,374	184,286,893
歯科口腔外科	37,458,753	39,983,960	44,824,921	44,780,714	39,262,310
救急科	0	0	381,916	1,003,173	8,578,006
計	7,566,444,489	7,615,543,730	7,802,615,197	7,665,054,871	7,762,135,443
一人一日あたり診療収入	62,612	65,520	64,765	67,802	70,231

外　　来

月別 / 科別	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
	円	円	円	円	円
総合診療内科	132,953,829	185,458,563	89,345,765	80,493,271	84,407,125
呼吸器内科	38,692,358	37,197,555	41,087,422	39,464,649	39,397,576
消化器内科	337,801,721	312,734,250	306,135,136	293,596,868	299,237,662
循環器内科	62,310,355	46,119,144	44,782,805	44,352,284	44,363,015
血液内科	183,900,155	203,367,873	231,786,306	241,294,905	272,511,848
代謝・内分泌内科	51,034,229	65,136,040	67,981,992	70,590,644	77,849,618
脳神経内科	250,953,550	451,480,438	730,324,831	807,781,626	800,128,795
腎臓内科	421,746,243	453,304,325	457,286,980	422,204,687	409,951,761
精神科	17,674,717	16,185,441	15,437,934	14,255,789	12,905,902
小児科	348,133,965	360,299,810	388,975,522	381,503,368	265,857,047
外科	420,462,324	382,807,785	325,306,905	318,640,256	330,905,912
整形外科	178,803,099	193,148,086	190,569,184	182,876,900	178,484,791
形成外科	41,579,539	40,439,061	40,141,709	34,004,659	34,504,614
脳神経外科	83,302,201	98,773,376	88,516,363	87,139,127	44,064,140
皮膚科	20,465,602	22,437,874	22,335,668	20,710,339	19,733,410
泌尿器科	467,614,880	477,148,611	491,879,417	435,722,468	361,790,468
産婦人科	286,852,907	264,892,283	258,442,778	233,603,838	282,915,589
眼科	72,784,299	73,895,832	98,241,934	116,334,503	157,170,902
耳鼻いんこう科	82,315,339	100,393,652	114,964,900	125,432,359	110,387,338
放射線科	50,970,880	38,350,697	35,024,831	34,654,929	37,760,222
歯科口腔外科	52,491,545	50,076,437	48,761,076	50,705,221	51,548,465
救急科	215,148,427	231,146,409	247,258,318	256,624,700	240,920,239
計	3,817,992,164	4,104,793,542	4,334,587,776	4,291,987,391	4,156,796,439
一人一日あたり診療収入	16,519	17,327	19,355	19,707	19,510

3.概　況

(1) 総 括 事 項

志太榛原地域における基幹病院として多様化する医療需要に応えるため、他の医療機関とそれぞれの専門性を生かした連携・機能分担を推進し、急性期医療を中心とした救急医療、高度・専門医療提供体制を担ってきました。

また、地域の医療ニーズに合わせ、必要な医療機器の更新も進め、より良い医療・安心安全な医療の提供に努めました。

（ア）業 務 状 況

項目／年度		令和7年度	令和6年度	増　減	増減率(%)
入院	病床稼働率　(%)	(423床) 71.6	(423床) 73.2	▲1.6	—
	年間延患者数　(人)	110,523	113,050	▲2,527	▲2.2
	一日平均患者数　(人)	303	310	▲7	▲2.3
	一人一日平均診療収入　(円)	70,231	67,802	2,429	3.6
	診療日数　(日)	365	365	0	—
外来	年間延患者数　(人)	213,063	217,791	▲4,728	▲2.2
	一日平均患者数　(人)	880	896	▲16	▲1.8
	一人一日平均診療収入　(円)	19,510	19,707	▲197	▲1.0
	診療日数　(日)	242	243	▲1	▲0.4

入院では、一日平均患者数が303人(病床稼働率71.6%)で前年度に比べ7人減となりました。

一人一日平均診療収入は、前年度に比べ2,429円、3.6%増の70,231円となりました。

外来では、一日平均患者数は880人で前年度に比べ16人減となりました。一人一日平均診療収入は、前年度に比べ197円、1.0%減の19,510円となりました。

（イ）収 支 状 況　　（単位：千円・%）

項目／年度		令和7年度	令和6年度	増　減	増減率
収益	入院収益	7,762,136	7,665,055	97,081	1.3
	外来収益	4,156,796	4,291,987	▲135,191	▲3.1
	一般会計繰入金	1,870,581	1,623,978	246,603	15.2
	その他収益	924,178	613,462	310,716	50.6
	計	14,713,691	14,194,482	519.209	3.7
費用	給与費	8,711,609	8,286,876	424,733	5.1
	材料費	3,478,220	3,466,558	11,662	0.3
	経費	2,009,381	1,959,435	49,946	2.5
	減価償却費	450,086	491,289	▲41,203	▲8.4
	資産減耗費	11,832	16,648	▲4,816	▲28.9
	研究研修費	48,761	44,925	3,836	8.5
	支払利息	32,085	24,261	7,824	32.2
	その他費用	864,486	893,558	▲29,072	▲3.3
	計	15,606,460	15,183,550	422,910	2.8
経常利益		▲892,769	▲989,068	96,299	▲9.7
特別利益		0	0	0	-
特別損失		0	417,594	▲417,594	皆減
当年度純利益		▲892,769	▲1,406,662	513,893	▲36.5

収益においては、入院収益については、前年度比 1.3%、9,708 万 572 円の増収となりました。
外来収益については、前年度比 3.1%、1 億 3,519 万 952 円の減収となりました。
収益全体では、前年度比 3.7%、5 億 1,920 万 9,304 円増の 147 億 1,369 万 863 円となりました。

費用においては、給与費は、給与改定などの影響により、前年度に比べ 5.1%、4 億 2,473 万 2,327 円の増となりました。職員数については、前年度に比べ全体で 4 人の減となりました。
材料費については、物価高騰の影響により、前年度に比べ 0.3%、1,166 万 2,939 円の増となりました。
経費については、物価や人件費高騰による委託料の増などにより前年度に比べ 2.5%、4,994 万 5,961 円の増となりました。
また、減価償却費は、前年度に比べ 8.4%、4,120 万 2,677 円の減となりました。
費用全体では、前年度に比べ 531 万 5,796 円増の 156 億 645 万 9,833 円となりました。

経常損失及び当年度純損失は、8 億 9,276 万 8,970 円となりました。

(ウ)建設改良等の状況
固定資産購入は、全身用 X 線 CT 診断装置、自動採血管準備装置ほか医療器械や一般備品等を購入しました。
新病院建設事業費としては、新病院建設基本設計見直し業務委託等を行いました。

(2) 経営指標に関する事項
経常収支比率は、補助金や繰入金の増加などにより昨年度の 93.5%に比べ 0.8 ポイント上昇し、94.3%でした。また、医業収支比率は、89.0%で昨年度に比べ 2.1 ポイント低下しました。新規入院患者数の増、病床稼働率の向上、医業収益の増及び業務の効率化に向け、3 つのプロジェクトチーム（①地域医療連携強化、②診療報酬算定強化、③PFM（Patient Flow Management）推進）を中心に、前年度から継続して経営改善に取り組みました。
人件費比率は、医業収益は増加したものの、給与費が大幅に増加したことにより昨年度に比べ、2.7 ポイント上昇し 66.5%でした。
地域の中核的医療を行う基幹病院として住民に安心・安全な医療を安定的に提供できるよう努めるとともに、更なる経営強化に向けた取組を推進していきます。

第４章　研　究　業　績

第1節　学 会 発 表 及 び 研 究 会 発 表

演題，氏名（科名），学会名等，実施年月日
場所，発表等の要約

【医　務　部】

1. 心房細動における腎病変の形態的検討

池谷直樹、山下敦、大島一憲（総合診療内科）、関常司、菱田明（腎臓内科）
第68回日本腎臓学会学術総会　令和7年6月20～22日　パシィフィコ横浜

2. 血液疾患を背景とする重症肺炎の治療経過中に社会的な調整にも苦渋した一例

尾崎天保（初期臨床研修医）、大島一憲、上村健太、山下敦、池谷直樹（総合診療内科）、海老澤和俊（血液内科）
第16回日本プライマリ・ケア連合学会　令和7年6月22日　北海道

3. 全身性強皮症に合併した腸管気腫症に対して酸素吸入療法とメトロニダゾール併用により改善した１例

酒井宏記、池谷直樹、中村紫音、大島弘彰、大島一憲（総合診療内科）、青山拓也（消化器内科）
第258回日本内科学会東海地方会　令和8年2月15日　名古屋市

4. 原発性胆汁性胆管炎に合併したFanconi症候群を伴う間質性腎炎がウルソデオキシコール酸で改善した

中村紫音、大島一憲、山下敦、池谷直樹（総合診療内科）、大浦正晴、関常司、菱田明（腎臓内科）、渡邊幸弘（消化器内科）、久力権（病理診断科）
第258回日本内科学会東海地方会　令和8年2月15日　名古屋市

5. 重度の下痢・下血を呈し凝固第ⅩⅢ因子製剤投与が著効したIgA血管炎の１例

松本芳季（初期臨床研修医）、青山拓也、木佐森太郎、川村優介、山形真碁、渡邉幸弘、佐野宗孝（消化器内科）
第257回日本内科学会東海地方会　令和7年10月5日　愛知

6. 多発血栓症を合併したシェーグレン症候群関連蛋白漏出性胃腸症に対し、ミゾリビンが著効した１例

加嶋颯太（初期臨床研修医）、青山拓也、木佐森太郎、川村優介、山形真碁、渡邉幸弘、佐野宗孝（消化器内科）
第257回日本内科学会東海地方会　令和7年10月5日　愛知

7. 直腸に限局する全周性潰瘍を呈したIgA沈着血管炎の一例

松本芳季（初期臨床研修医）、青山拓也、木佐森太郎、川村優介、山形真碁、渡邉幸弘、佐野宗孝（消化器内科）
第143回日本消化器病学会東海支部例会　令和7年11月29日　静岡

8. 自己免疫性肝炎増悪期におけるM2BPGiおよびSWEの上昇が肝線維化を反映していない可能性が示唆された1例

鈴木拓真（初期臨床研修医）、青山拓也、酒井宏記、木佐森太郎、川村優介、眞鍋藍璃、山形真碁、渡邉幸弘、佐野宗孝（消化器内科）

第258回日本内科学会東海地方会　令和8年2月15日 愛知

9. ギラン・バレー症候群改善後にパーキンソン症候群が顕在化または発症する可能性

鈴木洋司、岡耕太、内田宗吾、小関昭仁、中村圭吾、伊賀崎翔太、森下直樹、酒井直樹（脳神経内科）

第66回日本神経学会学術大会ポスターセッション　令和7年5月21日　大阪市

10. 神経系に主病変を持つ血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫の診断に対する Liquid biopsy, 筋生検の有用性

森下直樹（脳神経内科）

第66回日本神経学会学術大会ポスターセッション　令和7年5月24日　大阪市

11. 脳静脈洞血栓症と肺塞栓症を発症時に子宮筋腫による軽度鉄欠乏性貧血と血小板増多を呈していた 40 代女性

古橋凱、岡耕太、小関昭仁、内田宗吾、中村圭吾、森下直樹、鈴木洋司、酒井直樹（脳神経内科）

第256回日本内科学会東海地方会ハイブリッド開催　令和7年6月　四日市市

12. 重度の後遺症が残存した Contactin-associated protein(Caspr1)抗体陽性自己免疫性ノドパチー（AN）の 1 例

鈴木洋司（脳神経内科）

第37回日本神経免疫学会学術大会ポスターセッション　令和7年8月8日　東京幕張メッセ

13. CIDP マネージメントの多様性　エフガルチギモドへの期待

森下直樹（脳神経内科）

第68回日本神経化学会大会 ランチョンセミナー9　令和7年9月13日　愛知

14. CRP陰性の不明熱を呈したクリプトコッカス髄膜炎の 1 例

新垣辰昂（初期臨床研修医）、中村圭吾（脳神経内科）、青山拓也（消化器内科）

日本内科学会第257回東海地方会　令和7年10月5日　名古屋

15. TWO SIBLINGS WITH SOD1-ALS　AFTER REMISSION OF LUNG ADENOCARCINOMA

鈴木洋司（脳神経内科）

World congress of neurology　令和7年10月　韓国ソウル

16. OD16-4. 指定難病患者データベースのデータ信頼性の検討

小関昭仁（脳神経内科）

第43回日本神経治療学会学術集会　神経治療学 42（6）S254-S254, 2025.

令和7年11月7日　熊本

17.妊娠後期に多彩な症状を示した前兆のある片頭痛の症例

細谷豪徳（初期臨床研修医）、鈴木洋司、小関昭仁、岡耕太、中村圭吾、伊賀崎翔太、森下直樹、酒井直樹（脳神経内科）

第174回日本神経学会東海北陸地方会　令和8年3月7日　名古屋

18.血栓溶解療法を開始90分後にびまん性の多発脳出血を来した症例

鈴木洋司（脳神経内科）

第174回日本神経学会東海北陸地方会　令和8年3月7日　名古屋市

19.当院におけるADHDの治療

森昌夫（小児科）

小児科学会静岡地方会　もくせい会館　令和7年5月27日

20.マイコプラズマ脳症の1例

田頭祥之助（小児科）

小児科学会静岡地方会　もくせい会館　令和7年11月30日

21.術後の還流式持続陰圧閉鎖療法施行を前提とした膿胸小開窓術

北雄介、小林亮、五十嵐洸、川口萌々子、佐藤健資、落合伸伍、牧野晃大、村井伸、小野田貴信、石原行雄、高林直記、風間伸介、平松毅幸（外科）、船井和仁（浜松医科大学）

第125回日本外科学会定期学術集会　令和7年4月10日　仙台

22.DPC情報を利用した超高齢大腸癌症例の検討

村井伸、石原行雄、川口萌々子、五十嵐洸、佐藤健資、落合伸伍、牧野晃大、小野田貴信、高林直記、風間伸介（外科）

第125回日本外科学会定期学術集会　令和7年4月11日　仙台

23.血管内皮増殖因子(VEGF)抗体の使用後に消化管穿孔を来した7例の検討

五十嵐洸、石原行雄、川口萌々子、牧野晃大、村井伸、小野田貴信、北 雄介、高林直記、小林亮、風間伸介（外科）

第125回日本外科学会定期学術集会　令和7年4月12日　仙台

24.Performance Status 3の状況下に発症した重篤な膿胸に対する治療方針

北雄介（外科）

第42回日本呼吸器外科学会学術集会　令和7年5月16日　東京

25.直腸癌肺転移術後、左主気管支の再発病巣に対する気管支鏡下レーザー治療

北雄介（外科）

第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会　令和7年6月13日　仙台

26.穿孔を伴わない虫垂炎で敗血症性ショック・DIC に至った1例

水本遼馬（初期臨床研修医）、村井伸、溝口和弥、佐藤秀、植田浩太、植田江莉、牧野晃大、小野田貴信、石原行雄、北雄介、高林直記、小林亮、風間伸介、平松毅幸（外科）、久力権（病理診断科）

静岡県外科医会第252回集談会　令和7年9月13日　沼津

27.腸捻転術後再発に対して外科的治療を行った一例

佐藤秀、村井伸、高林直記、石原行雄、小野田貴信、牧野晃大、植田江莉、植田浩太、溝口和弥、風間伸介（外科）

静岡県外科医会第252回集談会　令和7年9月13日　沼津

28.ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除後の重度皮下気腫、頚部縦隔気腫に対する1治験例

北雄介、植田江莉、小林亮、溝口和弥、植田浩太、佐藤秀、村井伸、牧野晃大、小野田貴信、石原行雄、高林直記、平松毅幸、風間伸介（外科）、船井和仁（浜松医科大学）

第86回日本臨床外科学会学術集会　令和7年11月22日　東京

29.重要演題38 ヘルニア・盲腸捻転

石原行雄（座長）（外科）

第86回日本臨床外科学会学術集会　令和7年11月22日　東京

30.術後5年以上の経過で再発した自然気胸例から ～自然気胸術式についての考察

北雄介、小林亮、村井伸、牧野晃大、小野田貴信、石原行雄、高林直記、風間伸介、植田江莉、植田浩太（外科）、船井和仁（浜松医科大学）

第38回日本内視鏡外科学会総会　令和7年12月11日　横浜

31.IgG関連心内膜炎疑いに対して胸腔鏡補助下心膜開窓術を施行した1例

植田江莉、北雄介、植田浩太、村井伸、牧野晃大、小野田貴信、石原行雄、高林直記、小林亮、風間伸介（外科）

第38回日本内視鏡外科学会総会　令和7年12月11日　横浜

32.片側TAPP術後の対側鼠径部ヘルニアの検討

植田浩太、石原行雄、植田江莉、牧野晃大、村井伸、小野田貴信、北雄介、高林直記、小林亮、風間伸介（外科）

第38回日本内視鏡外科学会総会　令和7年12月11日　横浜

33.クローン病術後21年で直腸腟瘻を合併した直腸癌の一例

岡本健太郎（初期臨床研修医）、佐藤秀、溝口和弥、植田浩太、村井伸、牧野晃大、小野田貴信、石原行雄、高林直記、風間伸介、植田江莉、北雄介、小林亮、平松毅幸（外科）、久

力権（病理診断科）
静岡県外科医会第253回集談会　令和8年3月14日　静岡

34. 局所進行直腸癌術後、脳転移に対して外科的治療を行い、長期生存が得られた一例
藤本栞（初期臨床研修医）、溝口和弥、佐藤秀、植田浩太、村井伸、牧野晃大、小野田貴信、石原行雄、高林直記、風間伸介、植田江莉、北雄介、小林亮、平松毅幸（外科）、久力権（病理診断科）
静岡県外科医会第253回集談会　令和8年3月14日　静岡

35. 上行結腸癌術後約 2 年で不整脈と右心耳腫瘤が出現、その後大腸癌右房転移と判明した 1 例
小野夏音（初期臨床研修医）、佐藤秀、溝口和弥、植田浩太、植田江莉、村井伸、牧野晃大、小野田貴信、石原行雄、北雄介、風間伸介、高林直記、小林亮、平松毅幸（外科）、久力権（病理診断科）
静岡県外科医会第253回集談会　令和8年3月14日　静岡

36. 膝窩部ガングリオンに対しエコーガイド下で鏡視下切除術を行った 3 例
後藤駿、朔伊作（整形外科）
第36回日本整形外科超音波学会　令和7年7月11日　那覇市

37. 人工骨頭挿入術後口腔内感染が原因と考えられた内因性 SSI の 1 例
安藤実大、坂口傑侃、後藤駿、太田海人、高田亮佑、小幡勇、徳山周、朔伊作（整形外科）
第208回静岡県整形外科医会集談会　令和7年11月8日　浜松市

38. ロボット支援人工膝関節全置換術（VELYS）の導入経験と初期成績
後藤駿、安藤実大、坂口傑侃、太田海人、高田亮佑、小幡勇、徳山周、朔伊作（整形外科）
第208回静岡県整形外科医会集談会　令和7年11月8日　浜松市

39. 一般演題Ⅰ
朔伊作（座長）（整形外科）
第208回静岡県整形外科医会集談会　令和7年11月8日　浜松市

40. 一般演題Ⅱ、ワンポイントレッスン、ミニレクチャー
徳山周（座長）（整形外科）
第208回静岡県整形外科医会集談会　令和7年11月8日　浜松市

41. ロボット支援人工膝関節全置換術（Velys）の導入初期 20 例における骨切り量誤差の検討
高田亮佑、後藤駿、徳山周、朔伊作（整形外科）
第56回日本人工関節学会、ポスター　令和8年2月26日　大阪市

42. VELYS ロボティック支援下 TKA における脛骨後傾角度（TPS）の術後精度評価

後藤駿、高田亮佑、徳山周、朔伊作(整形外科)
第56回日本人工関節学会　令和8年2月27日　大阪市

43. 診断に苦慮した前頭洞炎を併発した眉間部リンパ腫の一例

81歳女性、1週間前からの圧痛を伴う眉間部の皮下腫瘤を自覚し紹介受診となった。前医の単純 MRI より前頭洞炎からの pott's puffy tumor を疑い、耳鼻科へコンサルトし、内視鏡下で前頭洞を開放した。術後、皮下腫瘤が増大し再度紹介となり、造影 MRIでリンパ腫を疑い切開生検を施行した。病理でびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の診断となり、血液内科紹介となった。初診時の診断に苦慮したため報告する。

安本健、丹生淳史(形成外科)
静岡県形成外科医会第59回例会　令和7年11月29日　浜松市

44. 当院における腹膜透析用カテーテル留置術の治療成績

松本明彦、宍田智大、田中亮、坂本昭彦、田邊邦明、杉山和隆（泌尿器科)、森瑞貴、成田櫻子、大浦正晴（腎臓内科)、天野裕之、久米春喜
第112回日本泌尿器科学会総会　令和7年4月18日　福岡県

45. 高齢レシピエントに対して当院で 10 年ぶりとなる献腎移植を施行した 1 例

松本明彦、宍田智大、田中亮、坂本昭彦、田邊邦明、杉山和隆（泌尿器科）、森瑞貴、成田櫻子（腎臓内科）、濱崎敬文、久米春喜
第38回日本老年泌尿器科学会　令和7年7月12日　東京都

46. 腎細胞癌術後補助療法でペムブロリズマブを投与後肝障害に対してミコフェノール酸モフェチルによる 2 次治療を行った 1 例

田中亮、森亮太、田中恵梨子、坂本昭彦、田邊邦明、杉山和隆、松本明彦（泌尿器科）、渡邉幸弘（消化器内科）、久米春喜
第75回日本泌尿器科学会中部総会　令和7年11月7日　兵庫県

47. 当院におけるロボット支援前立腺全摘術におけるリンパ節郭清症例の検討

田邊邦明、田中恵梨子、森亮太、田中亮、坂本昭彦、杉山和隆、松本明彦（泌尿器科）、久米春喜
第77回西日本日本泌尿器科学会総会　令和7年11月14日　高知県

48. ラパロ尿膜管摘除術において VY 皮弁法による臍形成術を行った 1 例

田中恵梨子、森亮太、田中亮、坂本昭彦、松本明彦（泌尿器科）
第18回静岡泌尿器ラパロ・ロボット手術研究会　令和7年11月15日　静岡市

49. 術前針生検の病理診断と異なった腎粘液管状紡錘細胞癌の一例

田中恵梨子、森亮太、田中亮、坂本昭彦、松本明彦（泌尿器科）、久力権（病理診断科）
第143回静岡県泌尿器科医会　令和8年3月14日　静岡市

50.当院で経験した院外での墜落産の検討

黄苡淳（産婦人科）

静岡産科婦人科学会秋季学術集会　令和7年11月30日　浜松市

51.当科で経験した扁桃周囲膿瘍の検討

相川遂夫（耳鼻いんこう科）

第134回日耳鼻静岡県地方部会学術講演会　令和7年4月13日　静岡市

52.当科における扁桃周囲膿瘍症例の検討

相川遂夫（耳鼻いんこう科）

第38回日本口腔咽頭科学会学術講演会　令和7年9月12日　函館市

53.血管型 Ehlers-Danlos 症候群患者の埋伏智歯抜歯経験

Ehlers-Danlos 症候群は先天性代謝異常により皮膚の異常な伸展性、血管の脆弱性による易出血性、関節の可動性亢進などを主訴とする希な遺伝性疾患であるが、血管型Ehlers-Danlos 症候群では動脈瘤破裂など重篤な合併症を来し予後不良とされている。

今回、血管型Ehlers-Danlos 症候群と診断された患者に対し、静脈内鎮静のもと下顎埋伏智歯の抜歯を経験したため概略を報告した。

中谷嶺、森正次、伊澤和倫（歯科口腔外科）

第50回日本口腔外科学会中部支部学術集会　令和7年6月7日　名古屋コンベンションホール

【看 護 部】

1. 急性期病院における看護師の認知症患者に対する関わりの困難感及び意識の変化
～BPSD とパーソン・センタード・ケアの学習会を通して～

西野結菜、松本由希子（3C病棟）

第56回日本看護学会学術集会（示説）　令和7年9月13日　ポートメッセなごや

2. がん患者の意思決定に関わる看護師の抱える困難に対する意識の変化
～基本的なコミュニケーションスキル、重篤な疾患を持つ患者との話し合いの手引きを用いた学習会を実施して～

萩原聖、吉田楓（4C病棟）

第56回日本看護学会学術集会（示説）　令和7年9月13日　ポートメッセなごや

【診 療 技 術 部】

1. ファントムを用いた 3D landmark scan における CT-AEC 精度の検討

キヤノン社製の新しいCT装置に搭載された3D landmark scanはSilver beam filterを用いた低線量ヘリキャルスキャンによる位置決め撮影である。撮影条件を下げることでより被ばく線量を低減可能となるが、その後に撮影する本撮影のCT-automatic exposure control（CT-AEC）に及ぼす影響は

不明確である。そこでどう影響を及ぼすのか、円錐型と楕円錐型ファントム、頭部、胸部、腹部の人体模擬ファントムを用いて検討を行った。
岩倉圭佑（中央放射線科）
第16回静岡CT研究会　令和7年5月24日　静岡市クーポール会館

2. 臨床工学技士による VA 管理の取り組み
岡村麻里（臨床工学科）ほか
第70回日本透析医学会学術集会　令和7年6月27日　大阪

3. HCU における脳神経疾患患者への早期栄養介入の実践とその効果
重症患者に対する早期経腸栄養は腸管機能の維持や感染症発生の抑制に有用とされており、多職種による早期栄養介入の取り組みとその影響について検討した。
HCUの脳神経疾患患者に対し、多職種が連携し早期栄養介入を行うことで、48時間以内の経腸栄養開始率の増加と、HCU在室日数の短縮に寄与している可能性が示唆された。
田村大輔（栄養サポート室）
第40回日本栄養治療学会　令和8年2月14日　パシフィコ横浜

【薬 剤 部】

1. 小児における内服可能な剤形と年齢の関係について
富野浩充（薬剤部）
日本薬剤師会学術大会　令和7年10月12日～10月13日　国立京都国際会館

2. 術前休止薬剤リスト改訂による薬剤業務への影響
池田玲美（薬剤部）
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会
令和7年10月26日　鈴鹿医療科学大学白子キャンパス

3. 腸内細菌科細菌菌血症においてESBL産生菌が関与する因子，予後及び治療に要する抗菌薬を評価する他機関共同観察研究
加藤純（薬剤部）
日本医療薬学会年会　令和7年11月22日～11月24日　神戸国際展示場、神戸国際会議場、神戸ポートピアホテル

4. 抜歯手術のクリニカルパス変更が薬剤使用量および再診時追加処方に与える影響
池谷裕光（薬剤部）
静岡県病院薬剤師会学術大会　令和8年2月8日　静岡パルシェ会議室

第2節　論 文 発 表 ･講 演 会･ そ の 他

〔原著〕

1. A case of leiomyosarcoma during long-term levonorgestrel intrauterine system (LNG-IUS) insertion.

Suzuki Y, Kuroda K, Nakagami H, Kuriki K, Shinohara H, Naritaka K. (産婦人科)

International Cancer Conference Journal　15巻1号page92-98

〔講演会･研究会〕

1. フルキンチニブとゲノム診療からみた大腸癌治療戦略

座長；渡邉幸弘（消化器内科）

大腸癌WEB講演会 in Shizuoka　令和7年6月5日　焼津 ハイブリッド開催

2. 肝炎ウイルス検査陽性患者の拾い上げ活動の効果

演者；渡邉幸弘（消化器内科）

Elimination Leaders Conference in 静岡　令和7年6月26日　静岡市

3. 誰一人取り残さないがんゲノム医療

座長；渡邉幸弘（消化器内科）

ふじのくにがんゲノム医療セミナー　令和7年9月18日　藤枝市

4. リファキシミン長期投与が肝予備能に与える影響について

座長；佐野宗孝（消化器内科）

静岡県リフキシマWEB講演会　令和7年9月19日　浜松

5. 多発性硬化症診療における多職種連携

小関昭仁（脳神経内科）

Clinical Conference in Shizuoka　令和7年6月6日

6. CIDPマネージメントの多様性　～実症例を通して考える～

森下直樹（脳神経内科）

CIDP Web セミナー　～新たなアプローチによる治療戦略を学ぶ～ 令和7年7月10日

7. 脳卒中×高血圧

伊賀崎翔太（脳神経内科）

大塚製薬　令和7年7月15日

8. 身体拘束最小化にむけた入院患者における適切な評価と対応 ～不眠マネジメントの受容性～

演者：新見公立大学 健康科学部 看護学科　井上真一郎教授

座長：酒井直樹（脳神経内科）
医療安全セミナーin 焼津 令和 7 年 7 月 22 日　焼津市

9. 基本知識
酒井直樹(脳神経内科)
在宅業務に関する研修会シリーズ　令和 7 年度薬剤師認知症対応力向上研修(1 回目)
令和 7 年 8 月 24 日　WEB 開催

10. 当科でのアルツハイマー型認知症における BPSD の対応とレキサルティについて
鈴木洋司（脳神経内科）
レキサルティ適応追加記念講演会　BPSD 治療について再考する
令和 7 年 8 月 28 日　WEB 開催・焼津市

11. eHET 時代のタイサブリの役割を自験例から考える
森下直樹（脳神経内科）
Biogeneration in 東海北陸　令和 7 年 9 月 6 日

12. ライフステージに寄り添う認知症診療と地域医療の新たな役割　～治療後の充実した生活を支える早期介入の重要性～
演者：日本赤十字社静岡赤十字病院院長補佐 脳神経内科 小西高志 部長
座長：酒井直樹（脳神経内科））
抗アミロイドβ抗体治療について考える
司会：鈴木洋司（脳神経内科）
Kisunla Web Seminar　令和 7 年 9 月 17 日　WEB 開催

13. 抗 CD19 モノクローナル抗体製剤を使用中の症例についての思い
鈴木洋司（脳神経内科）
田辺ファーマ講演会　令和 7 年 9 月

14. 当院におけるＭＧに対する補体阻害薬使用経験
森下直樹（脳神経内科）
浜松神経免疫セミナー　令和 7 年 10 月 7 日

15. 早期診断の重要性　～MCI(軽度認知機能障害)について～
酒井直樹（脳神経内科）
令和 7 年 10 月 23 日　焼津市

16. 当院でのトフェルセン使用 3 症例を含む SOD1-ALS4 症例の経過
中村圭吾（脳神経内科）
令和 7 年 11 月

17. Diversity in CIDP Management Expectations for Efgartigimod

森下直樹（脳神経内科）

Fujita Mind-BRIDGe International Symposium 2025 Luncheon Seminar2

令和 7 年 11 月 23 日

18. ALS とのつきあい方

鈴木洋司（脳神経内科）

保健所講演会　令和 7 年 12 月

19. 抗アミロイドβ抗体薬治療　お礼とご報告

鈴木洋司（脳神経内科）

エーザイ講演会　令和 8 年 1 月

20. MS 診療における当院の取り組み

小関昭仁（脳神経内科）

MS 患者の 10 年後を見据えて　～今、医師ができること～　令和 8 年 2 月 6 日

21. 認知症外来担当医師からのメッセージ ～パーソン・センタード・ケア～（新しい認知症観と認知症になってもできること）

酒井直樹（脳神経内科）

令和 7 年度焼津市立総合病院　認知症疾患医療センター研修会　令和 8 年 2 月 9 日　焼津市

22. 睡眠薬適正使用に向けた院内フォーミュラリ作成の取り組み

演者：徳田ひふみ（薬剤科）

座長：酒井直樹（脳神経内科）

不眠症地域連携セミナー　令和 8 年 2 月 12 日　焼津市

23. 当院におけるオピカポンの使用実態と継続性の検討

森下直樹（脳神経内科）

PD Expert Seminar　令和 8 年 2 月 25 日

24. 多発性硬化症診療における多職種連携

小関昭仁（脳神経内科）

Tokai Young Talent Meeting　令和 8 年 3 月 6 日

25. 気づきから治療へ　認知症と ADL 低下に向き合う地域の力

演者：静岡てんかん・神経医療センター　神経内科 小尾智一副院長

座長：酒井直樹（脳神経内科）

早期アルツハイマー病診療を考える会 on WEB　令和 8 年 3 月 19 日　WEB 開催

26. 抗アミロイドβ抗体薬がもたらした認知症診療の変化

司会：森下直樹（脳神経内科）

早期アルツハイマー病診療を考える会 on WEB　令和 8 年 3 月 19 日　WEB 開催

27. 認知症行動心理症状(BPSD)の治療について

酒井直樹（脳神経内科）

精神科薬物療法を学ぶ会　令和 8 年 3 月 30 日　WEB 開催

28. パーキンソン病診療を好きになっていただくために

鈴木洋司（脳神経内科）

オピカポン講演会

29. 認知症についての現状から未来（これから）について

鈴木洋司（脳神経内科）

平成記念病院講演会

30. RARP+リンパ節郭清症例の検討

演者：田邊邦明(泌尿器科)

Astellas Urologic Oncology Seminar　令和 7 年 5 月 30 日　静岡市

31. 焼津市立総合病院における腎移植診療の取り組み

演者：松本明彦(泌尿器科)

静岡腎移植勉強会　令和 7 年 8 月 29 日　静岡市

32. 前立腺がんを含む泌尿器科悪性腫瘍の薬物療法と腎移植の基礎知識

演者：松本明彦(泌尿器科)

静岡県病院薬剤師会中部支部　支部例会　令和 7 年 9 月 24 日　静岡市

33. 骨転移を伴う転移性前立腺癌に対する多角的アプローチ

座長：松本明彦(泌尿器科)

Prostate Cancer Next Forum　令和 7 年 12 月 2 日　静岡市

34. 焼津市立総合病院における多職種連携による腎移植診療

演者：松本明彦(泌尿器科)

腎代替療法支援の会～腎移植～　令和 8 年 3 月 3 日　藤枝市

35. 前立腺癌×前立腺肥大症のアンメットニーズ　～経尿道的手術について考える～

座長：松本明彦(泌尿器科)

Prostate Cancer Next Forum in 志太榛原　令和 8 年 3 月 11 日　藤枝市

36. 当院の骨粗鬆症治療について　～上腕骨近位部骨折症例を中心に～

朔伊作（整形外科）

第 6 回焼津整形外科病診連携ミーティング　特別講演　令和 7 年 4 月 17 日

37. ビスホスホネート製剤に関連する非定形骨折について

朔伊作（整形外科）

第 7 回焼津整形外科病診連携ミーティング　特別講演　令和 7 年 10 月 22 日

38. 内側半月板後根断裂の診断と治療

朔伊作（整形外科）

第 208 回静岡県整形外科医会集談会、ワンポイントレッスン　令和 7 年 11 月 8 日 浜松市

39. 骨質低下は重症骨粗鬆症（重度椎体骨折・大腿骨骨折）の危険因子　―骨質を改善する長期の逐次療法とは―

朔伊作（座長）（整形外科）

斉藤充（演者）（東京慈恵会医科大学整形外科学講座 主任教授）

第 208 回静岡県整形外科医会集談会、特別講演　令和 7 年 11 月 8 日　浜松市

40. 変形性膝関節症のラジオ波治療について

朔伊作（整形外科）

第 2 回志太榛原 Bone Seminar　基調講演　令和 8 年 1 月 9 日

41. 見逃したくない足の病気、・怪我　～リウマチを含めて～

朔伊作（座長）（整形外科）

安井哲郎（演者）（帝京大学医学部附属溝口病院整形外科　教授）

第 2 回志太榛原 Bone Seminar　特別講演　令和 8 年 1 月 9 日

42. 子宮内膜症をモデルマウスにおける妊孕性に対する当帰芍薬散の効果

牧瑛子（産婦人科）

第 3 回 Shizuoka gynecological research conference for pharmacotherapy and surgical treatment 学術講演会　令和 7 年 4 月 12 日　静岡市

43. 当院で経験した院外での墜落産の検討

黄苡淳（産婦人科）

静岡周産期新生児研究会　令和 7 年 9 月 27 日　静岡市

44. 第 24 回静岡婦人科腫瘍合同勉強会

仲神宏子(当番世話人)(産婦人科)

令和 8 年 3 月 14 日　静岡市

45. 腎臓病の食事療法について

1. 食塩の制限：1 日 6g 未満を目標に、厳格な血圧管理で進行や浮腫を予防する。
2. 蛋白質の適切な摂取：老廃物の増加を抑えるため制限が必要。筋肉量維持のため適正量の摂取が重要。
3. エネルギーの確保：不足すると体内蛋白質が分解され腎負担が増すため油や糖質で補う。

病状に応じて、カリウム、リン、水分の制限を検討する。まずは主治医に相談し、必要に応じて栄養指導を受ける事が推奨される。

松尾紘生（栄養科）

市民健康セミナー（静岡県腎友会） 令和 7 年 11 月 16 日　静岡県総合福祉会館　参加人数 17 名

46. 卵巣腫瘍・絨毛疾患

細胞検査士認定試験受験者に向けて、系統講義を静岡県臨床細胞学会が年間を通して実施しているオンライン講義シリーズである。その中で卵巣腫瘍・絨毛疾患の講義を担当した。

栁下眞帆（病理室）

静岡県臨床細胞学会　ワークショップ　オンライン講義　令和 7 年 6 月 8 日　参加人数 60 名

47. 細胞検査士一次試験に合格しよう！～筆記編～

細胞検査士認定試験受験者に向けて、試験対策講義を岐阜県臨床検査技師会が実施している。

その中で、筆記試験について講義を担当した。

栁下眞帆（病理室）

岐阜県臨床検査技師会　オンライン講義　令和 7 年 8 月 3 日　参加人数 100 名

48. 第 1 回および 2 回ワークショップ（鏡検実習）

細胞検査士認定試験受験者に向けて、系統講義を静岡県臨床細胞学会が年間を通して実施している鏡検実習である。

栁下眞帆（病理室）

静岡県臨床細胞学会　令和 7 年 9 月 7 日・11 月 9 日　浜松医科大学

49. アンサングシンデレラで見る薬剤師

富野浩充（薬剤部）

徳島文理大学 薬剤師セミナー2025　令和 7 年 10 月 19 日　徳島文理大学高松駅キャンパス

50. 「アンサングシンデレラ」を支えた薬剤師のリアル

富野浩充（薬剤部）

日本薬学生連盟年会　令和 8 年 3 月 14 日　国立オリンピック記念青少年総合センター

〔論文〕

1. Brainstem Encephalitis Following COVID-19 Vaccination: A Case Report.
   小関昭仁、鈴木洋司、内田宗吾、森下直樹、酒井直樹（脳神経内科）
   Cureus 18(2): e104413. doi:10.7759/cureus.104413

2. Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder Developing after COVID-19 Vaccination Managed with Long-Term Eculizumab Treatment:A Case Report
   内田宗吾、岡耕太、小関昭仁、中村圭吾、森下直樹、鈴木洋司、酒井直樹（脳神経内科）
   Case Reports in Neurolory Case Rep Neurol 2026:18:43-52

3. 感染を契機に急性に両側声帯麻痺が顕在化した球脊髄性筋萎縮症の 1 例
   柴田一馬、小関昭仁、鈴木洋司、森下直樹、吉見亘弘、酒井直樹（脳神経内科）
   https://www.jstage.jst.go.jp/article/clinicalneurol/65/10/65_cn-002090/_article/-char/ja

4. 令和 4 年台風第 15 号による静岡市清水区の断水中に井戸水での血液透析を維持した治療報告
   杉山和隆、宍田智大、田中亮、坂本昭彦、田邊邦明、松本明彦（泌尿器科）、稲土博右、勝又廣重、杉山はつみ、宮地武彦、杉山壽一、久米春喜
   腎と透析 2025;99:136-139

5. 外科系診療科を志す初期臨床研修医に対する内視鏡下ドライボックスでの折り鶴トレーニングの実践
   西松雄基（初期臨床研修医）、松本明彦（泌尿器科）、高林直記（外科）
   日鏡外会誌 2026;31:147-151

〔雑誌等〕

1. Aquilion Serve が生み出す可能性
   岩倉圭佑（中央放射線科）
   MY BOOK MARK ～本当に使いやすい商品がこの中に～ File No.100
   Vol.24 No.1(2026) Rad Fan :66-69

2. 当院の概要、給食での取組み、献立の紹介
   野田千保子（栄養科）
   給食情報誌　元気レポート 2025 年 12 月号

第3節　当院主催・参加の学習会・講演会等

【 学習会・講演会等　令和７年度　一覧 】

■総合研修指導室(臨床研修医講義)　(参加人数は臨床研修医のみでその他は含まず)

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
4/1～4/4	臨床研修医・他	11 人	オリエンテーション	
4 月 16 日	〃	11 人	メディカルコントロール講習会	志太消防本部
4 月 25 日	〃	11 人	EPOC 評価について	総合研修指導室
4 月 25 日	〃	11 人	外傷（整形外科）	整形外科　坂口傑侃医師
4 月 25 日	〃	11 人	画像診断（消化器内科（腹部 CT)）	消化器内科　渡邉幸弘医師
4 月 25 日	〃	11 人	研修サマリの書き方	消化器内科　青山拓也医師
4 月 25 日	〃	11 人	褥瘡について	河原崎まどか看護師
4 月 25 日	〃	11 人	神経所見のとりかた	脳神経内科　中村圭吾医師
4 月 25 日	〃	11 人	輸液について①	薬剤科　徳田ひふみ薬剤師
4 月 25 日	〃	11 人	臨床推論	救急科　金本忠久医師
4 月 25 日	〃	11 人	レントゲンオーダーのしかた	村松晴幸放射線技師
4 月 30 日	〃	11 人	ICLS ミニコース	救急科　金本忠久医師
5 月 9 日	〃	11 人	縫合実習	外科・形成外科医師
5 月 16 日	〃	5 人	超音波実習（腹部）	中央検査科　四之宮ともみ技師ほか
5 月 19 日	〃	11 人	救急勉強会	東大救急部　水野仁介医師
5 月 19 日	〃	6 人	心電図勉強会	循環器内科　後藤理人医師
5 月 22 日	〃	11 人	BLS 指導研修	
5 月 23 日	〃	6 人	超音波実習（腹部）	中央検査科　四之宮ともみ技師ほか
5 月 26 日	〃	10 人	研修医 Lecture「電解質異常」	初期研修医　水村紘季医師
5 月 26 日	〃	5 人	心電図勉強会	循環器内科　後藤理人医師
6 月 2 日	〃	9 人	研修医 Lecture「発熱」	初期研修医　水本遼馬医師
6 月 9 日	〃	11 人	研修医 Lecture「腹痛」	初期研修医　新垣辰昂医師
6 月 9 日	〃	11 人	超音波実習（心エコー①）	中央検査科　四之宮ともみ技師ほか
6 月 10 日	〃	11 人	救急セミナー	外科　植田浩太医師
6 月 16 日	〃	11 人	超音波実習（心エコー②）	中央検査科　四之宮ともみ技師ほか
6 月 16 日	〃	11 人	研修医 Lecture「肺炎」	初期研修医　加嶋颯太医師
6 月 23 日	〃	9 人	研修医 Lecture「意識障害」	初期研修医　杉山健医師
6 月 30 日	〃	13 人	外傷（脳神経外科）	脳神経外科　山村泰弘医師

6月30日	〃	12人	研修医Lecture「頭痛」	初期研修医　松本芳季医師
7月7日	〃	7人	研修医Lecture「ACS・不整脈」	初期研修医　鈴木拓真医師
7月11日	〃	5人	超音波実習（下肢）	中央検査科　四之宮ともみ技師ほか
7月14日	〃	9人	研修医Lecture「敗血症」	初期研修医　泉福尚紀医師
7月18日	〃	6人	超音波実習（下肢）	中央検査科　四之宮ともみ技師ほか
7月25日	〃	9人	安全な超音波エコーガイド下中心静脈穿刺のための包括的アプローチ	浜松医科大学医学部附属病院集中治療部 講師 御室総一郎医師 焼津市立総合病院麻酔科 朝羽瞳医師
7月28日	〃	8人	研修医Lecture「めまい」	初期研修医　尾崎天保医師
7月28日	〃	5人	心不全勉強会	循環器内科　後藤理人医師
7月29日	〃	9人	輸液（外科）	外科　溝口和弥医師
8月27日	〃	11人	救急診療講義(口腔外科)	歯科口腔外科　森正次医師
8月27日	〃	11人	糖尿病患者の入院で困らないために	代謝内分泌内科　畠山寛医師
8月28日	〃	11人	輸液栄養管理(内科)	腎臓内科　板谷三紀子医師
8月28日	〃	11人	輸血について	産婦人科　成高和稔医師
8月28日	〃	11人	救急診療講義(小児科)	小児科　田頭祥之助医師
8月28日	〃	11人	救急診療講義(耳鼻咽喉科)	耳鼻咽喉科　石川竜司医師
8月29日	〃	11人	Aライン勉強会	業者・八木看護師氏
8月29日	〃	11人	画像診断（脳神経外科）	脳神経外科　川勝暢医師
8月29日	〃	11人	救急診療講義(眼科)	眼科　橋爪衛医師
8月29日	〃	11人	救急診療講義(泌尿器科)	泌尿器科　松本明彦医師
8月29日	〃	11人	外科(化学療法)	外科　平松毅幸医師
8月29日	〃	11人	経腸栄養(栄養サポート室)	外科 平松毅幸医師/田村大輔管理栄養士
9月1日	〃	12人	Case conference「全身浮腫、腹痛、異常行動を呈した77歳男性」	初期研修医　加嶋颯太医師
9月8日	〃	8人	Case conference「上肢の不随意運動を主訴に救急受診された1例」	初期研修医　尾崎天保医師
9月16日	〃	11人	救急セミナー	外科　植田浩太医師
9月22日	〃	11人	Case conference「心窩部不快感，黄疸を呈した58歳男性の一例」	初期研修医　岡本健太郎医師
9月29日	〃	5人	心不全勉強会	循環器内科　後藤理人医師
10月9日	〃	12人	Case conference「発熱、腹痛を呈した88歳女性の一例」	初期研修医　寶積楽医師
10月14日	〃	11人	救急セミナー	外科　植田浩太医師
10月16日	〃	10人	Case conference「腎機能低下を指摘された76歳男性の症例」	初期研修医　今村亮医師
10月23日	〃	9人	Case conference「関節リウマチの治療中に発熱、頭痛をきたした1例」	初期研修医　黄川辰巳医師

10月30日	〃	9人	Case conference「倦怠感で受診しアシドーシスを指摘された67歳男性の症例」	初期研修医　細谷豪徳医師
11月11日	〃	11人	救急セミナー	外科　植田浩太医師
11月13日	〃	9人	Case conference「倦怠感、食思不振を呈した71歳男性の一例」	初期研修医　藤井捺希医師
11月20日	〃	8人	Case conference「急性腹症疑いで救急を紹介受診した69歳男性の1例」	初期研修医　松田聖医師
11月20日	〃	11人	シーネ固定	整形外科　坂口傑侃医師
11月28日	〃	11人	DPC勉強会	小児科　熊谷淳之医師
11月28日	〃	11人	画像診断（CT/レントゲン）	整形外科　朔伊作医師
11月28日	〃	11人	救急診療講義(形成外科)	形成外科　丹生淳史医師
11月28日	〃	11人	救急診療講義(皮膚科)	皮膚科　池田悠医師
11月28日	〃	11人	口腔ケア	歯科口腔外科　森正次医師/ 田中咲希歯科衛生士
12月4日	〃	10人	Case conference「直腸潰瘍と肛門痛を来した74歳男性の1例」	初期研修医　松本芳季医師
12月11日	〃	9人	Case conference「進行する筋力低下を呈する82歳女性」	初期研修医　藤本栞医師
12月18日	〃	10人	Case conference「発熱・意識レベル低下で来院された65歳女性の一例」	初期研修医　和田健志医師
12月25日	〃	7人	Case conference「急性熱性疾患を呈した65歳女性」	初期研修医　水本遼馬医師
1月15日	〃	11人	Case conference「けいれん後に呼吸困難が急速に進行した症例」	初期研修医　新垣辰昂医師
1月26日	〃	11人	基本的臨床能力評価試験	総合研修指導室
1月29日	〃	9人	Case conference「ABO 血液型不適合生体腎移植の一例」	初期研修医　杉山健医師
2月5日	〃	12人	Case conference「発熱を主訴に救急受診した64歳女性」	初期研修医　泉福尚紀医師
2月12日	〃	10人	Case conference「嚥下障害を主訴に外来を受診した67歳男性の症例」	初期研修医　鈴木拓真医師
2月19日	〃	7人	Case conference「右不全麻痺と発熱を主訴とする67歳男性の症例」	初期研修医　窪田陽奈医師
2月26日	〃	10人	救急セミナー	整形外科　坂口傑侃医師
3月5日	〃	13人	Case conference「体位変換で寛解・増悪するする頭痛」	初期研修医　水村紘季医師
3月11日	〃	11人	抗菌薬について	薬剤科　加藤純薬剤師
3月11日	〃	11人	麻薬の取り扱いについて	薬剤科　小野田千晴薬剤師
3月12日	〃	10人	Case conference「下痢・血便で受診された45歳男性」	初期研修医　小野夏音医師
3月23日	〃	19人	倫理研修会	消化器内科　青山拓也医師

■医療安全管理室

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師等
6 月 11 日	新入職員	48 人	「医薬品の安全管理について」	薬剤部医薬品情報係主任主査：中島重紀
7 月 9 日～8 月 15 日	全職員	940 人	心理的安全性と医療安全	S-QUE+　ポジコ 京都大学医学部附属病院医療安全管理部 村松由美教授
9 月 10 日	新入職員	43 人	「新入職員フォローアップ研修」	医療安全管理室副師長 落合恵子
10 月 8 日	新入職員	48 人	「輸血用血液製剤の取り扱い」 「安全に採血するために」	中央検査科　有賀修平 中央検査科　松村美都貴
11 月 11 日	新入職員	27 人	「気管切開チューブの概要と安全な使用について」	コヴィディエンジャパン㈱
令和 8 年 1 月 14 日	新入職員	47 人	「生体情報モニタの安全使用について」 「ＭＲＩの安全性について」	臨床工学科　青島夏己 中央放射線科　内尾智樹
令和 8 年 1 月 21 日～2 月 11 日	全職員	949 人	・インシデント報告と分析 ・医療者のための BLS アルゴリズム	S-QUE+　ポジコ 京都大学医学部附属病院医療安全管理部 加藤果林助教 吉田学園医療歯科専門学校 救急救命学科 三上剛人学科長
令和 8 年 2 月 4 日	医療職	40 人	心電図モニター アラーム管理のポイント	日本光電(株)
令和 8 年 2 月 4 日～3 月 31 日	医療職	469 人	e ラーニング 心電図モニター アラーム管理のポイント	日本光電(株)

■医療ガス安全管理委員会

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
6 月 5 日	新人看護師	20 人	医療ガスの取り扱いについて	㈱千代田静岡営業所 小池氏
令和 8 年 3 月 5 日	全職員	12 人	医療ガスの安全管理について	㈱千代田静岡営業所 高澤所長

■院内救急対応室

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師等
8 月 5 日～19 日（動画配信のみ）	全職員	677 人	急変時 SBAR はじめの一歩 RRS の現状	八木総合研修指導担当係長 金本院内救急対応室長
令和 8 年 1 月 30 日、2月2日､6日､2 月 9 日～3 月 13 日	全職員	658 人	院内に RRS の文化を根付かせるためには ～効果的な運用を目指して～	聖マリアンナ医科大学 救急医学 藤谷茂樹教授

■院内認知症ケア委員会

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師等
7 月 22 日	全職員	50 人	「身体拘束最小化にむけた入院患者における適切な評価と対応」 ～不眠マネジメントの重要性～	新見公立大学健康科学部　看護学科 井上真一郎教授
11 月 4 日～ 11 月 28 日	全職員 （主に認知症患者に関わる職員）	643 人	①認知症とは ②認知症の人の気持ちを考えて思いやりのあるケアをしてみよう ③活動(運動)②焦点をあてて ④認知症のお薬	①酒井認知症ケア支援室長 ②岩倉認知症ケア支援担当副看護師長 ③村松作業療法係長 ④徳田医薬品情報係長
令和 8 年 1 月 23 日	全職員	24 人	病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方～身体拘束最小化に向けた取り組みも踏まえて～	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院総合診療科　宮川慶副部長
令和 8 年 2 月 18 日	全職員	17 人	病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方～身体拘束最小化に向けた取り組みも踏まえて～	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院総合診療科　宮川慶副部長

■感染管理室

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
6 月 25 日～ 8 月 4 日	全職員	962 人	「ダニ媒介感染症」 「感染症の流行状況」 「感染対策のきほん～最近の感染症の動向～」 「MRSA とバンコマイシン」	総合診療内科大島医師 中央検査科石原検査技師 感染管理室　井畑看護師 薬剤部　加藤薬剤師
9 月 25 日	清掃業者	15 人	病院清掃の意義と役割	感染管理室　井畑看護師
11 月 5 日～ 12 月 12 日	全職員	945 人	「疥癬・帯状疱疹 病態生理」 「感染トピックス」 「疥癬・帯状疱疹 感染対策等について」 「抗菌薬使用をめぐる最近の話題」	皮膚科　池田医師 腎臓内科　大浦医師 感染管理室　井畑看護師 薬剤部　加藤薬剤師
12 月 4 日	志太消防本部救急隊員		救急隊員感染防止対策研修会	感染管理室　井畑看護師
令和7年度分	全職員	294 人	N95 マスクフィットテスト	感染管理室　井畑看護師
令和7年度分	全職員	1,145 人	手指衛生チェック	感染管理室　井畑看護師 感染対策リンクスタッフ

■栄養科

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
4 月 25 日	栄養科職員	15 人	予定等連絡事項伝達、班活動反省・計画まとめ	栄養科職員
5 月 22 日	栄養科職員	12 人	防災訓練・消火訓練・消火設備確認	病院施設課施設管理担当
7 月 25 日	栄養科職員	12 人	予定等連絡事項伝達、出張報告、科内研修 「ミールラウンド」	栄養サポート室 田村大輔管理栄養士
10 月 25 日	栄養科職員	23 人	予定等連絡事項伝達、班活動中間報告、年末年始勤務	栄養科職員
令和 8 年 1 月 29 日	栄養科職員	16 人	予定等連絡事項伝達、出張報告、「ノロウイルス」動画聴講	栄養科 田中晴日管理栄養士

■栄養サポート室

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
令和7年 8月～9月 （全5回）	院内職員 （6B病棟	24人	経腸栄養患者の下痢・便秘対策	栄養サポート室 田村大輔管理栄養士
令和7年 8月29日	研修医	11人	当院のNST活動について	栄養サポート室 田村大輔管理栄養士
令和7年 8月29日	院内職員 （5A病棟）	10人	GLIM基準について 栄養補助食品の紹介と試食	栄養サポート室 田村大輔管理栄養士
令和7年 10月 （全2回）	院内職員 （6C病棟）	12人	GLIM基準について 栄養補助食品の紹介と試食	栄養サポート室 田村大輔管理栄養士
令和7年 10月9日	院内職員 （3C病棟）	6人	GLIM基準について 減塩食 栄養補助食品の紹介と試食	栄養サポート室 田村大輔管理栄養士
令和7年 12月6日	全職員 地域医療職員	94人	褥瘡治癒促進用の栄養補助食品の紹介（褥瘡セミナー内）	栄養サポート室 田村大輔管理栄養士
令和7年 12月6日	感染管理 リンクスタッフ	27人	バッグ型製剤導入と誤嚥性肺炎の発症率の変化	栄養サポート室 田村大輔管理栄養士

■血液浄化療法室

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
10月30日	当院医療職 他院透析施設	10人	導入期加算3取得施設の実施する 腎代替療法研修会	腎臓内科　森医師 臨床工学科　藤田技士 血液浄化療法室 井出看護師
令和8年 1月29日	外来患者 家族	3人	腎臓病教室	腎臓内科　大浦医師 血液浄化療法室 長谷川看護師

■血液製剤使用適正化委員会

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
10月8日	新人医師・ 新人看護師	20人程度	医療安全講習会 「輸血用血液製剤の取り扱いについて」	中央検査科 第2検体検査科係 有賀修平
11月1日～ 12月25日	検査科 日当直 担当技師	12人	年末年始前輸血トレーニング	第2検体検査科係

■褥瘡対策委員会

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
12月5日	全職員 地域医療職	94人	褥瘡対策セミナー 褥瘡予防から治療につながるケア	褥瘡対策委員会メンバー
12月9日～ 12月30日	全職員	545人	褥瘡対策セミナー 褥瘡予防から治療につながるケア（WEB配信）	

■情報システム担当

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
令和８年 ２月 26 日・ ３月６日	全職員	246 人	「災害×情報」	病院施設課 情報システム担当

■診療技術部

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
令和８年 ２月 20 日	全職員	20 人程度	診療技術部主催研修会 多職種連携による腎移植診療	松本医務部長兼泌尿器科長 森中央放射線科技師 前川臨床工学科技士 北尾・藤村中央検査科技師

■整形外科

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
令和８年 ２月 18 日	整形外科診療関連職員	50 人	「骨粗鬆症に対する知識の共有と FLS（骨折リエゾンサービス）の意義について」	整形外科　朔伊作医師

■接遇委員会

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
10 月 23 日	全職員	40 人	接遇講演会 ・患者の要求にどこまで応えるべきか ・外国人患者への対応について	浜松医科大学 大磯義一郎教授
令和８年 ２月 17 日	全職員		接遇ロールプレイ（研修医編） 「患者さんの目をみて話をしていますか？」	接遇リーダー会

■中央検査科

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
６月 27 日	中央 検査科員	10 人	血液検査の勉強会 血算（MCHC）について 血算（血小板減少）について	第２検体係　榎田技師、 松本技師
10 月 15 日	中央 検査科員	12 人	急変時対応について 採血室バージョン	クリニカル・スキル・ラボ 八木副看護師長
10 月 15 日	乳腺診療に 関わる 医師・技師	23 人	乳腺カンファレンス	司会：平松毅幸医師
10 月 22 日	中央 検査科員	15 人	急変時対応について 生理検査室バージョン	クリニカル・スキル・ラボ 八木副看護師長
11 月～ 12 月	中央 検査科員	18 人	緊急輸血トレーニング	第２検体係 血液・輸血担当技師
12 月５日	中央 検査科員	15 人	採血勉強会	ニプロ株式会社 松岡氏

令和８年 ２月 16 日	乳腺診療に 関わる 医師・技師	18 人	乳腺カンファレンス	司会：田中検査技師
令和８年 ３月 24 日	中央 検査科員	19 人	子供に優しい医療を	白幡保育士

■泌尿器科

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
令和8年 1月26日	全職員	―	排尿自立支援講習会	泌尿器科　田中亮医師

■倫理委員会

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
令和8年 2月27日	希望する 職員	22人	倫理研修会 「研究倫理・医療倫理に関すること」	㈱HCI　代表取締役 豊田建氏

【 地域医療従事者も対象とした勉強会･講演会　令和７年度　一覧 】

■小児科

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
6 月 26 日	地域医療従 事者向け	20 人	志太榛原小児症例検討会 「性分化異常症の１例」 「サルモネラ脳症の１例」	 小児科　妹尾聡医師 小児科　妹尾ゆりか医師

■内科

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
11 月 27 日	全職員 地域の医療職	22 人	第 30 回焼津内科症例検討会 「インフルエンザの有熱期に血小板減少を伴う多臓器障害を起たした症例」	司会：脳神経内科 鈴木洋司医師 症例提示：脳神経内科 岡耕太医師 症例解説：　腎臓内科 森瑞貴医師
令和８年 ３月４日	全職員	30 人	第 31 回焼津内科症例検討会 『脳神経内科もいろいろな治療ができるようになりました』～共有させていただきたい治療メドレー形式 15 分ずつ～ 「2025 年の脳卒中治療ガイドラインをわかりやすく！」 「FcRn 阻害薬とは（点滴するだけで、血漿交換の代わりになる？現在適応疾患拡大中）」 「ALS の遺伝子治療（原因となる蛋白を RNA でブロック）」	 伊賀崎翔太医師 森下直樹医師 中村圭吾医師

■中央放射線科

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
12 月 22 日	診療放射線技師、看護師	25 人	「イオプロミドについて」造影剤副作用対応について、造影剤と Green Radiology について	バイエル薬品

■病理診断科

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
4 月 30 日	全職員	38 人	第 140 回臨床病理検討会(CPC) 月はどっちに出ている 90 歳代　女性	司会：脳神経外科 山村泰弘医師 症例提示：脳神経内科 中村圭吾医師、消化器内科　青山拓也医師 病理提示：病理診断科 久力権医師 議事録：初期研修医 水村紘季医師 タスクフォース： 初期研修医 松本芳季医師、松田聖医師
5 月 28 日	全職員	33 人	第 141 回臨床病理検討会(CPC) 発熱 70 歳代　男性	司会：消化器内科 佐野宗孝医師 症例提示：脳神経内科 中村圭吾医師 病理提示：病理診断科 久力権医師 議事録：初期研修医 窪田陽奈医師 タスクフォース： 初期研修医 今村亮医師、寶積楽医師
7 月 4 日	全職員	42 人	第 142 回臨床病理検討会(CPC) 消化管出血と肺炎 80 歳代　男性	司会：脳神経内科 鈴木洋司医師 症例提示：消化器内科 川村優介医師 病理提示：病理診断科 外園晋夫医師 議事録：初期研修医 岡本健太郎医師 タスクフォース： 初期研修医 小野夏音医師 和田健志医師
7 月 23 日	全職員	41 人	第 143 回臨床病理検討会(CPC) 少しずつ歩けなくなった 50 歳代　男性	司会：脳神経内科 酒井直樹医師 症例提示：脳神経内科 岡耕太医師 病理提示：病理診断科 中嶋史音医師 議事録：初期研修医 黄川辰巳医師 タスクフォース： 初期研修医 細谷豪徳医師

10 月 3 日	全職員	32 人	第 144 回臨床病理検討会(CPC) 関節リウマチに PSL/MTX 長期使用 CPA　ROSC 後の状態 60 歳代　男性	司会：総合診療内科 大島一憲　医師 症例提示：脳神経内科 鈴木洋司医師 病理提示：病理診断科 中嶋史音医師 議事録：初期研修医 藤本栞医師 タスクフォース： 初期研修医 藤井捺希医師
11 月 7 日	全職員	29 人	第 145 回臨床病理検討会(CPC) 全経過 28 年 56 才時　ゴルフの最中に左大腿の張り感 80 歳代　男性	司会:脳神経内科　酒井直樹　医師 症例提示：脳神経内科 中村圭吾医師 病理提示：病理診断科 中嶋史音医師 議事録：初期研修医 細谷豪徳医師 タスクフォース： 初期研修医 新垣辰昂医師、 黄川辰巳医師
令和 8 年 1 月 23 日	全職員	32 人	第 146 回臨床病理検討会(CPC) 吐血後急性肺炎 90 歳代　男性	司会：外科 髙林直記医師 症例提示：消化器内科 青山拓也医師 消化器内科　酒井宏記医師 病理提示：病理診断科 中嶋史音医師 タスクフォース:初期研修医 加嶋颯太医師 議事録：初期研修医 水本遼馬医師
令和 8 年 2 月 27 日	全職員	35 人	第 147 回臨床病理検討会(CPC) 発熱 70 歳代　男性	司会：総合診療内科 池谷直樹医師 症例提示 腎臓内科 森瑞貴医師 病理提示：病理診断科 中嶋史音医師 タスクフォース:初期研修医　黄川辰巳医師 議事録：初期研修医 今村亮医師

■がん診療対策委員会

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
11 月 30 日	地域医療従事者	21 人	第 17 回焼津市立総合病院　緩和ケア研修会	石原行雄一般外科長 他

■患者支援室・認知症疾患医療センター

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
令和８年 ２月９日	志太榛原圏域　認知症地域支援推進員及び連携型認知症疾患医療センタースタッフ	27 人	自分のまちの特徴を踏まえた認知症地域支援推進員の役割 1.「認知症外来担当医師からのメッセージ～パーソン・センタード・ケア～」 2.焼津市立総合病院認知症外来の 10 年間とセンターの実態と診断後支援の悩み 3.実践事例報告（藤枝市） 4.グループワーク（本音の語り合い）	1.酒井直樹副病院長 2.患者支援室　星華 精神保健福祉士 3.藤枝市地域包括ケア推進課　横山麻衣氏

■薬剤科

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
令和８年 ２月６日	開局薬剤師	15 人	がんレジメン研修会（オンライン開催）	薬剤部　小野田千晴、上田香織、吉田颯人

【 市民向け公開講座・教室等　令和７年度　一覧 】

■病院シンポジウム

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
６月 12 日	一般市民	269 人	誰もが認知症になりうる新時代だからこそ新しい認知症観を 1.「早期診断の重要性～MCI（軽度認知機能障害）について」 2.「認知症のある人が自分らしく生きるための～はたらく～」 3.「自分たちの居場所は、自分たちでつくる」 焼津文化会館小ホール	1.酒井直樹 副病院長 2.100BLG 株式会社 代表取締役社長 平田知弘氏 3.デイサービスこんぺえ（BLG やいづ）管理者 山田大二郎氏
10 月８日	一般市民	196 人	1.勤労者のロコモティブシンドローム 2.ここまで来た関節治療　もしその痛み、とれたなら。 3.当院の治療機器について 焼津文化会館小ホール	1.朔伊作 整形外科長 2.徳山周 関節外科長 3.朔伊作 整形外科長
11 月 21 日	一般市民	96 人	1.知っておきたい泌尿器科の病気と治療のご紹介 2.ロボットが切り拓く前立腺がん手術 焼津文化会館小ホール	1.松本明彦 医務部長兼泌尿器科長 2.久米春喜 東京大学医学部泌尿器科学教室教授

■病院講演会

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
令和８年 ３月 12 日	一般市民	47 人	乳がんの話 焼津市立総合病院講義室（ハイブリット開催）	平松毅幸 乳腺外科特任科長

■出前講座

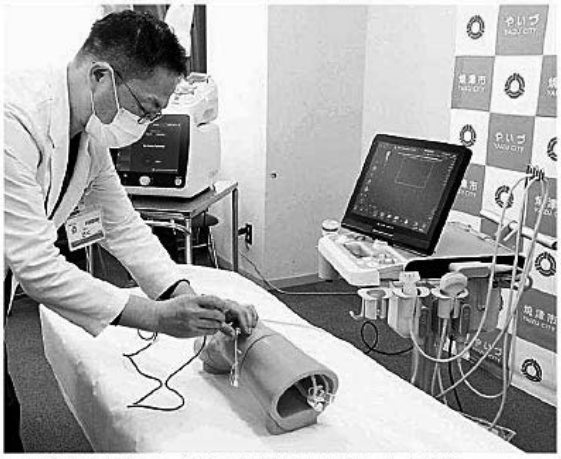
開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
4 月 8 日	学校法人 常葉学園 西町幼稚園	21 人	市民が行う心肺蘇生	小児科　森医師 看護師 2 人 救急救命士
5 月 11 日	焼津市身体 障害者 福祉会	43 人	能登半島地震の活動報告 災害時の健康被害と災害関連死について	DMAT 隊員看護師
7 月 2 日	焼津港荷役 安全対策 委員会	20 人	あなたもできる救急処置（AED 講習）	看護師 2 人 救急救命士
7 月 17 日	脳トレ倶楽部	36 人	救命救急と熱中症予防	救急科 金本医師、看護師、 救急救命士 2 人
7 月 28 日	焼津市内養 護教諭	24 人	タブーじゃない！思春期男子の性を知ろう！ （大井川西小学校）	泌尿器科 田中医師、松本医師
10 月 23 日	大井川地域 交流センター	67 人	認知症について	脳神経内科 酒井医師
令和 8 年 1月 16 日	静岡県行政 書士会 島田支部	20 人	災害時に必要な災害介護の知識	DMAT 隊員看護師
令和 8 年 2 月 6 日	静岡県身体 障害者 福祉会中部 ブロック	30 人	能登半島地震の活動報告 災害関連死と TKB48	DMAT 隊員看護師

■リハビリテーション技術科

開催日	対象者	参加人数	演題（講演内容）	講師
6 月 7 日	介護職員	10 人	バーセルインデックスの指導 焼津市大井川福祉センターほほえみ	村松真友美作業療法士
7 月 18 日	指導員・ 教諭	7 人	幼児ことばの教室指導員研修会 焼津市役所	大石悠太言語聴覚士
10月7、16日 令和 8 年 1月27、29日	年長児	13 人	どんぐり教室 焼津市役所アトレ庁舎	青木恵理子理学療法士

第4節　掲載された主な新聞記事

変形性膝関節症
手術せず痛み軽減
ラジオ波熱治療導入
焼津市立総合病院


ラジオ波を使った熱治療の様子を紹介した内覧会＝焼津市立総合病院

焼津市立総合病院が本年度、変形性膝関節症の治療法としてラジオ波による熱治療を導入した。高齢化の進行で膝の状態に不安を持つ患者が増えている状況を踏まえ、手術を行わずに痛みを軽減する技術を提示する。同技術の導入は県内の病院では初めて。

変形性膝関節症は加齢などにより、膝の関節軟骨がすり減ることで発症する。熱治療は超音波エコーで観察しながら痛みを伝える神経に電極針を当て、ラジオ波を流して焼く。鎮痛剤投与やリハビリといった保存療法で痛みが引かなかったり、膝関節にメスを入れて人工関節に置き換える手術に不安を持っていたりする患者の選択肢となる。

同病院で14日にあった内覧会で、専用の機器を使ったラジオ波熱治療の模擬操作が行われた。整形外科長の朔伊作医師は「病気などで手術を受けることが難しい患者に貢献したい」と話した。

機器の導入費用は約960万円。同病院は2024年に人工膝関節手術を支援するロボットを導入するなどの取り組みも行ってきた。

（焼津支局・平野慧）

令和 8 年(2026 年)1 月 15 日（木曜日）朝刊　静岡新聞

はごろもフーズ
看護師研修へ寄付
焼津市立総合病院に
はごろもフーズは12日、焼津市立総合病院に100万円を寄付した。寄付金は看護師研修の充実のために使われる。

後藤佐恵子社長が同病院を訪れ、関常司病院事業管理者に目録を手渡した。後藤社長は「医療の質の向上は、市民生活をより良くすることにつながる」と期待を述べた。


目録を手渡した後藤社長（右から2人目）＝焼津市

令和 8 年(2026 年)2 月 13 日（金曜日）朝刊　静岡新聞

《編集後記》

令和7年度の活動記録である第43号年報を、例年通り無事発行することができました。

年報は、当院の医療活動等の記録であり、将来に向けての指針となる、貴重な資料です。多くの方々が、当院の活動記録を知りたい時、まずこの年報を手にしていただければ幸いです。

お忙しい中、作成にあたって各資料を提供し、ご協力いただきました皆様に感謝するとともに、今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

病院経営戦略課経営戦略担当

監　修　　関　常司（病院事業管理者）
風間　伸介（病院長）
関　肇（病院経営戦略課長）

編　集　　病院経営戦略課経営戦略担当
中村　佳生子　　長谷川 亮太　　今関　太一
杉山　恒人　　竹島　史江

焼津市立総合病院年報
第４３号（令和７年度）

発行　　令和８年 11 月
静岡県焼津市道原 1000 番地
焼津市立総合病院
電話（054）623－3111
編集　　病院経営戦略課経営戦略担当
印刷　　株式会社やまもと印刷工業